LS460 / LS460L

取扱説明書

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	メーターの見方	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	各部の操作	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	運転	運転に必要な操作やアドバイス
5	室内装備・機能	室内装備の使い方など
6	お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法
7	万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処
8	車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方..... 10
検索のしかた..... 11
イラスト目次..... 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 30
安全なドライブのために 32
シートベルト 34
SRS エアバッグ..... 39
お子さまの安全のために 49
子供専用シート..... 50
チャイルドシートの取り付け 58
排気ガスに対する注意..... 65

1-2. 盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 66
オートアラーム..... 67

2 メーターの見方

2. 計器の見方
警告灯／表示灯..... 74
計器類 78
マルチインフォメーションディスプレイ 82
燃費画面／ Harmonious Driving Navi. 画面..... 90

3 各部の操作

3-1. キー
キー 98

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
スマートエントリー＆スタートシステム..... 104
ワイヤレスリモコン 115
ドア 117
トランク..... 122

3-3. シートの調整
フロントシート 129
パワーリヤシート 136
ポジションメモリー／メモリーコール機能 147
リヤシートポジションメモリー 152
ヘッドレスト..... 154

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル..... 158
インナーミラー..... 159
ドアミラー..... 161

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ 164
ムーンルーフ..... 167

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって..... 172
荷物を積むときの注意..... 180

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ 181
オートマチックトランスミッション（パドルシフト非装着車）..... 186
オートマチックトランスミッション（パドルシフト装着車）..... 190
方向指示レバー..... 196
パーキングブレーキ..... 197
ブレーキホールド..... 200
ホーン（警音器）..... 202

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ..... 203
アダプティブハイビームシステム 206
フォグランプスイッチ..... 213
ワイパー＆ウォッシャー 215
ヘッドランプクリーナー..... 218

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方..... 219

4-5. 運転支援装置について

クルーズコントロール 222
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）..... 226
LKA（レーンキーピングアシスト）..... 238
ドライブモードセレクトスイッチ 247
電子制御エアサスペンション..... 251
運転を補助する装置 252
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）..... 259
後方プリクラッシュセーフティシステム 269
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 272
ナイトビュー（歩行者検知機能付）..... 276

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転..... 287

5 室内装備・機能

5-1. リモートタッチ／ナビゲーション画面

リモートタッチ／12.3 インチディスプレイ 292

5-2. レクサスクライメイトコンシェルジュ

レクサスクライメイトコンシェルジュ 297

5-3. エアコン・デフォッガーの使い方

フロントオートエアコン 298
リヤオートエアコン 314
リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター 321
フロントワイパーデアイサー 322

5-4. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 323
・インテリアランプ 324
・パーソナルランプ 325

5-5. 収納装備

収納装備一覧 327
・グローブボックス 329
・コインホルダー 330
・ドアポケット 330
・カップホルダー 331
・コンソールボックス 333
・クールボックス・小物入れ 334
・小物入れ 337
トランク内装備 340

5-6. その他の室内装備の使い方

サンバイザー／バニティミラー 343
時計 345
灰皿 346
シガレットライター 347
アクセサリーソケット／アクセサリーコンセント 349
ステアリングヒーター 353
コンフォータブル・エアシート 355
アームレスト 359
テーブル 360
リヤサンシェード 362
リヤドアサンシェード 365
トランクスルー 368
コートフック 370
アシストグリップ 371

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 374
内装の手入れ 378

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 381
ガレージジャッキ 383
エンジンルームカバー 385
ウォッシャー液の補充 387
タイヤについて 388
タイヤ空気圧について 397
エアコンフィルターの交換 399
電子キーの電池交換 402
ヒューズの点検・交換 404
電球（バルブ）の交換 407

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは..... 416
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 417
発炎筒 418
車両を緊急停止するには 420

7-2. 緊急時の対処法

けん引について..... 421
フューエルポンプシャットオフシステム..... 427
警告灯がついたときは..... 428
警告メッセージが表示されたときは..... 434
パンクしたときは（スペアタイヤ装着車）..... 437
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）..... 446
エンジンがかからないときは..... 460
シフトレバーがシフトできないときは..... 462
パーキングブレーキが解除できないときは..... 463
電子キーが正常に働かないときは..... 468
バッテリーがあがったときは..... 471
オーバーヒートしたときは 474
スタックしたときは..... 478

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）... 482

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧 489

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）..... 502
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 506
アルファベット順さくいん..... 508
五十音順さくいん 510

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ナビゲーション
- オーディオ＆ビジュアル
- 後席 9 型ワイドディスプレイ
- 音声操作システム
- バックガイドモニター
- クリアランスソナー
- ITS スポット対応 DSRC システム（ETC・VICS 機能付）
- ハンズフリー
- G-Link

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

・エンジン回転数
・アクセルの操作状況
・ブレーキの操作状況
・車速
・シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。
EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。
・ 車両の各システムの作動状況
・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータとEDRデータを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは
・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

本書の見方

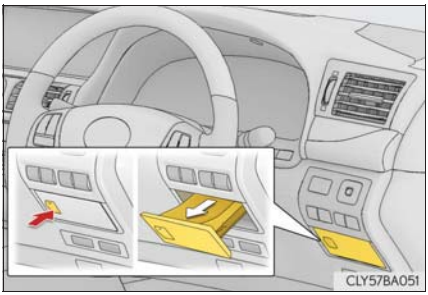
警告　お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意　お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3…　操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

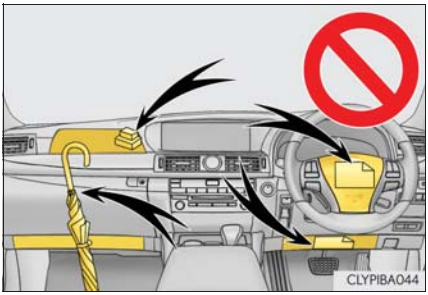
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味です。

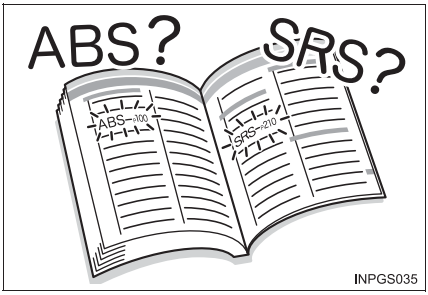


知識　機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

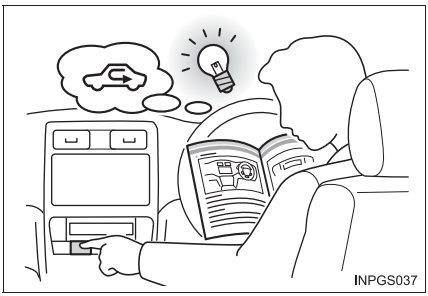
■ **名称から探す**

・五十音順さくいん.....510
・アルファベット順
さくいん 508



■ **取り付け位置から探す**

・イラスト目次.....12

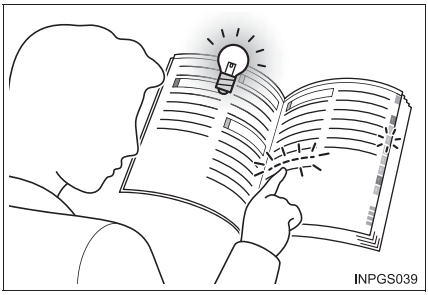


■ **症状や音から探す**

・こんなときは
（症状別さくいん）.....502
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....506

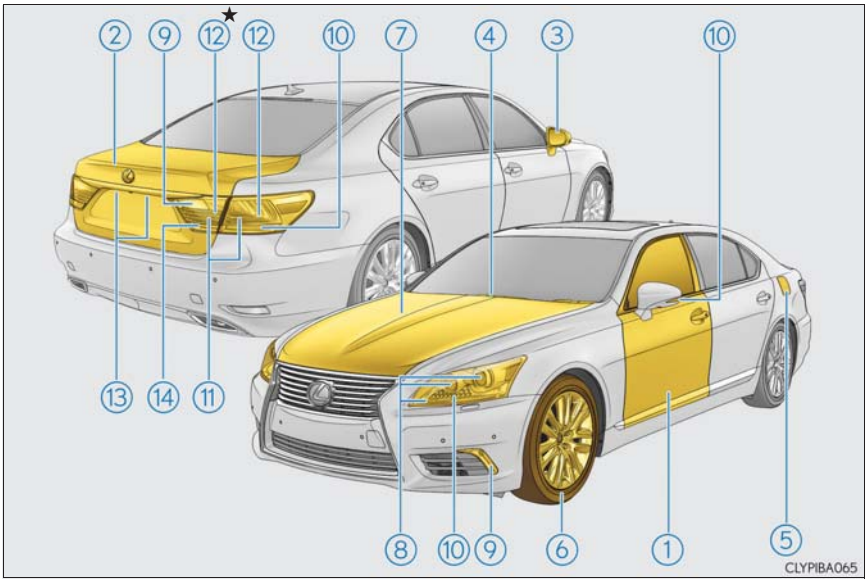
■ **タイトルから探す**

・目次 2



イラスト目次

■外観



ヘッドランプの形状は、グレードなどで異なります。（→ P. 262）

① **ドア . . . . . .P. 117**

施錠／解錠 . . . . . .P. 105, 115

ドアガラスの開閉 . . . . . .P. 164

メカニカルキーでの施錠／解錠 . . . . . .P. 468

警告灯・警告メッセージ . . . . . .P. 431, 434

② **トランク . . . . . .P. 122**

車内から開ける . . . . . .P. 122

車外から開ける . . . . . .P. 105, 115

メカニカルキーで開ける . . . . . .P. 469

警告灯・警告メッセージ . . . . . .P. 431, 434

③ **ドアミラー . . . . . .P. 161**

鏡面の角度調整 . . . . . .P. 161

ミラーの格納 . . . . . .P. 161

調整位置の登録 . . . . . .P. 147

曇りを取る（ミラーヒーター） . . . . . .P. 321

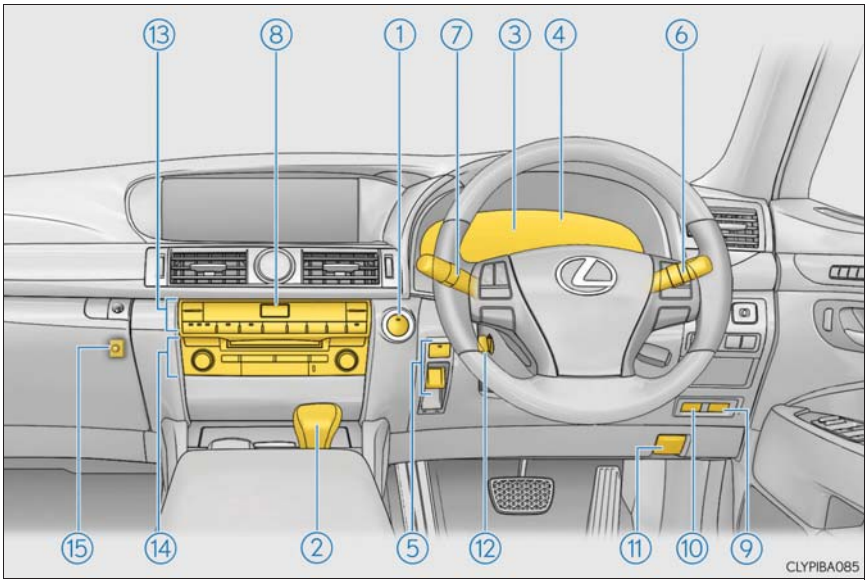
④ **ワイパー** . . . . . .P. 215
冬季の注意 . . . . . .P. 287
凍結防止（フロントワイパーデアイサー）★ . . . . . .P. 322
洗車時の注意 . . . . . .P. 376
⑤ **給油口** . . . . . .P. 219
給油方法 . . . . . .P. 219
燃料の種類・燃料タンク容量 . . . . . .P. 482
⑥ **タイヤ** . . . . . .P. 388
サイズ・空気圧 . . . . . .P. 391, 487
冬用タイヤ・タイヤチェーン . . . . . .P. 287
点検・ローテーション・空気圧警報システム . . . . . .P. 388
パンク時の対処 . . . . . .P. 437, 446
⑦ **ボンネット** . . . . . .P. 381
開け方 . . . . . .P. 381
エンジンルームカバー . . . . . .P. 385
エンジンオイル . . . . . .P. 482
オーバーヒート時の対処 . . . . . .P. 474
警告メッセージ . . . . . .P. 434

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 407, ワット数：P. 488）

⑧ **ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト** . . . . . .P. 203
⑨ **フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★** . . . . . .P. 213
⑩ **方向指示灯** . . . . . .P. 196
⑪ **尾灯** . . . . . .P. 203
⑫ **制動灯**
坂道などでの発進補助 . . . . . .P. 252
⑬ **番号灯** . . . . . .P. 203
⑭ **後退灯**
シフトポジションを R にする . . . . . .P. 186, 190

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■インストルメントパネル



① **エンジンスイッチ . . . . . .P. 181**

エンジンの始動・モード切りかえ . . . . . .P. 181

エンジンの緊急停止 . . . . . .P. 420

エンジンが始動できないときの対処 . . . . . .P. 460

警告メッセージ . . . . . .P. 434

② **シフトレバー . . . . . .P. 186, 190**

シフトポジションの切りかえ . . . . . .P. 186, 190

けん引時の注意 . . . . . .P. 421

シフトレバーが動かないときの対処 . . . . . .P. 462

③ **メーター . . . . . .P. 78**

見方・明るさの調整 . . . . . .P. 78

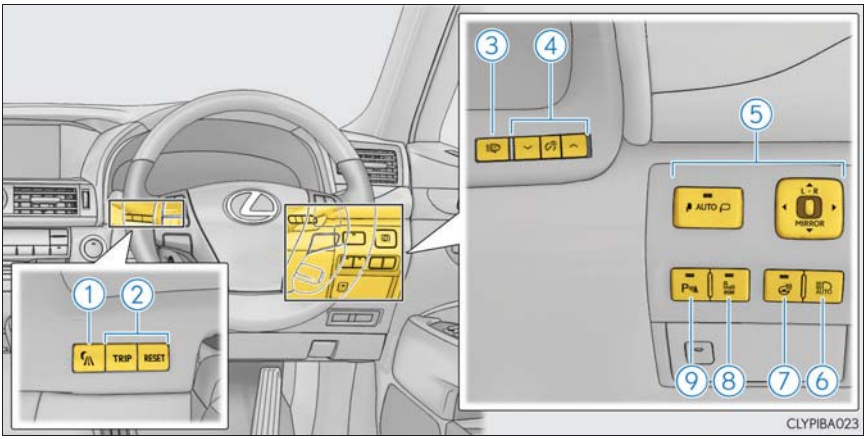
警告灯／表示灯 . . . . . .P. 74

警告灯点灯時の対処 . . . . . .P. 428

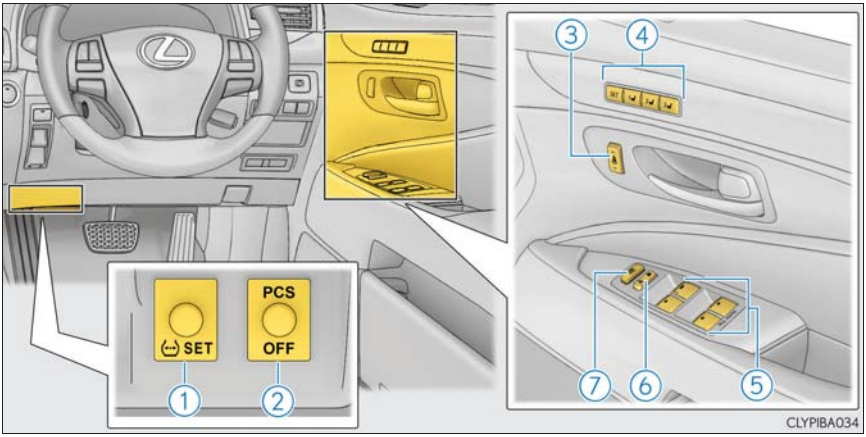
④ **マルチインフォメーションディスプレイ . . . . . .P. 82**
表示内容 . . . . . .P. 82
警告メッセージ表示時の対処 . . . . . .P. 434
⑤ **パーキングブレーキスイッチ . . . . . .P. 197**
かける・解除する . . . . . .P. 197
冬季の注意. . . . . .P. 288
警告ブザー・警告メッセージ . . . . . .P. 434
⑥ **方向指示レバー. . . . . .P. 196**
ランプスイッチ. . . . . .P. 203
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・LED デイライト . . . . . .P. 203
フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★ . . . . . .P. 213
⑦ **ワイパー＆ウォッシャースイッチ . . . . . .P. 215**
使い方. . . . . .P. 215
ウォッシャー液の補充 . . . . . .P. 387
警告メッセージ. . . . . .P. 434
⑧ **非常点滅灯スイッチ . . . . . .P. 417**
⑨ **トランクオープナー . . . . . .P. 122**
⑩ **給油扉オープナー . . . . . .P. 220**
⑪ **ボンネットオープナー . . . . . .P. 381**
⑫ **ハンドル位置調整スイッチ. . . . . .P. 158**
調整方法 . . . . . .P. 158
調整位置の登録. . . . . .P. 147
⑬ **オートエアコン. . . . . .P. 298**
操作方法 . . . . . .P. 298
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー). . . . . .P. 321
⑭ **オーディオ※**
音楽を聴く※
電話をかける・受ける（ハンズフリー）※
⑮ **トランクオープナーメインスイッチ. . . . . .P. 123**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■インストルメントパネル　スイッチ類

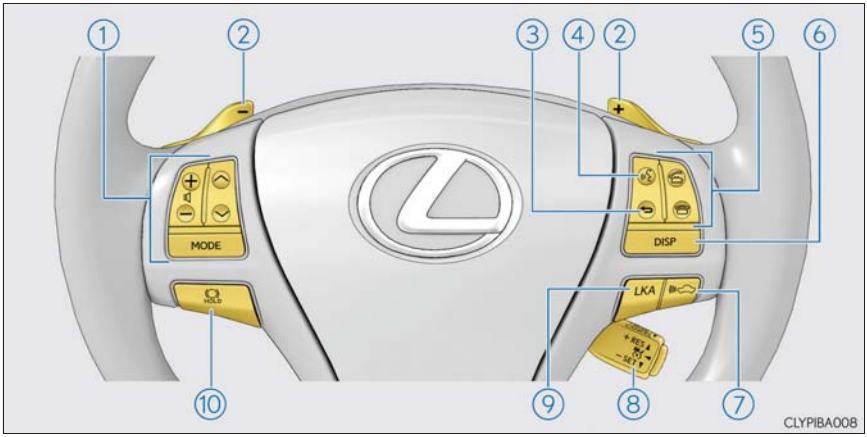


① ナイトビュースイッチ★ . . . . . .P. 276
② オドメーター／トリップメーター切りかえ・
トリップメーターリセットスイッチ . . . . . .P. 79
③ ヘッドランプクリーナースイッチ★ . . . . . .P. 218
④ インストルメントパネル照度調整スイッチ . . . . . .P. 79
⑤ ドアミラースイッチ . . . . . .P. 161
⑥ アダプティブハイビームシステムスイッチ★ . . . . . .P. 206
⑦ ステアリングヒータースイッチ. . . . . .P. 353
⑧ BSM（ブラインドスポットモニター）メインスイッチ★. . . . . .P. 272
⑨ クリアランスソナースイッチ※

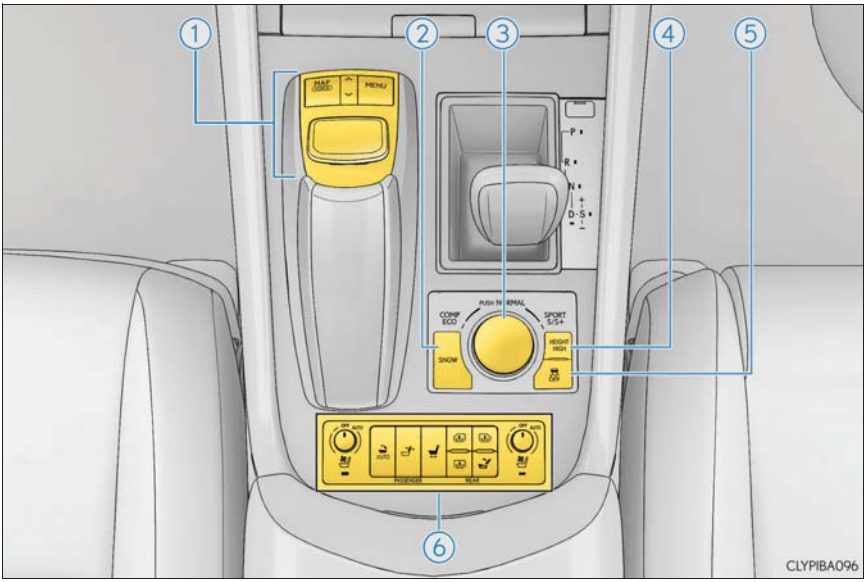


① タイヤ空気圧警報リセットスイッチ . . . . . .P. 390
② プリクラッシュブレーキ OFF スイッチ★ . . . . . .P. 261
③ シートベルト高さ調整スイッチ . . . . . .P. 34
④ ポジションメモリースイッチ . . . . . .P. 147
⑤ パワーウインドウスイッチ . . . . . .P. 164
⑥ ドアロックスイッチ . . . . . .P. 117
⑦ ウインドウロックスイッチ . . . . . .P. 164

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



① オーディオスイッチ※1
② パドルシフトスイッチ★ . . . . . .P. 192
③ 戻るスイッチ※1
④ トークスイッチ※1
⑤ 電話スイッチ※1
⑥ DISP スイッチ . . . . . .P. 83
⑦ 車間距離切りかえスイッチ★ . . . . . .P. 228
⑧ クルーズコントロールスイッチ
クルーズコントロール★ . . . . . .P. 222
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）★ . . . . . .P. 226
⑨ LKA（レーンキーピングアシスト）スイッチ★. . . . . .P. 240
⑩ ブレーキホールドスイッチ. . . . . .P. 200

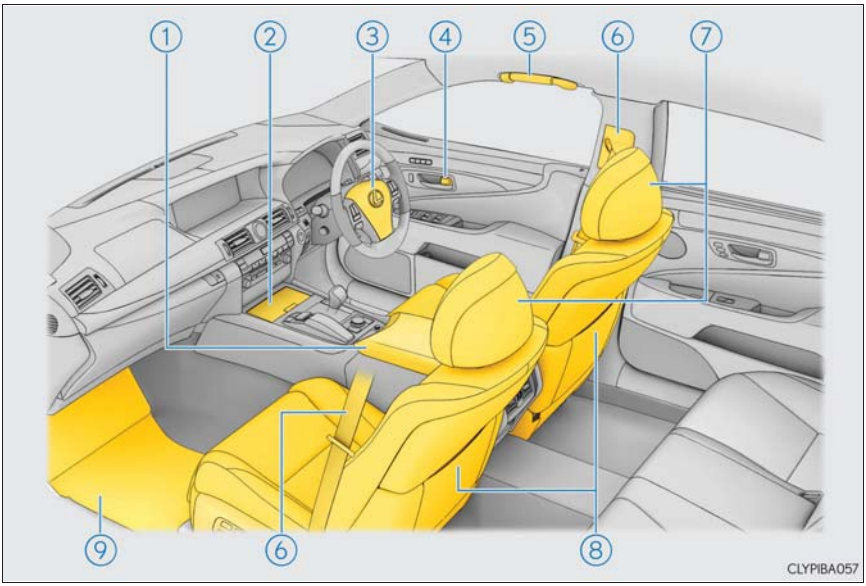


① **リモートタッチ**※1 . . . . . .P. 292
② **スノーモードスイッチ** . . . . . .P. 188, 194
③ **ドライブモードセレクトスイッチ** . . . . . .P. 247
④ **車高選択スイッチ** . . . . . .P. 251
⑤ **VSC（ビークルスタビリティコントロール）OFF スイッチ** . . . . . .P. 254
⑥ **シート・室内装備スイッチ**※2

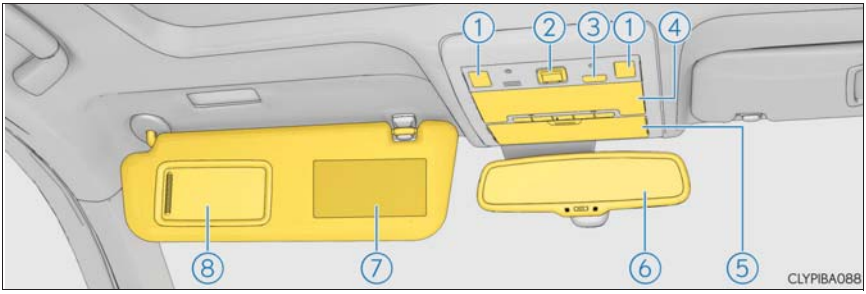
リヤサンシェードスイッチ. . . . . .P. 362
リヤドアサンシェードスイッチ★ . . . . . .P. 365
フロントコンフォータブル・エアシートスイッチ★ . . . . . .P. 355
リヤシート位置もどしスイッチ★ . . . . . .P. 139
助手席パワーシートスイッチ★ . . . . . .P. 130

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。
※2：スイッチの配置はグレードによって異なります。

■フロント席



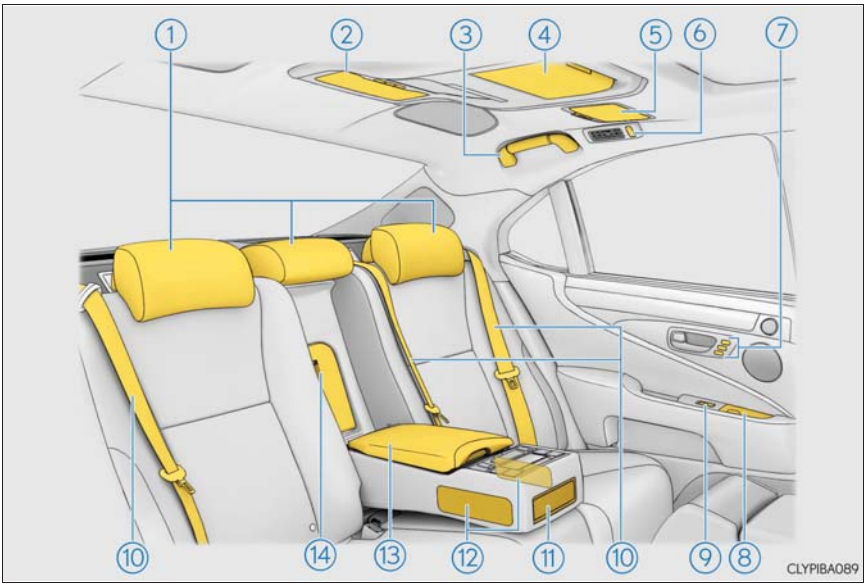
① **コンソールボックス** . . . . . .P. 333
アクセサリーソケット . . . . . .P. 349
AUX 端子※1
USB 端子※1
② **カップホルダー** . . . . . .P. 331
アクセサリーソケット★ . . . . . .P. 349
シガレットライター★ . . . . . .P. 347
③ **SRS エアバッグ** . . . . . .P. 39
④ **ドアロックレバー** . . . . . .P. 117
⑤ **アシストグリップ** . . . . . .P. 371
⑥ **シートベルト** . . . . . .P. 34
⑦ **ヘッドレスト** . . . . . .P. 154
⑧ **フロントシート** . . . . . .P. 129
⑨ **フロアマット** . . . . . .P. 30



① ムーンルーフスイッチ★ . . . . . .P. 167
② ヘルプネットスイッチパネル※1
③ 侵入センサー OFF スイッチ . . . . . .P. 70
④ インテリアランプ . . . . . .P. 324
パーソナルランプ . . . . . .P. 325
⑤ 小物入れ . . . . . .P. 337
⑥ インナーミラー . . . . . .P. 159
⑦ サンバイザー※2 . . . . . .P. 343
⑧ バニティミラー . . . . . .P. 343

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。
※2：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
（→ P. 63）

■5 人乗り　リヤ席

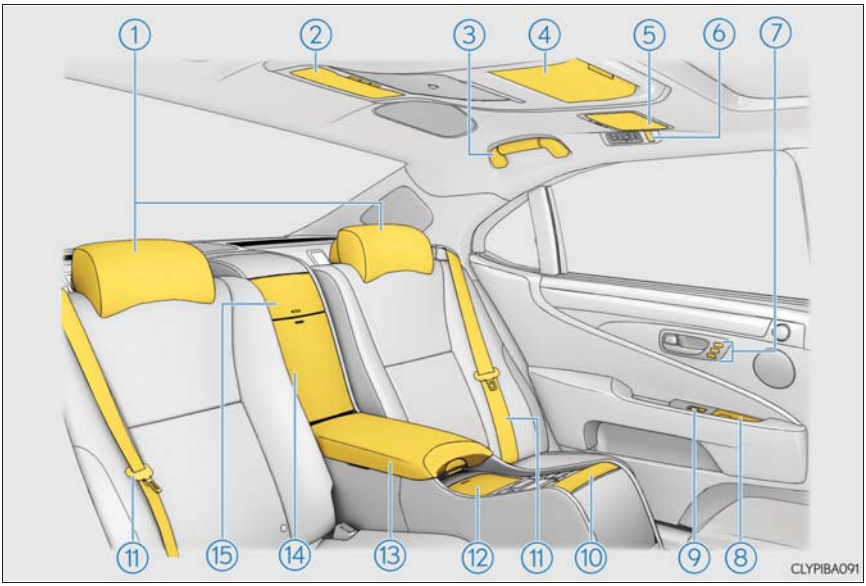


① ヘッドレスト . . . . . .P. 154
② インテリアランプ . . . . . .P. 324
パーソナルランプ . . . . . .P. 325
③ アシストグリップ . . . . . .P. 371
④ 後席 9 型ワイドディスプレイ★※
⑤ バニティミラー . . . . . .P. 343
⑥ コートフック . . . . . .P. 370
⑦ シートポジションメモリースイッチ★. . . . . .P. 152

⑧ **小物入れ★** . . . . . .P. 337
灰皿★ . . . . . .P. 346
⑨ **パワーウインドウスイッチ** . . . . . .P. 164
⑩ **シートベルト** . . . . . .P. 34
⑪ **カップホルダー** . . . . . .P. 331
⑫ **ペルビックサポートシートスイッチ★** . . . . . .P. 140
リヤシートリラクゼーションシステム／
ペルビックサポートシートスイッチ★ . . . . . .P. 140, 142
⑬ **小物入れ** . . . . . .P. 337
後席９型ワイドディスプレイリモコン★※
アクセサリーコンセント . . . . . .P. 351
ヘッドフォンジャック★※
⑭ **クールボックス・小物入れ★** . . . . . .P. 334
トランクスルー機構★ . . . . . .P. 368

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■4 人乗り　リヤ席

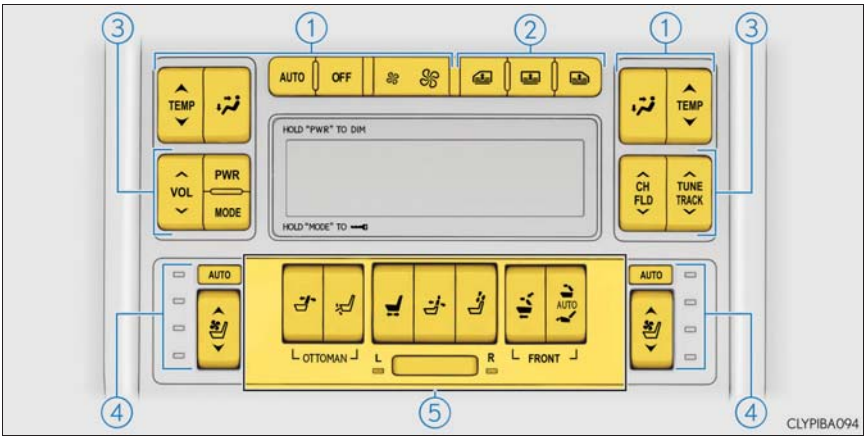


① ヘッドレスト . . . . . .P. 154
② インテリアランプ . . . . . .P. 324
パーソナルランプ . . . . . .P. 325
③ アシストグリップ . . . . . .P. 371
④ 後席 9 型ワイドディスプレイ※
⑤ バニティミラー . . . . . .P. 343
⑥ コートフック . . . . . .P. 370
⑦ シートポジションメモリースイッチ . . . . . .P. 152

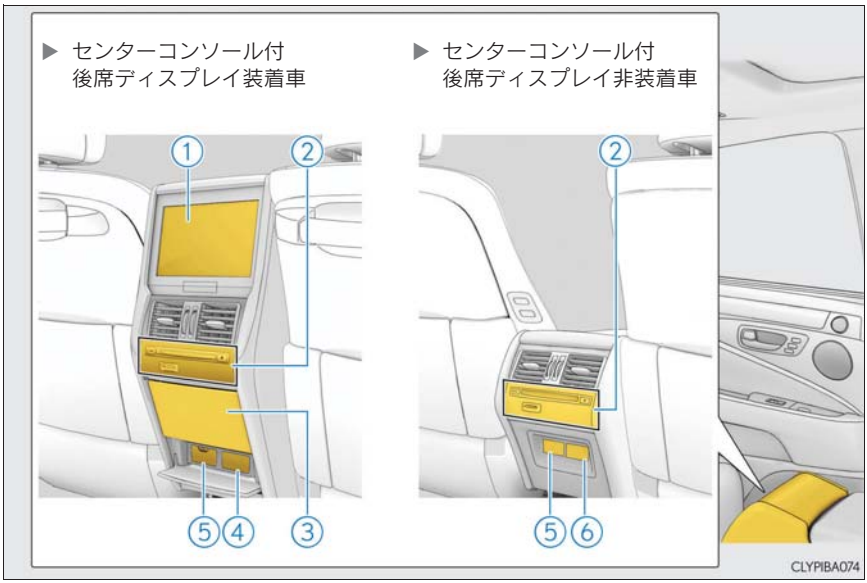
⑧ **小物入れ★** . . . . . .P. 337
灰皿★ . . . . . .P. 346
⑨ **パワーウインドウスイッチ**. . . . . .P. 164
⑩ **テーブル** . . . . . .P. 360
⑪ **シートベルト** . . . . . .P. 34
⑫ **カップホルダー** . . . . . .P. 331
⑬ **リヤシートコンソール**
リヤシートリラクゼーションシステム／
ペルビックサポートシートリモコン . . . . . .P. 140, 142
後席 9 型ワイドディスプレイリモコン※
シガレットライター★. . . . . .P. 347
アクセサリーソケット★ . . . . . .P. 349
HDMI/ ビデオ端子※
クールボックス・小物入れ. . . . . .P. 334
⑭ **小物入れ** . . . . . .P. 337
⑮ **後席ブルーレイディスク TM(BD)/DVD プレーヤー※**
ディスク挿入口※
SD カード挿入口※
ヘッドフォンジャック※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■リヤ席　スイッチ類



① リヤエアコンスイッチ★ . . . . . .P. 314
② リヤサンシェードスイッチ★※2 . . . . . .P. 362
リヤドアサンシェードスイッチ★ . . . . . .P. 365
③ リヤオーディオスイッチ★※1 . . . . . .P. 320
④ リヤコンフォータブル・エアシートスイッチ★ . . . . . .P. 356
⑤ パワーリヤシートスイッチ★※2 . . . . . .P. 136
助手席コントロールスイッチ★※2 . . . . . .P. 131, 139
ペルビックサポートシートスイッチ★※2 . . . . . .P. 140



① **後席 9 型ワイドディスプレイ**※1

② **後席ブルーレイディスク TM(BD)/DVD プレーヤー★**※1

ディスク挿入口※1

SD カード挿入口※1

③ **小物入れ** . . . . . .P. 337

④ **アクセサリーソケット** . . . . . .P. 349

⑤ **HDMI/ ビデオ端子★**※1

⑥ **シガレットライター★** . . . . . .P. 347
アクセサリーソケット★ . . . . . .P. 349
アクセサリーコンセント★ . . . . . .P. 351

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※1：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。
※2：スイッチの配置はグレードによって異なります。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 30
安全なドライブのために.....32
シートベルト 34
SRS エアバッグ.....39
お子さまの安全のために.....49
子供専用シート 50
チャイルドシートの取り付け 58
排気ガスに対する注意.....65

1-2. 盗難防止装置

エンジンイモビライザー
システム 66
オートアラーム 67

運転する前に

点検整備

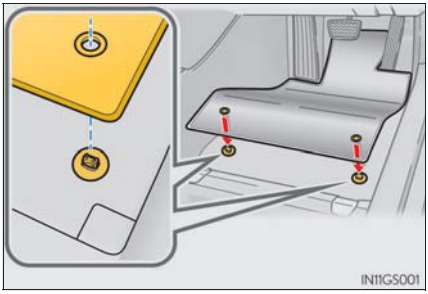
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

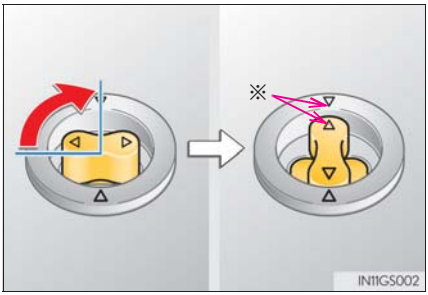
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- ●レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- ●運転席専用のフロアマットを使用する
- ●固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- ●他のフロアマット類と重ねて使用しない
- ●フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

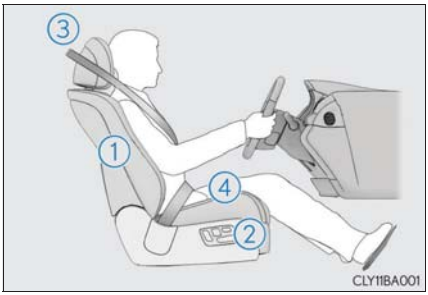
■運転する前に

- ●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ●エンジン停止およびシフトレバーがPの状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 129）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 129）

③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 154）

④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 34）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 34）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 50）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 159, 161）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

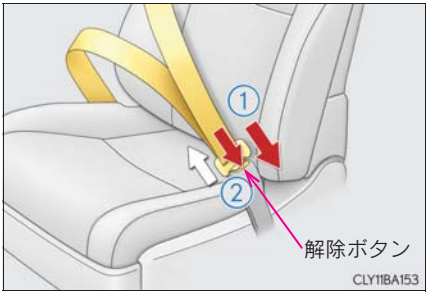
正しく着用する

- 肩部ベルトを肩に十分かける

  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

着け方・はずし方

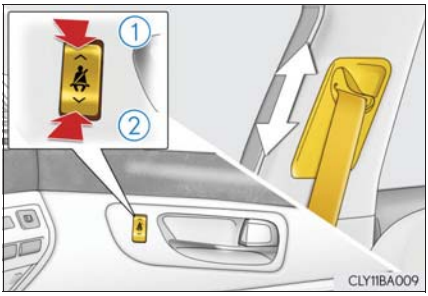


① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

はずれないときは、ベルトをひき上げながら解除ボタンを押してください。

シートベルトの高さ調節（フロント席）

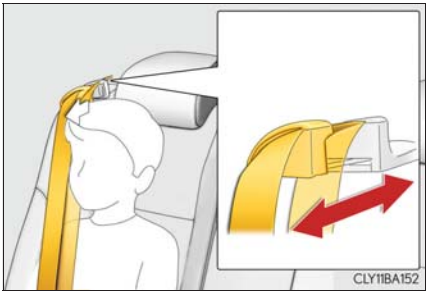


① アジャスターを上げる

② アジャスターを下げる

シートベルトコンフォートガイド（リヤ外側席）

お子さまや体の小さい方はコンフォートガイドを前方にスライドさせて肩部ベルトが首にかからないように調整してください。

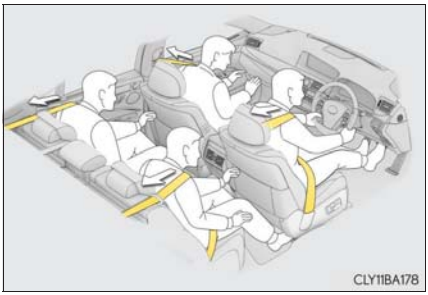


シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

フロント席のシートベルトプリテンショナーは、側方から強い衝撃を受けたときも作動します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



プリクラッシュシートベルト（プリクラッシュセーフティシステム装着車フロント席）

衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。（→ P. 259）

知識

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

●シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。(→ P. 50)

●シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→ P. 34)

■シートベルト高さの自動調整

調整後のシートベルト高さをポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→ P. 147)

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

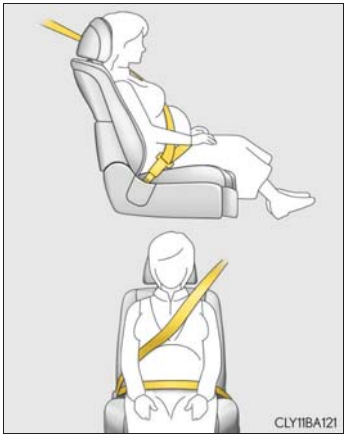
■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 34)
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

警告

■**お子さまをのせるとき**

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■**プリテンショナー付きシートベルトについて**

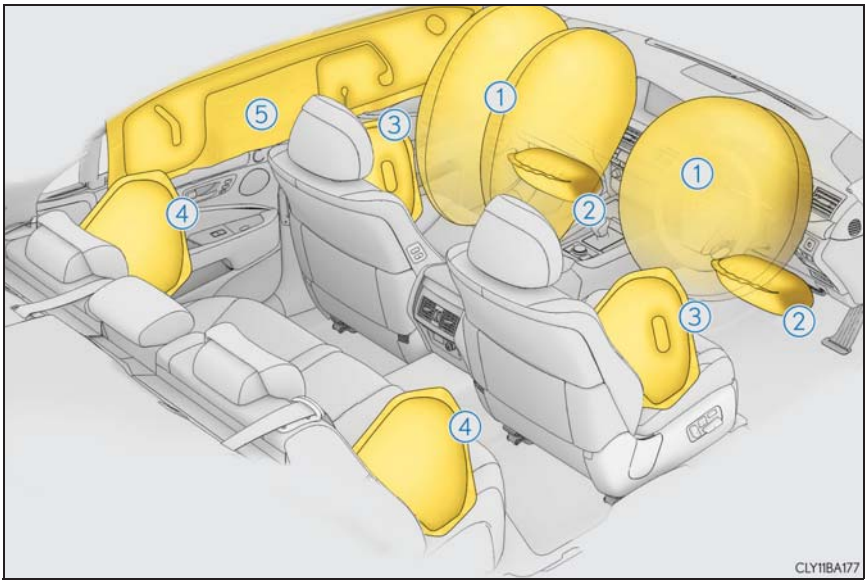
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

■**シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

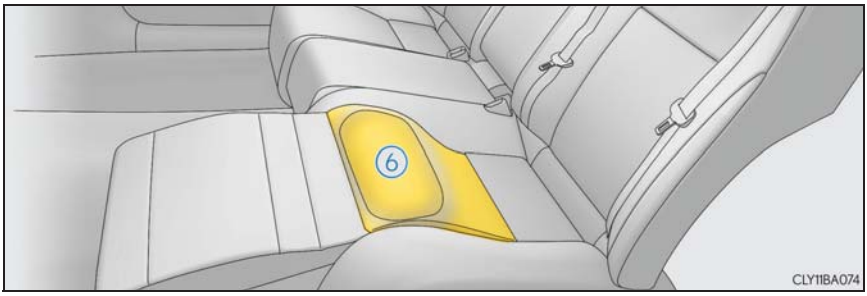
② SRS ニーエアバッグ
（運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助）

◆ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

③ SRS フロントサイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

④ SRS リヤサイドエアバッグ★
（リヤ外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

⑤ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）



⑥ SRS シートクッションエアバッグ（リラクゼーションシートのみ）
（リラクゼーションシート乗員の拘束に寄与）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

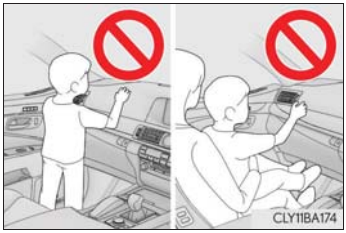
●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 50)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



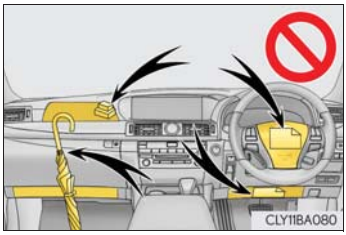
●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

警告

■SRS エアバッグについて

●助手席やリヤシートでは、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



●ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
（速度制限ラベルを除く：→ P. 453）

●コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されるおそれがあります。

●SRSニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。

●SRS サイドエアバッグとシートクッションエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりするおそれがあります。

警告

■SRS エアバッグについて

●SRSエアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRSエアバッグが収納されているパッド部・フロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造

●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造

●グリルガード(ブルバー・カンガルーバーなど)・除雪装置・ウインチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・リヤ席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●G-Link の契約期間内は、SRS エアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ、SRS シートクッションエアバッグ）

●フロント SRS エアバッグと SRS シートクッションエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが開く場合があります。

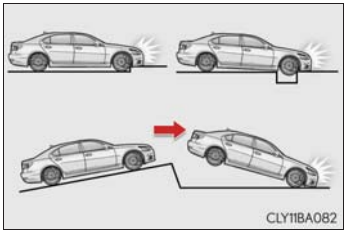
■衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグ、SRS シートクッションエアバッグ）

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグ、SRS シートクッションエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



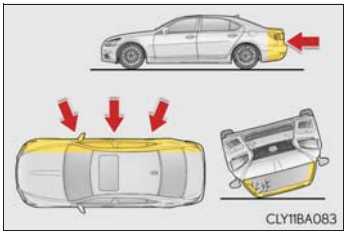
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ、SRS シートクッションエアバッグ）

フロント SRS エアバッグ、SRS シートクッションエアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグ、SRS シートクッションエアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

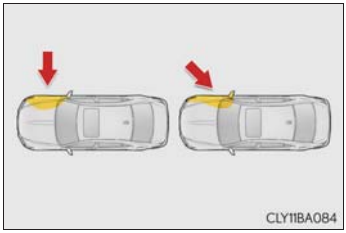


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

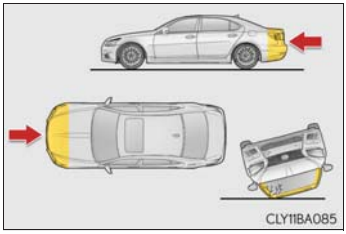


SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

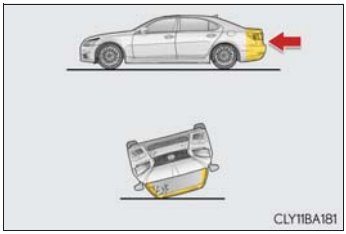
●横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

●後方からの衝突

●横転

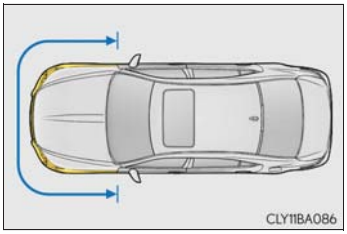


■レクサス販売店に連絡が必要な場合

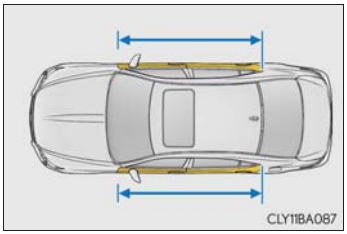
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

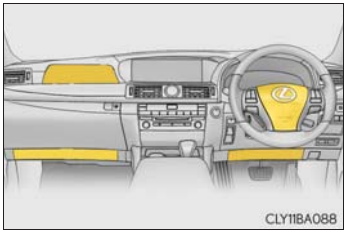
●フロント SRS エアバッグ、SRS カーテンシールドエアバッグ、SRS シートクッションエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



●SRSサイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

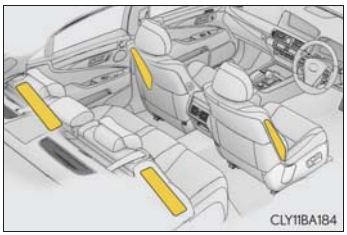


●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近･インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

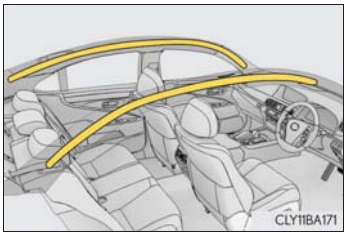


●リラクゼーションシート：シートクッションの表面が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRSサイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRSカーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部･リヤピラー部･ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 50）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P. 118）・ウインドウロックスイッチ（→ P. 164）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター・発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」を参照してください。（→ P. 58）

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- 車の仕様やお子さまの年齢・体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取扱説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0　：10kgまで
グループ0＋　：13kgまで
グループⅠ　：9～18kg
グループⅡ　：15～25kg
グループⅢ　：22～36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44は、子供専用シートに関する国際法規です。

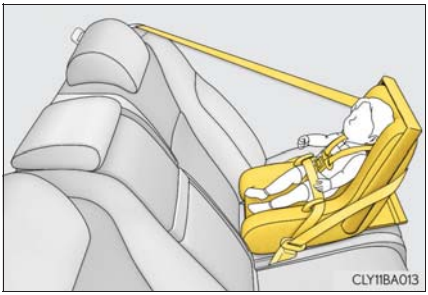
■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにともなう取り付け器具の記号になります。

子供専用シートの種類

▶ ベビーシート

ECE R44 基準のグループ 0、0 ＋に相当



▶ チャイルドシート

ECE R44 基準のグループ 0 ＋、I に相当

▶ ジュニアシート

ECE R44 基準のグループ II 、III に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0（10kg まで）	×	U	U
0＋（13kg まで）	×	U	U
Ⅰ（9 ～ 18kg）	前向き UF うしろ向き×	U	U
Ⅱ（15 ～ 25kg）	UF	U	U
Ⅲ（22 ～ 36kg）	UF	U	U

● 上表に記入する文字の説明

U： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの子供専用シートに適しています。

UF： この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きの子供専用シートに適しています。

×： 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。

シート位置別子供専用シートの適合性一覧表（ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け）

質量グループ	サイズ等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0（10kg まで）	E	ISO/R1	IL1, IL2
0＋（13kg まで）	E	ISO/R1	IL1, IL2
	D	ISO/R2	IL2
	C	ISO/R3	IL2
Ⅰ（9 ～ 18kg）	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF, IL2
	B1	ISO/F2X	IUF, IL2
	A	ISO/F3	IUF, IL2
Ⅱ（15 ～ 25kg）		（1）	×
Ⅲ（22 ～ 36kg）		（1）	×

● 上表に記入する文字の説明

（1）：サイズ等級表示（AからG）のない子供専用シートの各シート位置でのISOFIX対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーのISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL1：この質量グループでの使用を許可された「レクサス純正 NEO G-Child ISO baby」に適しています。

IL2：この質量グループでの使用を許可された「レクサス純正 NEO G-Child ISO leg」に適しています。

×： ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

子供専用シートの装着に関しては子供専用シートの取扱説明書もご確認ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
0（10kg まで）	E	ISO/R1	レクサス純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
	E	ISO/R1	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
0＋（13kg まで）	E	ISO/R1	レクサス純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
	E	ISO/R1	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	D	ISO/R2		
	C	ISO/R3		
I（9 ～ 18kg）	B	ISO/F2	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	B1	ISO/F2X		
	A	ISO/F3		

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されているISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■子供専用シートの選択、使用について

●お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。

●お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまでは、お子さまに合った子供専用シートを使用してください。

●体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」（→ P. 52）を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類（記号）をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」（→ P. 53）を確認して、適切なシートを選択してください。

1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

（例 1）：体重が 12kg の場合、質量グループは「0 +」になります。

（例 2）：体重が 15kg の場合、質量グループは「 I 」になります。

2 サイズ等級を選択する

手順1で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

（例 1）：質量グループが「0 +」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

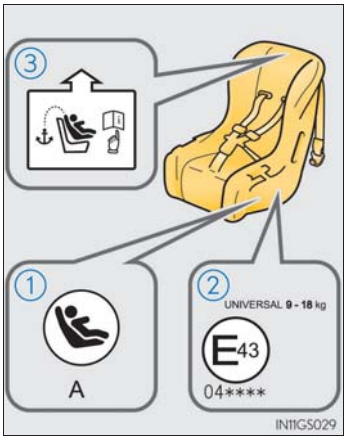
（例 2）：質量グループが「 I 」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」（→ P. 54）で指定されている製品を使用してください。

3 子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

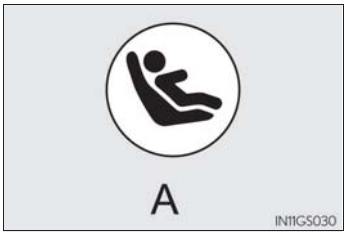
※ 表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



① ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

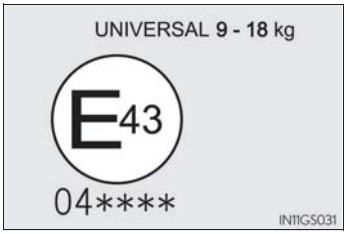
サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順2で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



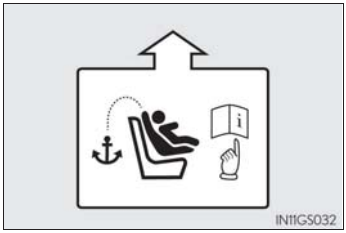
② 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



③ トップテザー（→P. 58, 59）を示すマーク

商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。



■ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート （B-ISO/F2 と別形状のもの）
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。

●背もたれを直立状態にする

●シートの高さをいちばん高い位置まで上げる

●シートをいちばんうしろにさげる

■キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者にお尋ねください。

警告

■子供専用シートを使用しない場合

●子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

●子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートの取り付け

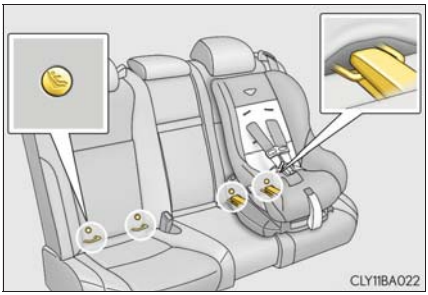
シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤ外側シートに取り付けてください。

取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

シートベルトによる取り付け
（→ P. 60）

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー（→ P. 61）

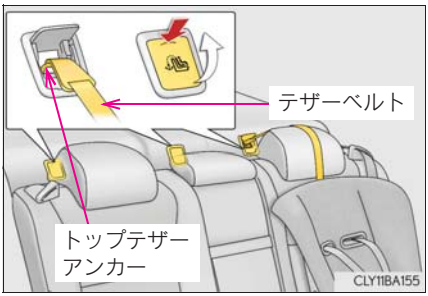
リヤ外側シートに装備されています。（固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています）



▶ 5 人乗り

トップテザーアンカー（→ P. 61）

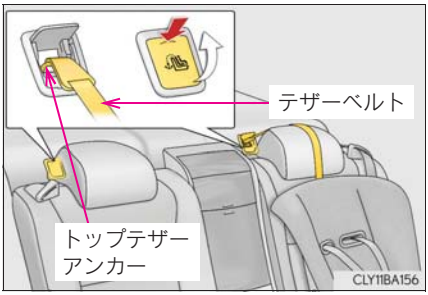
テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシートのそれぞれの座席に装備されています。



▶ 4 人乗り

トップテザーアンカー（→ P. 61）

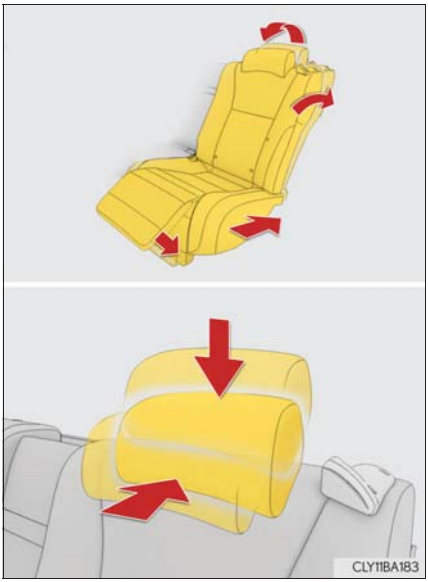
テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシートのそれぞれの座席に装備されています。



パワーリヤシートの外側席にチャイルドシートを取り付ける前に（パワーリヤシート装着車）

シートを次のように調整してください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- 背もたれ上部をいちばんうしろにする
- ヘッドレストをいちばん低くし、いちばんうしろにする
- リラクゼーションシート：背もたれをいちばん上まで起こし、オットマン（フットレスト）を格納する



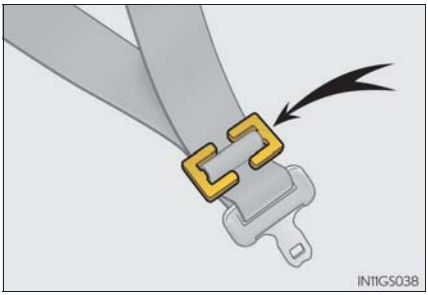
シートベルトで固定する

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



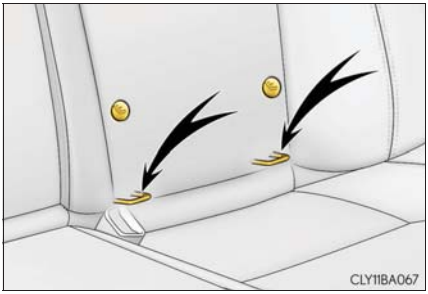
取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

1 ヘッドレストをいちばん下まで下げる、または格納する（→ P. 154）

2 ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

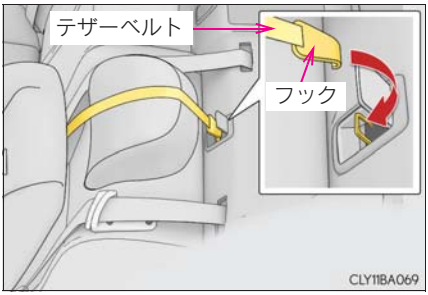


3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

4 フタを開けてトップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。



5 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する

警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、車内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるとき

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

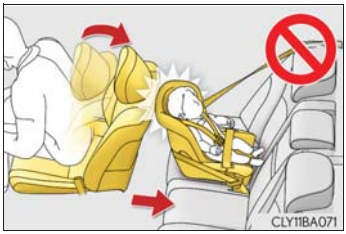
●シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき



●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告

■**チャイルドシートを取り付けるとき**

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろにさげて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

トランクを閉じてください。
トランクが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■ **メンテナンスについて**

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ **システムが正常に作動しないとき**

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ **エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。
オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）

※ G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／ G-Link ／ G-Security」を参照してください。

オートアラームを設定する

ドア・トランク・ボンネットを閉め施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- ドアまたはトランクを解錠する
- エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

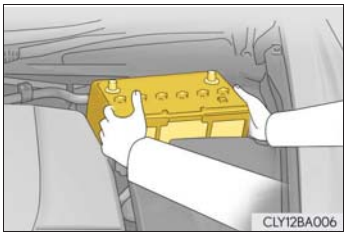
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

- 車内に残った人が、ドア・トランク・ボンネットを開けたとき

- 施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき（→ P. 472）



■オートアラーム作動によるドアロック機能について

- オートアラームが作動したときドアが解錠されていると車内への不正な侵入を防止するため自動的に施錠されます。
- オートアラームが作動したときに車内でキーを閉じ込めないように、バッテリーあがりなどで充電・交換する場合は車内にキーがないかを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■G-Link（ご契約のお客様のみ）

●うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、ムーンルーフ★の閉め忘れを、ご指定の E メールアドレスへお知らせすることができます。
うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／ G-Link ／ G-Security」を参照してください。

⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

侵入センサーとは

侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→ P. 67)

■ 侵入センサーを停止する

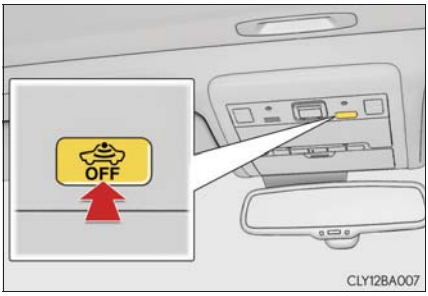
車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 侵入センサーOFF スイッチを押す

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに、侵入センサー停止のメッセージが表示されます。

もう一度スイッチを押すと、侵入センサーは再びセットされます。



知識

■侵入センサーの作動・停止について

●侵入センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。

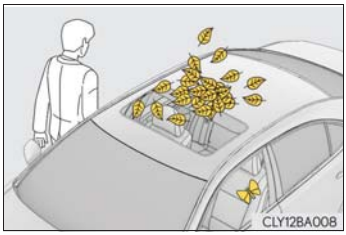
●侵入センサーを停止したあとにエンジンスイッチを押すか、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作を行うと、侵入センサーは復帰します。

●オートアラームの設定を解除するたびに侵入センサーは復帰します。

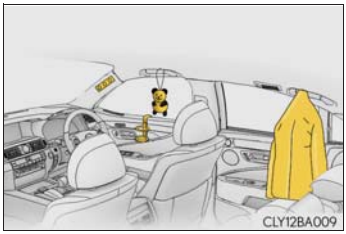
■侵入センサーについての留意事項

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

●ドアガラスやムーンルーフ★などが開いている場合､次のものを検知することがあります。
・室内に入った落ち葉・虫・風など
・他車の侵入センサーなどが発する超音波
・室外の歩行者の動き



●マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合



●振動や騒音が激しい場所、または連続的な衝撃や振動が車両に伝わる状況
・立体駐車場に駐車したとき
・フェリー・トレーラー・列車などで車両を運搬するとき
・ガラスに付着した氷を削り落すとき
・高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき
・ひょう・落雷などのとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■侵入センサーを正しく作動させるために

●センサーの穴はふさがないようにしてください。

●センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。

●運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

メーターの見方

2

2. 計器の見方

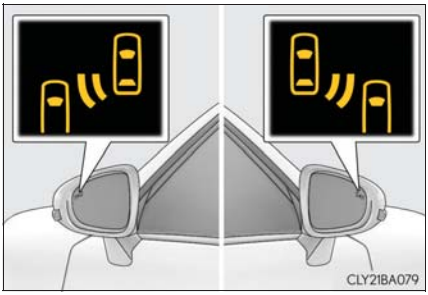
警告灯／表示灯 74
計器類 78
マルチインフォメーション
ディスプレイ 82
燃費画面／ Harmonious
Driving Navi. 画面 90

警告灯／表示灯

メーター・ドアミラー内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

◆ メーター

◆ ドアミラー（ブラインドスポットモニター装着車）



警告灯

システム異常などを警告します。

※ ブレーキ警告灯（→ P. 428）

※ 充電警告灯（→ P. 428）

※ エンジン警告灯（→ P. 429）

※ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（→ P. 429）

※ ABS ＆ブレーキアシスト警告灯（→ P. 429）

※ パワーステアリング警告灯（→ P. 429）

※ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）警告灯★（→ P. 429）
（点滅）

※ スリップ表示灯（→ P. 430）

※ ブレーキホールド作動表示灯（→ P. 430）
（点滅）

※ パーキングブレーキ表示灯（→ P. 430）
（点滅）

※ ブレーキ警告灯（→ P. 430）

半ドア警告灯（→ P. 431）

燃料残量警告灯（→ P. 431）

シートベルト非着用警告灯（→ P. 431）

※ マスターウォーニング（→ P. 431）

※ タイヤ空気圧警告灯（→ P. 431）

※ 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→ P. 196）

尾灯表示灯（→ P. 203）

ハイビーム表示灯
（→ P. 203）

アダプティブハイビームシステム表示灯★（→ P. 206）

フロントフォグランプ
表示灯（→ P. 213）

リヤフォグランプ表示灯★
（→ P. 213）

スノーモード表示灯
（→ P. 188, 194）

※1

パーキングブレーキ表示灯
（→ P. 197）

※1

ブレーキホールドスタンバイ
表示灯（→ P. 200）

※1

ブレーキホールド作動表示灯
（→ P. 200）

クルーズコントロールセット
表示灯（→ P. 222, 226）

クルーズコントロール
表示灯（→ P. 222, 226）

レーダークルーズコントロール表示灯★（→ P. 226）

LKA（レーンキーピングアシスト）表示灯★（→ P. 240）

※1

エアサスペンション HIGH 表示灯（→ P. 251）

※1

（点滅）
スリップ表示灯（→ P. 253）

※1

VSC（ビークルスタビリティコントロール）OFF 表示灯
（→ P. 254）

※1

（速い点滅）
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）警告灯★
（→ P. 261）

※2

BSM（ブラインドスポットモニター）ドアミラーインジケーター★（→ P. 272）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

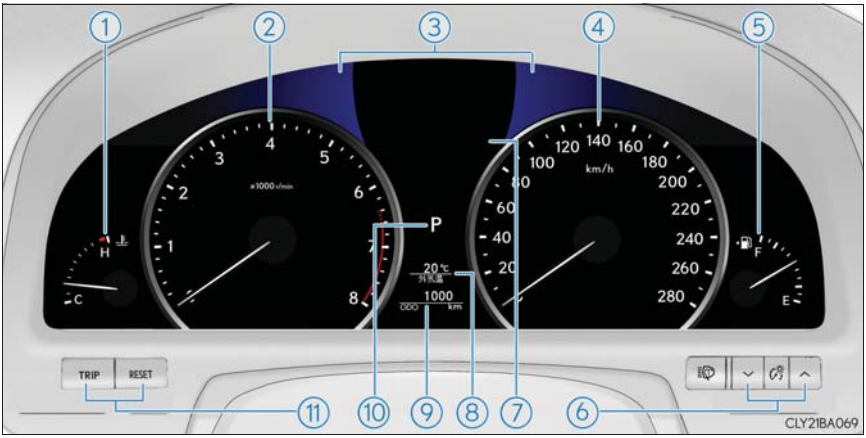
※2 作動確認のため次の条件のときインジケーターが点灯します。
・BSM メインスイッチが ON の状態で、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき
・エンジンスイッチがイグニッション ON モードで、BSM メインスイッチを ON にしたとき
システムが正常であればインジケーターは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

計器類



① 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

② タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

③ ECO ランプ（青）・SPORT ランプ（赤）

走行モードや運転状態によって色や明るさがかわります。（→ P. 80）

④ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

⑤ 燃料計

燃料残量を示します。

⑥ インストルメントパネル照度調整スイッチ

⑦ マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 82）

⑧ 外気温

外気温度を -40°C ～ 50°C の間で表示します。

⑨ オドメーター／トリップメーター

オドメーター：
走行した総距離を km の単位で表示します。

トリップメーター：
リセットしてからの走行距離を km の単位で表示します。区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

⑩ シフトポジション・シフトレンジ表示

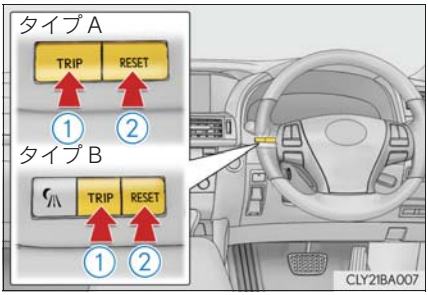
選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。
（→ P. 186, 190）

⑪ オドメーター／トリップメーター切りかえ・トリップメーターリセットスイッチ

表示の切りかえ（オドメーター／トリップメーター）

① 表示を切りかえる

② 表示中のトリップメーターの走行距離を 0 にもどす

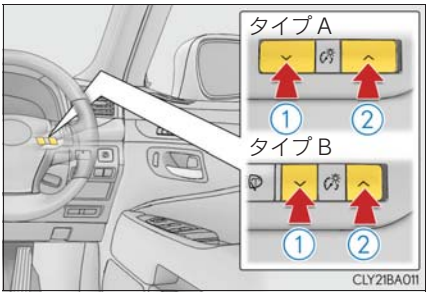


インストルメントパネル照度調整スイッチ

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。

① 暗くする

② 明るくする



知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■インストルメントパネルの照度調整について

●メーター：
周囲が明るいときの照度（昼照度）と、周囲が暗いときの照度（夜照度）それぞれの明るさのレベルを調整することができます。
ただし、昼照度のときに照度調整をすると、昼照度の変更にあわせて夜照度の設定も変わります。

●時計・温度・スイッチ照明：
照度レベルは、メーターの夜照度と連動しています。

■減光制御（夜照度への切りかえ）について

メーター・時計・温度照明は、周囲が暗い状態で車幅灯点灯時のみ夜照度に切りかわります。

■メーター照度の自動調整について

メーター照度は、周囲の明るさをライトセンサーで感知して自動調整されます。ただし、次の場合メーター照度は自動調整されません。

●昼照度の場合：手動操作で照度を最も明るくしたとき

●夜照度の場合：手動操作で照度を最も明るく、または最も暗くしたとき

■ECO ランプ・SPORT ランプの点灯条件について

●次の条件を満たして走行しているとき、ECO ランプ（青）が点灯します。（より環境に配慮した運転状態であるほど ECO ランプが明るくなり、非エコ運転の範囲に近付くほど暗くなります。（→ P. 84）また、停車時やエコ運転の範囲をこえた状態では消灯します。ただし、エコドライブモード選択時は、停車時やエコ運転の範囲をこえた状態でも消灯しません）
・ シフトレバーが D にあるとき
・ パドルシフトスイッチ★を操作していないとき
・ 走行モードがノーマルモード、コンフォートモードまたはエコドライブモードで、スノーモードを使用していないとき
・ 車速が約 100km/h 以下のとき

●走行モードがスポーツモードのときは、SPORT ランプ（赤）が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

●停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき

●外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

■カスタマイズ機能

ECO ランプ・SPORT ランプの点灯条件などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 490）

⚠注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

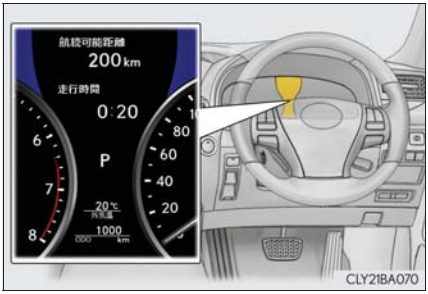
●タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。

●水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 474）

マルチインフォメーションディスプレイ

表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、走行に関するさまざまな情報を表示します。



- トリップインフォメーション（→ P. 83）

  航続可能距離や燃費など、走行に関する情報を表示します。

- ドライブモニター（→ P. 86）

  給油後平均燃費か航続可能距離のどちらかを表示します。

- クリアランスソナー表示※（→別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」参照）
- レーダークルーズコントロール表示★※（→ P. 226）
- LKA（レーンキーピングアシスト）表示★※（→ P. 241）
- 警告メッセージ（→ P. 434）

  各システムに異常が発生すると、自動で表示されます。DISP スイッチを押すと、表示を切りかえることができます。（→ P. 83）

※ システム使用時に自動で表示されます。DISP スイッチを押すと、表示を切りかえることができます。（→ P. 83）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トリップインフォメーション

■ 表示の切りかえ

DISP スイッチを押すごとに切りかわります。

ドライブモニターで表示中の情報は、トリップインフォメーション画面では表示されません。

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できない場合があります。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。
  給油の際はエンジンスイッチを OFF にしてください。万一、エンジンスイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

■ エコドライブインジケーターゾーン表示・平均燃費

● エコドライブインジケーターゾーン表示を表示します。

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

① 現状のアクセル開度
現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点滅します。
このとき、ECO ランプは消灯します。

② エコ運転の範囲

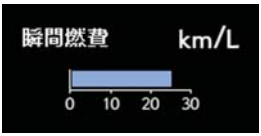
次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- シフトレバーが D 以外にあるとき
- パドルシフトスイッチ★を操作しているとき
- 走行モードがノーマルモード、コンフォートモードまたはエコドライブモード以外のとき
- 車速が約 100km/h 以上のとき

● リセットしてからの平均燃費を表示します。

- リセットするには、平均燃費表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押し続けます。
  ナビゲーション画面の区間燃費画面も更新されます。（→ P. 92）
- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 瞬間燃費



現在の瞬間燃費を表示します。

■ 給油後平均燃費

給油をしてからの平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 給油後走行距離

給油をしてからの走行距離を表示します。

■ 走行時間

リセットしてからの走行時間を表示します。

リセットするには、走行時間表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押し続けます。

■ 平均車速

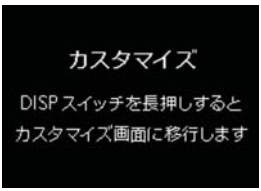
リセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押し続けます。

■ タイヤ空気圧

タイヤが装着されている位置ごとに、現在のタイヤ空気圧を表示します。

■ カスタマイズ



マルチインフォメーションディスプレイの設定を変更できます。（→ P. 87）

ドライブモニター

給油後平均燃費・航続可能距離のどちらかを選択して表示させることができます。
ドライブモニターに表示させると、他の走行に関する情報や自動表示される警告メッセージと同時に表示させることができます。

表示・選択方法は、「ディスプレイの設定変更」を参照してください。

ドライブモニターで表示中の情報は、トリップインフォメーション画面では表示されません。

ディスプレイの設定変更

1 停車した状態で、「カスタマイズ」画面が表示されるまでDISPスイッチを押す

2 設定項目の選択画面が表示されるまで DISP スイッチを押し続ける

3 設定変更を行う項目を選択し、DISP スイッチを押し続ける

DISP スイッチを押すたびに、カーソルが次の項目へ移動します。

目的の項目にカーソルを合わせ、DISP スイッチを押し続けると、その項目の設定画面が表示されます。

4 設定を変更する

DISP スイッチを押すとカーソルが移動します。

目的の項目にカーソルを合わせ、DISP スイッチを押し続けると、設定が変更され、手順 3 の画面にもどります。

5 「戻る」を選択して DISP スイッチを押し続ける

手順 1 の画面にもどります。

知識

■ システムチェック表示

エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき、「SYSTEM CHECK」と表示されます。

■ タイヤ空気圧表示について

- エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたあと、空気圧が表示されるまで２、３分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで２、３分かかります。
- 電波状況等によって各タイヤ位置の情報を識別できないときは“---”と表示されることがあります。
- タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■ バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- 航続可能距離
- 平均燃費
- 給油後平均燃費
- 給油後走行距離
- 走行時間
- 平均車速

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■ カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 490）

警告

■**低温時の画面表示について**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばギヤ段表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ディスプレイの設定を変更するとき**

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

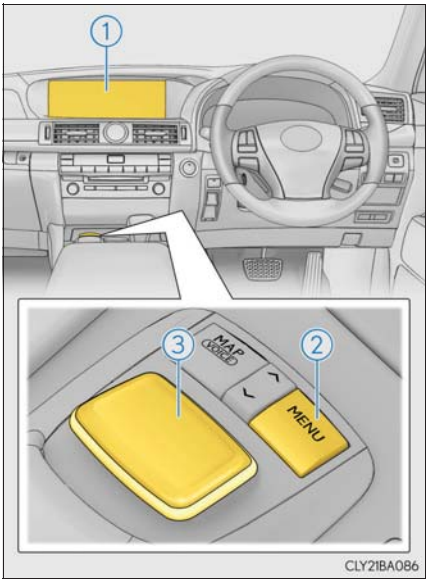
■**ディスプレイの設定を変更するとき**

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

燃費画面／ Harmonious Driving Navi. 画面

燃費に関する情報をナビゲーション画面に表示します。（→ P. 292）
燃費画面は、サイド画面にも表示することができます。（→ P. 94）

① ナビゲーション画面
② MENU ボタン
③ リモートタッチノブ



燃費画面の見方

1 リモートタッチの MENU ボタンを押し、を選択する

2 情報画面の「燃費」を選択する

■ 毎分燃費の見方

区間燃費画面が表示されたときは、「毎分燃費」を選択します。

① 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費（平均燃費）

② 瞬間燃費

③ 履歴消去

④ エンジン始動後平均車速

⑤ エンジン始動後走行時間

⑥ 航続可能距離（→ P. 94）

平均燃費はエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 区間燃費の見方

毎分燃費画面が表示されたときは、「区間燃費」を選択します。

① 最高燃費表示

② 平均燃費表示

③ 過去平均燃費表示

④ 履歴消去

⑤ 平均燃費更新

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

Harmonious Driving Navi. 画面の見方

1 リモートタッチの MENU ボタンを押し、 を選択する

2 情報画面の「Driving Navi」を選択する

① ステータス／ポイント獲得率表示※1

エコ運転の採点結果や走行情報を G-Link センターに送信し、計算されたデータをもとにポイントやステータスを表示します。
ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

② エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

③ エコレベルメーター

ECO ランプの点灯を継続させることなどでメーターが増加します。

④ エコレベル平均値

エコレベルメーターの平均値を表示します。

⑤ 毎分燃費（前回エンジン始動～エンジン停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑥ 毎分燃費（今回エンジン始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

⑦ 更新スイッチ※ 2

走行情報などを G-Link センターへ送信し、ステータス／ポイント獲得率表示を更新します。

⑧ エコカルテスイッチ※ 2

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO^2 排出量・平均燃費・ポイント獲得率・エコ運転スコアが表示されます。

⑨ アドバイススイッチ

・ ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。
・ エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※ 1 G-Link サービスをご利用されているときに表示されます。
G-Link の利用手続き・利用開始操作については別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

※ 2 G-Link サービスをご利用されているときに使用することができます。
また、ナビゲーション画面に通信設定に関するメッセージが表示された場合は、メッセージに従って設定してください。
G-Link の利用手続き・利用開始操作については別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

区間燃費画面で「更新」を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■G-Link センターへ送信する走行情報について

G-Link センターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費等とは一致しないことがあります。

■Harmonious Driving Navi. 画面について

パソコンや携帯電話のユーザーサイトでもステータスなどをみることができます。

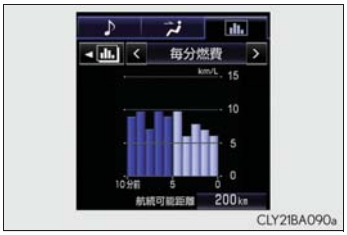
■サイド画面について

各車両情報画面はサイド画面にも表示することができます。(→ P. 295)

< または > を選択して画面表示を切りかえます。

●毎分燃費

過去 10 分間の 1 分ごとの平均燃費・航続可能距離を表示します。



CLY21BA090a

●区間燃費

平均燃費・最高燃費を表示します。

CLY21BA091a

●Trip Information

航続可能距離・平均燃費・始動後走行時間を表示します。

●Harmonious Driving Navi.

現在のエコ運転の状況を表示します。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

各部の操作 3

3-1. キー

キー.....98

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

スマートエントリー＆
スタートシステム 104

ワイヤレスリモコン.....115

ドア.....117

トランク 122

3-3. シートの調整

フロントシート 129

パワーリヤシート 136

ポジションメモリー／
メモリーコール機能.....147

リヤシートポジション
メモリー 152

ヘッドレスト 154

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 158

インナーミラー 159

ドアミラー 161

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

パワーウインドウ 164

ムーンルーフ 167

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

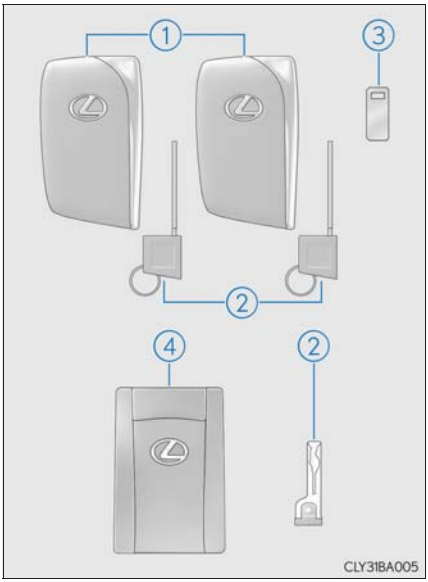
① 電子キー
- スマートエントリー＆スタートシステムの作動 （→ P. 104）
- ワイヤレス機能の作動 （→ P. 115）

② メカニカルキー

③ キーナンバープレート

④ カードキー

スマートエントリー＆スタートシステムの作動 （→ P. 104）



メカニカルキーを使うには

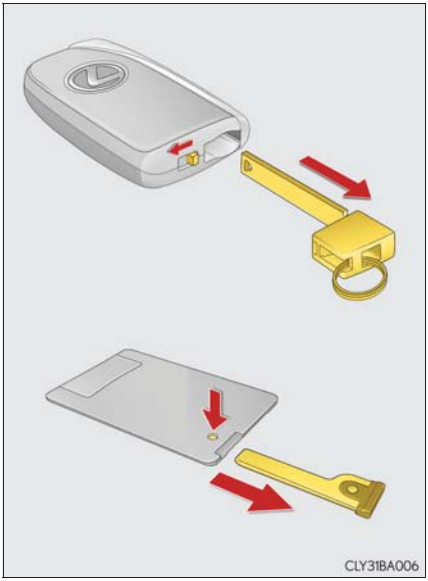
メカニカルキーを取り出すには、次の操作を行ってください。

電子キー：解錠レバーをスライドしてキーを取り出す

カードキー：解除ボタンを押してキーを取り出す

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→ P. 468）



知識

■電子キーについて

●電子キーは一部本革を使用しています。お手入れについてはP. 378を参照してください。

●金属部分をお手入れする際は、真水をひたした布を固くしぼり、表面の汚れをふき取ってください。

●長期間使用しないときは、汚れを落としてから、直射日光や室内灯などの光が当たらない常温・常湿の場所に保管してください。

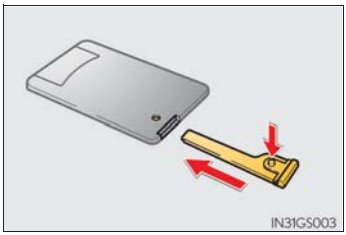
■カードキーについて

●カードキーは非防水です。

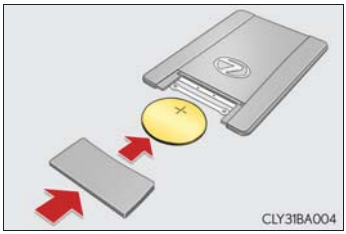
●カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。

●メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。

●メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



●電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



■駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてトランクオープナーメインスイッチをOFFにして、グローブボックス・トランクスルードア★を施錠します。（→ P. 123, 329, 368）
メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■メカニカルキーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●湿度の高いところに長時間放置しない

●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

●分解しない

●電子キー表面にシールなどを貼らない

●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■電子キー取り扱いの注意

●本革部分の劣化・変形・損傷をさけるために、次のことをお守りください。
・他の鍵やアクセサリーなどの硬いものと同時に携帯しない
・直射日光や室内灯に長時間さらさないようにする
・ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものの上に置かない
高温になると革が張り付くおそれがあります。
・ぬらさない
万一ぬれてしまったときは、やわらかい布でふき取り陰干ししてください。
・油脂や薬品・ハンドクリーム・香水が付着した手でさわらない
・お手入れの際、皮革クリーナー・溶剤・皮革補修剤を使用しない

●本革部分は染色してあるため、汗や水分が付着していると衣類へ色移りするおそれがあります。

●電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

注意

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

■カードキーの取り扱いについて

●メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

●電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。
水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。

●電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。

●電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。

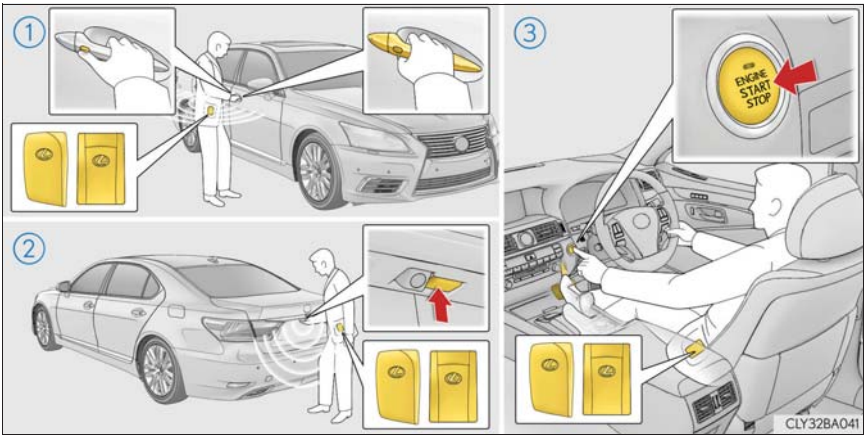
●電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。

●次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
・小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
・シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
・シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

スマートエントリー＆スタートシステム

機能概要

電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。（必ず運転者が携帯してください）



① ドアを解錠・施錠する　（→ P. 105）

② トランクを開ける　（→ P. 105）

③ エンジンを始動する（→ P. 181）

知識

■作動の合図

ドア：
ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

トランク：
ブザーで知らせます。

ドアガラス・ムーンルーフ★：
ブザーで知らせます。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

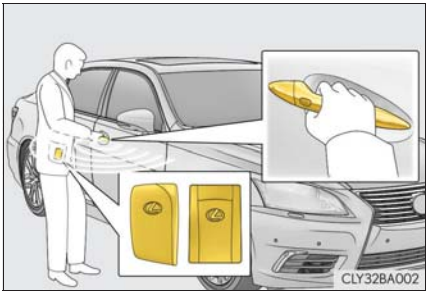
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアの解錠・施錠

ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

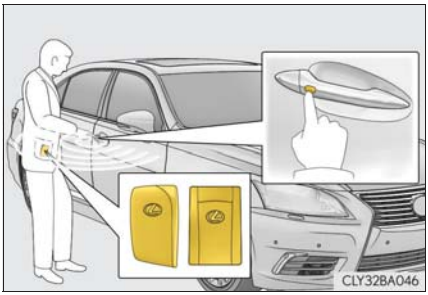
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。



ロックスイッチを押して施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

長押しするとドアガラスが閉まります。ムーンルーフ装着車は、ムーンルーフも閉まります。



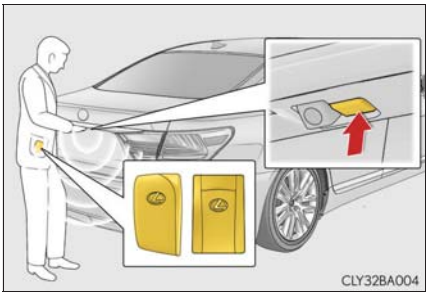
トランクを開ける

スイッチを押す

パワートランクリッド装着車の場合は自動で全開します。

次のいずれかの方法ですべてのドアを解錠したときは、電子キーを携帯しなくてもトランクを開けることができます。

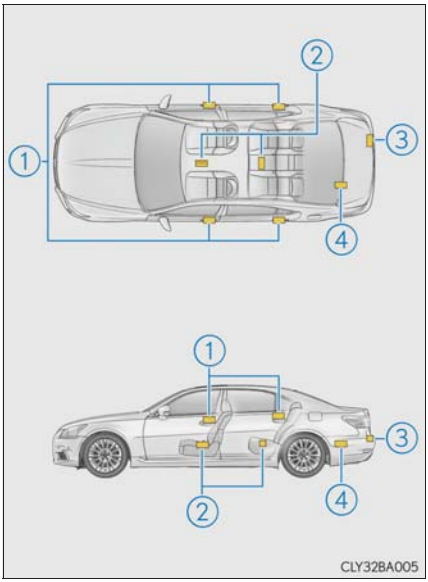
- スマートエントリー＆スタートシステム
- ワイヤレス機能
- ドアロックスイッチ
- メカニカルキー
- オートドアアンロック機能



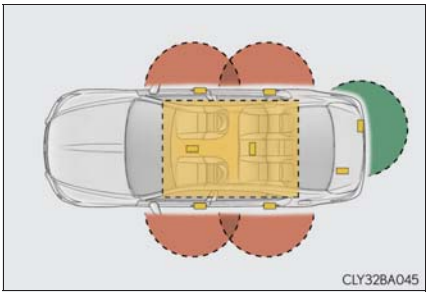
アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

① 車外アンテナ
② 車内アンテナ
③ トランク外アンテナ
④ トランク内アンテナ



■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



:ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

:トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約70cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

:エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。次の対処方法にしたがい適切に対処してください。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 2 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出した後、再度施錠してください。
	全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出した後、トランクを閉じてください。
車外から“ピー”と 60 秒間鳴る	エンジンスイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	エンジンスイッチを OFF にした後、再度施錠してください。
車外から“ピー”と 5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めた後、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリーモードにした（アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチを OFF にした後、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。
車内から “ピー”と鳴り続ける※1	エンジンスイッチがイグニッションONまたはアクセサリーモードのとき、シフトレバーを P 以外の位置にしたままドアを開けて外に出ようとした	シフトレバーを P に入れ、エンジンスイッチを OFF にしてください。

警告音	状況	対処方法
車内・車外から“ピー”と鳴り続ける※1	エンジンスイッチがイグニッションONまたはアクセサリーモードのとき、シフトレバーを P 以外の位置にしたまま電子キーを持ち出して運転席ドアを閉めた	シフトレバーを P に入れ、エンジンスイッチを OFF にした後、運転席ドアを閉めてください。
車内から “ポーン”と1回鳴る※1	電子キーの電池が残り少ない	電子キーの電池を交換してください。
	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯してエンジンをかけてください。※2
車内から “ポーン”と1回鳴る 車外から “ピー、ピー、ピー”と3回鳴る※1	エンジンスイッチを OFF にせずに電子キーを外に持ち出して運転席ドアを閉めた	エンジンスイッチを OFF にした後、再度運転席ドアを閉めてください。
	エンジンスイッチが OFF になっていないときに、同乗者が電子キーを持ち出してドアを閉めた	キーを車内に戻してください。

※1 メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

※2 電子キーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れているか電波の状況が悪い可能性があります。（→ P. 110）

■解錠ドアの切りかえ機能

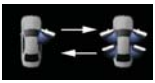
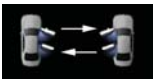
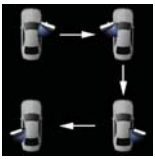
ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 オートアラームの侵入センサーを停止する
（操作中のオートアラーム誤作動防止：→ P. 70）

3 🔒 ボタンと同時に、🔓 または 🚗 のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（3 回） 車内：“ポーン”（1 回）
	握ったドアハンドル側の前後席を解錠	車外：“ピピッ”（4 回） 車内：“ポーン”（1 回）
	握ったドアハンドルのドアのみ解錠	車外：“ピピッ”（1 回） 車内：“ポーン”（1 回）
	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（2 回） 車内：“ポーン”（1 回）

オートアラームの誤作動防止のため、設定切りかえ後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。（🔓 ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→ P. 67）

■節電機能

電子キーの電池と車のバッテリー保護のため、次の状況ではスマートエントリー＆スタートシステムを停止します。

●１ヶ月以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した

次のいずれかをおこなうと、スマートエントリー＆スタートシステムが復帰します。

●電子キーを携帯し、ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する

●ワイヤレスリモコンで施錠・解錠する（→ P. 115）

●メカニカルキーで施錠・解錠する（→ P. 468）

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→ P. 468）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●複数の電子キーが近くにあるとき

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・トランクを開けるときに電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎた場合
・エンジン始動時またはエンジンスイッチの切りかえ時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では、解錠できません。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。

●洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、電子キーが作動範囲内にある場合ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。）

●手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。

●車に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠をおこなうと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンを使って解錠すると復帰します。）

●急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置に戻し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■長期間運転しないとき

盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

■オートアラームについて

スマートエントリー＆スタートシステムで施錠するとオートアラームが設定されます。（→ P. 67）

■システムを正しく作動させるために

●電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。：→ P. 107）

●トランク内に電子キーを置かないでください。
電子キーの場所（スペアタイヤ★付近、トランク内側の端）、状況（金属製のかばんの中、金属製のものの付近など）、または周囲の電波環境によっては、キー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。（→ P. 124）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドア・トランクの施錠・解錠：→ P. 468

●エンジンの始動：→ P. 469

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。（カードキーは 1 年半程度で消耗します）

●電池残量が少なくなると、エンジンを始動または停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→ P. 107）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しなかったり作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→ P. 402）

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを保管しないでください。
・ TV
・ パソコン
・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・ 電気スタンド
・ 電磁調理器

■電池が切れたとき

→ P. 402

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 489）

警告

■電波がおよぼす影響について

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→ P. 106）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

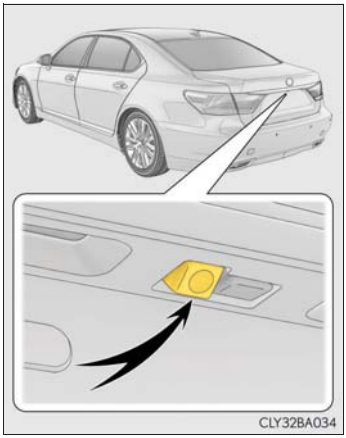
■スマートエントリー＆スタートシステムを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、スマートエントリー＆スタートシステムによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

注意

■ **トランクを開けるとき**

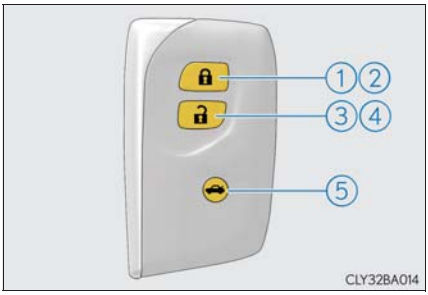
誤ってバックガイドモニターのカメラを押さないでください。
強い衝撃を与えると、カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。



ワイヤレスリモコン

機能概要

ドアを施錠・解錠、トランクを解錠できます。



① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② ドアガラスとムーンルーフ★を閉める（押し続ける）※

③ 全ドアを解錠する

④ ドアガラスとムーンルーフ★を開く（押し続ける）※

⑤ トランクを開ける（押し続ける）

パワートランクリッド装着車の場合は自動で全開します。

※ カスタマイズ機能での設定変更が必要です。（→ P. 489）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動の合図

ドア：
ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

トランク：
ブザーで知らせます。

ドアガラス・ムーンルーフ★：
ブザーで知らせます。

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■解錠操作のセキュリティ機能

→ P. 104

■オートアラームについて

ワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。（→ P. 67）

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→ P. 110

■ワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

ドア・トランクの施錠・解錠：→ P. 468

■電池の消耗について

→ P. 112

■電池が切れたとき

→ P. 402

■カスタマイズ機能

トランク解錠操作の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 489）

警告

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドア

ドアの解錠／施錠

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

◆ スマートエントリー＆スタートシステム

→ P. 104

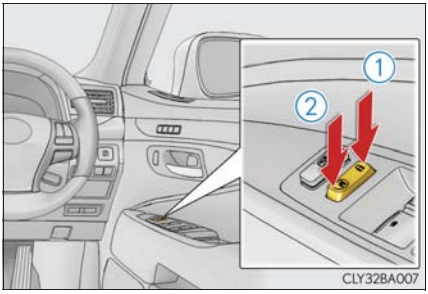
◆ ワイヤレス機能

→ P. 115

◆ ドアロックスイッチ

① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する

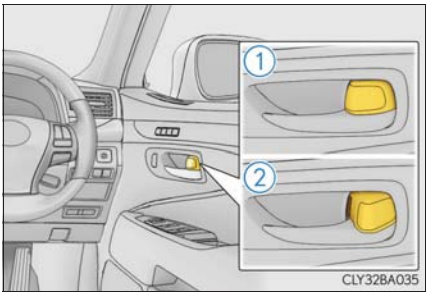


◆ ロックレバー

① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。



キーを使わずに外側からフロント席を施錠するとき

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める
エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションONモードのときや、車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

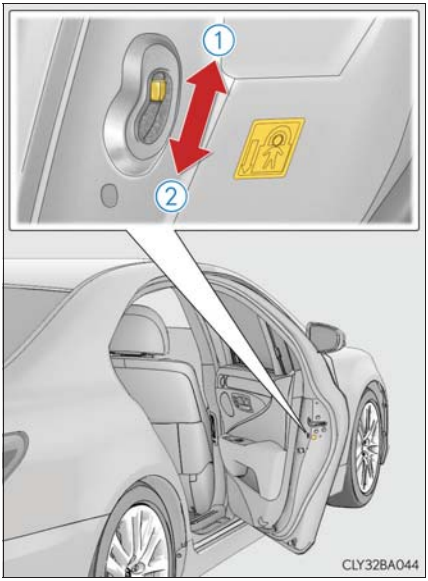
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P. 489 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジン回転中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチを OFF にしてから 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

知識

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。
衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■イージークローザー

ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。

- ●エンジンスイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。
- ●車内のドアレバーや車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーは作動しません。
- ●イージークローザーが作動中でも、車内のドアレバーや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く。）
- ●イージークローザーでドアが閉まったあと数秒間モーター音が聞こえますが、異常ではありません。

■メカニカルキーでの施錠・解錠

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 468）

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 489）

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

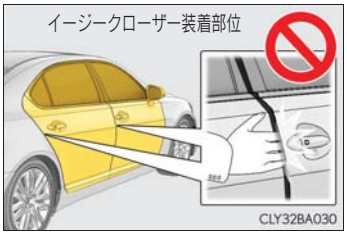
- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアレバーを引かない
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■イージークローザーについて

- ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。指などを挟まないよう十分注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 半ドア状態からイージークローザーが作動するまでに数秒かかります。指などをドアのあいだに挟まないでください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側になっているドアは、イージークローザーの作動を停止できないため、特にご注意ください。



注意

■イージークローザーの故障を防ぐために

ひんぱんにドアの開閉を繰り返したり、イージークローザーの作動中にドアに無理な力をかけたりしないでください。

トランク

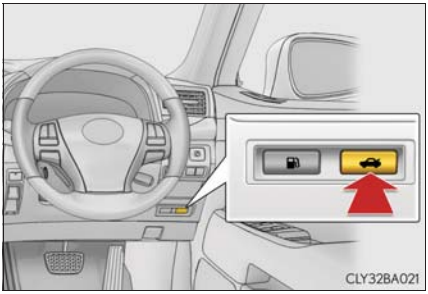
トランクオープナーやスマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

パワートランクリッド装着車は、トランククローザーで閉めることもできます。

車内からトランクを開ける

トランクオープナースイッチを押す

パワートランクリッド装着車の場合は自動で全開します。



車外からトランクを開ける

■ スマートエントリー＆スタートシステム

→ P. 104

■ ワイヤレスリモコン

→ P. 115

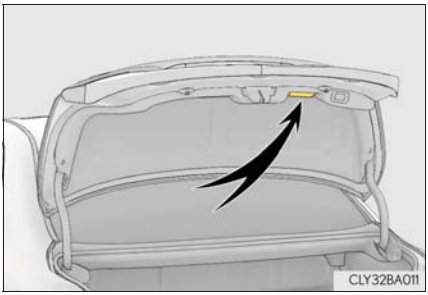
トランククローザー（パワートランクリッド装着車）

スイッチを押すとブザーが鳴り、トランクが自動で閉まります。

トランクが閉まる途中でスイッチを押すと、トランクは再び開きます。

トランクを閉めるときは

トランクグリップを持って、横方向に力をかけないようにトランクを引き下げ、外から押して閉めてください。



トランクオープナーを一時的に無効にする

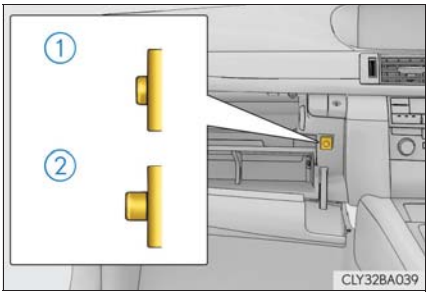
トランクに積んだ荷物の盗難防止などのために、トランクオープナースイッチを一時的に無効にすることができます。

グローブボックス内のメインスイッチを OFF にする

① ON

② OFF

ワイヤレスリモコン・スマートエントリー＆スタートシステムでもトランクを開けられなくなります。



知識

■ **トランクリッドランプ／トランクランプ**

トランクを開けたとき、トランクリッドランプ／トランクランプが点灯します。

■ **イージークローザー**

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で閉まります。

●エンジンスイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。

●イージークローザーが作動しないときには、いったんトランクを半分以上開けてから、再度閉めてください。

■ **トランク内キー閉じ込み防止機能について（すべてのドアが施錠されている場合）**

トランク内に電子キーを置いたままトランクリッドを閉めると、警告音が鳴ります。この場合はトランクリッドの解除スイッチで開けられます。

■ **過負荷防止機構（パワートランクリッド装着車）**

トランクリッドの上に無理な力がかかっていると作動しません。

■ **落下防止機構（パワートランクリッド装着車）**

トランクリッドが自動で開くときに無理な力がかかると、トランクリッドが急激に落下しないようにブレーキをかけます。

■ **挟み込み防止機構（パワートランクリッド装着車）**

トランクが閉まる途中でトランクリッドが異物を挟むと、作動が停止して開きます。

■ **メカニカルキーについて**

トランクはメカニカルキーを使用して開けることもできます。（→ P. 469）

■ **駐車場などでキーを預けるときは**

→ P. 100

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にトランクが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

トランク内には絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

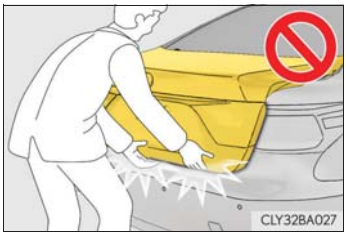
警告

■**トランクの使用にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。

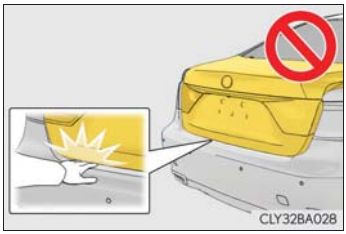
- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。



- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

■**イージークローザーについて**

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き完全に自動で閉まります。
また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをトランクのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



警告

■**パワートランクリッドについて（パワートランクリッド装着車）**

パワートランクリッドの操作時は、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●周囲の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●トランクリッドが自動で開いている途中でパワートランクリッドスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。

●傾斜した場所では、自動で開いたあとにトランクリッドが突然閉じる場合があります。トランクは必ず全開で静止していることを確認して使用してください。

●次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切りかわり、急にトランクリッドが閉じるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
・自動作動中、障害物に干渉したとき
・エンジン停止時でパワートランクリッドが自動作動しているときに、エンジンスイッチをイグニッションONモードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

●トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。自動で作動できずにパワートランクリッドが故障したり、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

■**挟み込み防止機能**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、トランクが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

注意

■イージークローザーの故障を防ぐために

イージークローザーの作動中は、トランクに無理な力をかけないでください。

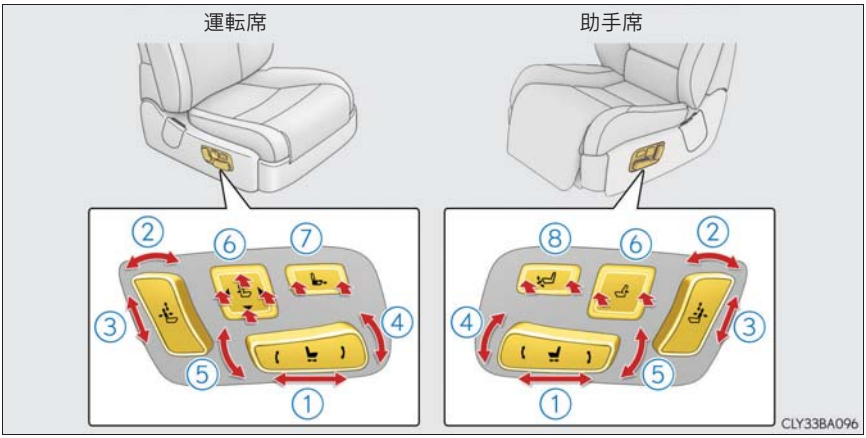
■パワートランクリッドの故障を防ぐために（パワートランクリッド装着車）

●パワートランクリッドを作動させる前に、トランクリッドの上に雪や荷物などが乗っていないことを確認してください。また、凍結によるトランクの貼り付きがないことを確認してください。トランクリッドに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

●パワートランクリッドの作動中は、トランクリッドに無理な力をかけないでください。

フロントシート

調整のしかた



① 前後位置調整

運転席はシートの動きに合わせてヘッドレストの高さも自動で上下します。

② リクライニング調整

③ ヘッドレストの上下調整（→ P. 154）

④ クッション前端の上下調整

⑤ シート全体の上下調整

⑥ 腰部位置調整（ランバー／ペルビックサポート）

運転席：硬さ・前後・上下の調整
助手席：硬さと前後調整★

⑦ クッションの長さ調整★

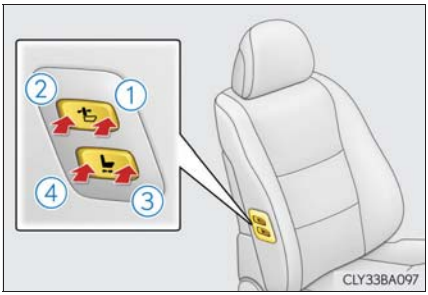
⑧ オットマン角度調整★

オットマンを上げたまま前方へ位置調整を行うとオットマンが下に作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

運転席からの助手席操作について

▶ パワーリヤシート非装着車



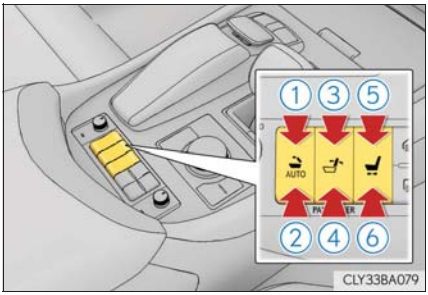
① シートバックを前に傾ける

② シートバックをうしろに傾ける

③ シートを前方に動かす

④ シートを後方に動かす

▶ パワーリヤシート装着車



① シートバックを前に傾け、シートを前方に動かす

② シートバックをうしろに傾け、シートを後方に動かす

リヤシートが中立位置でない場合、一度スイッチを押すとリヤシートが中立位置に戻ります。もう一度スイッチを押すと助手席が中立位置に戻ります。

③ シートバックを前に傾ける

④ シートバックをうしろに傾ける

⑤ シートを前方に動かす

⑥ シートを後方に動かす

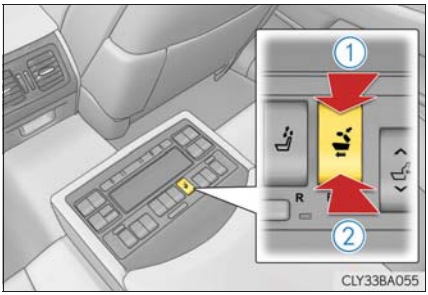
リヤ席からの助手席操作について（リラクゼーションシート非装着車）★

① 助手席を前へ移動

前端位置で作動が止まると、ブザーが鳴ります。

② 助手席をうしろへ移動

ヘッドレストが前倒しになっているときは、ヘッドレストがもとに戻り背もたれが中立位置まで戻ります。



リヤ席からの助手席操作について（リラクゼーションシート装着車）

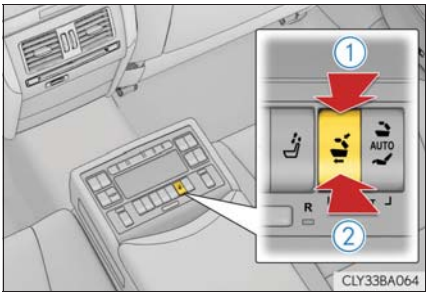
▶ 5 人乗り

① 助手席を前へ移動

前端位置で作動が止まると、ブザーが鳴ります。

② 助手席をうしろへ移動

ヘッドレストが前倒しになっているときは、ヘッドレストがもとに戻り背もたれが中立位置まで戻ります。



▶ 4 人乗り

① 助手席を前へ移動

前端位置で作動が止まると、ブザーが鳴ります。

② 助手席をうしろへ移動

ヘッドレストが前倒しになっているときは、ヘッドレストがもとに戻り背もたれが中立位置まで戻ります。

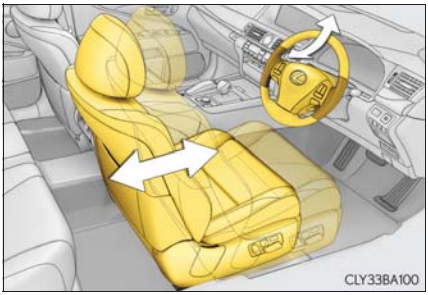
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーイージーアクセスシステム

乗降時に運転者・助手席乗員が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

■ 運転席

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。
・シフトレバーを P に入れる
・エンジンスイッチを OFF にする
・シートベルトをはずす



次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。
・エンジンスイッチをアクセサリーモードにする
・シートベルトを着用する

■ 助手席

腰部位置（ランバー／ペルビックサポート）★やオットマン★などが調整されていた場合、停車中に助手席ドアを開けると、調整前の状態にもどります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■可倒式ヘッドレスト★の作動について

●エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき、助手席側面または、センターコンソール上のシートリクライニングスイッチの操作にあわせてヘッドレストが次のように作動します。
・前方へリクライニング時：
リクライニング作動後、ヘッドレストが上昇したのち前倒しになり、作動が完了するとブザーが鳴ります。作動の途中でスイッチから手をはなすと、ヘッドレストは中立位置に戻ります。
・後方へリクライニング時：
ヘッドレストが前倒しになっていると、中立位置まで戻ります。

●次の場合、シートリクライニングスイッチを操作してもヘッドレストは作動しません。
・エンジンスイッチが OFF のとき
・助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知しているとき
・助手席シートベルトがバックルに留められているとき
・助手席ドアが開いているとき

■リヤ席からの助手席操作について

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき使用できます。ただし次の場合は、スイッチを操作しても助手席が作動しません。

●助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき

●助手席シートベルトがバックルに留められているとき

●助手席ドアが開いているときの前方への作動

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■運転席クッション長さの自動調整★

運転席を前方に調整しているとき、インストルメントパネル周辺にクッションの先端が接触しそうになると、自動的にクッションが短くなるよう調整します。

■シート作動の自動停止（リラクゼーションシート装着車）

シート操作時やパワーイージーアクセスシステム作動時に、フロントシートがテーブル（4 人乗り）またはオットマンと接触しそうになると、ブザーが鳴り、シートの作動が止まります。
（マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。）

■パワーイージーアクセスシステムの作動について

●降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイージーアクセスシステムを作動しない場合があります。

●パワーイージーアクセスシステム作動中にシート位置を調整すると、作動が停止します。

●降車時、パワーイージーアクセスシステム作動中または作動後にシート位置を調整すると、乗車時にパワーイージーアクセスシステムは作動しません。

■カスタマイズ機能

パワーイージーアクセスシステムによるシート移動量を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 489）

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席またはリヤ席からの助手席操作について

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中やヘッドレストが前倒しになっているときは、助手席に座らないでください。
足や頭を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**前後調整や助手席オットマン★の操作をするとき**

足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■**助手席オットマンの使用について（助手席オットマン装着車）**

●走行中は角度調整をしないでください。
急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●助手席オットマン部分に座らないでください。
シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●助手席オットマンの上には絶対に乗らないでください。
助手席オットマンが破損し、転倒などして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗り降りする際は助手席オットマンを格納してください。

●格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

注意

■**運転席またはリヤ席からの助手席操作について**

操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

■**助手席オットマンの故障を防ぐために（助手席オットマン装着車）**

●足元のスペースを確保し助手席オットマンの作動を妨げないようにしてください。

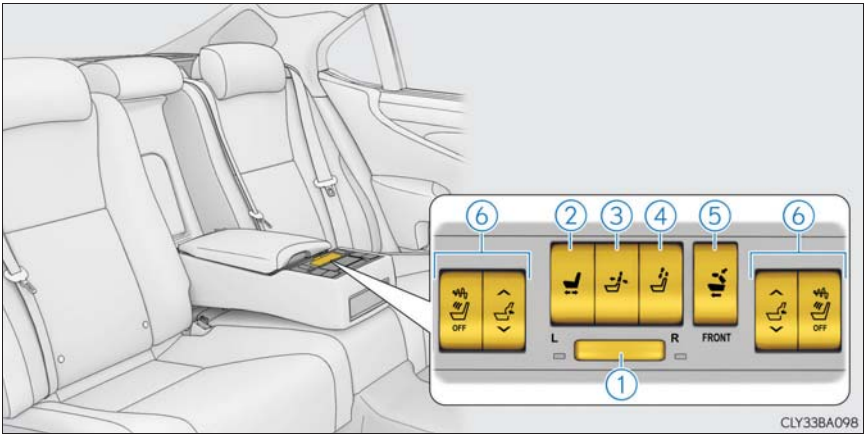
●助手席オットマン部分に重いものを乗せないでください。

●助手席オットマンを上げているときに、下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーリヤシート★

▶ 5 人乗り（リラクゼーションシート非装着車）



① シート選択

調整できるシートのインジケーターが点灯します。

② 前後位置調整

③ 背もたれ上部角度調整

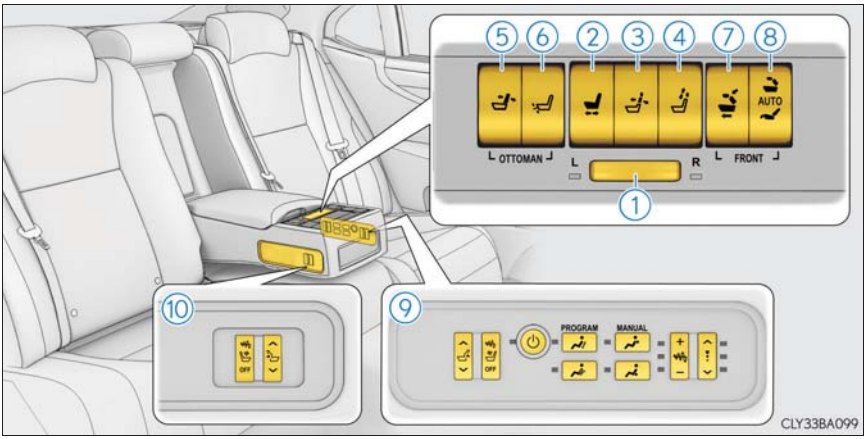
④ ヘッドレスト高さ調整（→ P. 154）

⑤ 助手席コントロールスイッチ（→ P. 131）

⑥ ペルビックサポートシートスイッチ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 5 人乗り（リラクゼーションシート装着車）



リヤ左席（助手席うしろ側の席）には、リクライニング機能とオットマン（フットレスト）を備えたリラクゼーションシートが装備されています。

① シート選択

調整できるシートのインジケーターが点灯します。

② 前後位置調整

③ 背もたれ上部角度調整

④ ヘッドレスト高さ調整（→ P. 154）

⑤ リクライニング調整

⑥ オットマン（フットレスト）角度調整

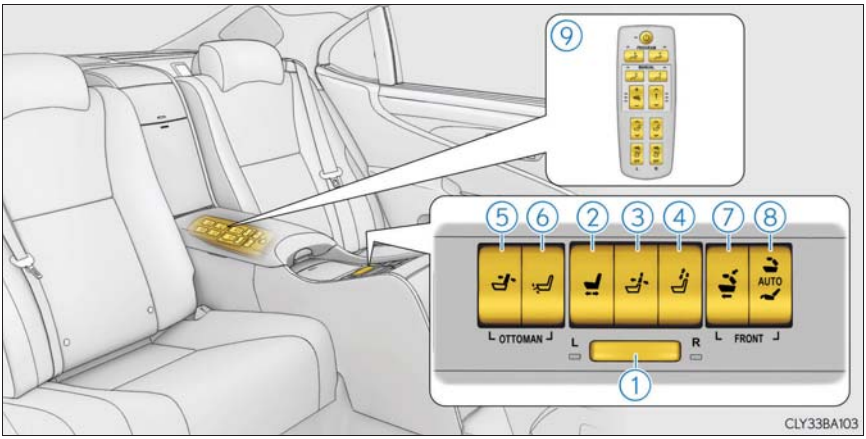
⑦ 助手席コントロールスイッチ（→ P. 131）

⑧ リラクゼーションモードスイッチ

⑨ リヤシートリラクゼーションシステム/ペルビックサポートシートスイッチ

⑩ ペルビックサポートシートスイッチ

▶ 4 人乗り



リヤ左席（助手席うしろ側の席）には、リクライニング機能とオットマン（フットレスト）を備えたリラクゼーションシートが装備されています。

① シート選択

調整できるシートのインジケーターが点灯します。

② 前後位置調整

③ 背もたれ上部角度調整

④ ヘッドレスト高さ調整（→ P. 154）

⑤ リクライニング調整

⑥ オットマン（フットレスト）角度調整

⑦ 助手席コントロールスイッチ（→ P. 131）

⑧ リラクゼーションモードスイッチ

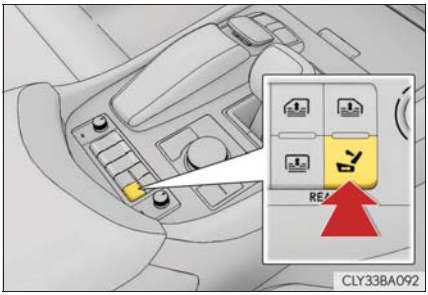
⑨ リヤシートリラクゼーションシステム/ペルビックサポートシートリモコン

ドア連動シートリターン機能

ドアを開けると自動的にシートが中立位置に戻り、乗り降りしやすくなります。

フロント席からリヤシートを戻す

ボタンを押しているあいだ、リヤシートが中立位置へ戻ります。



リラクゼーションモード（リラクゼーションシート装着車）

スイッチ操作で、シートをリラクゼーションモードにすることができます。助手席が前へ移動し、リヤ左席の背もたれとオットマンが同時に作動します。

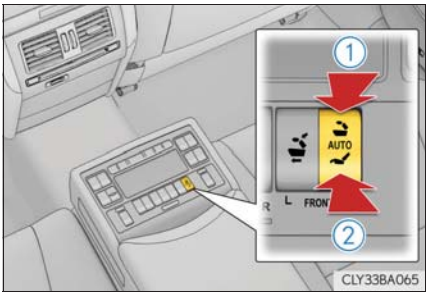
▶ 5 人乗り

スイッチを押すとブザーが鳴り、作動を開始します。

① リラクゼーションモードにする

② 中立位置に戻す

途中で止めるには、もう一度スイッチのどちらかを押すか、ほかのシート操作スイッチを押してください。



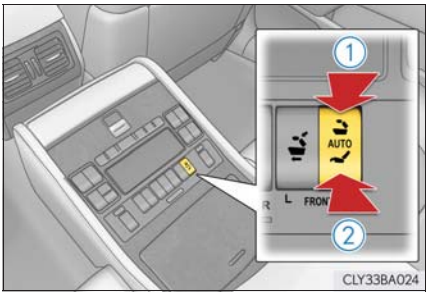
▶ 4 人乗り

スイッチを押すとブザーが鳴り、作動を開始します。

① リラクゼーションモードにする

② 中立位置に戻す

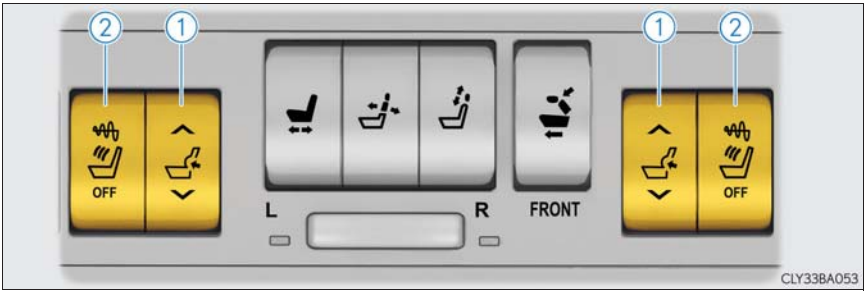
途中で止めるには、もう一度スイッチのどちらかを押すか、ほかのシート操作スイッチを押してください。



ペルビックサポートシート（シートバイブレーター付）

腰部のサポート機能にバイブレーターを備えたペルビックサポートシート（シートバイブレーター付）が左右席に装備されています。腰位置に内蔵されたサポートプレートの前後位置とバイブレーターの速度をお好みにより調整することができます。

▶ 5 人乗り（リラクゼーションシート非装着車）

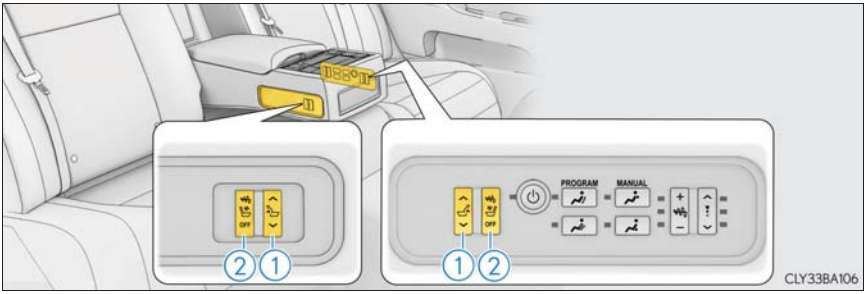


① 前後調整スイッチ

② バイブレータースイッチ

を押すと前回使用していた速度で作動を開始します。を押すごとに、バイブレーターの速度を 3 段階で調整することができます。
OFF を押すとバイブレーターが停止します。

▶ 5 人乗り（リラクゼーションシート装着車）



① 前後位置調整スイッチ

② バイブレータースイッチ

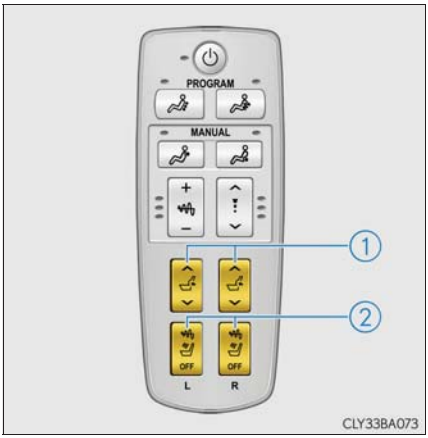
を押すと前回使用していた速度で作動を開始します。を押すごとに、バイブレーターの速度を 3 段階で調整することができます。
OFF を押すとバイブレーターが停止します。

▶ 4 人乗り

① 前後位置調整スイッチ

② バイブレータースイッチ

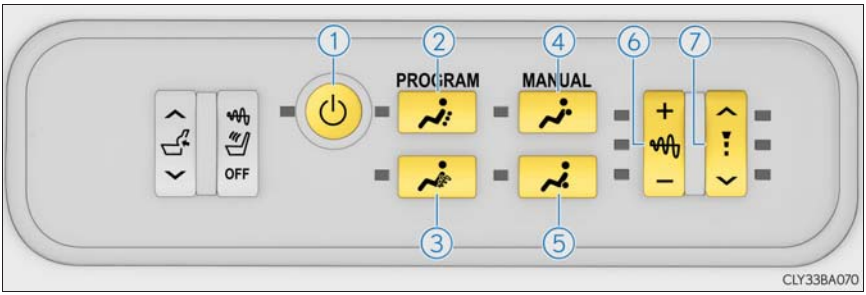
を押すと前回使用していた速度で作動を開始します。を押すごとに、バイブレーターの速度を 3 段階で調整することができます。
OFF を押すとバイブレーターが停止します。



リヤシートリラクゼーションシステム （リラクゼーションシート装着車）

エアーの作動による押圧機能を備えたリラクゼーションシステムが左席（助手席うしろ側の席）に装備されています。作動の強さ、速度をお好みにより調整することができます。

▶ 5 人乗り



① システムの ON/OFF、各作動の停止

約 3 分間作動ボタンが選択されなかった場合、自動的にシステムが OFF になります。

② リフレッシュの自動コースを開始

背中全体へ部分的に作動します。

③ ストレッチの自動コースを開始

腰部中心に作動をします。

④ 肩部の作動を開始

⑤ 腰部の作動を開始

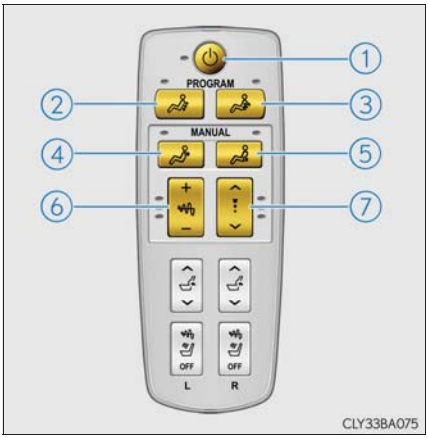
⑥ 作動の強さ調整

3 段階で調整することができます。

⑦ 作動の速度調整

3 段階で調整することができます。

▶ 4 人乗り



① システムのON/OFF、各作動の停止

約 3 分間作動ボタンが選択されなかった場合、自動的にシステムが OFF になります。

② リフレッシュの自動コースを開始

背中全体へ部分的に作動します。

③ ストレッチの自動コースを開始

腰部中心に作動をします。

④ 肩部の作動を開始

⑤ 腰部の作動を開始

⑥ 作動の強さ調整

3 段階で調整することができます。

⑦ 作動の速度調整

3 段階で調整することができます。

知識

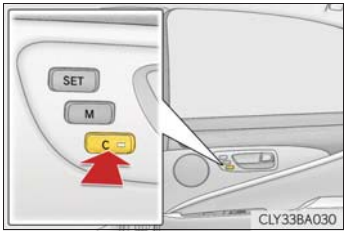
■ドア連動シートリターン機能について

●作動条件
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

●作動の停止
次のいずれかの操作でシートのリターン作動が途中で止まります。
・ SET・M・C ボタンのいずれかを押す（→ P. 152）
・ シート調整スイッチのいずれかを押す

●機能のキャンセル

C ボタンを押すとドア連動シートリターン機能がキャンセルされます。
キャンセル中はインジケーターが点灯します。ドアを連動させるにはもう一度 C ボタンを押します。



●エンジンスイッチ OFF 後の作動
エンジンスイッチを OFF にしたあと約 45 秒間は、ドア連動シートリターン機能が作動します。

■リラクゼーションモードについて（リラクゼーションシート装着車）

●作動条件
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき使用できます。ただし次の場合は、スイッチを押しても作動しません。
・ 助手席に乗員がいるときや重い荷物を載せているときなど、シートが重量を検知したとき
・ 助手席シートベルトがバックルに留められているとき
・ 助手席ドアが開いているときの前方への作動

●エンジンスイッチ OFF 後の作動
エンジンスイッチを OFF にしたあと約 45 秒間は、リターン操作でリヤシートを中立位置に戻すことができます。

■ペルビックサポートシート（シートバイブレーター付）について

●作動条件
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

●自動停止機能
・バイブレーターの作動は、開始から約 15 分で自動的に停止します。
・バイブレーターは、使用している方のドアを開けると、自動的に停止します。

●リターン機能
サポートプレートは、使用している方のドアを開けると、自動的にもとの位置に戻ります。

■リヤシートリラクゼーションシステムについて

●作動条件
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

●自動停止機能
各作動は、開始から約 15 分で自動的に停止します。

警告

■パワーシートについて

●シート調整について
背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●前後調整やオットマンの操作をするときは（リラクゼーションシート装着車）
足元のスペースを確保し、足をフロント席に挟まないように注意してください。

●フロント席からリヤシートを戻すとき
リヤ席の乗員が車を降りてから操作してください。

●オットマンの使用について（リラクゼーションシート装着車）
・オットマン部分には座らないでください。
シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗り降りする際はオットマンを格納してください。
・走行中は角度調整をしないでください。
・格納するときにシートの下に手や足を入れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

■ペルビックサポートシート（シートバイブレーター付）/ リヤシートリラクゼーションシステムのご使用について

●妊娠中のかた、出産直後のかた、静養を要する疾患（心臓疾患）のあるかたは、使用する前に必ず医師に相談してください。

●お子さまは使用しないでください。

●食後や飲酒後、または長時間の使用は避けてください。

●使用中に気分が悪くなった場合は、ただちに使用を止めてください。

注意

■オットマンの故障を防ぐために（リラクゼーションシート装着車）

●足元のスペースを確保し、オットマンの作動をさまたげないようにしてください。

●オットマン部分に重いものを載せないでください。

●オットマンを上げているときに下にものを置かないでください。格納時にものを挟み破損するおそれがあります。

ポジションメモリー／メモリーコール機能

自動でシート・ハンドル・ドアミラー・シートベルトの高さを動かし、お好みのドライビングポジションに調整します。

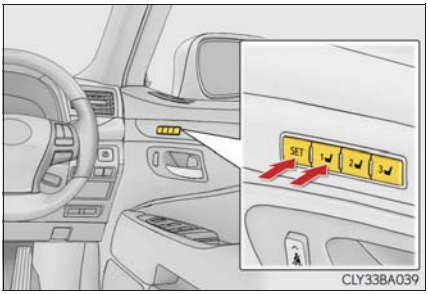
ポジションメモリー

お好みのドライビングポジション（シートの位置・ハンドルの位置・ドアミラーの角度・シートベルトの高さ）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。ドライビングポジションは、3 パターンまで登録できます。

■ 登録方法

1. シフトレバーが P の位置にあることを確認する
2. エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
3. 運転席・ハンドル・ドアミラー角度・シートベルトの高さをお好みの位置に調整する
4. SET スイッチを押したあと 3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいスイッチをブザーが鳴るまで押す

   すでに同じスイッチに登録されている場合は、上書きされます。



助手席側★を登録するときは、助手席をお好みの位置に調整し、助手席側のスイッチで手順 4 の操作を行うと、助手席のシート位置が登録できます。

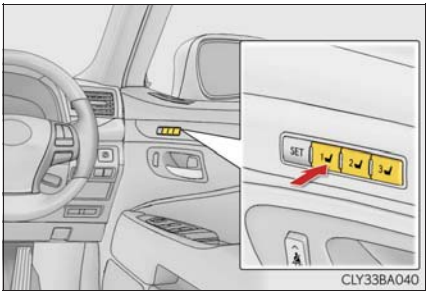
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 呼び出し方法

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

3 1 ～ 3 のうち呼び出したいスイッチをブザーが鳴るまで押す



知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

●SET スイッチを押す

●1 ～ 3 のスイッチを押す

●シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）

●ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

●シートベルト高さ調整スイッチを操作する（シートベルトのみ作動停止）

■助手席のポジションを呼び出すときの作動制限

助手席オットマン装着車：
助手席オットマンは、上方向には作動しません。呼び出すときの位置より下に登録されている場合のみ作動します。

リラクゼーションシート装着車：
後席用テーブル使用時（4 人乗り）または、オットマン作動時はポジションの呼び出しができません。

■助手席オットマン★の自動調整

ポジションの呼び出し時、インストルメントパネル周辺にクッションの先端が接触しそうになると、自動で助手席オットマンが格納されるよう調整します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

運転席側：
運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのスイッチを押すと、ドライビングポジション（ハンドルを除く）が調整されます。

助手席側：
助手席ドアを開けて 180 秒以内に呼び出したいポジションのスイッチを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

メモリーコール機能（運転席のみ）

お好みのドライビングポジションに電子キー（カードキーを含む）を登録することで、電子キーごとにお好みのドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

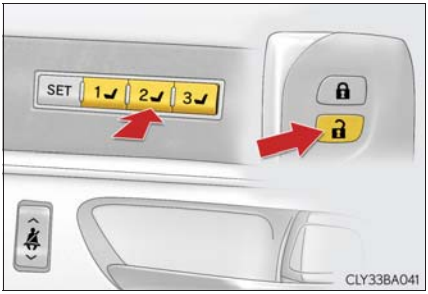
■ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのスイッチに登録しておきます。

▶ ワイヤレスリモコンでの登録

1 エンジンスイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める。

2 1 ～ 3 のうち連動させたいスイッチを押しながら、ワイヤレスリモコンの 🔓 を“ピー”とブザーが鳴るまで押す



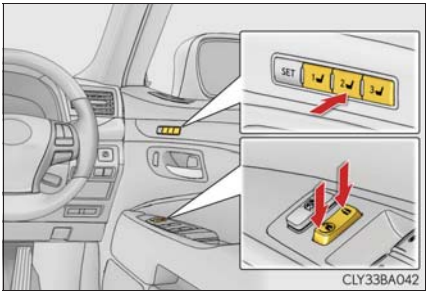
オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんドアを開閉してください。（ 🔓 を押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。）
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作をおこなってください。（→ P. 67）

▶ ドアロックスイッチでの登録

登録させたいキー（カードキーを含む）のみ携帯してください。車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

1 エンジンスイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める。

2 1 ～ 3 のうち連動させたいスイッチを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピー”とブザーが鳴るまで押す（運転席側・助手席側のどちらか一方でおこなう）



■ **呼び出し方法**

1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルを除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

2 エンジンスイッチをアクセサリーモードにする、またはシートベルトを着用する

シートとハンドルが登録したドライビングポジションに動きます。

■ **解除方法**

▶ ワイヤレスリモコンでの解除

1 エンジンスイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める

2 SET スイッチを押しながら、ワイヤレスリモコンの をブザーが鳴るまで押す

▶ ドアロックスイッチでの解除

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。

車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1 エンジンスイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める

2 SET スイッチを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピッピッ”とブザーが鳴るまで押す

知識

■ **メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて**

●電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

●運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのスイッチを押してください。

■ **シート作動の自動停止（リラクゼーションシート装着車）**

シート操作時やパワーイージーアクセスシステム作動時に、フロントシートがテーブル（4 人乗り）またはオットマンと接触しそうになると、ブザーが鳴り、シートの作動が止まります。
（マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。）

警告

■ **シート調整時の警告**

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

リヤシートポジションメモリー★

お好みのリヤ席の位置を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。

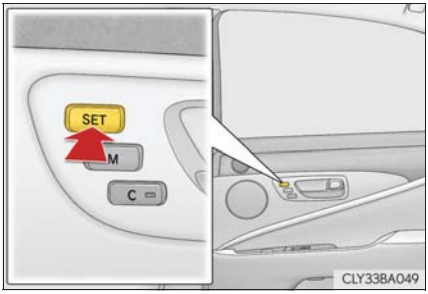
ポジションの登録

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 リヤ席を好みの位置に調整する

3 SET ボタンをブザーが鳴るまで押す

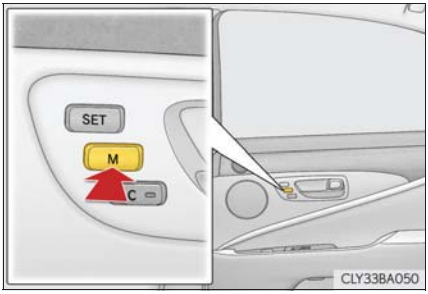
すでに登録されている場合は、上書きされます。



ポジションの呼び出し

M ボタンをブザーが鳴るまで押す

リラクゼーションシート装着車：
オットマンは、上方向には作動しません。呼び出すときの位置よりも下に登録されている場合のみ作動します。

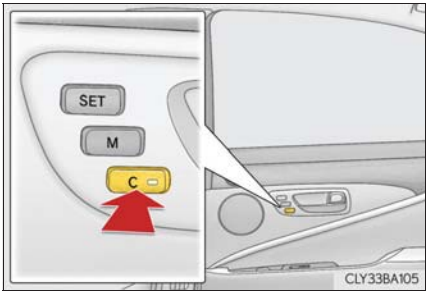


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能のキャンセル

C ボタンを押すと、ポジションの呼び出し作動やドア連動シートリターン機能がキャンセルされます。

キャンセル中はインジケーターが点灯します。
機能を復帰させるにはもう一度 C ボタンを押します。



知識

■ドア連動シートリターン機能について

●作動条件
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

●作動の停止
次のいずれかの操作でシートのリターン作動が途中で止まります。
・ SET・M・C ボタンのいずれかを押す
・ シート調整スイッチのいずれかを押す

●エンジンスイッチ OFF 後の作動
エンジンスイッチを OFF にしたあと約 45 秒間は、ドア連動シートリターン機能が作動します。

警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、リヤ席乗員がフロントシートにあたらないよう注意してください。

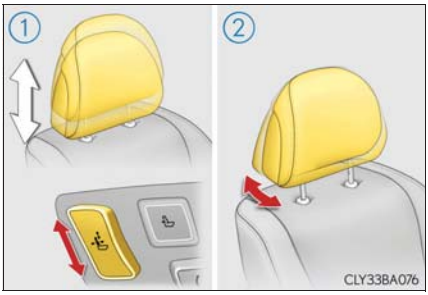
ヘッドレスト

フロント席

① 上下調整

② 前後調整※

※ 可倒式ヘッドレスト装着車：
運転席のみ調整できます。



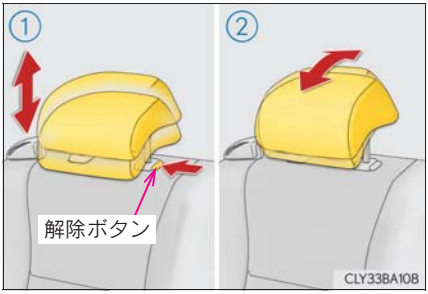
リヤ外側席

▶ 手動式

① 上下調整

下げるときは解除ボタンを押しながら調整します。

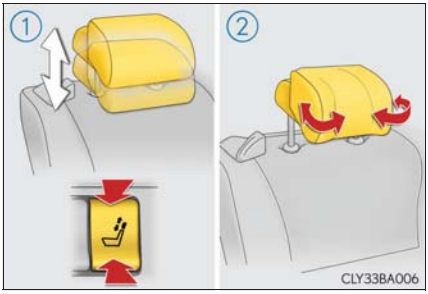
② 前後調整



▶ 電動式

① 上下調整

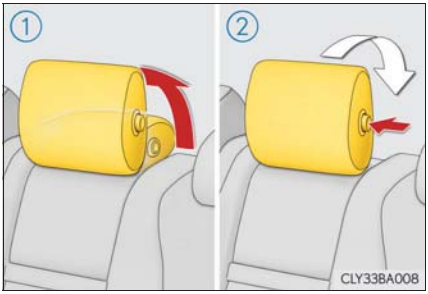
② サイドサポート調整



リヤ中央席（5 人乗り）

① 使用時

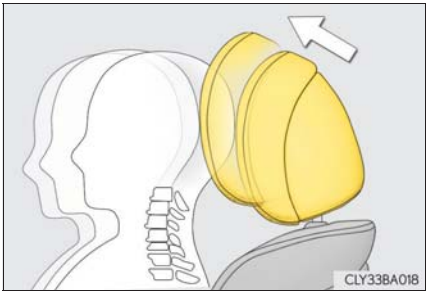
② 格納時



アクティブヘッドレスト※（後方プリクラッシュセーフティシステム装着車および可倒式ヘッドレストを除く）

追突の衝撃を車両が感知することで、ヘッドレスト前面が斜め上方に動き、乗員のむち打ち傷害軽減に貢献します。

後退時に、後方からの弱い衝撃でも作動する場合があります。



※ フロント席

プリクラッシュインテリジェントヘッドレスト（後方プリクラッシュセーフティシステム装着車）

→ P. 269

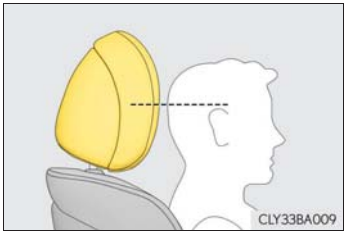
知識

■ヘッドレストの取りはずしについて

ヘッドレストの取りはずし・取り付けについてはレクサス販売店へご相談ください。

■ヘッドレストの高さについて（リヤ中央席を除く）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ席について

手動式ヘッドレスト：
使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

中央席：
リヤ中央席に座るときは、必ずヘッドレストを手前に引き起こしてご使用ください。

■アクティブヘッドレスト★について

●助手席に乗員がいないと、助手席のアクティブヘッドレストは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトがバックルに留められている場合は、追突時に乗員がいなくても助手席のアクティブヘッドレストが作動することがあります。

●アクティブヘッドレストが作動すると、ヘッドレスト前面が斜め上方に出たままの状態になるため、作動後は必ずレクサス販売店で修理を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する

●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する

●手動式ヘッドレスト：ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する

●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

■**助手席アクティブヘッドレスト★について**

助手席座面には座布団などを敷かないでください。
乗員の重量が分散されるためセンサーが乗員を検知せず、衝突時に助手席のアクティブヘッドレストが作動しないことがあります。

■**アクティブヘッドレスト★の取り扱い**

●レクサス純正品以外のヘッドレストカバーをつけないでください。

●アクティブヘッドレストの取りはずしや取り付け・分解・廃棄などは、レクサス販売店にご相談ください。不適切に扱うと、事故の際に正常に作動しなくなるおそれがあります。

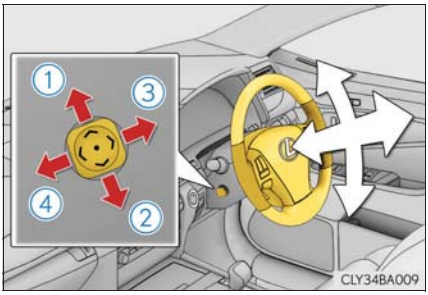
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。

① 上方へ
② 下方へ
③ 手前へ
④ 前方へ



知識

■ハンドル位置調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、エンジンスイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ハンドル位置の自動調整

お好みのハンドル位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→ P. 147)

■パワーイージーアクセスシステム

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。(→ P. 132)

警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

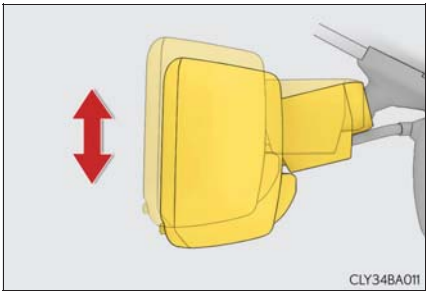
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

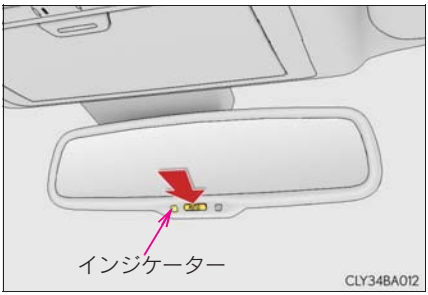


自動防眩機能

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の切りかえ
ON ／ OFF

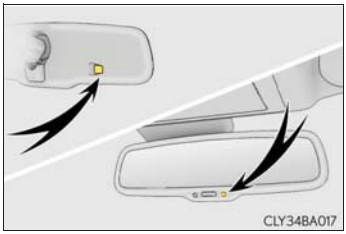
ON のときはインジケーターが点灯します。
エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。
ボタンを押すと OFF になりインジケーターが消灯します。



知識

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

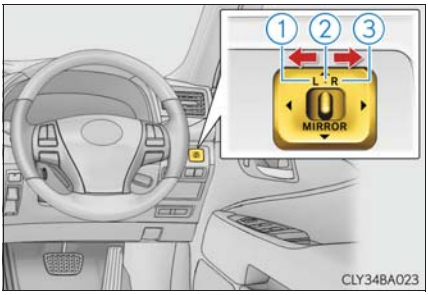
調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶ

① 左

② 中立の位置

③ 右



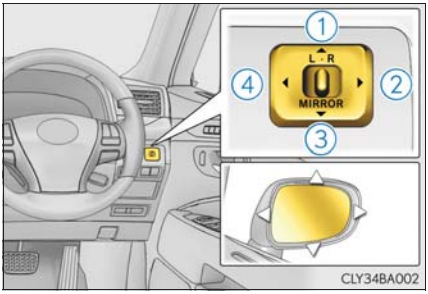
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

① 上

② 右

③ 下

④ 左

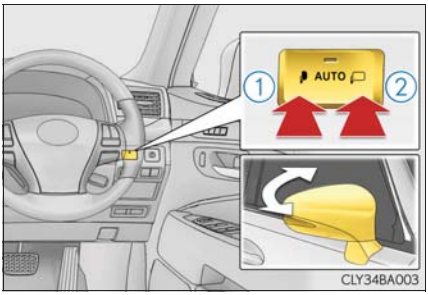


ドアミラーの格納・復帰のしかた

■ マニュアル作動

① 格納する

② もとの位置にもどす

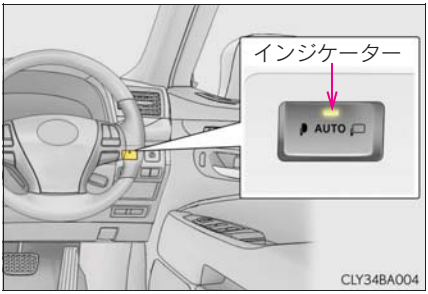


■ オート作動

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納・復帰させることができます。

中立の位置（AUTO）にする

中立の位置（AUTO）にすると、インジケーターが点灯します。



リバース連動機能

ミラー選択スイッチが L または R の位置になっているときは、後退時にミラーの角度が下向きになり、下方が見やすくなります。
この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・R の間）にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーを R に入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。
次回からシフトレバーを R にするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーが R 以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。
通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

知識

■鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→ P. 321)

■ミラー角度の自動調整

お好みのミラー角度をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→ P. 147)

■自動防眩機能

インナーミラーの自動防眩機能を ON にしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。(→ P. 159)

■寒冷時に「オート作動」で使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているとき

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウインドウ

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

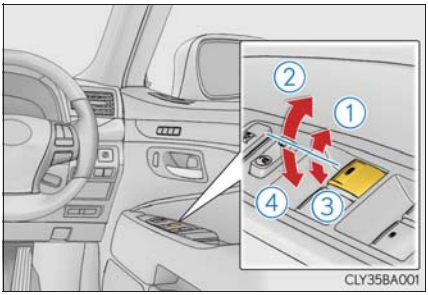
① 閉める

② 自動全閉※

③ 開ける

④ 自動全開※

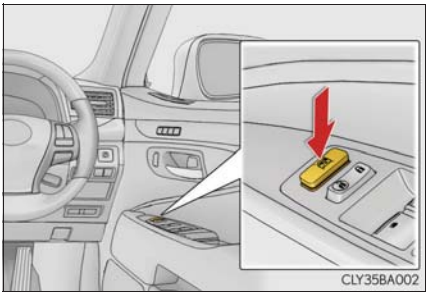
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ドアガラスを閉めることができないとき

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジンスイッチをイグニッション ON モードの状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。
以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●スマートエントリー＆スタートシステムでドアガラスを閉じることができます。（→ P. 105）

●メカニカルキーの操作に連動してドアガラスを開閉できます。（→ P. 468）

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 489）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→P. 164)

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。

●スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコン、メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコン、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはエンジンスイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

ムーンルーフ★

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンできます。

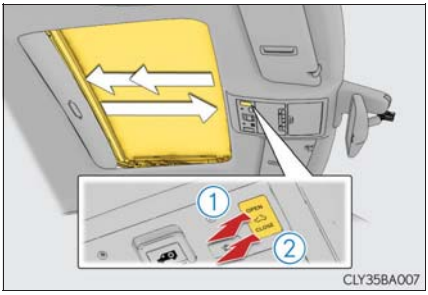
ムーンルーフを開閉する

① ムーンルーフを開く※

全開の手前の位置で止まります。（風切り音の低減機能）
全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

② ムーンルーフを閉める※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

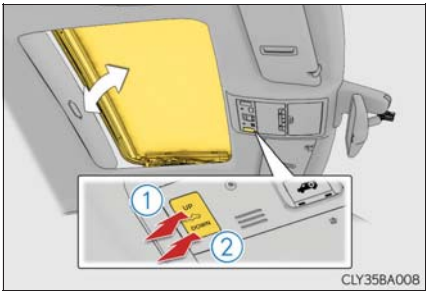


チルトアップ／ダウンする

① チルトアップ※

② チルトダウン※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

●スマートエントリー＆スタートシステムでムーンルーフを閉じることができます。（→ P. 105）

●メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。（→ P. 468）

■ムーンルーフが正常に閉まらないとき

次の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの“CLOSE”側を押し続ける※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。※2 その後再び閉じ、チルトアップし、1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スイッチの“UP”側を押し続け※1、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

3 スイッチから一度手を離し、再度“UP”側を押し続ける※1

ムーンルーフがチルトアップの状態で 10 秒間停止し、※2 微調節後 1 秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

4 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※1 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※2 10 秒間停止したあとにスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“UP”、または、“CLOSE”側を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1 秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフ開警告ブザー

エンジンスイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 489）

警告

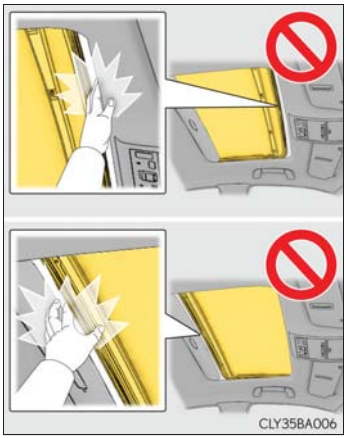
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開けているとき

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ムーンルーフを開閉するとき

- 運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。
- スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコン、メカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコン、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。



- 車から離れるときはエンジンスイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって..... 172

荷物を積むときの注意..... 180

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ 181

オートマチックトランスミッション（パドルシフト非装着車）..... 186

オートマチックトランスミッション（パドルシフト装着車）..... 190

方向指示レバー..... 196

パーキングブレーキ..... 197

ブレーキホールド..... 200

ホーン（警音器）..... 202

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ..... 203

アダプティブハイビームシステム 206

フォグランプスイッチ..... 213

ワイパー＆ウォッシャー 215

ヘッドランプクリーナー..... 218

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 219

4-5. 運転支援装置について

クルーズコントロール.....222

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）.....226

LKA（レーンキーピングアシスト）.....238

ドライブモードセレクトスイッチ 247

電子制御エアサスペンション 251

運転を補助する装置.....252

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）.....259

後方プリクラッシュセーフティシステム.....269

BSM（ブラインドスポットモニター）.....272

ナイトビュー（歩行者検知機能付）.....276

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 287

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 181

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをDにする（→ P. 186, 190）

2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキを解除する（→ P. 197）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーをPまたはNにします。（→ P. 186, 190）

駐車する

1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む

2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキをかける

3 シフトレバーをPにする（→ P. 186, 190）

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

4 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する

5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをDにする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが働きます。（→ P. 252）

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うためで、急加速を示すものではありません。

●車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき

●アクセルペダルを離したとき

●スポーツモード選択時にブレーキペダルを踏んだとき

■アイドリング時のエンジン回転数について

シフトレバーが P または N でアイドリング状態を長時間続けたとき、エンジン回転数が約 1000 r/min に上昇することがありますが、異常ではありません。（上昇後、一定時間経過すると、もとのエンジン回転数にもどります。）

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

●暑い日に長い上り坂を走行する

●高速走行直後に急減速や急停止をする

■高摩擦ブレーキパッド装着車について

車速、制動力や車両を取り巻く環境（気温、湿度など）によってはブレーキノイズが発生することがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 420 を参照してください。

●急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードをおとしてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→ P. 186, 191）

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するとき

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●通常走行中にシフトレバーを N にしないでください。トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキパッド摩耗の警告メッセージが表示されたら

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換がおこなわれないと、ブレーキディスクの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやブレーキディスクなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
・ ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。

●エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●ブレーキシステムは２つ以上の独立したシステムで構成されており、１つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したとき（AWD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

注意

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 437, 446 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー（AWD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はトランクに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。
- 運転席足元
- 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
- パッケージトレイ
- インストルメントパネル
- ダッシュボード
- ナビゲーション画面の前

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンのかけ方

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし（→ P. 182）、パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

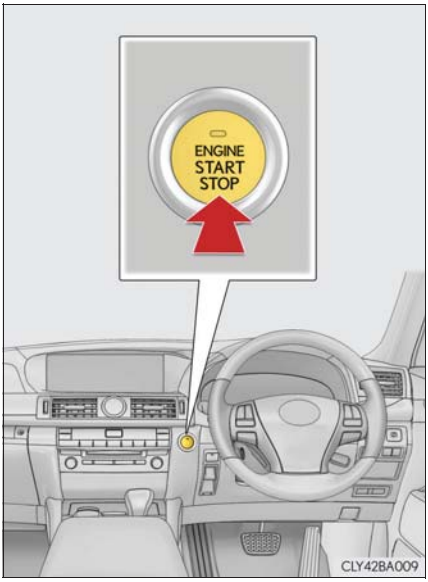
スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。
緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。

4 エンジンスイッチを押す

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



エンジン停止のしかた

1 車両を停止させる

2 シフトレバーを P の位置にする

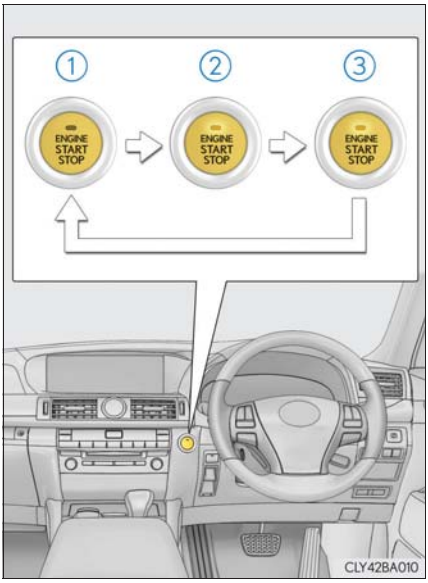
3 パーキングブレーキをかける（→P. 197）

4 エンジンスイッチを押す

5 ブレーキペダルから足を離した状態にしてエンジンスイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

エンジンスイッチのモード切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）



①OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

②アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。
スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

③イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。
スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードにしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 112

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 110

■ご留意いただきたいこと

→ P. 111

■エンジンが始動しないとき

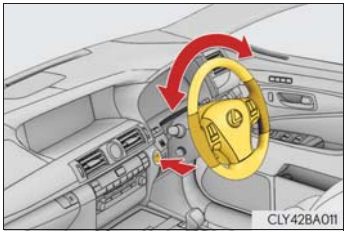
エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 66）レクサス販売店へご連絡ください。

■ステアリングロックについて

エンジンスイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないとき

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、エンジンスイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■エンジンスイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 402

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは

→ P. 468

警告

■**エンジンを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**走行中の警告**

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**緊急時のエンジン停止方法**

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 420)
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

注意

■**バッテリーあがりを防止するために**

エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■**エンジンを始動するとき**

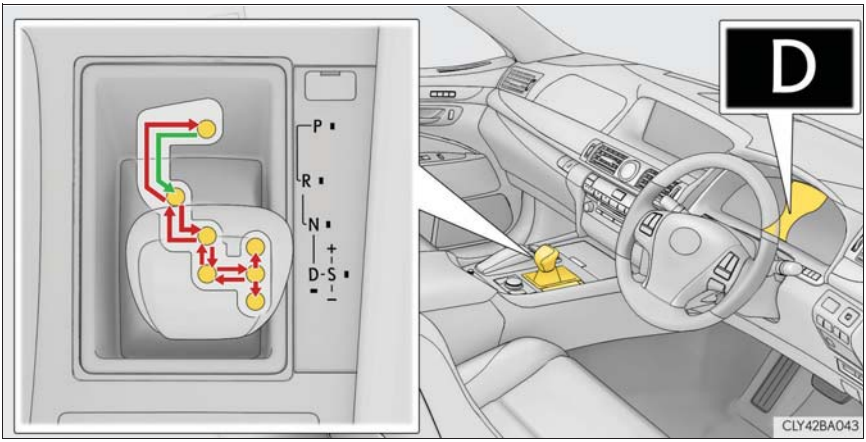
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■**エンジンスイッチの操作について**

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

オートマチックトランスミッション（パドルシフト非装着車）

シフトレバーの動かし方



エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
S	S モード走行（→ P. 187）

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

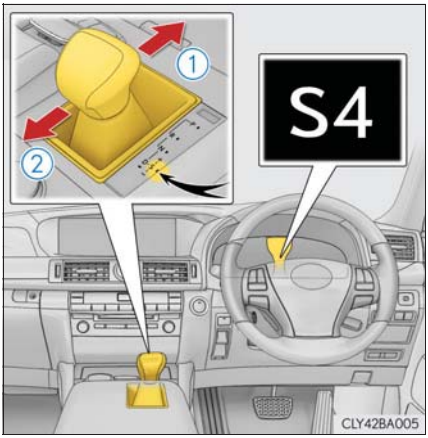
S モードでのシフトレンジ切りかえ

シフトレバーを S ポジションにすると、S モードに切りかわります。

S モードはシフトレンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。

① シフトレンジアップ

② シフトレンジダウン



S ポジションへ操作したときの初期レンジは車速や走行状況に応じて 3 ～ 6 に設定されます。

■ シフトレンジ機能

メーター表示	機能
S2 ～ S8	スピードや走行条件に応じて、1 速から選択したギヤまで自動的に変わります。
S1	ギヤが 1 速に固定されます。

シフトレンジの数字が小さいほうがエンジンブレーキ力は大きくなります。

走行モードの選択

■ スポーツモード・コンフォートモード・エコドライブモード

→ P. 247

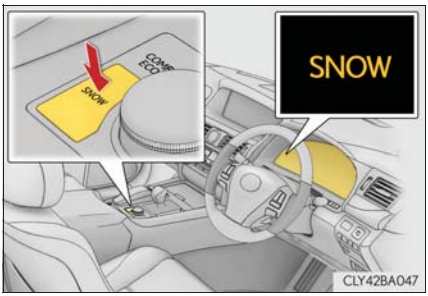
■ スノーモード

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行するときに選択してください。

スノーモードスイッチを押す

スノーモード表示灯が点灯します。

通常走行モードにもどすときはスイッチをもう一度押します。



知識

■ S モード

- 6 レンジ以下のとき、シフトレバーを“＋”側へ保持すると 8 レンジに設定されます。
- シフトレバーを“－”側へ操作したとき、走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンします。
- エンジン過回転前に自動的にシフトアップします。

■ シフトダウン制限警告ブザー（S モード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります）

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ クルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、クルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。

- S モードで走行中に 7・6・5 または 4 にレンジダウンしたとき（→ P. 222, 226）
- D ポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき（→ P. 247）

■スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、エンジンを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

■シフトレバーを P からシフトできないとき

→ P. 462

■AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。
AI-SHIFT は、シフトレバーを D または S にしているときに自動的に作動します。

NAVI・AI-SHIFT：

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

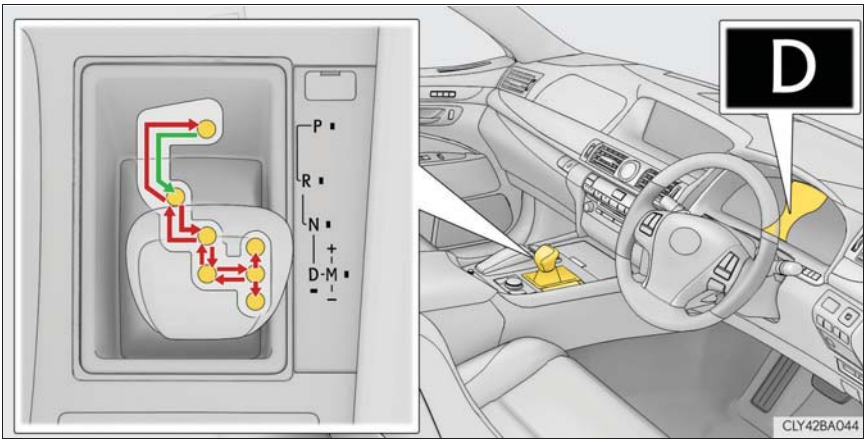
警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

オートマチックトランスミッション（パドルシフト装着車）

シフトレバーの動かし方



エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	メーター表示	目的および状態
P	P	駐車またはエンジン始動
R	R	後退
N	N	動力が伝わらない状態
D	D	通常走行※1
	D4 （パドルシフトスイッチ操作時）	レンジの選択（→ P. 192）
M	M4	M モード走行※2（→ P. 193）

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※2 M モードは任意のギヤ段に固定して走行することができます。

D ポジションでのレンジ選択

シフトレバーが D ポジションのときにパドルシフトスイッチの“－”側または“＋”側を操作すると、一時的にシフトレンジを選択する走行へ切りかわります。

シフトレンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。

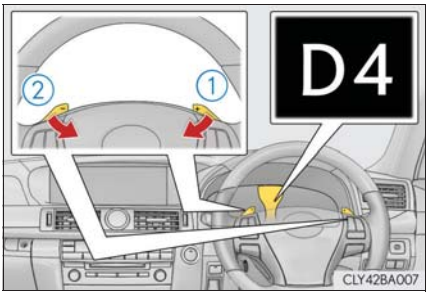
パドルシフトスイッチの“－”側を操作したとき、走行状態に適したエンジンブレーキ力を得られるレンジにダウンします。

① シフトレンジアップ

② シフトレンジダウン

D1 から D8 レンジのあいだで選択されているレンジがメーターに表示されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの“＋”側を一定時間以上保持します。



■ シフトレンジ機能

メーター表示	機能
D2 ～ D8	スピードや走行条件に応じて、１速から選択したギヤまで自動的にかわります。
D1	ギヤが１速に固定されます。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。

M ポジションでのギヤ段選択

シフトレバーを M ポジションにすると、M モードに切りかわります。

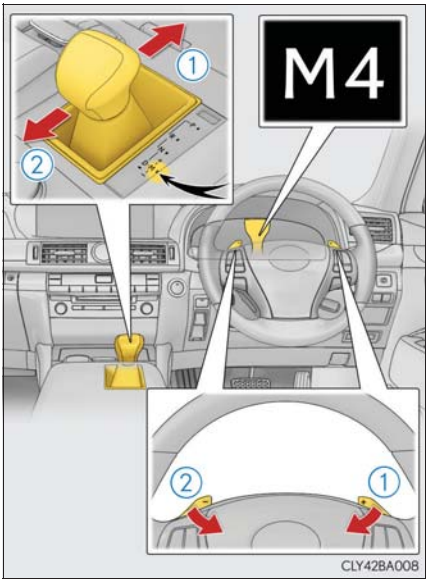
シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの操作で思い通りのギヤ段を選択し、運転することができます。

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの“－”側または“＋”側の操作でギヤ段を選択することができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作するごとに 1 速ずつ変速します。
M1 から M8 の中で選択したギヤ段に固定され、ギヤ段がメーターに表示されます。



● M ポジションでは、次の場合を除いてシフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作しない限り、変速しません。
- 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）
- オートマチックトランスミッションフルードやエンジン冷却水が低温の場合
- オートマチックトランスミッションフルードが高温の場合
- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に達した場合

● 車速が低い場合は、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作してもシフトアップしません。

走行モードの選択

■ スポーツモード・コンフォートモード・エコドライブモード

→ P. 247

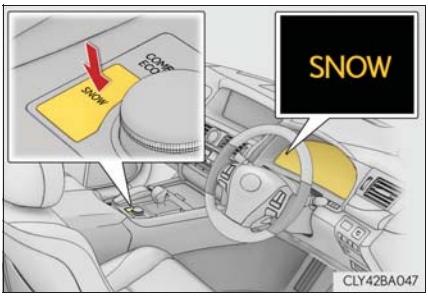
■ スノーモード

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行するときに選択してください。

スノーモードスイッチを押す

スノーモード表示灯が点灯します。

通常走行モードにもどすときはスイッチをもう一度押します。



知識

■ D ポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

- 停車したとき
- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- シフトレバーを D 以外にしたとき

■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーやパドルシフトを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが２回鳴ります)

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ クルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、クルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。

- D ポジションでのレンジ選択走行中に 7・6・5 または 4 にレンジダウンしたとき（→ P. 222, 226）
- D ポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき（→ P. 247）

■スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、エンジンを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

■シフトレバーを P からシフトできないとき

→ P. 462

■オートマチックトランスミッション高油温警告メッセージが表示されたとき

走行中にオートマチックトランスミッション高油温警告メッセージが表示されたときは、D ポジションの通常走行に切りかえたうえでアクセルをゆるめ、車速を落としてください。安全な場所に車両を停止させ、シフトレバーを P ポジションにシフトして、警告メッセージが消えるまでアイドリング状態にしてください。
警告メッセージが消えたあと、再び走行することができます。
しばらくしても消えないときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

■AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。
AI-SHIFT は、シフトレバーを D ポジションにしているとき自動的に作動します（シフトレバーを M ポジションにすると機能が解除されます）。

NAVI・AI-SHIFT：
ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

警告

■すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

方向指示レバー

操作のしかた

① 左折

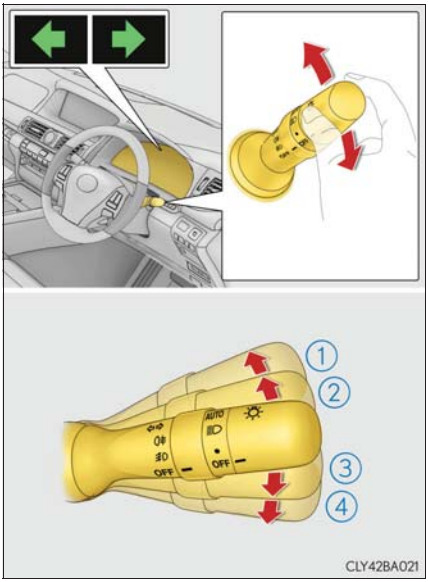
② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折



知識

■ **作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ **表示灯の点滅が異常に速くなったとき**

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

お好みに応じて次のモードから選択することができます。

マニュアルモード

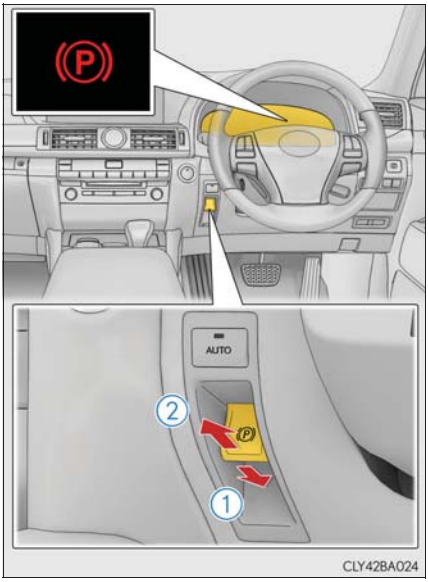
① パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯が点灯します。(→ P. 198)

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを押し続けてください。押しているあいだのみパーキングブレーキがかかります。

② パーキングブレーキを解除する

パーキングブレーキ表示灯が消灯します。ブレーキペダルを踏みながら操作してください。



オートモード

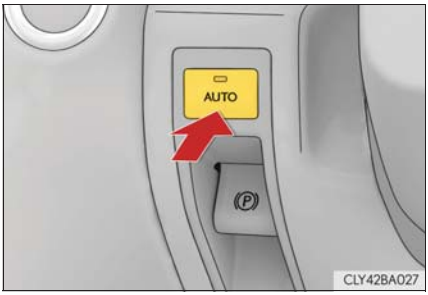
シフトレバーの操作に応じて、パーキングブレーキが自動で作動します。

オートモードの ON ／ OFF を切りかえる

オートモードが ON のとき、スイッチ上のインジケーターが点灯し、次のように作動します。

- シフトレバーを P に入れると、パーキングブレーキがかかります。
- シフトレバーを P から動かすと、パーキングブレーキが解除されます。

シフトレバーは、ブレーキペダルを踏みながら操作してください。



知識

■パーキングブレーキの作動

●エンジンスイッチがイグニッションONモード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

●エンジンスイッチがイグニッション ON モード以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

●短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
イグニッションONモード：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
イグニッションONモード以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

■システムに異常があるとき

警告灯や警告メッセージが点灯または点滅します。（→ P. 430, 434）
また、状況によってはパーキングブレーキ表示灯が点滅します。

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→ P. 288

注意

■駐車するとき

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にし、車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告表示を確認してください。

■故障などでかかったままになったとき

手動解除用ツールを使用して、パーキングブレーキを完全に解除してください。（→ P. 463）
パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ブレーキホールド

シフトレバーがD・S（パドルシフト非装着車）・M（パドルシフト装着車）またはNでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーがD・S・Mのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（HOLD）が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（HOLD）が点灯します。

知識

■システムの作動条件

次のときはシステムをONできません。

●トランクまたはボンネットが閉まっていない

●運転席ドアが閉まっていない

●運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムがONのときにいずれかを検出したときは、システムがOFFになり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

●ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときは警告音と共に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●急坂路ではブレーキ保持できないことがあります。その場合は、運転者はブレーキをかける必要があるときもあります。このときはマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●ブレーキ保持中にシステムをOFFするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

パーキングブレーキは自動的に解除されません。パーキングブレーキスイッチを操作してブレーキを解除し、パーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→ P. 197）

■システムに異常があるとき

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。（→ P. 430, 434）

警告

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

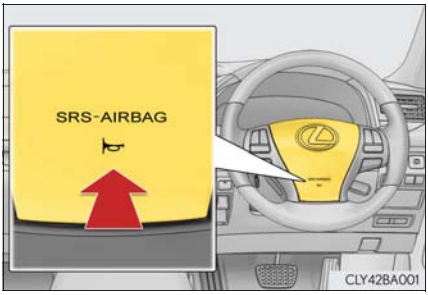
注意

■駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。

ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

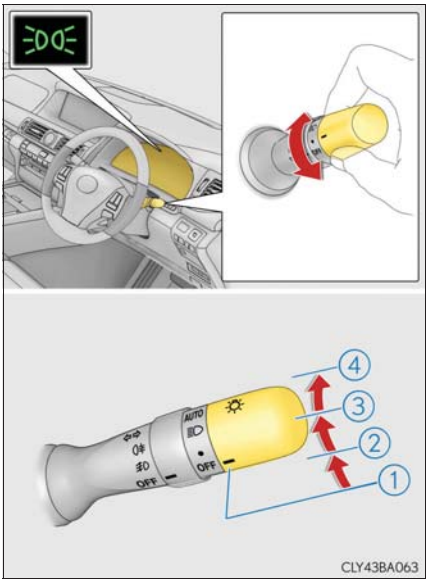
操作のしかた

① OFF　消灯

② ●　車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯

③ ≣D　上記ランプとヘッドランプを点灯

④ AUTO　ヘッドランプ・LED デイライト・車幅灯などを自動点灯・消灯
（エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき）



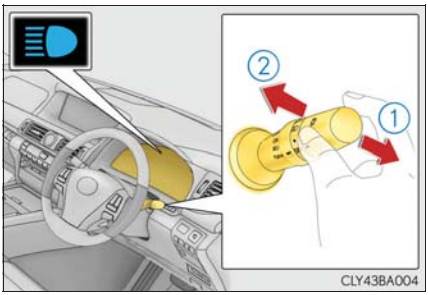
ハイビームにする

① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



AFS（アダプティブフロントライティングシステム）

AFS は、交差点やカーブで優れた視認性を確保するため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

車速が 10km/h 以上のときに作動します。

知識

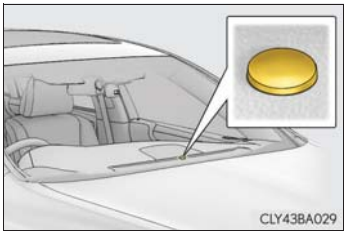
■LED デイライト

日中走行時にお車が他の車両の運転者から見えやすくするために、エンジンを始動し、ランプスイッチが AUTO のときにパーキングブレーキを解除するとLEDデイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します。）

LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはOFFにして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≡D の位置にします。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチがアクセサリーモードまたは OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。
次のいずれかを行った場合、節電機能は解除されます。

●エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたとき

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアまたはトランクを開閉したとき

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 489）

⚠注意

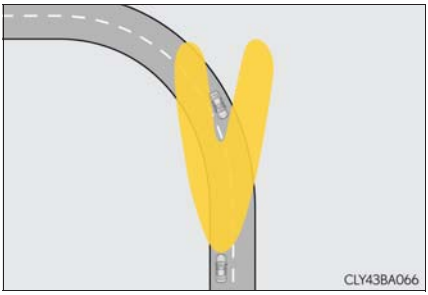
■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

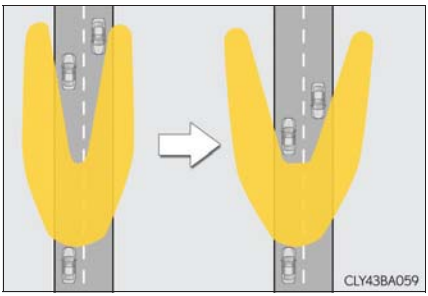
アダプティブハイビームシステム★

アダプティブハイビームシステムは、インナーミラーに設置されたカメラセンサーにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビーム・ロービーム・遮光範囲可変ビームを切りかえます。

遮光範囲可変ビーム切りかえ中は、対向車や先行車の範囲を遮光し、それら以外の範囲をハイビームで照射します。これにより、前方車両を眩惑することなく、前方の視界確保を補助します。



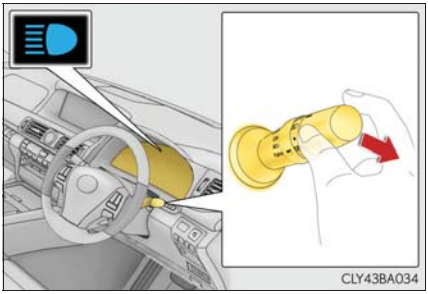
また、対向車や先行車の位置が変わった場合には遮光範囲を変化、追従させることができます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

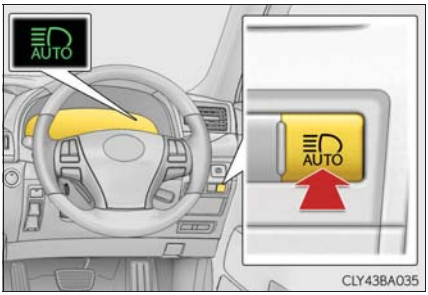
アダプティブハイビームシステムの使い方

1 ランプスイッチをAUTOまたは ≡D にし、レバーを前方へ押す



2 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステムが作動すると、アダプティブハイビームシステム表示灯が点灯します。



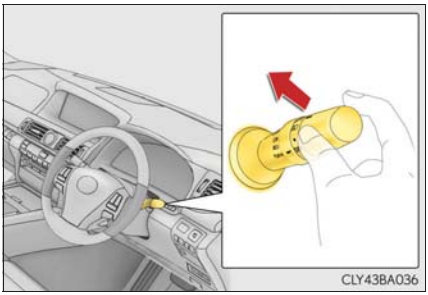
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーを前方に押します。

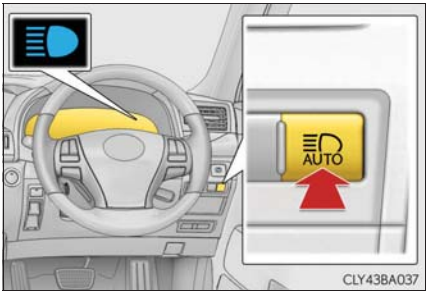


■ ハイビームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。



ハイビーム・ロービーム・遮光範囲可変ビームの自動切りかえ条件

● 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い
・ランプを点灯した対向車または先行車が存在しない

● 次の条件のいずれかのとき、対向車または先行車の位置に応じて、ロービームが点灯します。
・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両の動きが速く、その車両にまぶしさを与える

● 次の条件をすべて満たしたとき、対向車または先行車の位置に応じて、遮光範囲可変ビームへ切りかわります。
・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い

● 次の条件をすべて満たし、車速が約 15 ～ 30km/h で住宅地を走行していると判断した場合、左側ヘッドランプはロービーム、右側ヘッドランプはハイビームを点灯します。
・車両前方が暗い
・ランプを点灯した対向車または先行車が存在しない

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■アダプティブハイビームシステムについて

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームや遮光範囲可変ビームに切りかわらない場合があります。
・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき

●対向車のフォグランプにより、ハイビームからロービームや遮光範囲可変ビームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームや遮光範囲可変ビームに切りかわる場合や、遮光範囲が変化する場合があります。

●次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・対向車または先行車のランプの明るさ
・対向車または先行車の動きや向き
・対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
・対向車または先行車が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●アダプティブハイビームシステムは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビーム・ロービーム・遮光範囲可変ビームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・インナーミラーやカメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
・カメラセンサーの温度が非常に高いとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき

■**アダプティブハイビームシステム作動中のハイビーム点灯について（LED ヘッドランプ装着車かつ LKA「レーンキーピングアシスト」装着車を除く）**

高速走行時のみ、車両外側に加え、内側のハイビームも点灯します。

■**カスタマイズ機能**

遮光範囲可変ビームを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 489）

警告

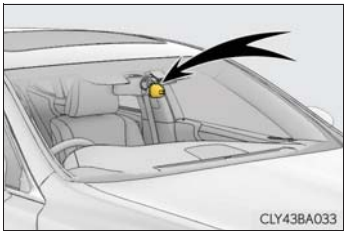
■**安全にお使いいただくために**

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

注意

■アダプティブハイビームシステムを正しく作動させるために

アダプティブハイビームシステムを正しく作動させるために次のことをお守りください。



- カメラセンサーのレンズにふれない
- インナーミラーやカメラセンサーに強い衝撃を与えない
- カメラセンサーを分解しない
- インナーミラーやカメラセンサーに液体をかけない
- カメラセンサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーを貼らない
- ダッシュボードの上にものを置かない
- インナーミラーやカメラセンサー周囲にアクセサリーを取り付けない
- 荷物を積み過ぎない
- 車両を改造しない
- フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

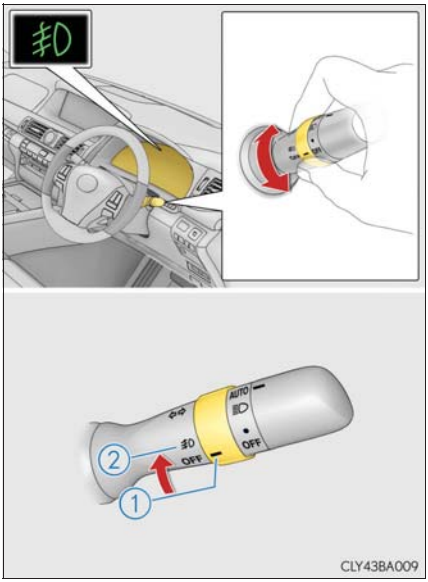
フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

▶ フロントフォグランプスイッチ

① OFF 消灯する

② 点灯する



▶ フロント＆リヤフォグランプスイッチ

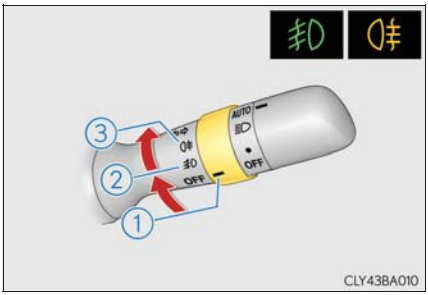
① OFF 消灯する

② フロントフォグランプを点灯する

③ フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すとの位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。



知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：
ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。
リヤフォグランプ：
リヤフォグランプは、フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグランプについて

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー

操作のしかた

次のようにレバーを操作して、ワイパーの作動を選択します。

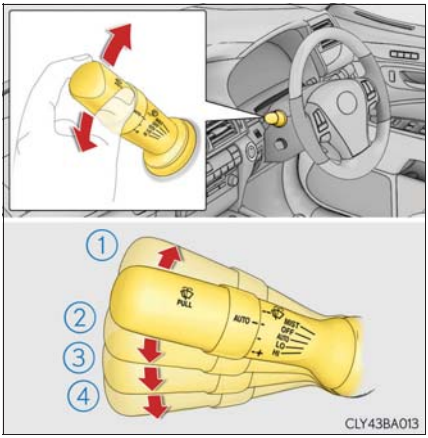
① MIST 一時作動

② AUTO 雨滴感知オート作動

雨滴量や車速に応じてワイパーが作動します。

③ LO 低速作動

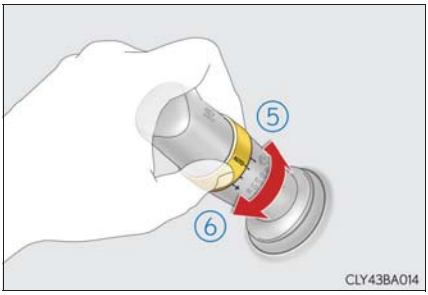
④ HI 高速作動



雨滴感知オート作動のときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。

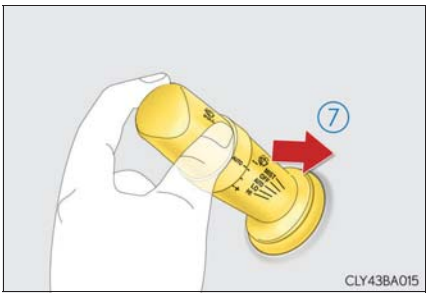
⑤ 雨滴センサーの感度調整（低）

⑥ 雨滴センサーの感度調整（高）



⑦ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。
（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します）



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッションONモードのとき

■車速による作動への影響

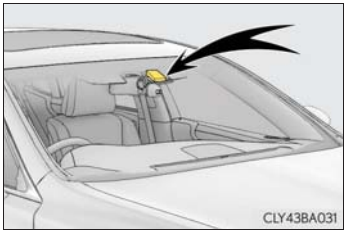
AUTO選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）への影響があります。

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。
（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■雨滴感知センサー

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



●エンジンスイッチがイグニッションONモードのときにAUTOモードにすると、動作確認のためワイパーが1回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が90℃以上または－15℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTOモード以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ワイパー連動機能

ワイパーを作動させると、ミラーヒーターが作動します。
ミラーヒーターは、ワイパー停止後約15分で自動的にOFFになります。
ミラーヒーターについて：→P. 321

警告

■AUTO モード時のワイパー作動について

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

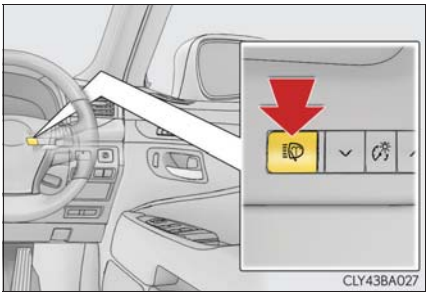
■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ヘッドランプクリーナー★

ヘッドランプにウォッシャー液を噴射します。

スイッチを押してヘッドランプを洗浄する



知識

■**作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードでヘッドランプが点灯しているとき

注意

■**ウォッシャー液が出ないとき**

ヘッドランプクリーナースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

警告

■給油するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

注意

■給油するとき

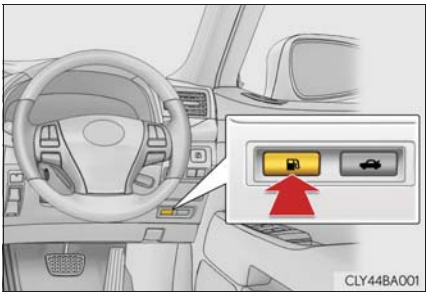
指定のガソリンを使用してください。

指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

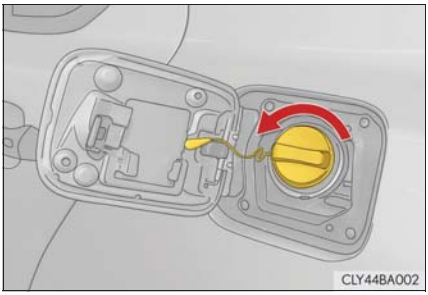
- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

給油口の開け方

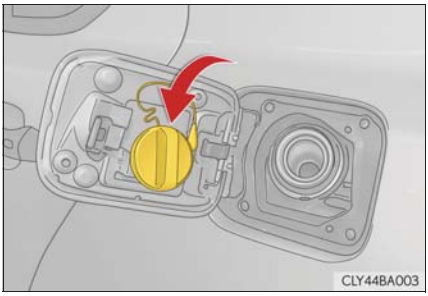
1 スイッチを押す



2 キャップをゆっくりまわして開ける



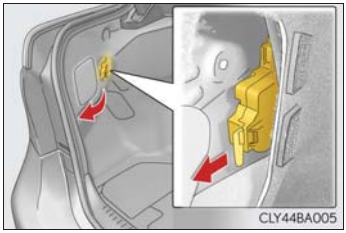
3 キャップをハンガーにかける



知識

■**車内のスイッチで給油扉が開かないとき**

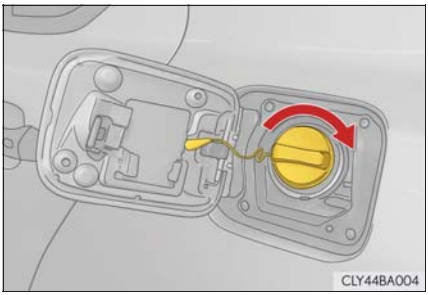
トランク内のカバーを取りはずし、レバーを引きます。



給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



警告

■**キャップが正常に閉まらないとき**

必ずレクサス販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

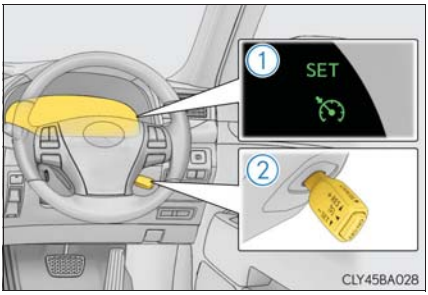
クルーズコントロール★

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

① 表示灯

② クルーズコントロールスイッチ

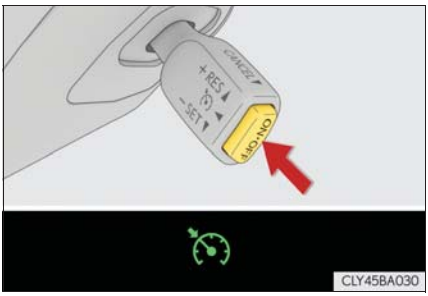


速度を設定する

1 ON・OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

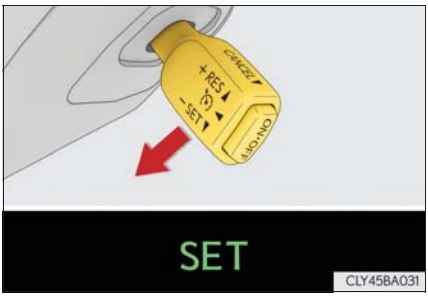
OFF にするには、再度スイッチを押します。



2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

メーター内のセット表示灯が点灯します。

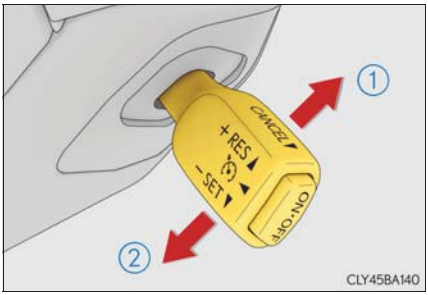
レバーを離したときの速度で定速走行できます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。



① 速度を上げる

② 速度を落とす

微調整：
レバーを上または下に軽く操作して手を離す

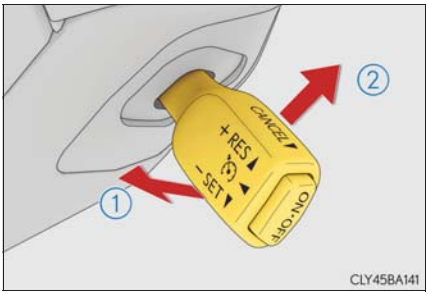
調整：
希望の車速になるまでレバーを保持する

設定速度は、次のとおりに増減されます。

微調整：
レバー操作するごとに約 1.6km/h

調整：
レバーを保持するあいだ

定速走行を解除する・復帰させる



① 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

② 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D または S の 4 レンジ以上のとき設定できます。
（パドルシフト非装着車）

●シフトレバーが D のとき設定できます。
（パドルシフト装着車）

●パドルシフトで D の 4 レンジ以上を選択したとき設定できます。
（パドルシフト装着車）

●車速は約 40 ～約 100km/h の範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

●通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

●クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げることにより設定車速を変更することができます。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した

●実際の速度が約 40km/h 以下になった

●VSC が作動した

●TRC が一定時間作動した

●TRC または VSC を OFF にした

■定速走行中、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

ON・OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。
設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■**誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使用しないときは、ON・OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■**クルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
  急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）★

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の車速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードにより一定の速度で走行できます。

先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などで使用してください。

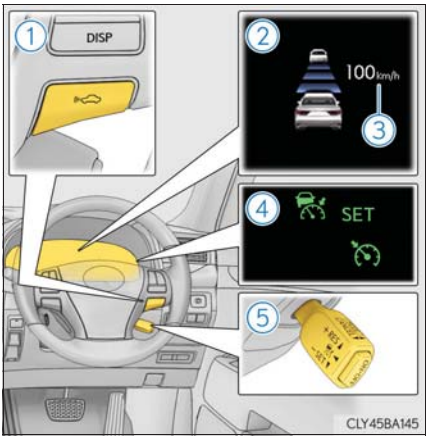
① 車間距離切りかえスイッチ

② マルチインフォメーションディスプレイ

③ 設定速度

④ 表示灯

⑤ レーダークルーズコントロールスイッチ



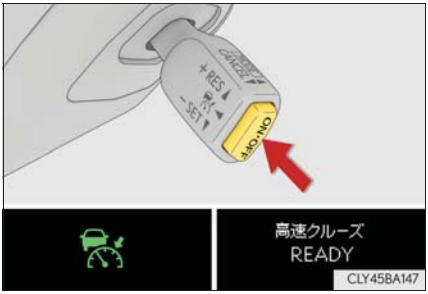
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車速を設定する

1 ON・OFF スイッチを押してシステムを ON にする

メーター内のレーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

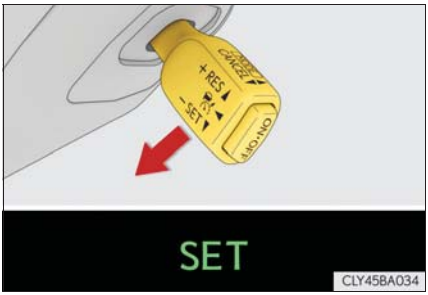


2 希望の速度（約 50km/h ～ 100km/h）まで加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

メーター内のセット表示灯が点灯します。

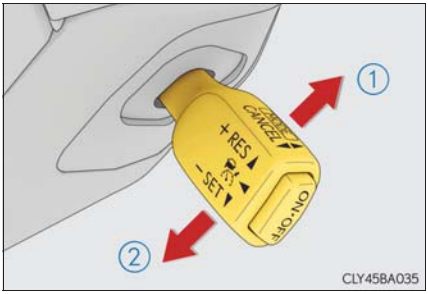
レバーを離したときの速度で定速走行できます。

車速が約 50km/h 未満で先行車が検知できるときに操作をすると、設定速度を 50km/h として先行車に追従走行をします。



設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。



① 速度を上げる

（車間制御モードで制御停車中を除く）

② 速度を落とす

微調整：
レバーを上または下に軽く操作して手を離す

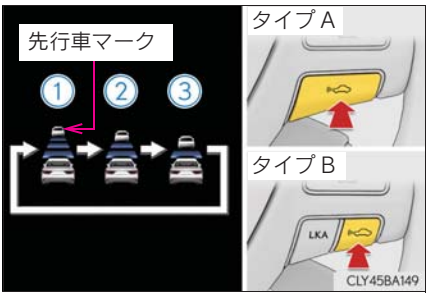
調整：
希望の車速になるまでレバーを保持する

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます。：
微調整：レバー操作するごとに約 1km/h
調整：レバーを保持するあいだ、0.75 秒ごとに約 5km/h

定速制御モード（→ P. 232）では、設定速度は、次のとおりに増減されます。：
微調整：レバー操作するごとに約 1.6km/h
調整：レバーを保持するあいだ

車間距離を変更する

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



① 長い

② 中間

③ 短い

エンジンスイッチがイグニッションONモードになるたびに①に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間距離選択の目安

次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（速度 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車したときの車間距離は設定にかかわらず約 3 ～ 5m です。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御停車から追従走行に復帰させる

先行車の発進後、レバーを上げる

先行車の発進後にアクセルを操作しても追従走行に復帰します。

制御を解除する・復帰させる

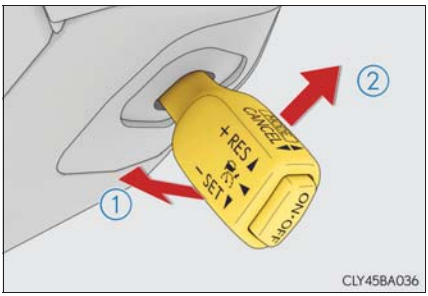
① 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードで制御停車中は、ブレーキを踏んでも解除されません）

② もとの制御状態にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。

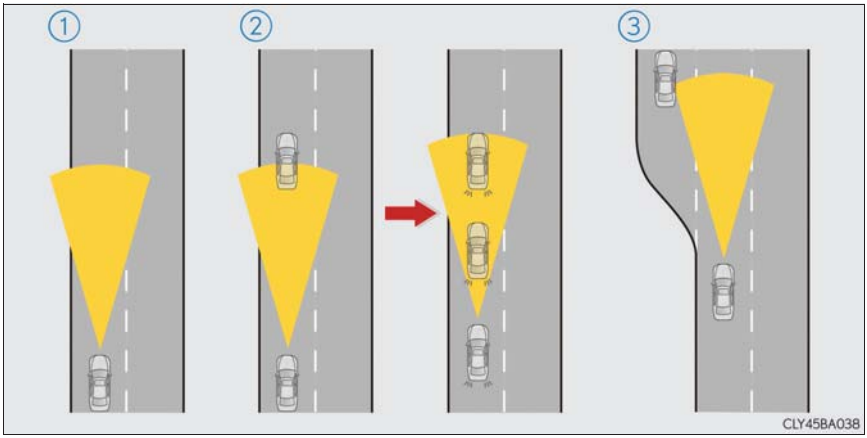
ただし、車間制御モード時で先行車を検知していない場合、実際の速度が約40km/h以下のときは復帰しません。また、定速制御モード時で実際の速度が約 40km/h 以下のときは、設定速度が消去されるため、復帰しません。



車間制御モードでの走行

レーダーセンサーにより、車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



① 定速走行：
先行車がいないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

② 減速走行一追従走行：
設定した車速より遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。
先行車が停止したときは、続いて停止します。先行車の発進後、クルーズコントロールレバーを上げるか、アクセルを踏むと追従走行にもどります。

③ 加速走行：
設定した車速より遅い先行車がいなくなったとき

設定車速まで加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

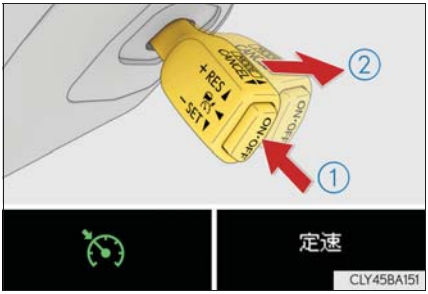
■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

定速制御モードを選択する

定速制御モードは先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の速度で走行します。レーダーセンサーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。



① ON・OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のレーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF にするには再度 ON・OFF スイッチを押します。

② 定速制御モードに切りかえ（約 1 秒間レバーを前方に押し続ける）

定速制御モードに切りかえると、クルーズコントロール表示灯が点灯します。

定速制御モードから車間制御モードにもどすには、再度レバーを前方に約 1 秒間押し続けます。

希望の速度を設定したあとは車間制御モードに切りかえることはできません。

エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチをイグニッション ON モードにした場合は、自動で車間制御モードにもどります。

設定速度をかえるには
→ P. 228

制御を解除する・復帰させるには
→ P. 229

知識

■設定条件について

●シフトレバーがDまたはSの4レンジ以上のとき設定できます。
（パドルシフト非装着車）

●シフトレバーがDのとき設定できます。
（パドルシフト装着車）

●パドルシフトでDの4レンジ以上を選択したとき設定できます。
（パドルシフト装着車）

●車速は約50～約100km/hの範囲で設定できます。

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。
ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため設定車速以下になることもあります。

■車間制御走行の自動解除

次のとき、自動的に車間制御走行が解除されます。

●先行車がいないとき速度が約40km/h以下になった

●速度が40km/h以下で追従走行中に先行車がいなくなった

●VSCが作動した

●TRCが一定時間作動した

●TRCまたはVSCをOFFにした

●センサーが何かでふさがれて適切に働かない

●ワイパーが高速で作動した（ワイパースイッチをAUTOモードまたは高速作動の位置にしたとき）

●走行モードをスノーモードにセットした

●パーキングブレーキが作動した

●急坂路で制御停車した

●プリクラッシュブレーキが作動した

●制御停車時に次を検出した
・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・トランクまたはボンネットが開いた

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■定速制御走行の自動解除

次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した

●車速が約 40km/h 以下になった

●VSC が作動した

●TRC が一定時間作動した

●TRC または VSC を OFF にした

■LKA（レーンキーピングアシスト）★使用時について

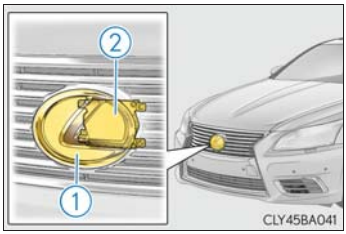
車間制御モードでレーダークルーズコントロールを使用すると、車線維持支援制御が作動します。

■レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく作動させるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。（ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります）
汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。

① グリルカバー

② レーダーセンサー



■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。（→ P. 434）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると、思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON・OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

警告

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
  急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 231）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

警告

■**車間制御が正しく働かないおそれのある状況**

次の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。
レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周囲の車両より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）

●カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合

●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合

●先行車が急ブレーキをかけた場合

■**レーダーセンサーの取り扱い**

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してください。

●センサーを分解しない

●センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない

●センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない

●純正品以外の部品に交換しない

●センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。

LKA（レーンキーピングアシスト）★

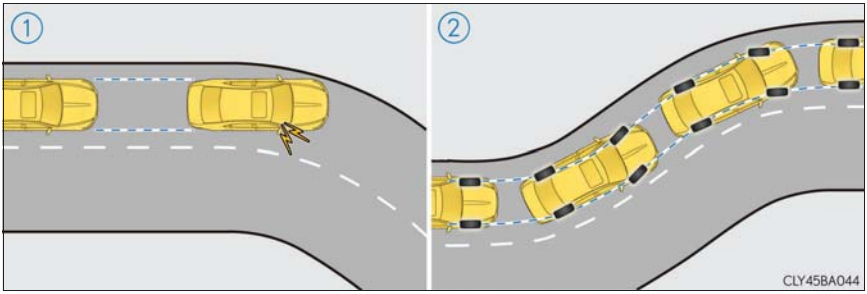
機能概要

白（黄）線の整備された高速道路や急なカーブがない自動車専用道路を走行中に、インナーミラーの上の白線認識用カメラを利用して車線を認識させることにより、車線内の走行を支援します。

白線認識用カメラ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

LKA に含まれる機能



① 車線逸脱警報機能

車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断した場合に、“ピピピピ・・・” というブザーやマルチインフォメーションディスプレイ表示、体感警報※を用いて注意をうながします。

※ ハンドルに短時間、車線の中央方向への小さな操舵力を与えます。

② 車線維持支援機能

・車線逸脱警報機能が作動中に、車速が約 65km/h 以上でレーダークルーズコントロール（→ P. 226）の車間制御モードがセットされたときに、車線維持支援機能が作動します。

・小さい操舵力を連続的に与えることにより、車線中央付近を走行しやすいように運転者のハンドル操作を支援します。

車線維持支援機能中に、ハンドルを操作しなかったり、ハンドルに軽く手を添えた運転が続いたりしたときは、機能が一時的に解除されます。（→ P. 242）

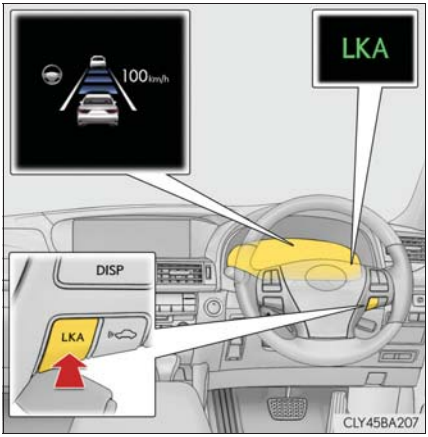
設定のしかた

LKA を使用するにはスイッチを押す

メーター内の LKA 表示灯が点灯します。

解除するには再度スイッチを押します。

LKA はエンジンスイッチがイグニッション ON モードになるたびに解除されます。



各機能の作動条件

■ 車線逸脱警報機能

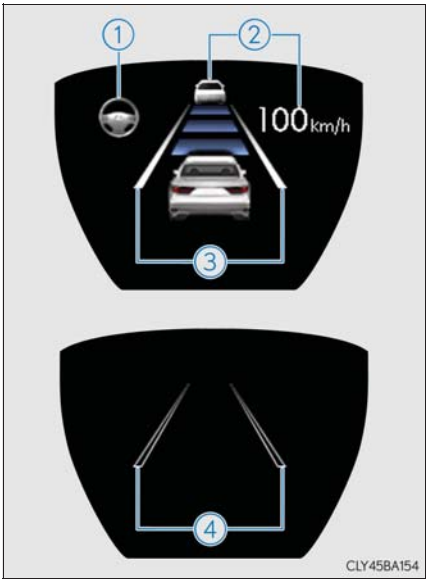
- 車速が約 50km/h 以上のとき
- 車線の幅が約 3.0m 以上のとき
- 直線路または半径 120m よりゆるいカーブを走行しているとき

■ 車線維持支援機能

- 車速が約 65 ～ 100km/h のとき
- レーダークルーズコントロールの車間制御モードが ON で、設定車速が 65km/h 以上のとき（レーダークルーズコントロールが定速制御モードのときは、作動しません）
- 車線の幅が約 3.0 ～ 4.0m のとき
- 直線路または半径 200m よりゆるいカーブを走行しているとき

マルチインフォメーションディスプレイ表示

LKA が制御中のとき、車線表示とハンドル表示によって、LKA が作動していることを表示します。



① 車線維持支援機能の作動表示

ハンドル表示：
機能が作動中であることを示しています。（このときに車線逸脱警報が作動すると、橙色で点滅します）

ハンドル非表示：
機能が作動していないことを示しています。（このとき“ピピッ”というブザーが鳴ります）

② レーダークルーズコントロール表示

③ 車線逸脱警報機能表示（白線の内側が白いとき）：

機能が白（黄）線を認識していることを示しています。（このとき車線逸脱警報が作動すると、橙色で点滅します）

④ 車線逸脱警報機能表示（白線の内側が黒いとき）：

機能が白（黄）線を認識できていない、または機能が一時的に解除されていることを示しています。

知識

■機能の一時解除

次のいずれかの場合、機能を一時的に解除します。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

●車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作したとき

●システムが手放し運転をしていると判断したとき（車線維持支援機能は一時的に解除されますが、車線逸脱警報機能は継続します）

●方向指示レバーを操作したとき

●作動条件以外の車速になったとき（車線維持支援機能の作動中はブザーが鳴ります）

●走行中の白（黄）線が認識できなくなったとき（車線維持支援機能の作動中はブザーが鳴ります）

●ワイパースイッチを高速作動の位置にしたとき、またはAUTOモードにしてワイパーが高速作動したとき（車線維持支援機能は一時的に解除されますが、車線逸脱警報機能は継続します）

●車体のおよそ半分以上が白（黄）線をまたいだとき（車線維持支援機能は一時的に解除されますが、車線逸脱警報機能は継続します）

●車線逸脱警報機能が作動したとき
車線逸脱警報機能が作動してから数秒間は、再度車線を逸脱しても警報は作動しません。

■車線逸脱警報について

路面状況などにより、体感警報が感じにくい場合があります。

■手放し運転警告について

車線維持支援機能中に、直線路で約 15 秒、またはカーブで約 5 秒ハンドルを操作しないと、“ピピッ” とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイの表示が点滅し、機能が一時的に解除されます。ハンドルに軽く手を添えた運転が続いたときも同様です。
ただし路面状況などにより、作動が中断しない場合があります。

■炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらくのあいだ LKA は作動せず、警告メッセージ（→ P. 434）が表示されることがあります。室内温度が低下し、白線認識用カメラ周辺（→ P. 238）の温度が適温になると作動するので、いったん LKA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

■白（黄）線が片側にしかないとき

車線維持支援機能は作動しません。また、白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次の状況では、LKA が作動しない、または十分な性能が確保できない場合があります。また、白線認識用カメラが白（黄）線を正しく検知できず、車線逸脱警報機能が誤作動したり、車線維持支援機能が正しく作動しないことがありますが、故障ではありません。

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●急カーブを走行するとき

●車線の幅が極端に狭いときや広いとき

●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車両が著しく傾いているとき

●先行車との車間距離が極端に短くなったとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●白（黄）線がかすれていたり、キャッツアイや置き石などのとき

●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき

●白（黄）線と平行に近い影があったり、白（黄）線が影の中にあるとき

●コンクリート路のような明るい路面を走行するとき

●照り返しなどにより明るくなった路面を走行するとき

●トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行するとき

●対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射するとき

●分岐・合流路などを走行するとき

●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行するとき

●悪路や道路の継ぎ目などを走行時に、車両に大きな上下動が発生するとき

●夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき

●横風を受けて走行しているとき

●左右に傾いた道路やうねった道路を走行するとき

●舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき

■タイヤを交換したとき

タイヤによっては十分な性能が確保できない場合があります。

■LKA の警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告表示・警告ブザーで注意をうながします。（→ P. 434）

警告

■**LKA をお使いになる前に**

LKA を過信しないでください。LKA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。
適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■**誤操作を防ぐために**

LKA を使用しないときは、LKA スイッチでシステムを OFF してください。

■**LKA を使用してはいけない状況**

次の状況では、LKA を使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- スタッドレスタイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物・模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）
- 雪道を走行するとき
- 雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 道路の修復で、アスファルト修復跡や白（黄）線の跡が残っているとき
- 雨天時や積雪・凍結などですべりやすい道路を走行するとき
- 高速道路などの本線（走行車線・追いこし車線）以外の車線を走行するとき
- 工事による車線規制や仮設の車線を走行するとき

注意

■LKA の故障や誤作動を防ぐために

●ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。

●サスペンションを改造しないでください。
サスペンション部品の交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けないでください。

●サンバイザーを改造しないでください。
サンバイザーの交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

注意

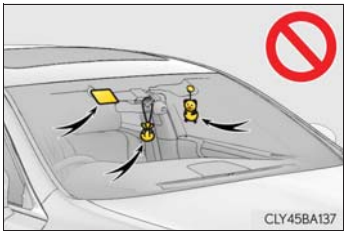
■白線認識用カメラ（→ P. 238）

LKA の故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。

●フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
汚れていたり、雨滴・結露・氷雪などが付着していたりすると、性能が低下することがあります。

●カメラのレンズ前のフロントウインドウガラスにステッカーなどを貼らない

●カメラの近くには、何も取り付けたり、置いたりしない



●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●カメラのレンズ前にアンテナを取り付けない

●フロントウインドウガラスが曇った場合は、フロントデフロスターでガラスの曇りを取る
寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えることがあります。

●ダッシュボードの上にものを置かない
フロントウインドウガラスに映り込んだ映像を、白（黄）線と誤って認識する場合があります。

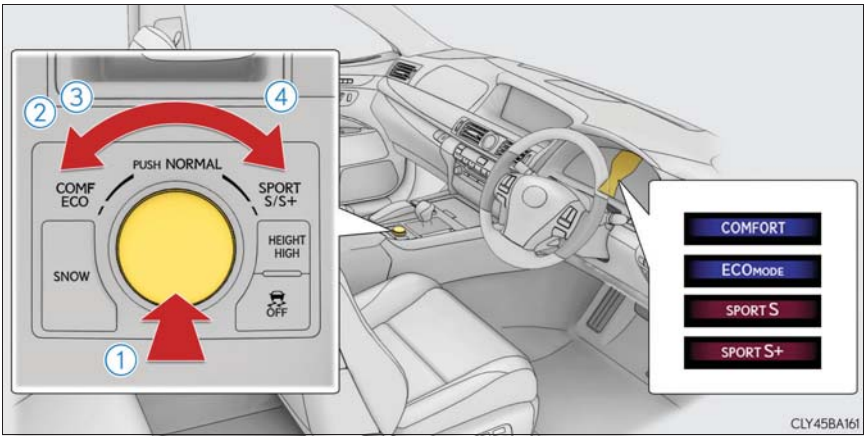
●カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは、ガラスクリーナーなどがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
カメラのレンズのお手入れは、レクサス販売店にご相談ください。

●カメラの向きは細密に調整されているため、取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない

●カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。



① ノーマルモード（推奨）

通常の走行に適しています。

ノーマルモード以外のときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

② コンフォートモード

サスペンションを制御することにより、より快適な乗り心地になります。市街地走行に適しています。

コンフォートモード以外のときにスイッチを左にまわすとコンフォートモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「COMFORT」と表示されます。

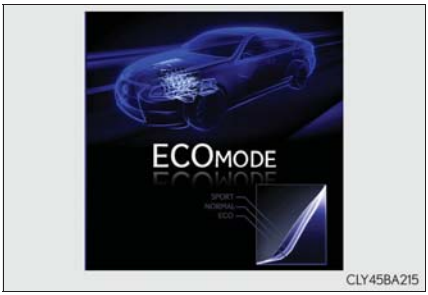
また、サイド画面にもドライブモード画面が自動で表示されます。
（→ P. 296）

③ エコドライブモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

コンフォートモードのときにスイッチを左へまわすとエコドライブモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「ECO MODE」と表示され、エコドライブインジケーターゾーン表示・平均燃費に切りかわります。（→ P. 84）

また、サイド画面にもドライブモード画面が自動で表示されます。（→ P. 296）



④ スポーツモード

・スポーツ S モード

トランスミッションとエンジンの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速をしたいときに適しています。

スポーツ S モード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツ S モードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「SPORT S」と表示されます。

また、サイド画面にもドライブモード画面が自動で表示されます。
(→ P. 296)

・スポーツ S ＋モード

トランスミッションに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより操縦性・安定性をさらに高め、スポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モードのときにスイッチを右へまわすとスポーツ S ＋モードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに「SPORT S ＋」と表示されます。

また、サイド画面にもドライブモード画面が自動で表示されます。
(→ P. 296)

知識

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、風量の調整またはエコドライブモードの解除をしてください。（→ P. 298）

■スポーツモードの自動解除

スポーツモードを選択して走行後、エンジンスイッチを OFF にし、再度エンジンスイッチをイグニッション ON モードにした場合は、自動でノーマルモードにもどります。

電子制御エアサスペンション

路面の状態や運転操作、選択したドライブモードなどに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を 4 輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた操縦安定性を両立し、車両姿勢を良好な状態に保ちます。
また、路面の状態や走行状態にあわせて車高を選択することもできます。

車高は、乗員や荷物重量にかかわらず選択したレベルを維持します。

HIGH モードの ON/OFF を切りかえる

ON のときメーター内のエアサスペンション HIGH 表示灯が点灯します。

知識

■エアサスペンション用コンプレッサーの作動音

乗車や荷物の積み込みなどによって車高が低下したときや HIGH モードを選択したときなどに、コンプレッサーが作動して“ヴィーン”という音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

警告

■エアサスペンションについて

次の状況では、エアサスペンションの作動を停止するために、エンジンを停止してください。

- 縁石などに乗り上げて駐車するとき
- 脱輪したとき
- ジャッキアップするとき
- レッカー車などで車を持ち上げてけん引するとき

エンジンスイッチをイグニッション ON モードのままにしておくと、車高がかわり車両に体が挟まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）

車速やハンドルの動きに合わせて、ホイールが切れる角度を調整します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS・VGRS を総合的に制御します。
すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・エンジン出力・ハンドル操作力・タイヤの切れる角度などを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

◆ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

→ P. 259

◆ 後方プリクラッシュセーフティシステム★

→ P. 269

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

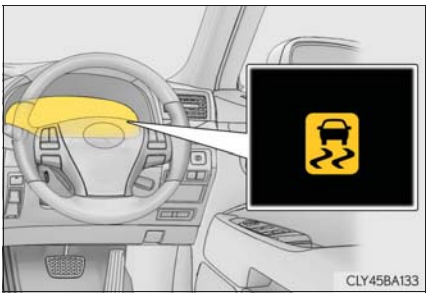
◆ BSM（ブラインドスポットモニター）★

→ P. 272

TRC・VSC・ABS・ヒルスタートアシストコントロールが作動しているとき

TRC・VSC・ABS・ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時、制動灯とハイマウントストップランプが点灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

TRC や VSC を停止するには

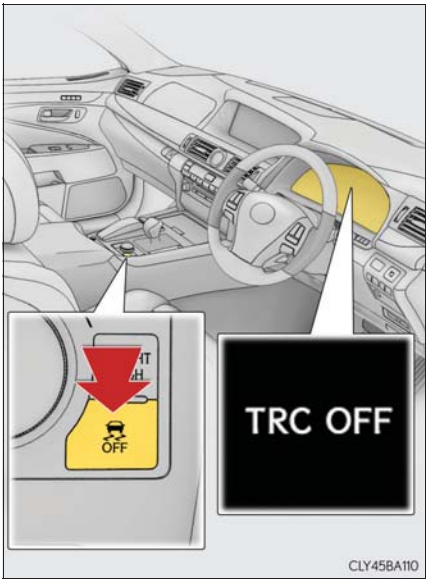
ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。
このようなときに VSC OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

■ TRC を停止するには

TRC を停止するにはスイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

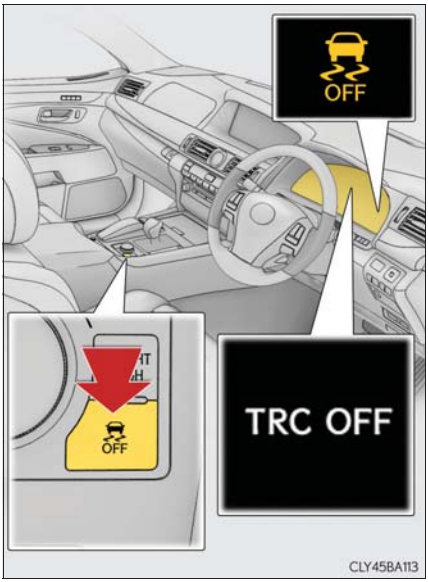


■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時にスイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。※

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。



※ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）装着車は、警報ブレーキ・プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します」と表示されます。（→ P. 259）

知識

■VSC　OFF スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC およびヒルスタートアシストコントロールが作動できない状態になっています。レクサス販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

- システムが車両の後退を検知したとき
- シフトレバーが P・R および N 以外の位置にあるとき
- ブレーキペダルが踏まれていないとき

■VGRS の作動が停止する場合

次の状況では VGRS が作動を停止することがあります。この場合、直進時のハンドル位置がずれることがありますが、システムの復帰と共にもとにもどります。

●停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けたとき

●ハンドルをいっぱいに切った状態で長く力をかけ続けたとき

●バッテリーの充電が不十分、または電圧が一時的に下がったとき

これらの状況が改善されれば、システムは復帰します。

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・VGRS の作動音と振動

●エンジン始動時や発進直後、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

●エンジン始動時や停止時にハンドルがわずかに動いたり、小さな音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン”という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にした場合でも、エンジン停止後に再始動すると、自動的に TRC と VSC は作動可能状態にもどります。

■TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPSの効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。※その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

※ その際、LKA（レーンキーピングアシスト）が作動できない場合もあり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないと判断された

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

警告

■**TRC の効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■**ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき**

ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面では、ヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

■**スリップ表示灯が点滅しているとき**

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■**TRC や VSC を OFF にするとき**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■**タイヤを交換するとき**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・銘柄・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 391, 487）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

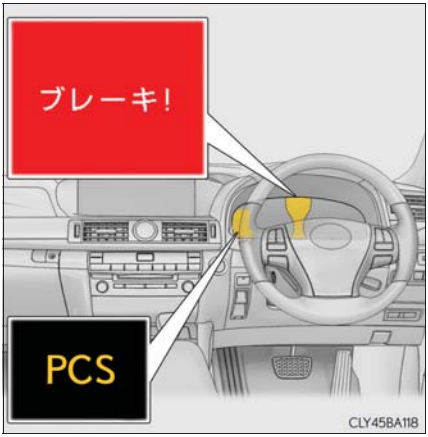
PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★

センサーにより、前方の車両や障害物と衝突の可能性があると判断したときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、衝突回避を支援、あるいは乗員や車両への衝撃の軽減に寄与します。

◆ 衝突警告表示

衝突の可能性が高いと検知したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに衝突警告表示を出し、回避操作をうながします。

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを使って、衝突警告表示の ON ／ OFF を切りかえることができます。



◆ プリクラッシュシートベルト（フロント席）

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。
また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→ P. 35）

◆ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いときに警告灯・警告表示・ブザー音で警報を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突速度を低減します。

プリクラッシュブレーキにより停止した場合、最大 2 秒間ブレーキが保持され、その後ブレーキが自動で解除されます。停止後は、アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏むことでもプリクラッシュブレーキを解除できます。

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを使って、プリクラッシュブレーキの ON ／ OFF を切りかえることができます。

◆ サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いと判断したとき、サスペンションの減衰力を制御して、急ブレーキ時に車両前部が沈み込むのを抑えます。

◆ ステアリングギヤ比コントロール（カメラセンサー装着車）

衝突の可能性が高いとき、VGRSによってステアリングギヤ比を変化させ、ハンドル操作に対する応答性を高めます。

◆ ドライバーモニター★

衝突の可能性があり、かつ運転者が正面を向いていない、または運転者の眼が閉じていると判断した場合に、より早い段階で警報し、早期に危険を知らせます。さらに衝突の可能性が高まり、作動条件（→ P. 264）を満たした場合は、警報ブレーキが作動します。

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを使って、警報ブレーキの ON ／ OFF を切りかえることができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

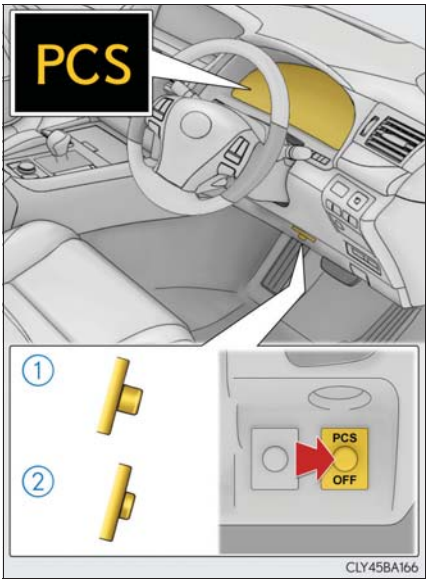
プリクラッシュブレーキの切りかえ

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを押すことにより、衝突警告表示・プリクラッシュブレーキ・警報ブレーキ（ドライバーモニター装着車）の ON ／ OFF を切りかえることができます。

① ON

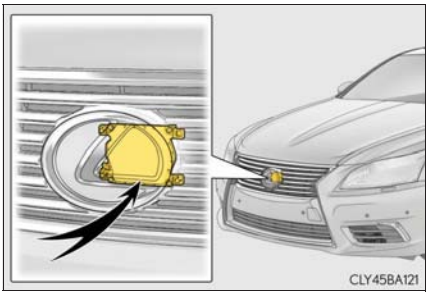
② OFF

OFF にすると PCS 警告灯が点灯します。



レーダーセンサー

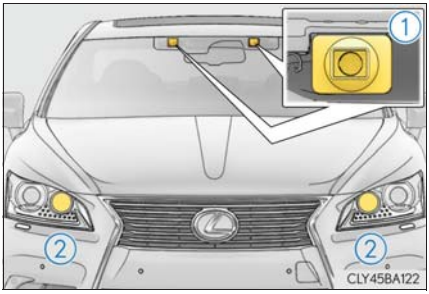
走行中に路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、その位置や速度・進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。



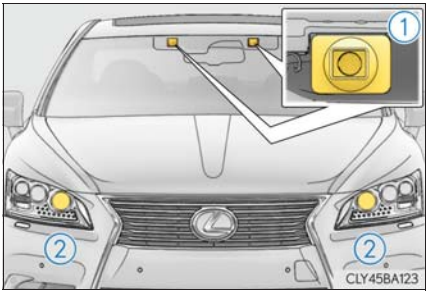
カメラセンサー★

レーダーセンサーに加え、走行中に路上またはその付近の歩行者など立体物を検知します。
ヘッドランプ点灯時には近赤外線を照射し、夜間の検出性能の確保に寄与します。

▶ ディスチャージヘッドランプ装着車



▶ LED ヘッドランプ装着車

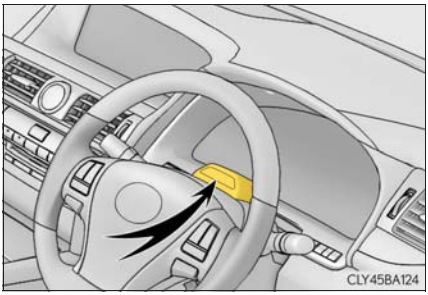


① カメラセンサー

② 近赤外線投光器

ドライバーモニター用カメラ★

運転者の顔の向きと眼の開閉状態を検知し、正面を向いていない、または眼を閉じている状態をシステムが判断します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■システムの作動条件

●衝突警告表示の作動条件：

▶カメラセンサー非装着車
・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
・車速が約 15km/h 以上
・自車から見た先行車や障害物の接近速度が約 15km/h 以上

▶カメラセンサー装着車
・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
・車速が約 5km/h 以上
・自車から見た先行車や障害物の接近速度が約 5km/h 以上

●プリクラッシュシートベルトの作動条件①：
・車速が約 30km/h 以上
・急ブレーキや車両の横すべりを判断したとき
・フロント席の乗員がシートベルトを着用している

●プリクラッシュシートベルトの作動条件②：
・車速が約 5km/h 以上
・自車から見た先行車や障害物との接近速度が約 30km/h 以上
・フロント席の乗員がシートベルトを着用している

●プリクラッシュブレーキアシストの作動条件：
・VSC OFF スイッチが押されていないとき
・車速が約 30km/h 以上
・自車から見た先行車や障害物との接近速度が約 30km/h 以上
・ブレーキペダルが踏まれているとき

●プリクラッシュブレーキの作動条件：

▶カメラセンサー非装着車
・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
・VSC OFF スイッチが押されていないとき
・車速が約 15km/h 以上
・自車から見た先行車や障害物との接近速度が約 15km/h 以上

▶カメラセンサー装着車
・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
・VSC OFF スイッチが押されていないとき
・車速が約 5km/h 以上
・自車から見た先行車や障害物との接近速度が約 5km/h 以上

●サスペンションコントロールの作動条件：
・車速が約 5km/h 以上
・自車から見た先行車や障害物との接近速度が約 30km/h 以上

●ステアリングギヤ比コントロールの作動条件（カメラセンサー装着車）：
・車速が約 30km/h 以上
・自車から見た先行車や障害物との接近速度が約 30km/h 以上

●警報ブレーキの作動条件（ドライバーモニター装着車）：
・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
・VSC OFF スイッチが押されていないとき
・運転者が正面を向いていない、または眼を閉じていると判断したとき
・車速が約 40km/h 以上
・自車から見た先行車との接近速度が約 40km/h 以上
・車両直進状態

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

センサーの前方がさえぎられる次のような場合、システムが衝突の可能性があると判断し、作動することがあります。

●カーブまたは右左折時に対向車とすれ違ったとき

●車両前方の障害物（前方車両・ETC ゲートなど）に急速に接近したとき

●上り坂を走行中など進行方向の道路上方に構造物（看板・低い天井・蛍光灯など）があるとき

●幅が狭い、または天井の低い場所（橋・トンネル・高架下など）を通過するとき

●凹凸のある路面を走行するとき

●路面上に金属物、段差または突起物があるとき

●車高が極端に変化しているとき

●センサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき

●カーブの入り口の道路脇に障害物（ガードレールなど）があるとき

●水蒸気や煙のかたまりを通過したとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に停止してシートベルトをはずし、再度装着してください。

■レーダーセンサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物・二輪車・木・雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■カメラセンサーが検知しない場合（カメラセンサー装着車）

●太陽光など強い光がレンズに直接あたっているとき

●悪天候などで視界が悪いとき

●センサーの温度が非常に高いとき

●トンネル内や夜間など、周囲が暗い状況でヘッドランプをつけていないとき

■システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しない場合があります。

●きついカーブや起伏がある場所

●交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況

●自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況

●雨・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

●VSC が OFF で車が横すべりの状態

●車高が極端に変化しているとき

●前方の車両や障害物への部分的な衝突や接触をする状況

●レーダーセンサー周辺への強い衝撃などにより、レーダーセンサーの向きがずれているとき

●前方の障害物が小さいとき

●運転者の操作（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）から、運転者が衝突回避操作をしたとシステムが判断したとき

■システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）では、システムの動作が自動的に解除されます。このような場合には、衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■システムに異常があるとき

PCS 警告灯が点滅し、警告メッセージが表示されます。（→ P. 429, 434）

警告

■**安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

本システムは衝突の回避を支援、あるいは衝突の被害を軽減することを目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件（→ P. 263, 264, 265）によりかわります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。また、プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりすると、その操作状態によっては運転者の回避操作と判断され、自動ブレーキが作動しない場合があります。

■**レーダーセンサーの取り扱い**

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
  お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
  センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない
- 純正品以外の部品に交換しない
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。

警告

■**カメラセンサーの取り扱い（カメラセンサー装着車）**

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。

●フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
雨滴・結露・氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。

●カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない

●カメラの向きは厳密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない

●フロントウインドウガラスが曇ったときはフロントデフロスターでガラスの曇りを取る
寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えます。

●ダッシュボードの上にものを置かない
フロントウインドウガラスに写り込んだ映像で検出性能が低下する場合があります。

●カメラのレンズをよごしたり、傷をつけたりしない

●カメラセンサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーなどを貼らない

■**ヘッドランプについて（カメラセンサー装着車）**

●近赤外線の投光量を確保するため次のことをお守りください。
・ヘッドランプは、いつもきれいにしておく
・ハイビームの光軸がずれていたり、点灯しないときは検出性能が低下する場合があります。

●近赤外線投光器は、目に見えない強いエネルギーを照射します。通常、停車時には照射していませんが、安全のためにのぞき込まないでください。

■**顔向き／眼の開閉判定について（ドライバーモニター装着車）**

次のときは正常に顔向き／眼の開閉判定ができない場合があります。

●カメラと顔のあいだにさえぎるものがあるとき
（カメラの前にものを置くなど）

●顔の一部が隠れる状況

●太陽光などの強い光が、直接顔やカメラにあたる状況

●正しい運転姿勢をしていないとき

●停車中

警告

■ドライバーモニター用カメラの取り扱い（ドライバーモニター装着車）

ドライバーモニターの効果を発揮できるように次のことをお守りください。
お守りいただかないと、故障の原因になったり、顔向き／眼の開閉判定ができないおそれがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●カメラを改造したり、傷付けたり、持ち上げたり、引っぱったりしない

●走行中はカメラをさわらない

●カメラをぬらしたり、飲料水をかけたりしない

●カメラにものを落としたり、ぶつけたり、衝撃を与えない

●カメラ前面部に傷・汚れ・シール貼りなどがないようにする

●カメラ前面部の前にものを置いたり、覆ったりしない

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」・「判断する」・「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

●運転者が見る過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良時の運転を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の可能性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

注意

■ドライバーモニター用カメラのお手入れ時の注意（ドライバーモニター装着車）

●傷を付けないよう、やわらかい布で軽くふいてください。

●汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよくしぼってふき取り、その後、乾いた布でふいてください。

●ベンジン・シンナー・ガラスクリーナー・ワックスなどを使用しないでください。

後方プリクラッシュセーフティシステム★

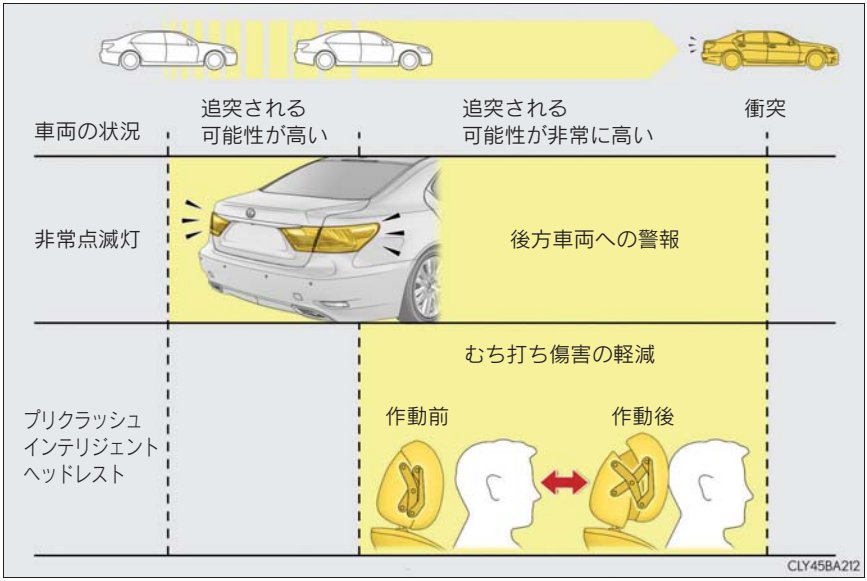
追突を予測して、後方車両への注意喚起とむち打ち傷害の軽減に寄与するシステムです。

◆ 後方車両への警報（非常点滅灯）

追突の可能性があると判断したときに非常点滅灯を作動させ、後方車両に注意をうながします。

◆ むち打ち傷害の軽減（プリクラッシュインテリジェントヘッドレスト※）

後方車両が接近し、追突される可能性が非常に高いと判断したときにフロントヘッドレスト内のセンサーにより頭部位置を検出し、追突前にプリクラッシュインテリジェントヘッドレストを適切な位置まで移動させ、追突された際のむち打ち傷害の軽減に寄与します。

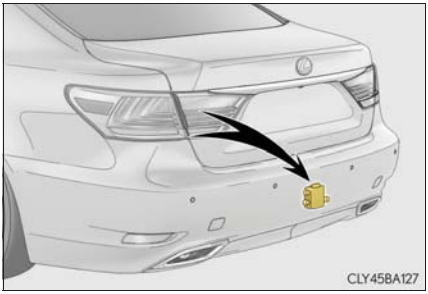


※ 可倒式ヘッドレスト装着車：運転席のみ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

レーダーセンサー

後方から接近するものを検知し、その位置や速度、進路から追突する可能性を事前に判断します。



知識

■システムの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードで、自車線内の後方車両が追突する可能性があるときに次の条件で作動します。

●後方車両への警報（非常点滅灯）：
・ 自車から見た後方車の接近速度が約 15km/h 以上
・ 停止時または前進時でブレーキを踏んでいる
・ 方向指示灯や非常点滅灯が OFF

●むち打ち傷害軽減（プリクラッシュインテリジェントヘッドレスト）：
・ 自車から見た後方車の接近速度が約 15km/h 以上
・ 停止または前進している

■むち打ち傷害軽減システムについて

帽子をかぶっていたり、髪をうしろで束ねたりしているとき、プリクラッシュインテリジェントヘッドレストが適切な位置に停止できないことがあります。

■センサーが検知しにくい場合

後方プリクラッシュセーフティシステムは、すべての追突を検知できるシステムではありません。次のときは作動しない場合がありますので、周辺への注意を怠らないでください。

●車両姿勢が極端に変化しているとき

●二輪車などは検知しないことがあります

●雨滴・氷雪がリヤバンパーに付着したとき

●カーブや起伏の大きな道路のとき

●ななめからの追突やオフセットの大きな追突のとき

■追突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

●右左折などで停車したときなどに、自車の真うしろを後続車が通過したとき

●道路脇に停車したときなどに、後続車が真横を通過したとき

●走行時、後続車が近距離から追い越したとき

●走行時または停車時、後続車が近距離まで急接近したとき

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。(→P. 429, 434)

警告

■レーダーセンサーとリヤバンパーの取り扱い

後方プリクラッシュセーフティシステム装着車のリヤバンパーはレーダーセンサーの電波透過性に影響します。システムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。

●リヤバンパーは常にきれいにしておく
雨滴・氷雪などによって性能が低下することがあります。

●レーダーセンサー周辺では強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー・またはその周辺に強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、修理してください。

●センサーを分解しない

●センサーの裏に貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解・改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

●リヤバンパー中央部にトーイングヒッチやバイクホルダーを付けたり、保護フィルムやステッカーを貼ったりしない

●リヤバンパーの改造や別のものに交換しない

●リヤバンパーの塗装修理についてはレクサス販売店に相談してください。

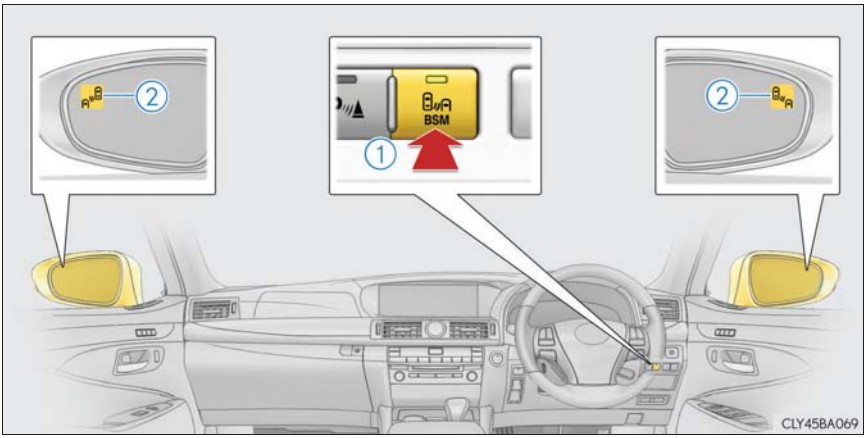
■プリクラッシュインテリジェントヘッドレストの取り扱い

レクサス純正品以外のヘッドレストカバーはつけないでください。

BSM（ブラインドスポットモニター）★

ブラインドスポットモニターは、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

レーダーセンサーにより、隣の車線のドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによって車両の存在を知らせます。



① BSM メインスイッチ

押すごとに ON ／ OFF が切りかわり、ON のときはスイッチ上のインジケーターが点灯します。

② ドアミラーインジケーター

死角領域に車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。

また、方向指示レバーを操作した際に死角領域に車両がいたときは、ドアミラーインジケーターが点滅します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブラインドスポットモニターが検知できる範囲

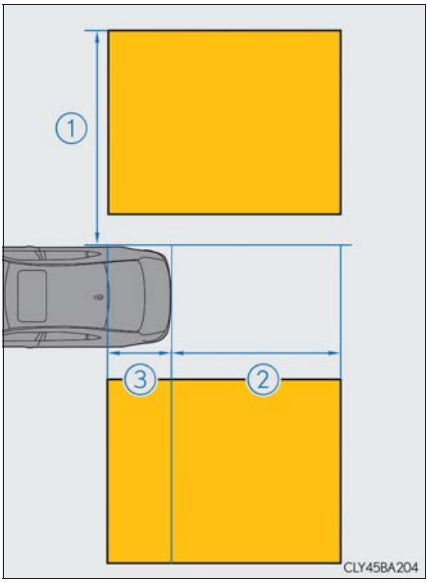
死角領域となる、次の範囲に入った車両を検知します。

① 車両側面から外側に約 3.5m

車両側面から外側に約 0.5m は検知しません

② 車両後端から後方に約 3m

③ 車両後端から前方に約 1m



知識

■ **ブラインドスポットモニターの作動条件**

BSM メインスイッチが ON の状態で、車速が約 16km/h 以上のとき

■ **センサーが車両を検知する条件**

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■センサーが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●小型の二輪車、自転車、歩行者など※

●対向車

●ガードレール、壁・標識・駐車車両などの静止物※

●同じ車線を走行する後続車※

●2 つ隣の車線を走行する他車※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ブラインドスポットモニターが有効に作動しないおそれがある状況

●次のような状況では有効に検知しないおそれがあります。
・ 大雨・霧・雪などの悪天候時
・ 氷雪・泥等がリヤバンパーに付着したとき
・ 水たまりなど濡れた路面を走行するとき
・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道を走行しているとき
・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
・ 車線の幅が広く、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
・ 自車線と隣車線の高さに差があるとき
・ BSM メインスイッチを ON にした直後

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
・ ガードレールや壁等との距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・ 後続車との車間距離が短いとき
・ 車線の幅が狭く、2 つ隣の車線を走行する他車が検知範囲に入ったとき
・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■システムに異常があるときは

次のような原因で異常が検知されたときは、警告表示でお知らせします。
(→ P. 434)

●センサーが故障しているとき

●センサーが汚れているとき

●極めて高温または低温の環境での使用

●電圧異常

警告

■**安全にお使いいただくために**

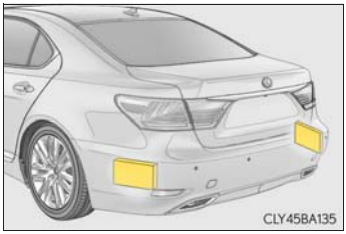
安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ブラインドスポットモニターは、死角に入った車両の存在をドライバーに提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認をおこなう必要があります。

■**レーダーセンサーの取り扱い**

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両後部に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●センサー周辺のバンパーは常にきれいにしておく



●センサー周辺のバンパーへの強い衝撃を避ける

センサーの位置がずれると、検知範囲に入った車両を検知できないなど、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のバンパーにステッカーを貼らない

●センサーやセンサー周辺のバンパーを改造しない

●センサーやセンサー周辺のバンパーを塗装しない

●本製品は各国の電波法に適合しています。製品に貼られているシールはその証明ですので、剥がさないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 204-350006

ナイトビュー（歩行者検知機能付）★

ナイトビューは、夜間の走行を補助するシステムです。

夜間に肉眼では見えにくい前方の歩行者・障害物・道路状況を、投光器から照射した近赤外線の反射光をカメラで撮影・映像化して、ナビゲーション画面に表示します。

また、歩行者検知機能により歩行者の位置を強調表示※します。**（→ P. 277）**

※ 周囲の状況によっては強調表示しないことがあります。

ナイトビュー画面の表示のしかた

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 ヘッドランプを点灯する

3 ナイトビュースイッチを押す

ナビゲーション画面にナイトビュー画面が表示されます。

もとにもどすには再度スイッチを押します。

ライトセンサー（→ P. 204）が周囲の明るさの状態から夜と判断していないときは、ナイトビュースイッチを押してもナイトビュー画面は表示できません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

歩行者検知機能について

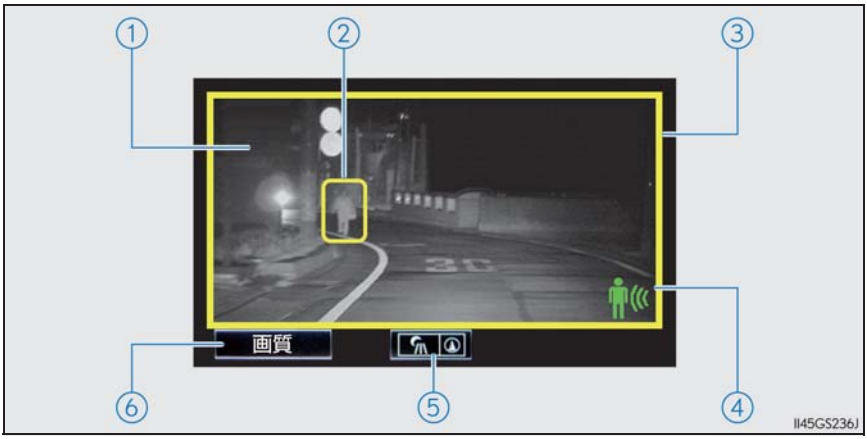
映像から歩行者を検知すると、次のように表示することにより運転者に注意をうながします。

- 画面が 3 回白く点滅する
- 歩行者の位置を黄色の枠で表示する（歩行者検知枠）
- 画面の輪郭を黄色の枠で表示する（注意喚起枠）

歩行者検知機能は、ナイトビュー作動中で車速が約 15 ～ 80km/h のとき、作動します。

ナイトビュー画面表示について

■ メイン画面表示（→ P. 295）



① ナイトビュー画面

歩行者を検知すると 3 回白く点滅します。

② 歩行者検知枠

・ 歩行者を検知すると注意喚起枠と共に表示されます。
・ 検知された人数分の歩行者検知枠が表示されます。
・ 歩行者が検知されなくなると注意喚起枠と共に表示が消えます。

③ 注意喚起枠

・ 歩行者を検知すると歩行者検知枠と共に表示されます。
・ 歩行者が検知されなくなると歩行者検知枠と共に表示が消えます。

④ 歩行者検知作動インジケーター

歩行者を検知可能かどうかアイコンで知らせます。

：作動中

：非作動中

⑤ サイド画面表示切りかえスイッチ

ナイトビューをメイン画面で表示しているとき、リモートタッチを使って選択するとサイド画面を地図表示に変更できます。(→ P. 292)
再度スイッチを選択すると、もとの表示画面にもどります。

⑥ 画質調整表示切りかえスイッチ

リモートタッチを使って選択すると表示画面の明るさを調整できます。

「明」：明るくする

「暗」：暗くする

■ **サイド画面表示**

ナイトビューをメイン画面に表示中、他の画面をメイン画面に表示すると、ナイトビュー画面はサイド画面に表示されます。

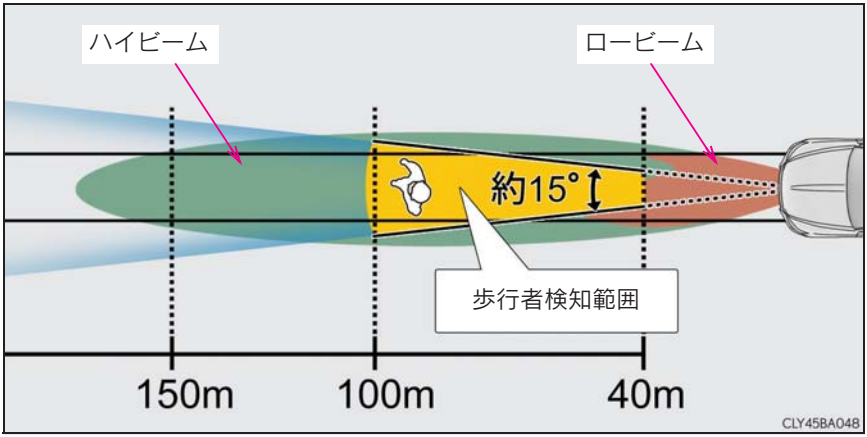
① ナイトビュー画面

メイン画面と同様に、歩行者検知枠・注意喚起枠・歩行者検知作動インジケーターが表示されます。
(→ P. 278)

② メイン画面表示スイッチ

ナイトビューを、サイド画面表示からメイン画面表示へ切りかえます。

ナイトビューが映し出せる範囲



■ 映像化できる範囲

ヘッドランプのロービーム照射範囲の先から、ハイビーム照射範囲の先までです。

■ 歩行者検知の範囲

車両前方約 15°以内、距離は約 40 ～ 100m のあいだまでです。

車両の速度に応じて検知範囲はかわります。

知識

■歩行者検知機能が作動しない環境

●ワイパーが連続で作動したとき

●周囲の明るさが一定以上のとき
ナイトビュー画面を表示可能な周囲の明るさと、歩行者検知機能が作動する周囲のの明るさは異なるため、ナイトビュー画面が表示されても歩行者検知機能が作動しないことがあります。

■ナイトビュー作動中で車速が約 15km/h 以下のとき

近赤外線が照射されなくなるため、ナイトビュー画面に映像は表示されますが、映像化できる範囲や距離に制限があります。

■ナイトビューが作動可能なとき以外にナイトビュースイッチを押したとき

ナビゲーション画面にアドバイス情報が表示されます。表示されたアドバイスに従ってください。

■ナビゲーションシステムの起動完了前

ナビゲーションシステムの起動完了前にナイトビュースイッチを押しても、ナイトビュー画面は表示できません。

■ナイトビュー作動中にシフトレバーを R にしたとき

ナイトビュー画面は次のように切りかわります。

メイン画面：バックガイドモニター画面に切りかわります。
サイド画面：黒色になり映像は表示されません。

警告

■ナイトビューをお使いになる前に

ナイトビューを過信しないでください。
ナイトビューは、夜間走行中に見えにくい前方の道路状況、歩行者認知を補助するものです。機能には限界がありますので、使用する場合は次の警告内容をお守りいただいた上で、安全運転に心がけてください。

■ナイトビュー画面について

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●通常の目視のかわりに、ナイトビュー画面のみを見て運転しないでください。

●運転中にナイトビュー画面を見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。ナイトビューはあくまで運転の補助として使用してください。

●ナイトビューは夜間のカーブの少ない道路を走行するときに運転者の視覚を補助するためのものです。坂道やカーブの多い場所、市街地では使用しないでください。道路形状（カーブの大きさ・勾配など）により表示できない場所があります。

●ナイトビューはすべてのものを明るく映像化できるわけではありません。全体が暗く映ったり、一部が見えにくくなることがあります。ナイトビューを過信せずに、ナイトビューを装着していない車と同様、必ず周囲の安全を確認しながら慎重に運転してください。

映像に映りにくいもの：
・特定の素材の衣類（本革ジャケットなど）
・看板の文字
・道路案内板の情報など

映像が映りにくい状況：
・雨・霧・降雪・吹雪などの悪天候時
・雨上がりの水たまりなど路面反射が大きいとき
・カメラ前面のフロントウインドウが曇っているとき・汚れているとき・氷結しているとき
・ヘッドランプ付近に氷・雪・泥などが付着しているとき
・著しくバッテリーの電圧が低下しているとき
・対向する強い光源が前方にあるとき

警告

■**注意喚起枠について**

注意喚起枠は、ナイトビューの歩行者検知機能が歩行者を検知したときに表示され、運転者に注意を促すものです。

●注意喚起枠が表示された場合は、前方に歩行者がいるおそれがあるため、周囲の安全を十分に確認して運転してください。

●注意喚起枠が出ても、ナイトビュー画面を見続けないでください。前方の危険を見落とすおそれがあります。

●天候や道路状況、歩行者の状況により注意喚起するタイミングが遅くなり、歩行者との距離が近くなる場合があります。注意喚起枠が出た場合は、まず直接周囲の安全を十分に確認して運転してください。

●わき見運転の状態では機能を発揮できません。

■**歩行者検知機能について**

歩行者検知機能には限界があります。機能作動状態でも、次のような歩行者を検知できないおそれのある状況では作動しないことがあります。

●映像が映りにくい状況
・雨・霧・降雪・吹雪などの悪天候時
・ワイパー作動中および間欠作動時（ワイパー低速作動、高速作動中は歩行者検知機能を停止）
・カメラ前面のフロントウインドウが曇っているとき、汚れているとき、氷結しているとき
・ヘッドランプ付近に氷・雪・泥などが付着しているとき
・著しくバッテリーの電圧が低下しているとき

など

●カーブや坂道・勾配のある道では、前方に歩行者がいても検知できない場合があります。

●街路灯・照明・対向車の強いランプなど、強い光のある状態では検知しない場合があります。

●自車の前方に歩行者が飛び出したときは、正しく検知できない場合があります。

●歩行者検知範囲内でも、ガードレール・街路樹・柱・停車車両などで歩行者の体の一部が隠れている場合は検知できません。

警告

- 歩行者検知機能は、近赤外線カメラの映像の中から明暗の差・形状・大きさで歩行者を判断しているため、機能には限界があります。また次の場合は、正しく検知できない場合があります。

  体型・姿勢の影響：
  - 寝ている人、しゃがんでいる人
  - 身長 1m 以下、または 2m 以上の人
  - 連れだって歩く複数の人（ナイトビュー画面で重なって見える場合）
  - 横向きに立っている人
  - 手を上げている人

  衣服の影響：
  - 上下で反射率が大きく異なる服を着た人
  - 近赤外線カメラで暗く映るような近赤外線の反射率の低い服（本革ジャケットなど）を着た人
  - コートや着物などで手足のシルエットのような特徴が出にくい服装の人
  - 反射材のタスキなどを身に付けた人

  持ち物の影響：
  - 傘をさしている人
  - 大きな荷物・かばんなどを持っている人

  その他：
  - 自転車に乗った人、自転車を押している人
  - ベビーカーを押している人
  - 車いすの人・車いすを押している人

  など

- 動物は検知しません。
- 歩行者検知機能は、近赤外線カメラの映像の中から明暗の差・形状・大きさで歩行者を判断しているため、人の形に似ているものがあった場合、誤認識することがあります（看板・植木・テールランプなど）。

警告

■**近赤外線投光器について**

ナイトビューの故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。

●ヘッドランプ付近の汚れはナイトビューの性能に影響を与えます。汚れている場合は洗車などを行ってください。

●ディスチャージヘッドランプ装着車：近赤外線投光器の電球はハイビームの電球も兼用しており、電球切れをおこすことがあります。ハイビームも使用できなくなるため、電球切れをおこした場合は新しい電球に交換してください。

●近赤外線投光器は目に見えない強いエネルギーを照射します。通常、停車時では近赤外線は照射されませんが、安全のため、近くで長時間のぞきこまないようにしてください。

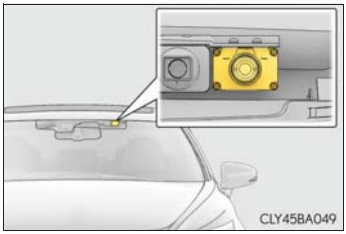
▶ディスチャージヘッドランプ装着車

▶LED ヘッドランプ装着車

警告

■**近赤外線カメラについて**

ナイトビューの故障や誤作動を避けるために、次のことをお守りください。



- フロントウインドウガラスは、いつもきれいにしておく
  雨滴・結露・氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。内側の汚れが気になる場合は、ガーニッシュの脱着が必要なためレクサス販売店にご相談ください。
- カメラに強い衝撃や力を加えない、または分解しない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない
- フロントウインドウガラスが曇ったときはフロントデフロスターでガラスの曇りを取る
  寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントウインドウガラスの上部が曇り、映像に影響を与えます。
- カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
- カメラのレンズ前のフロントウインドウガラスにシールなどを貼らない

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→ P. 388）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

● 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●後 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う

●取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

警告

■**冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

●LKA（レーンキーピングアシスト）★を使用しない

■**タイヤチェーン装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

●LKA（レーンキーピングアシスト）★を使用しない

■**駐車時の警告**

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■タイヤチェーンの使用について

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■タイヤを修理・交換するとき

レクサス販売店へご依頼ください。
タイヤの取り付け・取りはずしはタイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。
（タイヤについての詳しい説明は P. 388 を参照してください）

■タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

■フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するとき

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備・機能 5

5-1. リモートタッチ／ナビゲーション画面

リモートタッチ／12.3 インチディスプレイ 292

5-2. レクサスクライメイトコンシェルジュ

レクサスクライメイトコンシェルジュ 297

5-3. エアコン・デフォッガーの使い方

フロントオートエアコン..... 298

リヤオートエアコン..... 314

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター 321

フロントワイパーデアイサー 322

5-4. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 323

・インテリアランプ 324

・パーソナルランプ 325

5-5. 収納装備

収納装備一覧 327

・グローブボックス 329

・コインホルダー 330

・ドアポケット 330

・カップホルダー 331

・コンソールボックス 333

・クールボックス・小物入れ.....334

・小物入れ.....337

トランク内装備 340

5-6. その他の室内装備の使い方

サンバイザー／バニティミラー 343

時計.....345

灰皿.....346

シガレットライター.....347

アクセサリーソケット／アクセサリーコンセント.....349

ステアリングヒーター.....353

コンフォータブル・エアシート 355

アームレスト 359

テーブル 360

リヤサンシェード 362

リヤドアサンシェード.....365

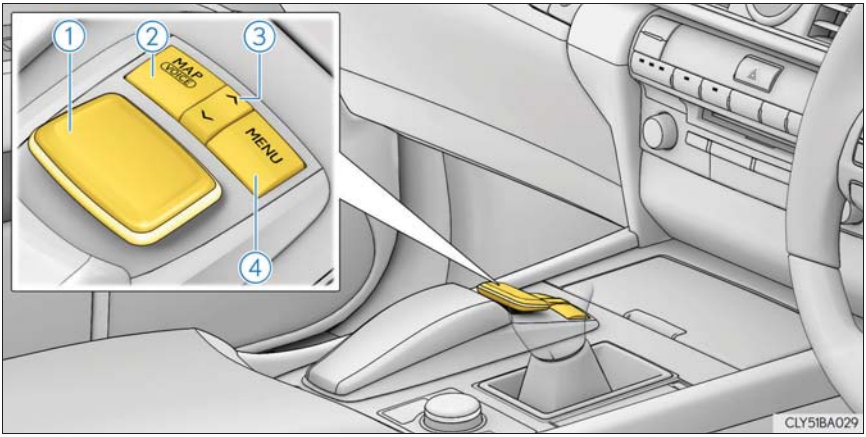
トランクスルー 368

コートフック 370

アシストグリップ 371

リモートタッチ／ 12.3 インチディスプレイ

リモートタッチを使って、ナビゲーション画面の操作・設定ができます。
詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



① リモートタッチノブ

画面上のスイッチを選択または決定します。

② MAP スイッチ

現在地を表示したり、もう一度音声案内を聞くことができます。

③ ∧・∨スイッチ

地図縮尺やフルブラウザコンテンツなどを表示拡大／縮小したり、リスト画面でページを切りかえることができます。

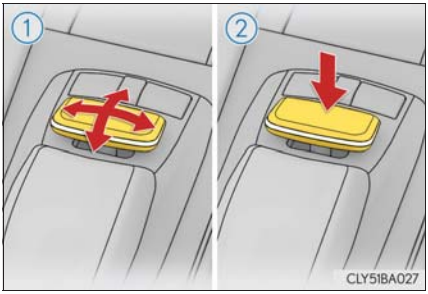
④ MENU スイッチ

メニュー画面を表示します。

リモートタッチの操作

① 選択する：リモートタッチノブを操作して、ポインタをスイッチに合わせる

② 決定する：リモートタッチノブを押す



知識

■低温時の画面表示について

外気温が極めて低いときは、リモートタッチを操作しても画面の反応が遅れることがあります。

警告

■リモートタッチを操作するとき

- リモートタッチノブに指をはさんだり髪の毛を引っかけるなどして、思わぬけがをするおそれがあります。
- 環境によってリモートタッチが熱くなる、または冷たくなり、持てなくなることがあります。

注意

■リモートタッチの損傷を防ぐために

- リモートタッチに飲料水や雨水などをかけないでください。変色などの原因になります。
- リモートタッチの上に乗ったり、ものを上に置かないでください。ノブが曲がったり、折れたりするおそれがあります。
- リモートタッチにコインやコンタクトレンズなどの異物が挟まると、操作できなくなります。
- リモートタッチノブに衣服など挟んだり、巻き込んだりするおそれがあります。
- エンジンスイッチをアクセサリーモードにしたとき、リモートタッチノブの上に手またはものが置かれていると、正しく作動しないおそれがあります。

12.3 インチディスプレイ

■ 全画面表示

オープニング画面やメニュー画面は、表示エリアの全てに一画面で表示します。

スイッチ	機能
	目的地を設定する
	情報画面を表示する（→ P. 91, 92）
	設定・編集画面を表示する
	エアコン操作画面を表示する（→ P. 299）
	デジタルテレビを表示する
	オーディオ操作画面を表示する
「画質・消」	画質調整画面を表示する

■ 分割画面表示

異なる情報を左右に並べて表示します。たとえば地図画面を表示したまま、オーディオやエアコン、燃費情報などの画面を並べて表示したり操作することができます。

画面左側の広い表示エリアをメイン画面、右側の狭い表示エリアをサイド画面と呼びます。

■ 操作したい画面の選択

サイド画面を選択するには、リモートタッチノブを右に操作しメイン画面とサイド画面の間に が表示されたら、さらにノブを右に操作します。

メイン画面を選択するには、リモートタッチノブを左に操作しメイン画面とサイド画面の間に が表示されたら、さらにノブを左に操作します。

メイン画面を選択すると、サイド画面は暗くなります。

■ **サイド画面**

サイド画面に表示される機能には、次のものがあります。

▶ 基本画面

① オーディオ

② エアコン（→ P. 301）

③ 車両情報（→ P. 94）

サイド画面では表示されない詳細情報の表示・操作をするには、メイン画面に表示します。

、または を選択してください。

▶ 割り込み画面

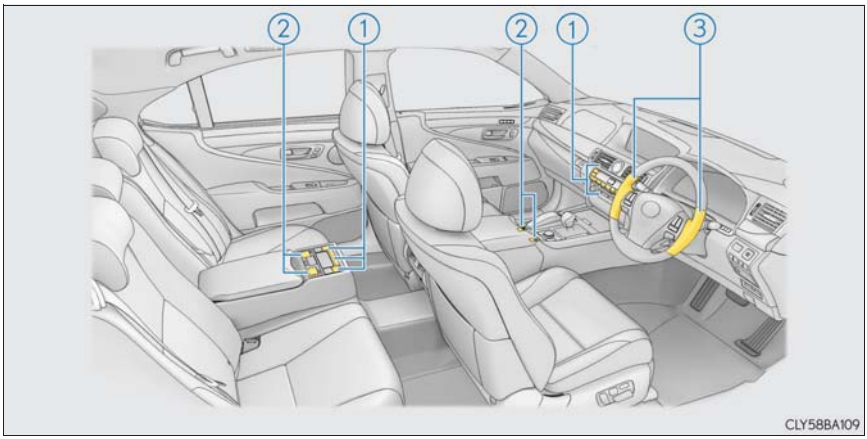
次の各画面が状況に応じて自動的に表示されます。

・クリアランスソナー
・ハンズフリー
・オーナーズデスク
・ドライブモード (→ P. 247)
・ナイトビュー★ (→ P. 279)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

レクサスクライメイトコンシェルジュ

エアコンの設定温度、外気温、車室内温度などに応じて、各席のコンフォータブルエアシート★、ステアリングヒーターがそれぞれ自動制御されます。各システムの調整の手間を省き、快適な状態を維持するよう制御します。



① エアコン（→ P. 302, 315）
オート設定にします。

運転席・助手席及び後席左右★の設定温度を別々に調整することができます。

② コンフォータブルエアシート★（→ P. 355, 356）
各席でオート設定にします。

エアコンの設定温度・外気温などに応じて、暖房・OFF・送風・冷房が自動的に切りかわります。

③ ステアリングヒーター（→ P. 353）
外気温、車室内温度に応じて自動で作動します。

最大約 30 分後に OFF します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

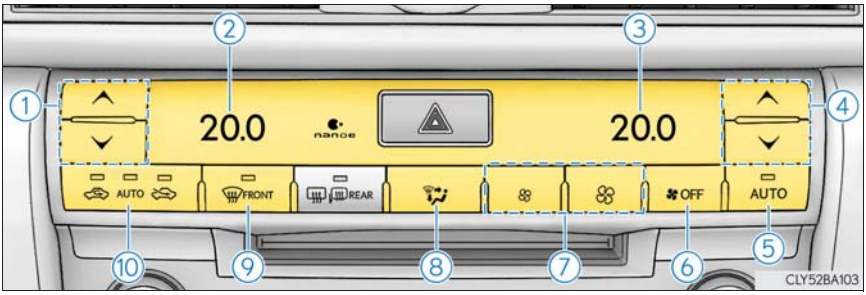
フロントオートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リモートタッチのMENUスイッチを押し、を選択するとエアコン操作画面が表示されます。(→ P. 292)

エアコン操作画面は、サイド画面に表示し操作することもできます。(→ P. 295)

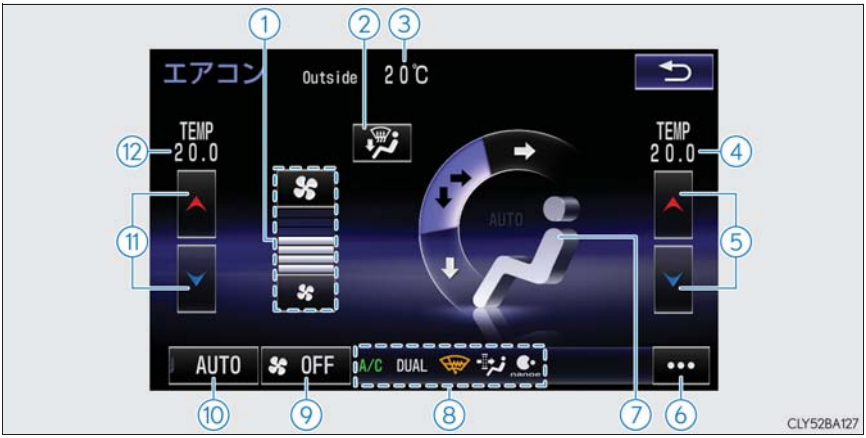
■ 操作スイッチ



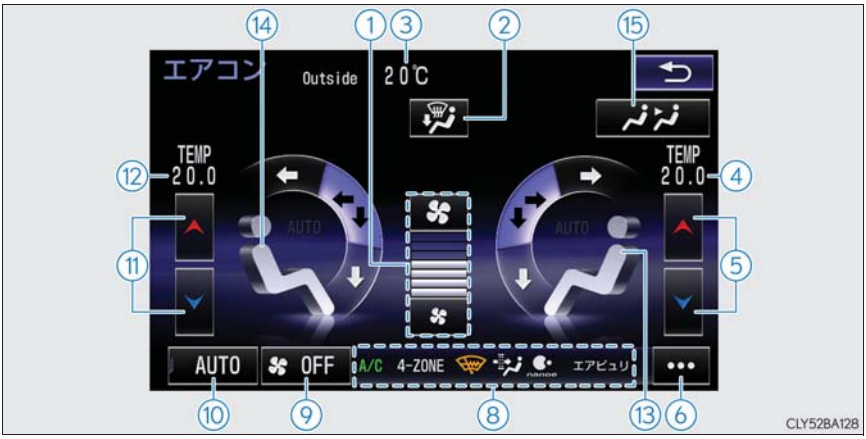
① 助手席側温度調整スイッチ
② 助手席側設定温度表示
③ 運転席側設定温度表示
④ 運転席側温度調整スイッチ
⑤ AUTO スイッチ
⑥ OFF スイッチ
⑦ 風量調整スイッチ
⑧ 吹き出し口切りかえスイッチ
⑨ フロントデフロスタースイッチ
⑩ 内外気切りかえスイッチ

■ エアコン操作画面（メイン画面）

▶ 左右独立コントロールエアコン装着車



▶ 4 席独立コントロールエアコン装着車



① 風量調整
② フロントデフロスター／足元送風
③ 外気温表示
④ 運転席側設定温度表示
⑤ 運転席側温度調整
⑥ オプション操作画面
⑦ 前席吹き出し口切りかえ
⑧ オプション機能 ON/OFF 表示灯
⑨ OFF
⑩ AUTO
⑪ 助手席側温度調整
⑫ 助手席側設定温度表示
⑬ 運転席側吹き出し口切りかえ
⑭ 助手席側吹き出し口切りかえ
⑮ 後席設定

■ オプション操作画面

▶ 左右独立コントロールエアコン装着車

▶ 4 席独立コントロールエアコン装着車

① A/C

② DUAL/4-ZONE

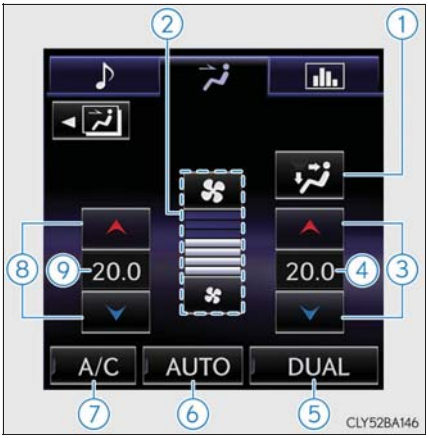
③ 花粉除去

④「ナノイー」

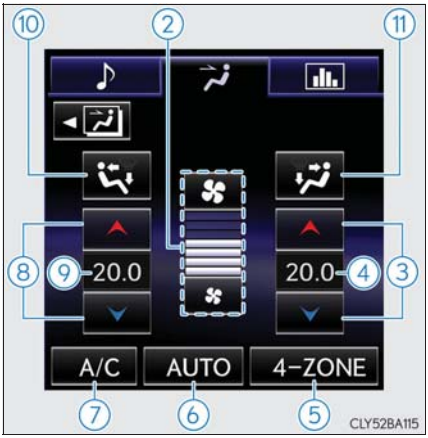
⑤ エアピュリファイヤー（空気清浄器）

■ エアコン操作画面（サイド画面）

▶ 左右独立コントロールエアコン装着車



▶ 4 席独立コントロールエアコン装着車



① 前席吹き出し口切りかえ
② 風量調整
③ 運転席側温度調整
④ 運転席側設定温度表示
⑤ DUAL/4-ZONE
⑥ AUTO
⑦ A/C
⑧ 助手席側温度調整
⑨ 助手席側設定温度表示
⑩ 助手席側吹き出し口切りかえ
⑪ 運転席側吹き出し口切りかえ

オートエアコンを使うには

1 AUTO スイッチを押す、またはエアコン操作画面の「AUTO」を選択する

エアコンが作動し、吹き出し口と風量が自動で調整されます。

2 AUTO モードになるまで を押す

外気導入と内気循環を自動で切りかえます。

3 （増）または （減）を押す、またはエアコン操作画面の （増）または （減）を選択して希望の温度に合わせる

▶左右独立コントロールエアコン装着車

オプション操作画面で「DUAL」を選択する（表示灯点灯）または助手席側の設定温度を変更すると、運転席と助手席の設定温度を別々に調整することができます。

設定温度に応じて、吹き出し口が左右別々に切りかわることがあります。

コンフォータブル・エアシートがオート設定のときは、エアコンの設定温度・外気温などに応じてコンフォータブル・エアシートも自動で作動します。

▶4 席独立コントロールエアコン装着車

オプション操作画面で「4-ZONE」を選択する（表示灯点灯）または助手席側の設定温度を変更すると、運転席と助手席および後席左右の設定温度を別々に調整することができます。(→ P. 314)

設定温度に応じて、吹き出し口が左右別々に切りかわることがあります。

コンフォータブル・エアシートがオート設定のときは、エアコンの設定温度・外気温などに応じてコンフォータブル・エアシートも自動で作動します。

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

お好みの設定で使うとき

▶ 左右独立コントロールエアコン装着車

1 風量を調整するには、（増）または（減）を押す、またはエアコン操作画面の（増）または（減）を選択する

送風を止めるには を押す、またはエアコン操作画面の「OFF」を選択します。

2 設定温度をかえるには、（増）または（減）を押す、またはエアコン操作画面の（増）または（減）を選択する

「DUAL」を選択するごとに独立モード・連動モードが切りかわります。

オプション操作画面で「DUAL」を選択する（表示灯点灯）または助手席側の設定温度を変更すると、運転席と助手席の設定温度を別々に調整することができます。

コンフォータブル・エアシートがオート設定のときは、エアコンの設定温度・外気温などに応じてコンフォータブル・エアシートも自動で作動します。

3 を押す、またはエアコン操作画面で選択して吹き出し口を切りかえる

▶ 4 席独立コントロールエアコン装着車

1 風量を調整するには、（増）または（減）を押す、またはエアコン操作画面の（増）または（減）を選択する

送風を止めるには を押す、またはエアコン操作画面の「OFF」を選択します。

2 設定温度をかえるには、（増）または（減）を押す、またはエアコン操作画面の（増）または（減）を選択する

「4-ZONE」を選択するごとに独立モード・連動モードが切りかわります。

オプション操作画面で「4-ZONE」を選択する（表示灯点灯）または助手席側の設定温度を変更すると、運転席と助手席および後席左右の設定温度を別々に調整することができます。(→ P. 314)

コンフォータブル・エアシートがオート設定のときは、エアコンの設定温度・外気温などに応じてコンフォータブル・エアシートも自動で作動します。

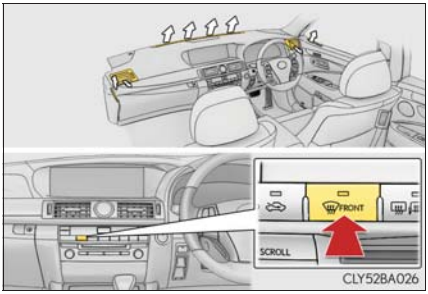
3 を押す、またはエアコン操作画面で選択して吹き出し口を切りかえる

① 助手席側

② 運転席側

運転席と助手席の吹き出し口を別々に切りかえることができます。

フロントウインドウガラスの曇りを取るには



FRONT を押す

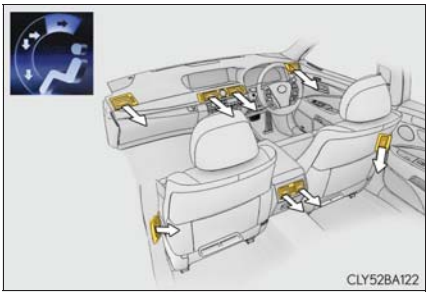
除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

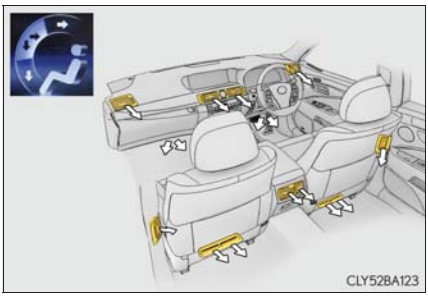
曇りが取れたら再度 FRONT を押すと前のモードにもどります。

吹き出し口と送風について

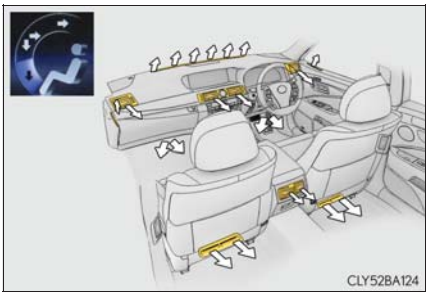
上半身に送風



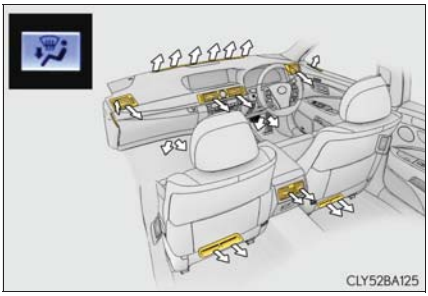
上半身と足元に送風



足元に送風



足元に送風・ガラスの曇りを取る



外気導入・内気循環を切りかえるには

を押す

スイッチを押すごとに、内気循環→ AUTO モード→外気導入に切りかわります。

AUTO モードを選択するとエアコンが作動します。

エアピュリファイヤー（空気清浄器）★

車室内の空気を清浄します。

1 エアコン操作画面の ••• を選択する

2 「エアピュリ」を選択する

選択するごとに作動・非作動が切りかわります。

停止時は作動表示灯が消灯し、ルーフとルーフサイド吹き出し口からの送風も停止します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤエアコンを操作する（4 席独立コントロールエアコン装着車）

■ オート設定で使用する

1 エアコン操作画面の を選択する

2 「REAR AUTO」を選択する

エアコンとエアピュリファイヤーが作動し、吹き出し口と風量が自動で調整されます。

設定温度・外気温に応じてリヤコンフォータブル・エアシートも自動で作動します。（→ P. 355）

CLY52BA136

3 （増）または （減）を選択して希望の温度に合わせる

設定温度に応じて、吹き出し口が左右別々に切りかわることがあります。

リヤコンフォータブル・エアシートがオート設定のときは、エアコンの設定温度・外気温などに応じてリヤコンフォータブル・エアシートも自動で作動します。

■ 温度を調整する

1 エアコン操作画面の を選択する

2 （増）または （減）を選択する

後席の温度を調整すると独立モードに切りかわります。

① 後席左側

② 後席右側

CLY52BA137

「4-ZONE」を選択するごとに独立モード・連動モードが切りかわります。

リヤコンフォータブル・エアシートがオート設定のときは、エアコンの設定温度・外気温などに応じてリヤコンフォータブル・エアシートも自動で作動します。

■ 風量を調整する（エアピュリファイヤー、ルーフとルーフサイド吹き出し口）

1 エアコン操作画面の を選択する

2 （増）または （減）を選択する

選択した吹き出し口のモードによって、吹き出し口またはエアピュリファイヤーからの風量が調整されます。（→ P. 318）

■ リヤエアコンを停止する

1 エアコン操作画面の を選択する

2 REAR OFF を選択する

エアピュリファイヤーとリヤコンフォータブル・エアシートも停止します。

■ リヤコントロールパネルの操作を禁止する

1 エアコン操作画面の を選択する

2 「後席操作禁止」を選択する

リヤコンフォータブル・エアシートの操作もできなくなります。

花粉を除去する

1 エアコン操作画面の を選択する

2 を選択する

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

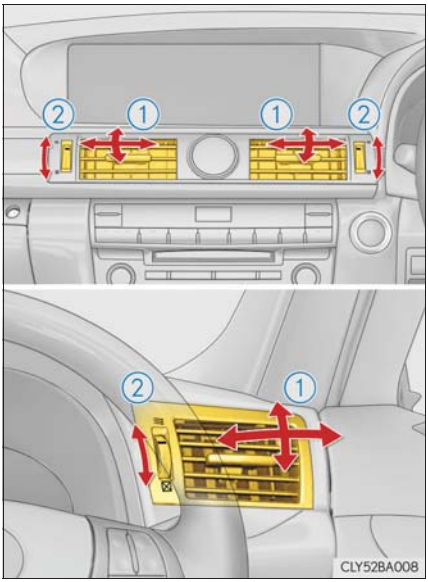
車室内の花粉が除去されると、自動的に通常制御にもどります。（通常は約 3 分、外気温が低いときは約 1 分後に通常制御にもどります。）

風向きの調整と吹き出し口の開閉

■ 中央吹き出し口・左右吹き出し口

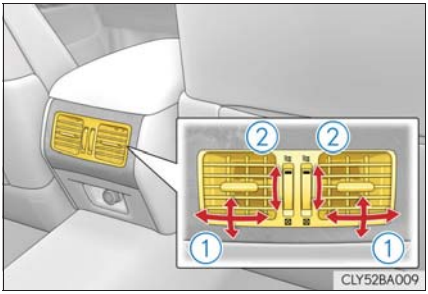
① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉

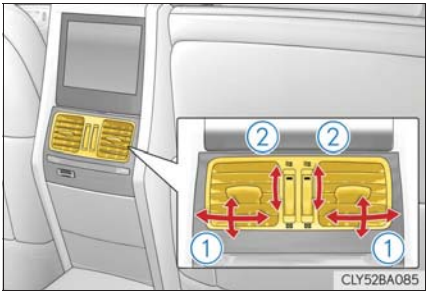


■ センターコンソール背面

▶ センターコンソール付後席ディスプレイ非装着車



▶ センターコンソール付後席ディスプレイ装着車



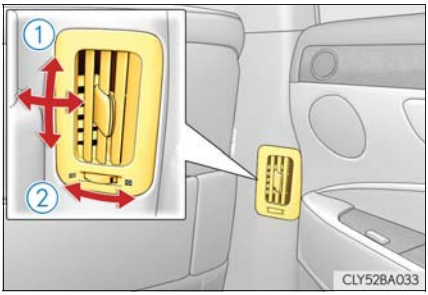
① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉

■ リヤサイド吹き出し口

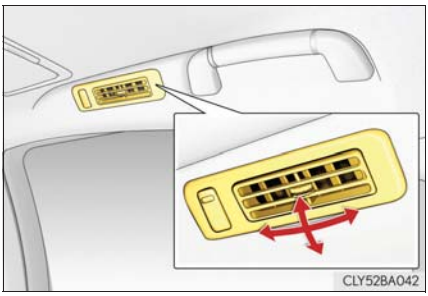
① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉



■ ルーフサイド吹き出し口（4 席独立コントロールエアコン装着車）

風向きの調整



知識

■エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

●エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。

●オート設定での使用時、送風の風量を抑制します。

空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。

●風量を調整する

●エコドライブモードを解除する

エコドライブモード時のエアコン制御を通常走行モードと同じ制御に変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 489）

■オート時の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、次のようなことがあります。

●AUTO スイッチまたはエアコン操作画面の「AUTO」を ON にした直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する

●暖房時、冷風を上半身付近に送風する

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、「A/C」を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●「A/C」を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度により、自動的に切りかわる場合があります。

■内外気切りかえの AUTO モードについて

AUTO モードでは、排気ガスなどの有害成分を検知し、自動で外気導入と内気循環を切りかえます。

エアコンがOFFで送風が作動中にAUTOモードにすると、エアコンがONになります。

■花粉除去モードについて

●外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために次のような制御をする場合があります。
・内気循環に切りかわらない
・除湿機能が作動する
・約 1 分後に作動が停止する

●雨天時は窓が曇るため、

を押してください。

●湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

●花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■エアピュリファイヤー（空気清浄器）（4 席独立コントロールエアコン装着車）

リヤエアコンを作動させるとエアピュリファイヤーも作動します。

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

「A/C」を選択しても除湿機能が働かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■「ナノイー」※1 について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は中央吹き出し口の運転席側を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、車室内を爽やかな空気環境に導きます。※2

●オプション操作画面の「ナノイー」が ON のときに送風が作動すると、「ナノイー」が作動します。

●送風作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が 、 、または のとき

・中央吹き出し口の運転席側が開いているとき

●作動中は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

・「ナノイー」発生装置が作動するまでに多少時間がかかることがあります。

・作動直後は作動音が大きい場合があります。

※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2 車室内環境（温度・湿度）、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■エアコンフィルターについて

→ P. 399

■カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したときの除湿連動機能や排ガスセンサー感度などを設定できます。(カスタマイズ一覧：→ P. 489)

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、 を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■「ナノイー」について

「ナノイー」発生装置は高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

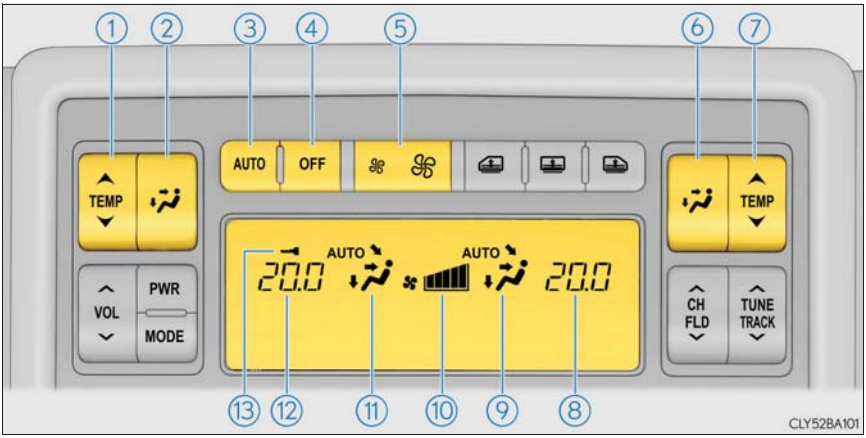
エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■「ナノイー」発生装置の損傷を防ぐために

中央吹き出し口の運転席側近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。「ナノイー」発生装置が正常に働かなくなるおそれがあります。

リヤオートエアコン★

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。



① 後席左側温度調整スイッチ
② 後席左側吹き出し口切りかえスイッチ
③ AUTO スイッチ
④ OFF スイッチ
⑤ 後席風量調整スイッチ
⑥ 後席右側吹き出し口切りかえスイッチ
⑦ 後席右側温度調整スイッチ
⑧ 後席右側設定温度表示
⑨ 後席右側吹き出し口表示
⑩ 後席風量表示
⑪ 後席左側吹き出し口表示
⑫ 後席左側設定温度表示
⑬ ボタンロック表示

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートエアコンを使うには

1 AUTO スイッチを押す

エアコンが作動し、吹き出し口と風量が自動で調整されます。

ディスプレイに「AUTO」と表示されます。

2 設定温度を上げるときは「TEMP」の∧を、下げるときは∨を押す

左右の温度を別々に調整することができます。

設定温度に応じて、吹き出し口が左右別々に切りかわることがあります。

リヤコンフォータブル・エアシートがオート設定のときは、エアコンの設定温度・外気温などに応じてリヤコンフォータブル・エアシートも自動で作動します。

お好みの設定で使うとき

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは「TEMP」の∧を、下げるときは∨を押す

左右の温度を別々に調整することができます。

リヤコンフォータブル・エアシートがオート設定のときは、エアコンの設定温度・外気温などに応じてリヤコンフォータブル・エアシートも自動で作動します。

■ 吹き出し口を切りかえる

を押す

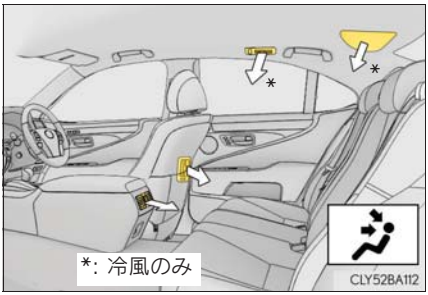
押すごとに吹き出し口のモードが切りかわります。

左右の吹き出し口を別々に切りかえることができます。

選択した吹き出し口のモードに従って、次のように送風されます。

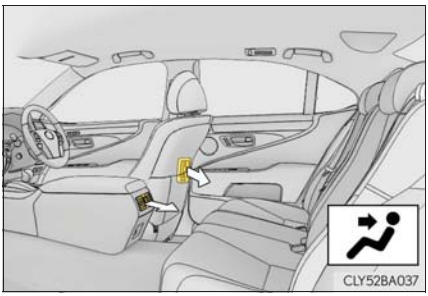
▶ ナビゲーション画面の「エアピュリ」の作動表示灯が点灯しているとき

上半身に送風

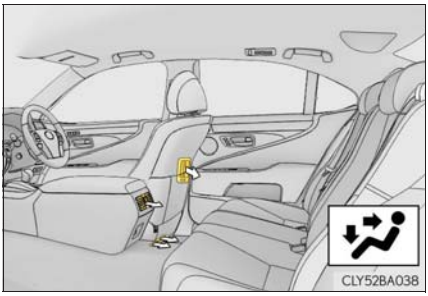


▶ ナビゲーション画面の「エアピュリ」の作動表示灯が消灯しているとき

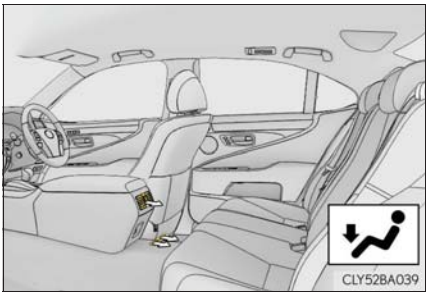
上半身に送風



上半身と足元に送風



足元に送風



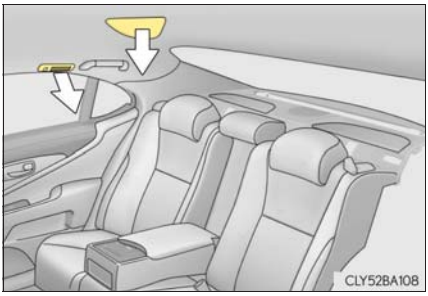
■ 風量を調整する

選択した吹き出し口のモードによって、吹き出し口またはエアピュリファイヤーからの風量を調整できます。

の （増）または （減）を押す

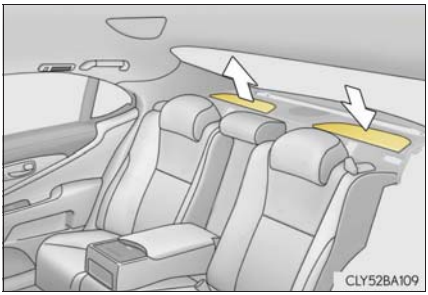
▶ 吹き出し口のモードが のとき

ルーフとルーフサイド吹き出し口からの冷風



▶ 吹き出し口のモードが 、 、 のとき

エアピュリファイヤーからの風



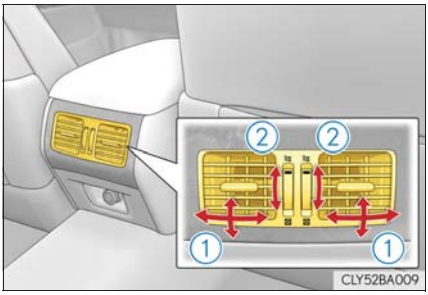
送風を止めるには、OFF スイッチを押す

エアピュリファイヤーも停止します。

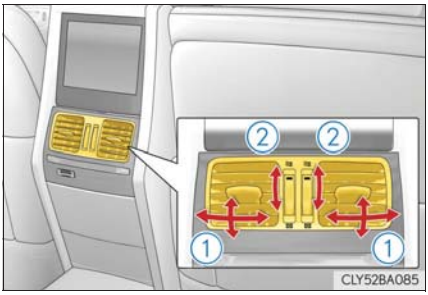
風向きの調整と吹き出し口の開閉

■ センターコンソール背面

▶ センターコンソール付後席ディスプレイ非装着車



▶ センターコンソール付後席ディスプレイ装着車



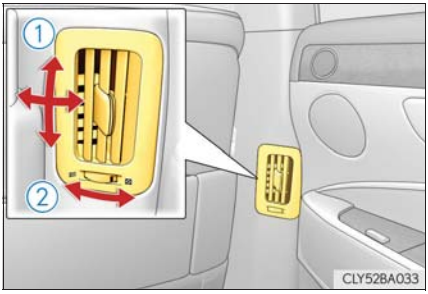
① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉

■ リヤサイド吹き出し口

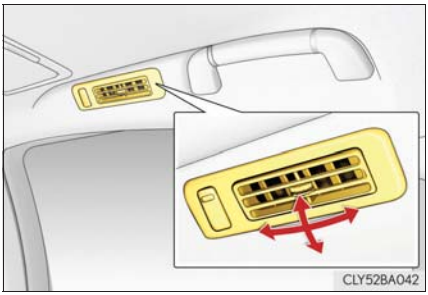
① 風向きの調整

② 吹き出し口の開閉



■ ルーフサイド吹き出し口

風向きの調整



知識

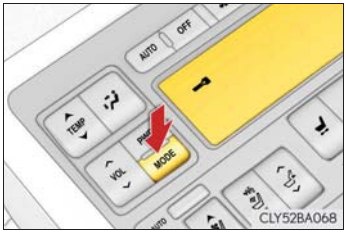
■ボタンロック機能

誤った作動を防止するために、リヤコントロールパネルでのエアコン・オーディオ・リヤサンシェード・リヤドアサンシェードの操作を禁止することができます。

ロックするには、ブザーが鳴るまで MODE スイッチを押し続ける。

もう一度ブザーが鳴るまで MODE スイッチを押し続けると解除されます。

ボタンロック中はディスプレイにインジケーターが表示されます。



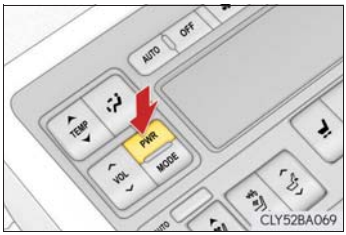
ナビゲーション画面の後席設定画面でも操作を禁止することができます。(→P. 308)

■リヤコントロールパネル照明 OFF 機能

リヤコントロールパネルの照明を消すことができます。

消灯するには、ブザーが鳴るまで PWR スイッチを押し続ける。

もう一度ブザーが鳴るまで PWR スイッチを押し続けると点灯します。



■リヤエアコンフィルターの交換について

リヤエアコンの風量が減少したりエアピュリファイヤーの脱臭効果が十分に得られないときは、エアコンフィルターを交換してください。(→P. 399)

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

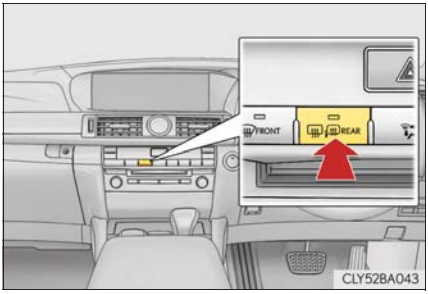
エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

ON ／ OFF を切りかえる

リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的に OFF になります。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

警告

■ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止しているときは、スイッチを OFF にしてください。

フロントワイパーデアイサー★

フロントガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

1 リモートタッチの MENU スイッチを押す (→ P. 292)

2 を選択する

3 エアコン操作画面の を選択する

4 ON ／ OFF を切りかえる

オプション操作画面の を選択するとフロントワイパーデアイサーが作動し、表示灯が点灯します。約 15 分で自動的に OFF になり、表示灯が消灯します。

フロントワイパーデアイサーを OFF にするにはもう一度 を選択します。

知識

■ **作動条件**

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

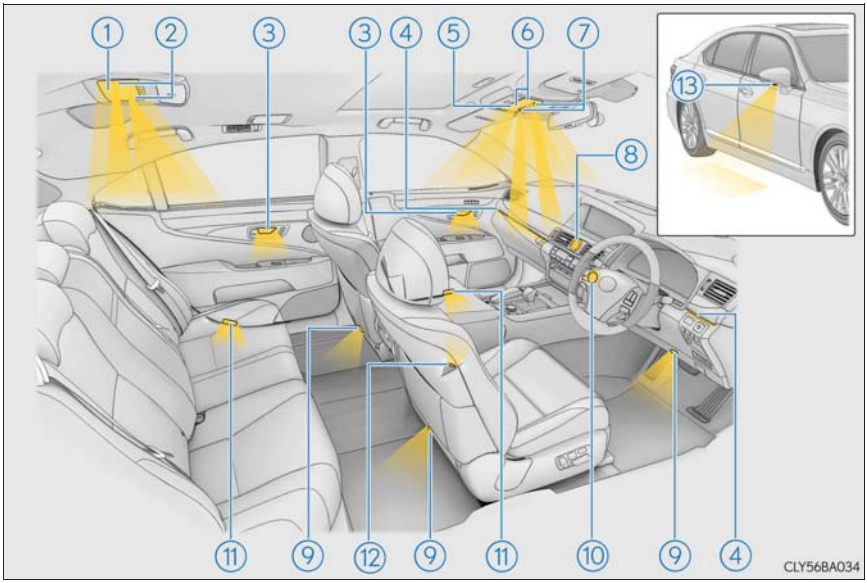
警告

■ **作動中の警告**

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

室内灯一覧



① リヤインテリアランプ
(→ P. 324)

② リヤパーソナルランプ
(→ P. 325)

③ インサイドハンドル照明

④ インストルメントパネルオーナメント照明

⑤ フロントインテリアランプ
(→ P. 324)

⑥ フロントパーソナルランプ
(→ P. 325)

⑦ シフト照明

⑧ 時計照明

⑨ 足元照明

⑩ エンジンスイッチ照明

⑪ ドアカーテシランプ

⑫ シートベルトバックル照明

⑬ ドアミラー照明

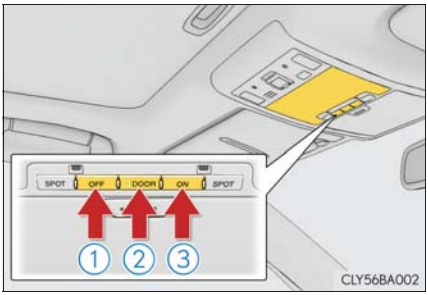
インテリアランプ

▶ フロント

① OFF（消灯）

② ドアポジション（ドア連動）ON/OFF

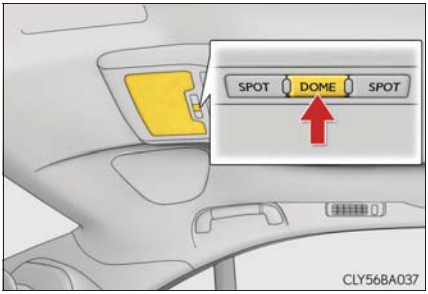
③ ON（点灯）



▶ リヤ

点灯／消灯

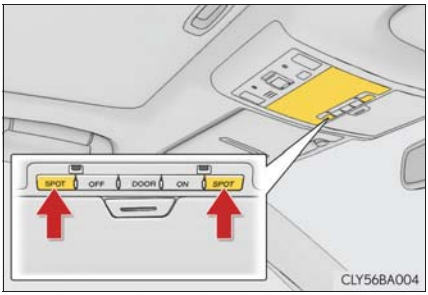
フロントインテリアランプのドアポジションが ON のときは、ドアの開閉によっても点灯、消灯します。



パーソナルランプ

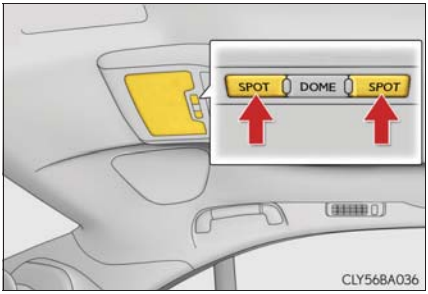
▶ フロント

点灯／消灯



▶ リヤ

点灯／消灯



知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチを OFF にしたときに、以下の室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

●インテリアランプ

●ドアカーテシランプ

●インサイドハンドル照明

●パーソナルランプ

●足元照明

●エンジンスイッチ照明

●シートベルトバックル照明

■カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 489）

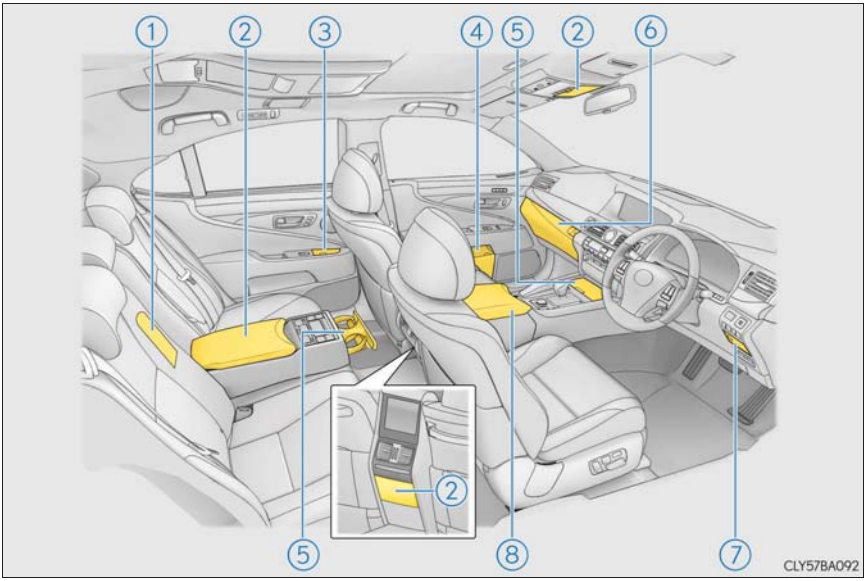
注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

収納装備一覧

▶ 5 人乗り



① クールボックス・小物入れ★ (→ P. 334)

② 小物入れ★ (→ P. 337)

③ 小物入れ★ (→ P. 337)
灰皿★ (→ P. 346)

④ ドアポケット (→ P. 330)

⑤ カップホルダー (→ P. 331)

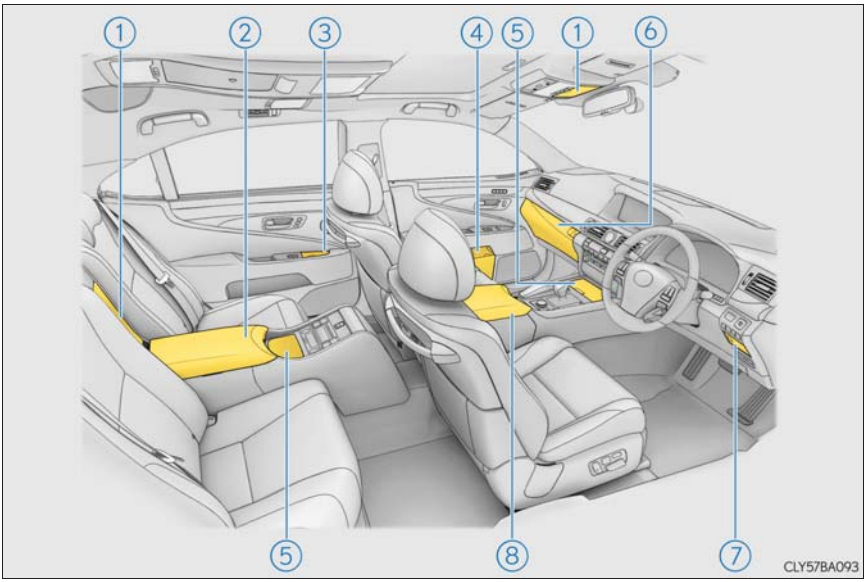
⑥ グローブボックス (→ P. 329)

⑦ コインホルダー (→ P. 330)

⑧ コンソールボックス (→ P. 333)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 4 人乗り



① 小物入れ (→ P. 337)
② クールボックス・小物入れ (→ P. 334)
③ 小物入れ★ (→ P. 337)
灰皿★ (→ P. 346)
④ ドアポケット (→ P. 330)
⑤ カップホルダー (→ P. 331)
⑥ グローブボックス (→ P. 329)
⑦ コインホルダー (→ P. 330)
⑧ コンソールボックス (→ P. 333)

警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

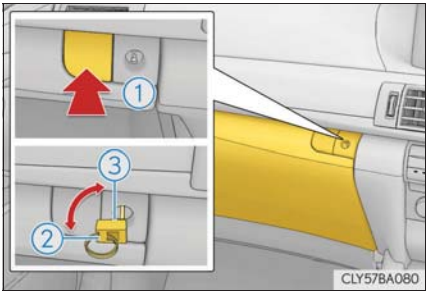
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

グローブボックス

① 開ける（ボタンを押す）
② メカニカルキーで解錠
③ メカニカルキーで施錠



知識

■グローブボックスランプ

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

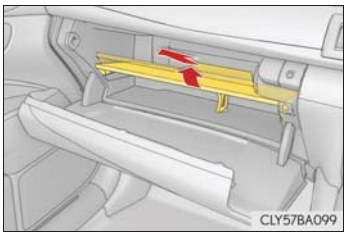
■トランクオープナーメインスイッチ

グローブボックス内に、トランクオープナーメインスイッチがあります。(→ P. 123)

■仕切り板の取りはずし

グローブボックス内の仕切り板を取りはずして使用することができます。

仕切り板の手前を持ち上げ、斜めに引き抜く。



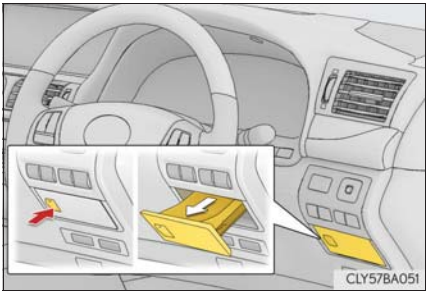
警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コインホルダー

ボタンを押す



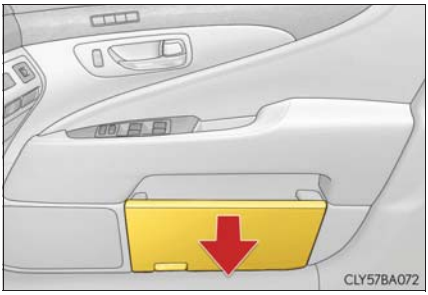
警告

■走行中の警告

コインホルダーを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたコインホルダーが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ドアポケット（フロント席）

フロントドアのドアポケットは開閉することができます。



警告

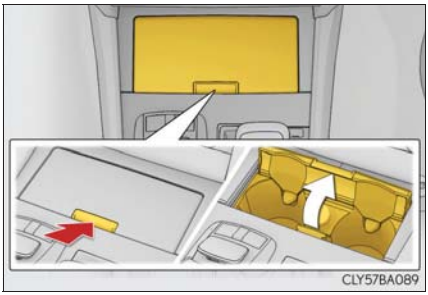
■走行中の警告

ドアポケットを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたドアポケットが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

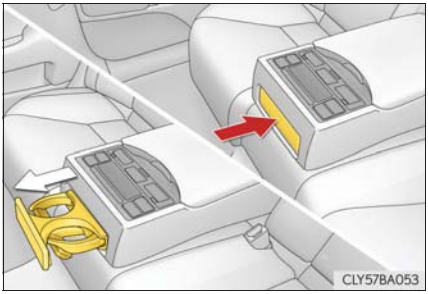
▶ フロント

カップホルダーのふたのうしろ側を押す



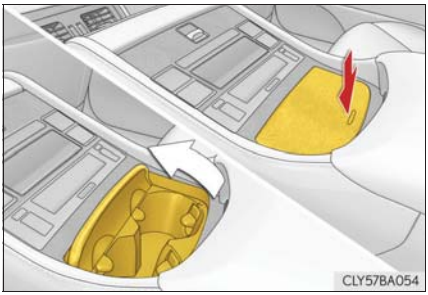
▶ リヤ（5 人乗り）

カップホルダーを押す



▶ リヤ（4 人乗り）

カップホルダーのふたのうしろ側を押す



知識

■リヤカップホルダーを収納するとき（5 人乗り）

アームレストを倒した状態で収納してください。アームレストを倒した状態にしないと、収納できません。

警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■やけどを防ぐために（シガレットライター装着車）

●フロントカップホルダー内のシガレットライターの金属部分に触れないでください。

●フロントカップホルダー内のシガレットライターを押し込んだままにしないでください。

■使わないときは

ふたを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■カップホルダーの破損を防ぐために（5 人乗り）

リヤカップホルダーが出ている状態で、リヤアームレストを格納しないでください。

■ショートや故障を防ぐために（アクセサリーソケット装着車）

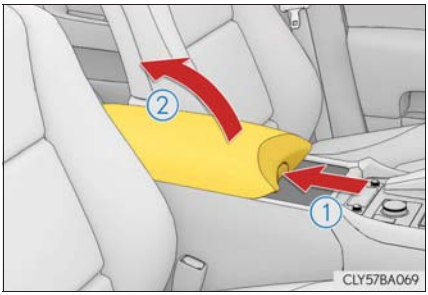
フロントカップホルダー内のアクセサリーソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはふたを閉めておいてください。

コンソールボックス

▶ 4 人乗りまたは後席 9 型ワイドディスプレイ非装着の 5 人乗り

① ボタンを押しながらアームレストをスライドさせる

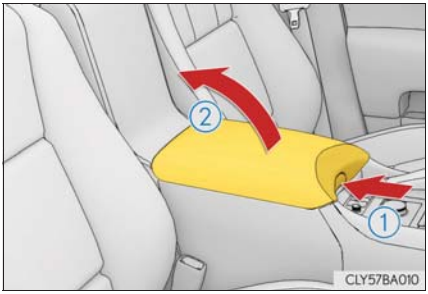
② アームレストを持ち上げる



▶ 後席 9 型ワイドディスプレイ装着の 5 人乗り

① ボタンを押す

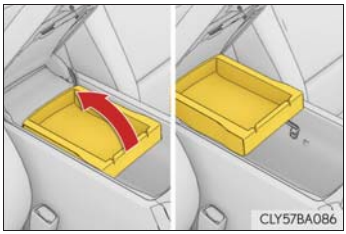
② アームレストを持ち上げる



知識

■コンソールボックス内のトレイについて（4 人乗りまたは後席 9 型ワイドディスプレイ非装着の 5 人乗り）

トレイは引き上げた状態でも使うことができます。



■開閉操作の補助機能（4 人乗りまたは後席 9 型ワイドディスプレイ非装着の 5 人乗り）

コンソールボックスの開閉を途中まで行うと、開閉操作を補助するように、操作方向に適切に力が働きます。

警告

■**走行中の警告**

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**トレイについて（4 人乗りまたは後席 9 型ワイドディスプレイ非装着の 5 人乗り）**

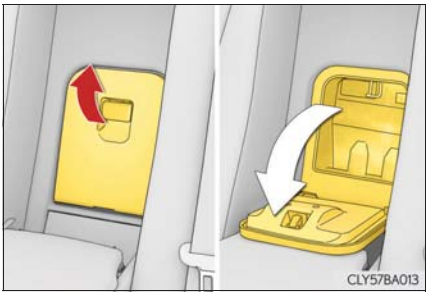
トレイの高さ以上にものを入れないでください。ふたの開閉の妨げになるおそれがあります。

クールボックス・小物入れ★

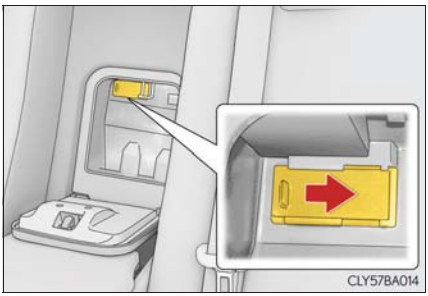
▶ 5 人乗り

1 アームレストを手前に倒す（→ P. 359）

2 レバーを引く



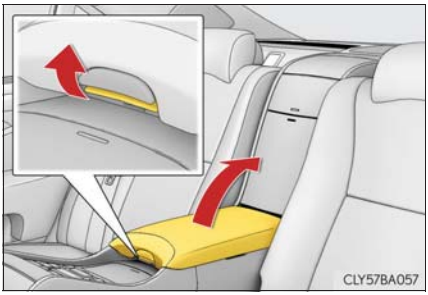
3 冷風開閉口を開ける



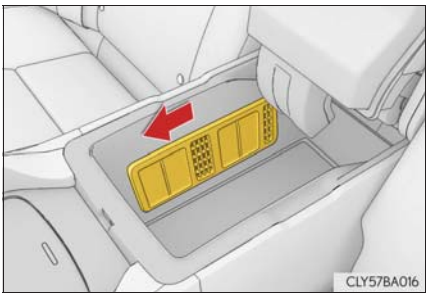
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 4 人乗り

1 レバーを引き上げてロックを解除し、アームレストを持ち上げる



2 冷風開閉口を開ける

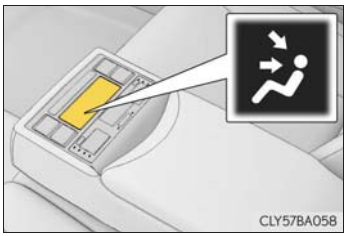


知識

■ **クールボックスの作動条件**

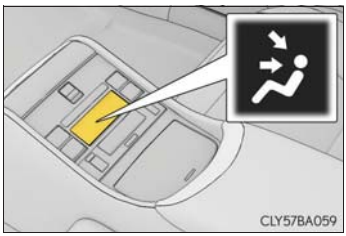
▶5 人乗り

リヤエアコン作動中、ディスプレイに が表示されているとき。



▶4 人乗り

リヤエアコン作動中、ディスプレイに が表示されているとき。



■クールボックスに入れるものとして適さないもの

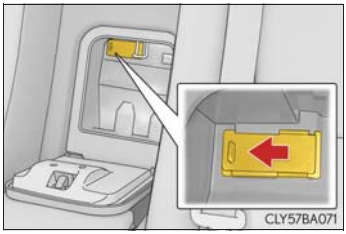
●ふたがされていない容器に入ったもの

●割れもの、腐るもの、匂いが強いもの

■クールボックスを小物入れとして使うには

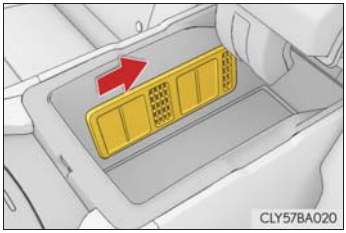
▶5人乗り

保冷機能を停止するために、冷風開閉口を閉じます。



▶4人乗り

保冷機能を停止するために、冷風開閉口を閉じます。



警告

■走行中の警告

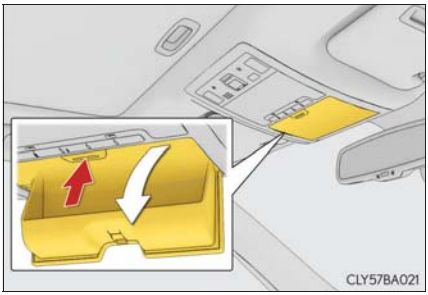
クールボックス・小物入れを開けたままにしないでください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

小物入れ

▶ 天井

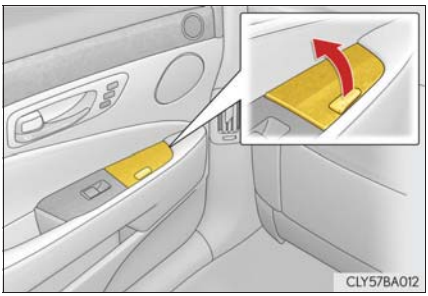
ボタンを押す

サングラスなどの小物を一時的に収納するのに便利です。



▶ リヤドア★

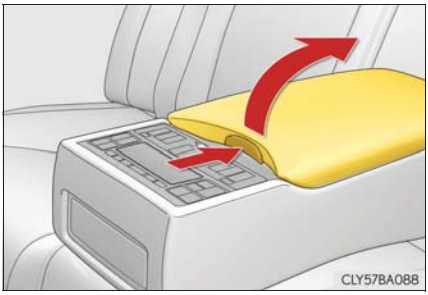
ふたを開ける



▶ リヤシート（5 人乗り）

1 アームレストを手前に倒す（→ P. 359）

2 ボタンを押して、ふたを持ち上げる

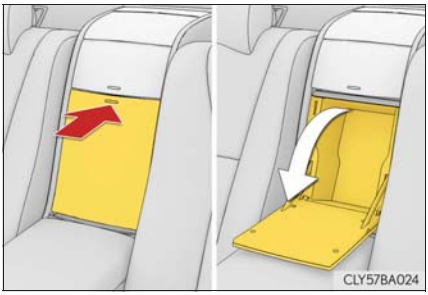


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ リヤシート（4 人乗り）

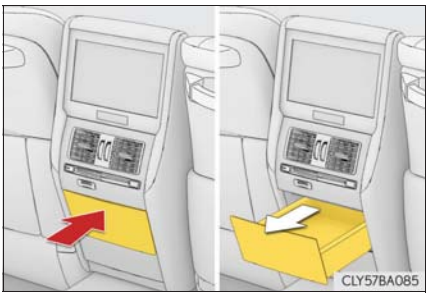
ふたの上側を押す

DVD やヘッドフォンを収納するのに便利です。



▶ コンソール背面（センターコンソール付後席ディスプレイ装着の5人乗り）

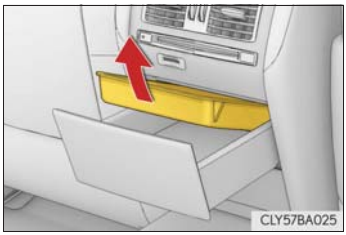
ふたを押す



知識

■ **コンソール内のトレイについて**

トレイは取りはずすことができます。



警告

■**安全にお使いいただくために（リヤドア）**

小物入れを灰皿として使用しないでください。
火災につながるおそれがあります。

■**走行中の警告**

小物入れを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**収納してはいけないもの（天井）**

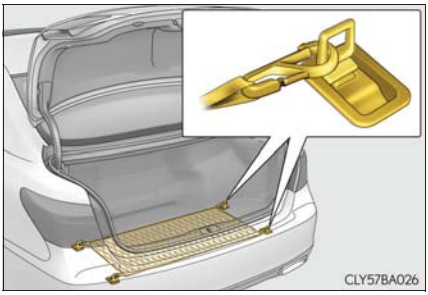
200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れると、ふたが開き収納されているものが飛び出したりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

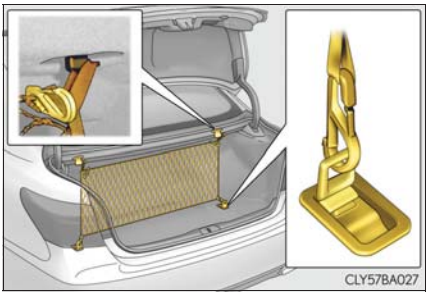
トランク内装備

荷物固定用ネット

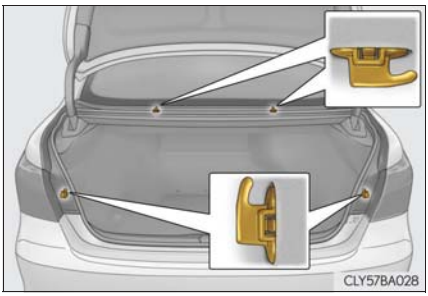
ネットを使って荷物を固定したり、トランク内を前後に仕切ることができます。

床上のフックを引き上げます。ネットをフックにかけます。





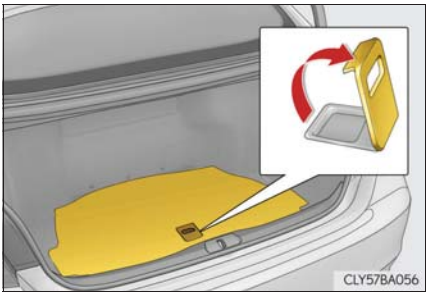
買い物フック



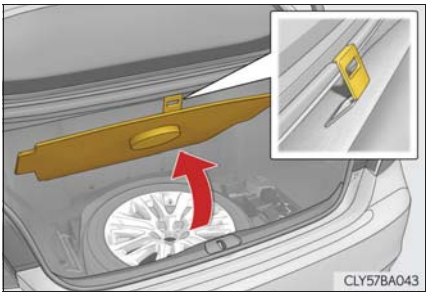
ラゲージマット

▶ スペアタイヤ装着車

1 フックを持ってラゲージマットを持ち上げる

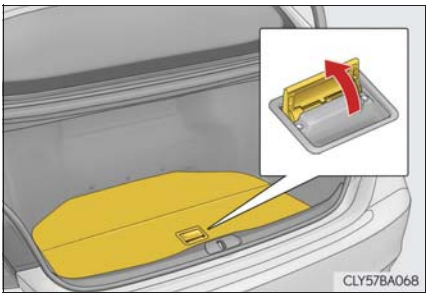


2 フックを使ってラゲージマットを固定する



▶ タイヤパンク応急修理キット装着車

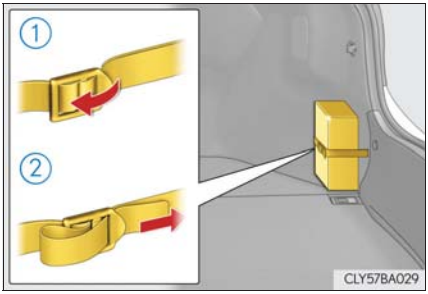
ハンドルを起こし、ラゲージマットを折りたたむ



救急箱等固定用バンド

① ゆるむ

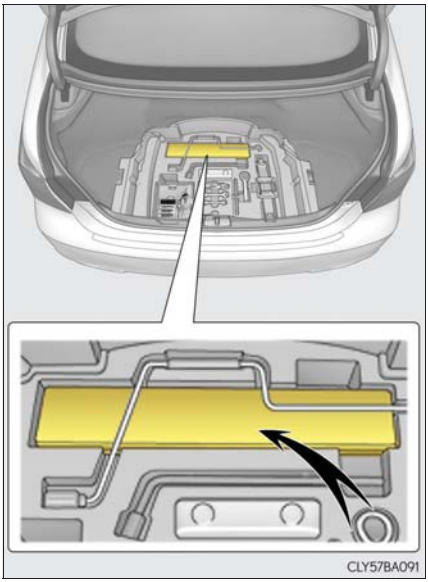
② 締まる



三角表示板収納スペース（タイヤパンク応急修理キット装着車）

三角表示板を収納することができるスペースです。

（大きさ、形によっては収納できないことがあります。）



警告

■**荷物固定用ネットを使用しないときは**

必ず固定用フックをもとの位置にもどしておいてください。

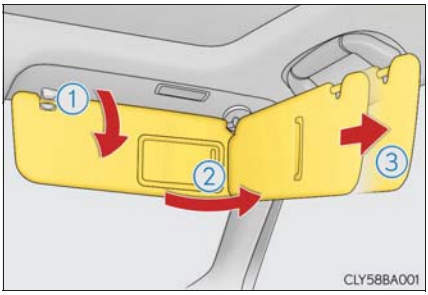
サンバイザー／バニティミラー

サンバイザー

① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

③ エクステンダーを使用するには、バイザーを横にした状態からうしろへ引く

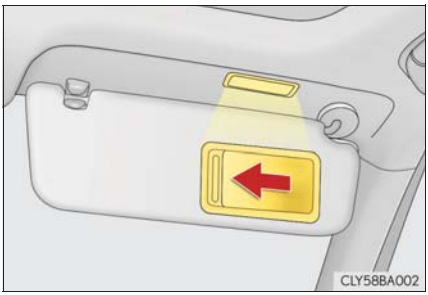


バニティミラー

▶ フロント

カバーをスライドして開ける

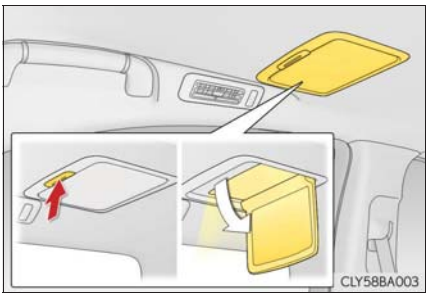
ランプが点灯します。



▶ リヤ

ボタンを押して開ける

ランプが点灯します。



知識

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンスイッチが OFF の場合、バニティランプが点灯したままのときは約 20 分後に自動消灯します。

注意

■使用しないときは

バニティミラーを必ず閉じてください。

■バッテリーあがりを防止するために

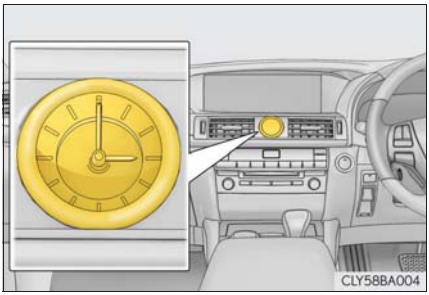
エンジンが停止した状態で長時間ランプを点灯しないでください。

時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

▶ インストルメントパネル



▶ リヤコントロールパネル★

知識

■**時刻が表示されるとき（リヤコントロールパネル）**

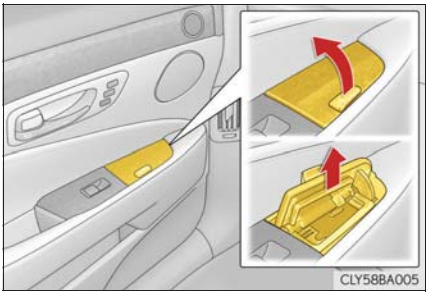
エンジンスイッチがアクセサリーまたはイグニッション ON モードのとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

灰皿★

ふたを開ける

取りはずすときは、ふたを持って引き上げます。



警告

■**使用しないときは**

ふたを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

■**出火を防ぐために**

●マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。

●灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

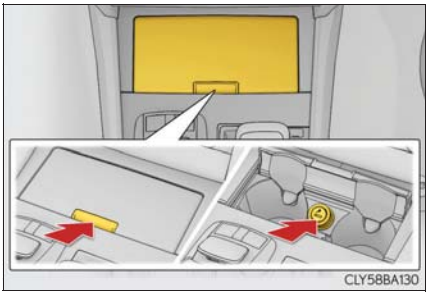
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シガレットライター★

▶ フロント

カップホルダーのふたを開けて、シガレットライターを押し込む

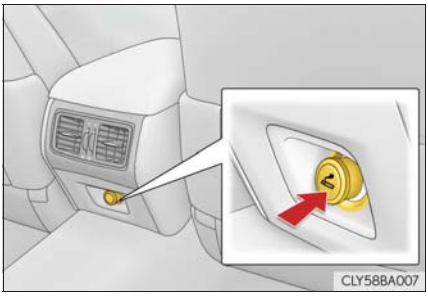
もとの位置にもどったら使用できます。



▶ リヤ（後席９型ワイドディスプレイ非装着の５人乗り）

シガレットライターを押し込む

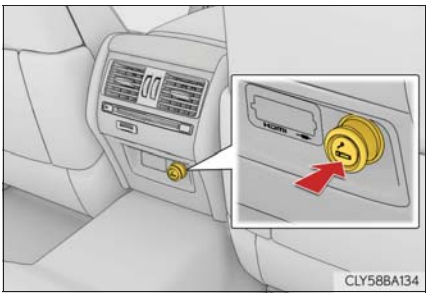
もとの位置にもどったら使用できます。



▶ リヤ（天井格納式後席９型ワイドディスプレイ装着の５人乗り）

シガレットライターを押し込む

もとの位置にもどったら使用できます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ リヤ（4 人乗り）

シガレットライターを押し込む

もとの位置にもどったら使用できます。

知識

■使用条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

警告

■やけどを防ぐために

- シガレットライターの金属部分に触れないでください。
- シガレットライターを押し込んだままにしないでください。
- 備えつけのシガレットライター以外のものを差し込まないでください。
  ソケットが変形し、その後シガレットライターを使用したときにシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

■使用しないときは

ふたを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

アクセサリーソケット／アクセサリーコンセント

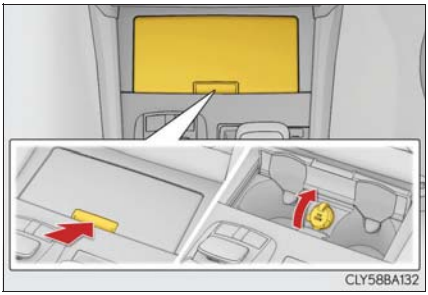
次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

12V：DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以下の電気製品
AC100V：AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品

■ アクセサリーソケット

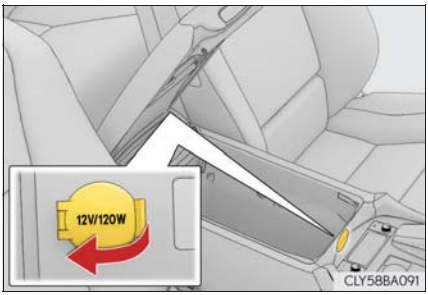
▶ フロント★

カップホルダーのふたを開けて使用する



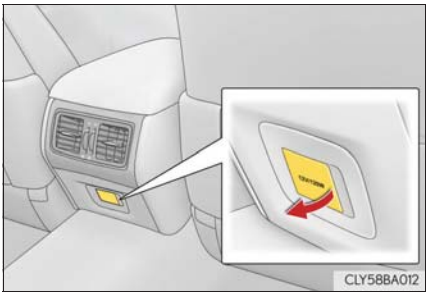
▶ コンソールボックス

ふたを開けて使用する



▶ リヤ（後席 9 型ワイドディスプレイ非装着の 5 人乗り）★

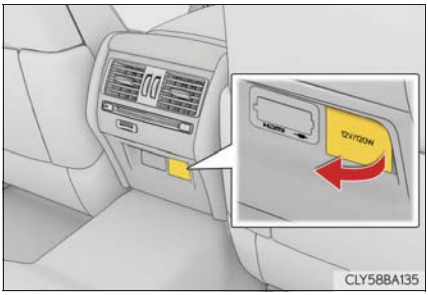
ふたを開けて使用する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

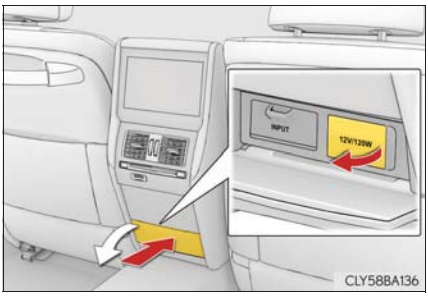
▶ リヤ（天井格納式後席９型ワイドディスプレイ装着の５人乗り）★

ふたを開けて使用する



▶ リヤ（センターコンソール付後席ディスプレイ装着の５人乗り）

ふたを開けて使用する



▶ リヤ（４人乗り）★

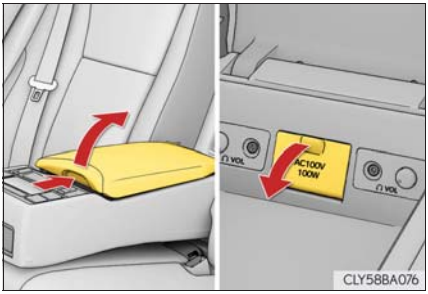
ふたを開けて使用する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ アクセサリーコンセント

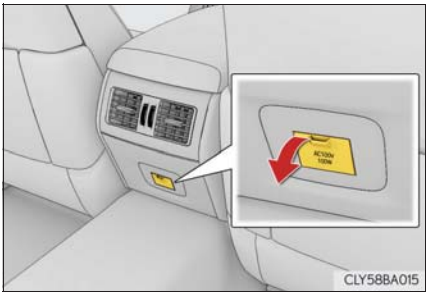
▶ 5 人乗り

ふたを開けて使用する



▶ 4 人乗り

ふたを開けて使用する



知識

■使用条件

▶アクセサリーソケット

エンジンスイッチがアクセサリーまたはイグニッション ON モードのとき

▶アクセサリーコンセント

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

▶アクセサリーソケット

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはふたを閉めておいてください。

▶アクセサリーコンセント

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはコンセントから電気製品のプラグをはずし、ふたを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

▶アクセサリーソケット

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

▶アクセサリーコンセント

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が100Wをこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態でアクセサリーソケット／アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■正しく作動しないおそれがある電気製品（アクセサリーコンセント）

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50/60Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

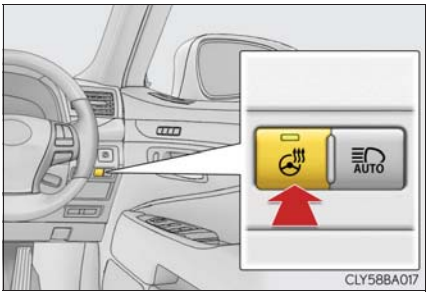
ステアリングヒーター

ハンドルの左右のグリップ部分を暖めることができます。

▶ オート作動

エンジンスイッチをイグニッションON モードにしたときの外気温・車室内温度に応じて自動で作動します。スイッチでOFFにすることができます。

作動中はスイッチ上のインジケータが点灯します。



▶ マニュアル作動

ON/OFF を切りかえる。

作動中はスイッチ上のインジケータが点灯します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■タイマー機能

マニュアル作動：約 30 分後に自動で OFF になります。

オート作動：最大約 30 分後に OFF になります。(外気温・車室内温度に応じて自動で OFF になります。)

■インジケーターが点灯しない場合

スイッチを押してもインジケーターが点灯しない場合はシステムの異常が考えられます。レクサス販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

ステアリングヒーターのオート作動 ON/OFF など変更することができます。
(カスタマイズ一覧：→ P. 489)

警告

■**やけどについて**

低温やけどを負うおそれがあるため、以下のかたが触れないようにご注意ください。

●乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた

●皮膚の弱いかた

●疲労の激しいかた

●深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた

注意

■**バッテリーあがりを防止するために**

エンジンが停止しているときはスイッチを OFF にしてください。

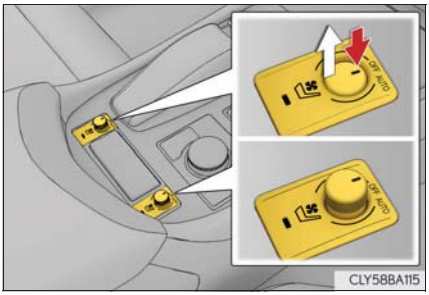
コンフォータブル・エアシート★

シートを暖めたり、冷やしたりすることができます。オート設定時はエアコンの設定状態に連動して自動で調整されます。

フロントコンフォータブル・エアシート

1 ツマミを押して出す

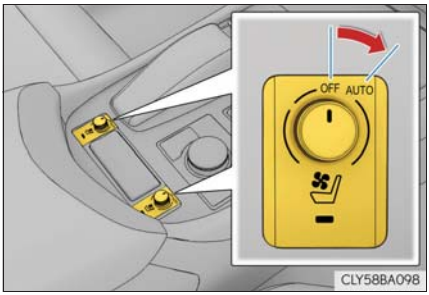
操作しないときは、ツマミを押し込みもとの位置にもどしてください。



▶ オート設定

2 ツマミを AUTO に設定する

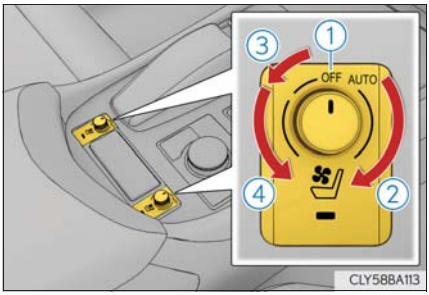
オート設定中はエアコンの設定温度・外気温などに応じて、暖房・OFF・送風・冷房が自動的に切りかわります。



▶ マニュアル設定

2 左右にまわして温度を設定する

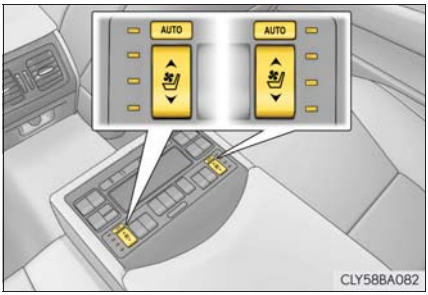
① OFF
② 暖房
③ 送風
④ 冷房



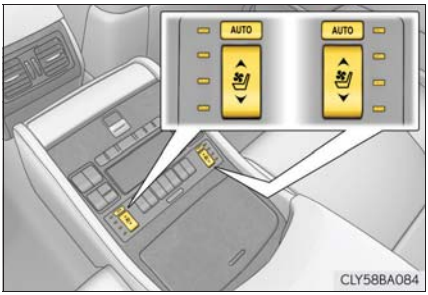
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤコンフォータブル・エアシート★

▶ 5 人乗り



▶ 4 人乗り

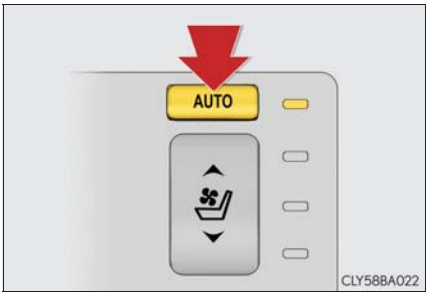


■ オート設定

ON/OFF を切りかえる

オート設定中はインジケーターが点灯します。

オート設定中はエアコンの設定温度・外気温などに応じて、暖房・OFF・送風・冷房が自動的に切りかわります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ マニュアル設定

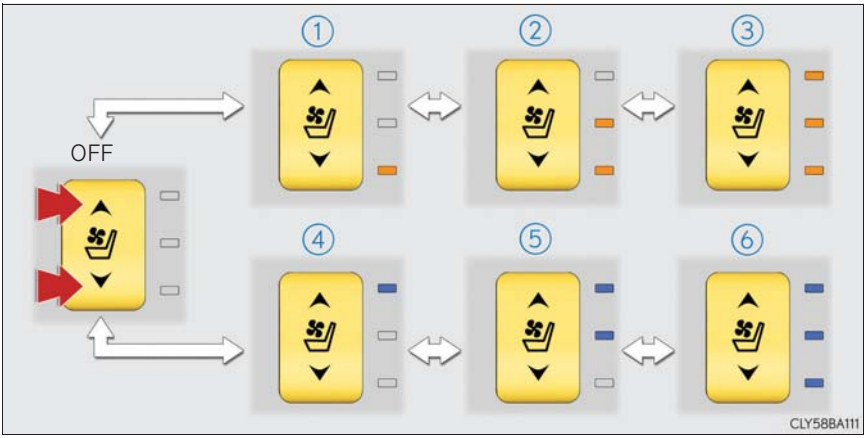
暖房・冷房の強さをそれぞれ 3 段階に切りかえることができます。

暖房 ：OFF の状態から“▲”を押すと暖房になります。

“▲”を押すごとに強くなり、“▼”を押すごとに弱くなります。

冷房 ：OFF の状態から“▼”を押すと冷房になります。

“▼”を押すごとに強くなり、“▲”を押すごとに弱くなります。



暖房※1	冷房※2
① 弱	④ 弱
② 中	⑤ 中
③ 強	⑥ 強

※1 インジケーターが橙色に点灯します。

※2 インジケーターが青色に点灯します。

知識

■コンフォータブル・エアシートの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■コンフォータブル・エアシートの作動について

外気温、シート表面の温度によって暖房が強めに作動する場合があります。

■リヤコンフォータブル・エアシートのフロント席からの操作

→ P. 307

■後席操作禁止制御

→ P. 308

■フィルターの交換について

コンフォータブル・エアシートにはフィルターが入っています。交換の際はレクサス販売店にご相談ください。

■カスタマイズ機能

オート設定の作動などを変更できます。(カスタマイズ一覧：→ P. 489)

警告

■やけどや冷やしすぎを防ぐために

●低温やけどや冷やしすぎのおそれがあるため、以下のかたは特にご注意ください。
・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
・皮膚の弱いかた
・疲労の激しいかた
・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた

●シートに毛布、クッションなどを使用しないでください。
コンフォータブル･エアシートの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。

注意

■コンフォータブル・エアシートの損傷を防ぐために

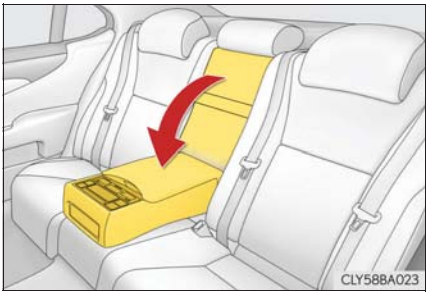
凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止しているときはスイッチを OFF にしてください。

アームレスト（5 人乗り）

手前に倒して使用します。



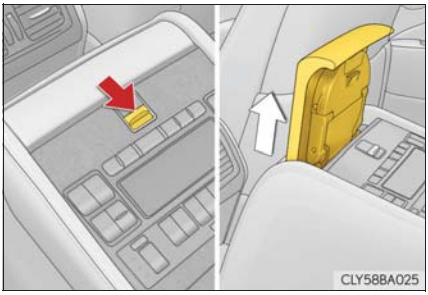
注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

テーブル（4 人乗り）

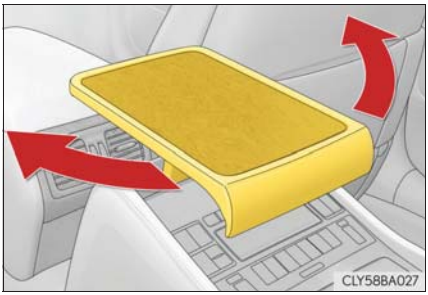
1 レバーをスライドさせてテーブルを上げる



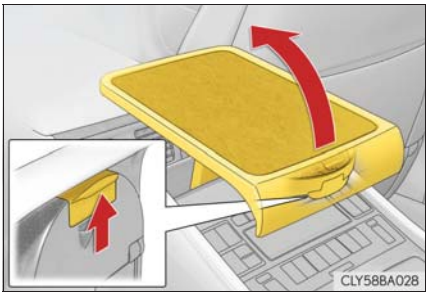
2 テーブルを引き上げ、手前へ倒す

テーブルの向きを変えることができます。テーブルを使用する前に、必ずロックされている事を確認してください。

前席のパワーシートはテーブルに接触しそうになると作動が止まります。
（→P. 134、151）



テーブルをもどすには、ロック解除レバーを引きながらテーブルを上げてください。



警告

■**使用しないときは**

けがを防ぐために、テーブルをもどしてください。

■**走行中の警告**

テーブルを確実にもどしてください。事故や急ブレーキ時などに、テーブルに接触し、重大な傷害におよぶか、最悪な場合死亡につながるおそれがあります。

■**テーブル使用中について**

以下の注意をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪な場合死亡につながるおそれがあります。

●テーブルが確実にロックされていることを確認してください。

●テーブルにもたれかけないでください。

●テーブルの上に 10kg を超える物体を置かないでください。

注意

■**テーブルの破損を防ぐために**

過度の負荷をかけないでください。

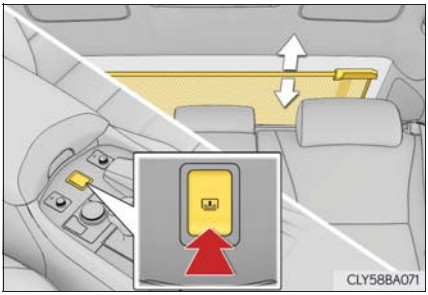
リヤサンシェード

スイッチ操作でリヤサンシェードを展開／格納できます。

■ フロント席からの操作

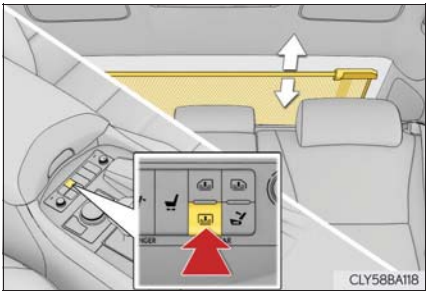
▶ パワーリヤシート非装着車

展開／格納



▶ パワーリヤシート装着車

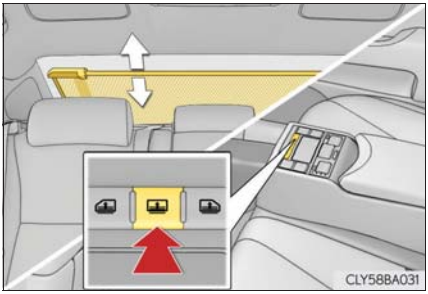
展開／格納



■ リヤ席からの操作

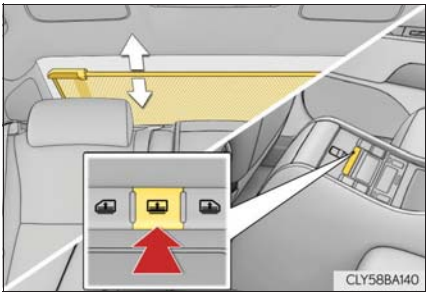
▶ パワーリヤシート装着の 5 人乗り

展開／格納



▶ 4 人乗り

展開／格納



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 60 秒間リヤサンシェードを操作できます。

■リバース連動機能

リヤサンシェードが上がった状態でシフトレバーを R にすると、後方を見やすくするためにリヤサンシェードが下降します。

ただし、以下のいずれかをおこなうと、リヤサンシェードは再度上昇します。

●スイッチをもう一度押す

●シフトレバーを P に入れる

●シフトレバーを P と R 以外にし、15 km/h 以上で走行する

リバース連動機能によりリヤサンシェードが下降した状態でエンジンを切った場合は、再びエンジンをかけて 15 km/h 以上で走行しても上昇しません。上昇させるには、スイッチを押してください。

■ボタンロック機能

誤った作動を防止するために、リヤコントロールパネルの一部のボタン操作を禁止することができます。(→P. 320)

警告

■リヤサンシェード作動中は

リヤサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐため

エンジンがかかっていない状態ではリヤサンシェードを操作しないでください。

■正常に機能させるため

以下のことをお守りください。

●モーターやほかの部分に負荷をかけすぎないようにしてください。

●開閉の妨げになる部分にものを置かないでください。

●リヤサンシェードにものを貼らないでください。

●溝をきれいに保ってください。

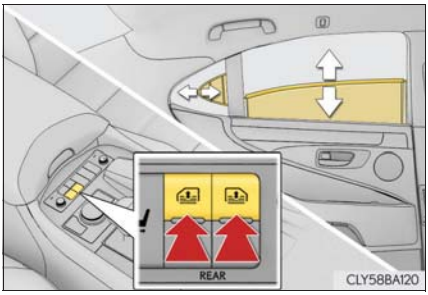
●長時間操作を続けないでください。

リヤドアサンシェード★

スイッチ操作でリヤドアサンシェードを伸縮できます。

■ フロント席からの操作

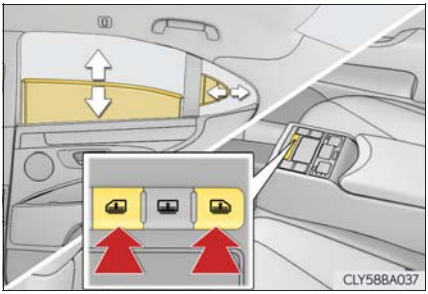
展開／格納



■ リヤ席からの操作

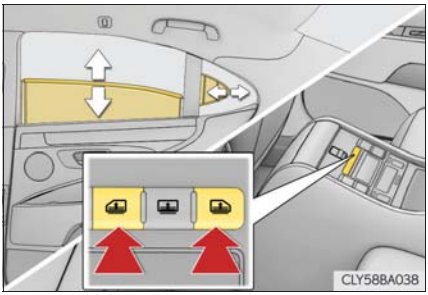
▶ 5 人乗り

展開／格納



▶ 4 人乗り

展開／格納



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

●エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

●リヤドアガラスが完全に閉じているとき
リヤドアガラスを開けると自動的にリヤドアサンシェードが格納します。

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 60 秒間リヤドアサンシェードを操作できます。

■挟み込み防止機能

リヤドアサンシェードと窓枠との間に異物が挟まると挟み込み防止機能が作動し、アームからサンシェードがはずれてサンシェードが格納します。

▶展開作動中で挟み込み防止機能が作動したら

スイッチを押すとアームとサンシェードが連結されます。

スイッチをもう一度押すことで再び使用できます。

もしスイッチを押してもサンシェードが作動しない場合は、もう一度操作してください。

▶格納作動中に挟み込み防止機能が作動したら

サンシェードを再び展開させるためにボタンを押し、そのままサンシェードが完全に展開し停止してから 5 秒以上経過するまでボタンを押しつづけてください。

■ボタンロック機能

誤った作動を防止するために、リヤコントロールパネルの一部のボタン操作を禁止することができます。(→P. 320)

■バッテリーを再接続したときは

バッテリーを再接続したあと、最初にスイッチを操作をすると、必ずリヤドアサンシェードは格納方向に動きます。

警告

■**リヤドアサンシェード作動中は**

リヤドアサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

■**挟み込み防止機能**

挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

注意

■**バッテリーあがりを防ぐため**

エンジンがかかっていない状態ではリヤドアサンシェードを操作しないでください。

■**正常に機能させるため**

以下のことをお守りください。

- モーターやほかの部分に負荷をかけすぎないようにしてください。
- 開閉の妨げになる部分にものを置かないでください。
- リヤドアサンシェードにものを貼らないでください。
- 溝をきれいに保ってください。
- 長時間操作を続けないでください。

トランクスルー★

トランクとリヤ席のスペースを利用して、長い荷物を積むことができます。

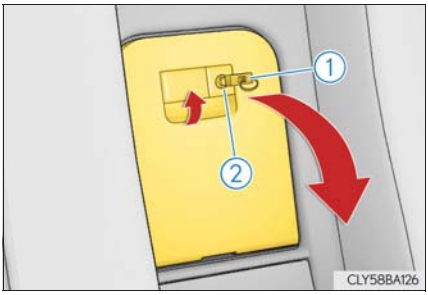
1 アームレストを手前に倒す（→P. 359）

2 アームレストドアを開ける

アームレストドアはメカニカルキーで施錠、解錠することができます。

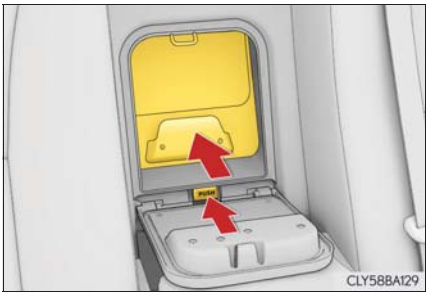
① 解錠

② 施錠



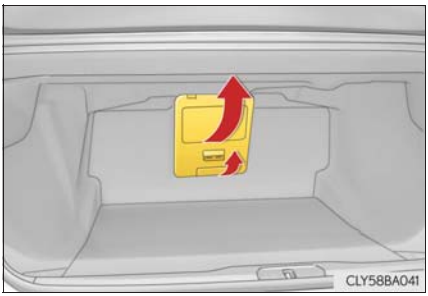
▶ リヤ席から開ける

3 リヤ席側からトランクスルードアを開け、荷物を積む



▶ トランクから開ける

3 トランク側からトランクスルードアを開け、荷物を積む



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

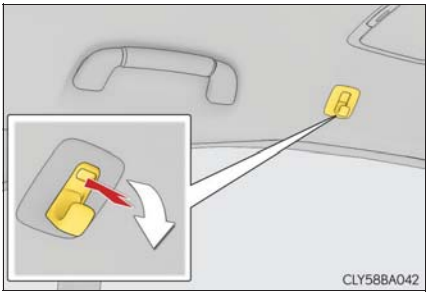
■**使用しないときは**

トランクスルードアを閉めておいてください。
思わぬ事故や急ブレーキをかけたときなどに、トランクに収納していたものが車内に飛び出し、けがをするおそれがあります。

コートフック

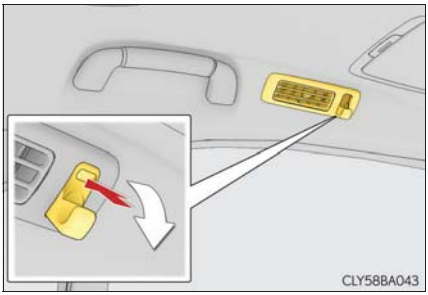
▶ リヤエアコン非装着車

使用するときは、コートフックを押します。



▶ リヤエアコン装着車

使用するときは、コートフックを押します。



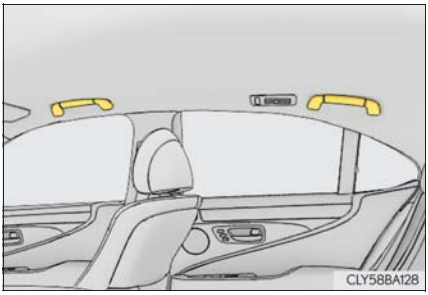
警告

■**コートフックへかけてはいけないもの**

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、シートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



警告

■**アシストグリップについて**

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。アシストグリップが破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

注意

■**破損を防ぐために**

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけたりしないでください。

お手入れのしかた 6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 374
内装の手入れ 378

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 381
ガレージジャッキ 383
エンジンルームカバー.....385
ウォッシャー液の補充.....387
タイヤについて 388
タイヤ空気圧について.....397
エアコンフィルターの交換.....399
電子キーの電池交換.....402
ヒューズの点検・交換.....404
電球（バルブ）の交換.....407

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から５～８年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
  なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき

●ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

●ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■高圧洗浄機を使うとき

●室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。

●洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。

■アルミホイール

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーおよびサイドモールディング

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

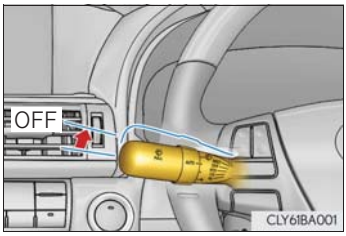
警告

■**洗車をするとき**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**フロントウインドウガラスを清掃するとき**

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■**排気管およびデュアルエキゾーストパイプ（バンパー一体ディフューザー付き）について**

排気管およびデュアルエキゾーストパイプは排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管およびデュアルエキゾーストパイプが冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■**後方プリクラッシュセーフティシステム★について**

リヤバンパーの塗装に傷がついたときは、レクサス販売店にご相談ください。

■**ブラインドスポットモニター★について**

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。
・ 海岸地帯を走行したあと
・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ノズルの先端を下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・ 駆動系部品
・ ステアリング部品
・ サスペンション部品
・ ブレーキ部品

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジややわらかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤を付ける
- 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。
（本革張りインストルメントパネルには必要ありません）

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

警告

■車両への水の浸入

●車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。（→ P. 39）
電気の不具合により、SRSエアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■本革張りインストルメントパネルを手入れするときは

保護剤（コーティングなど）を使用しないでください。
インストルメントパネルの反射がフロントガラスに映り込み、前方視界がさまたげられて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■白杢部分を清掃するときは

木目の溝に汚れが残りやすいため、中性洗剤またはレクサス純正の内装クリーナーを使用して清掃してください。他のクリーナーを使用すると色落ち・変色するおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは
（LKA［レーンキーピングアシスト］装着車）

白線認識用カメラ（→ P. 238）にさわらないように注意してください。
誤って傷を付けたり衝撃を与えたりすると、LKA の誤作動や故障につながるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

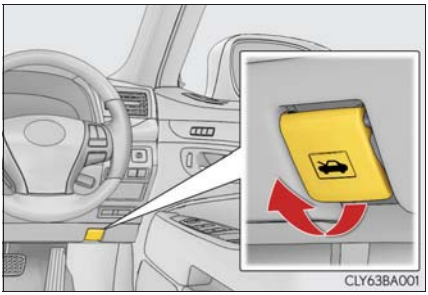
●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

ボンネット

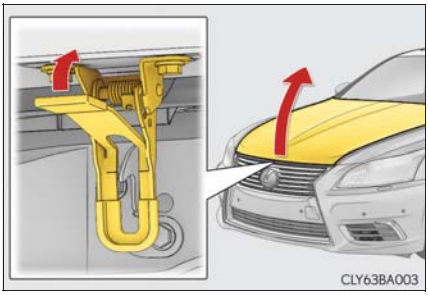
室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネットオープナーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。



2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンルーム点検後の確認

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

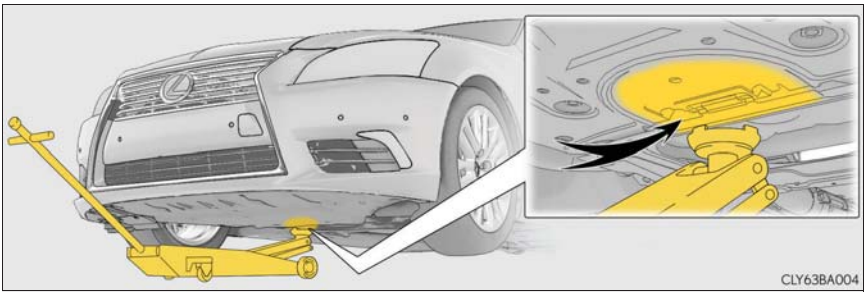
●ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
・ロッド部を軍手などでふれない
・ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない
・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

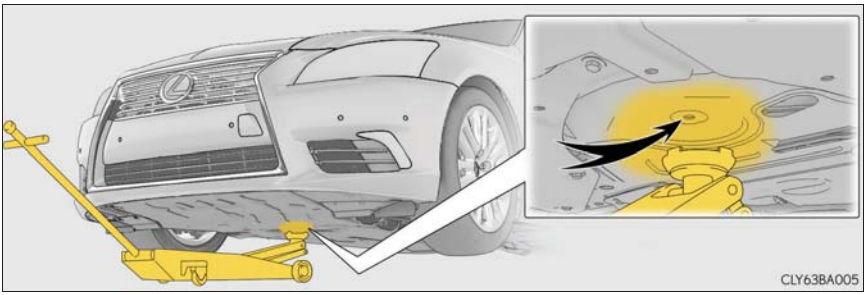
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

◆ フロント側

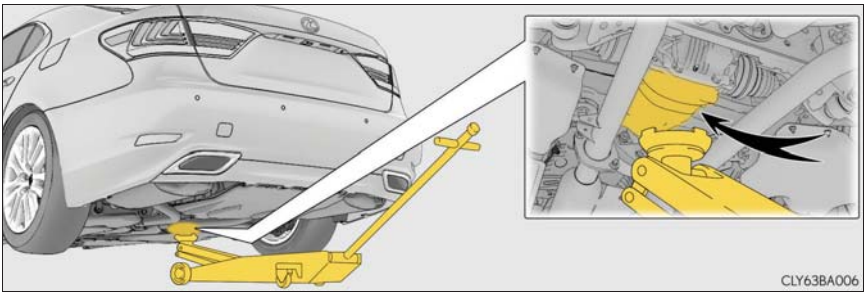
▶ FR 車



▶ AWD 車



◆ リヤ側

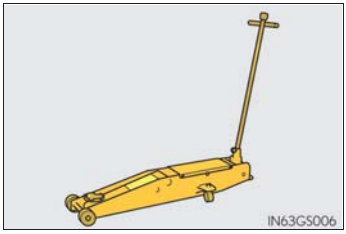


警告

■**車両を持ち上げるとき**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる



●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する

●車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。

●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない

●ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用する

●車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しない

●平らで硬い地面に停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にする

●ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

●車内に乗員がいるときは車両を持ち上げない

●車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かない

●電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないよう、必ずエンジンを停止する（→ P. 251）

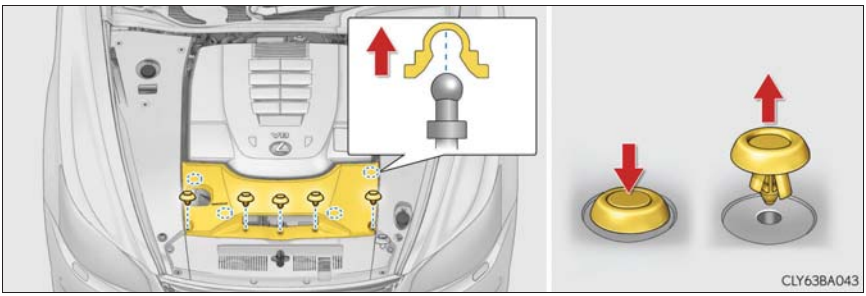
エンジンルームカバー

ヒューズや電球（バルブ）の点検・交換などを行うときに取りはずします。

エンジンルームカバーの取りはずし方

▶ 外側

▶ 前側

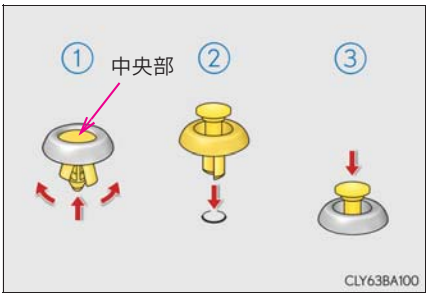


クリップの取り付け方

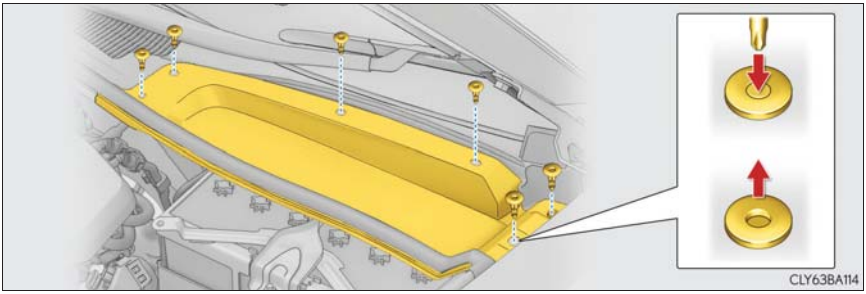
① クリップの中央部分を押し上げる

② 挿し込む

③ クリップ中央部分を押す

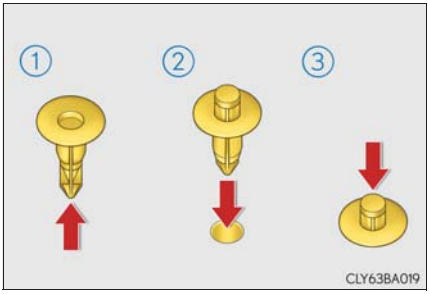


バッテリーカバーの取りはずし方

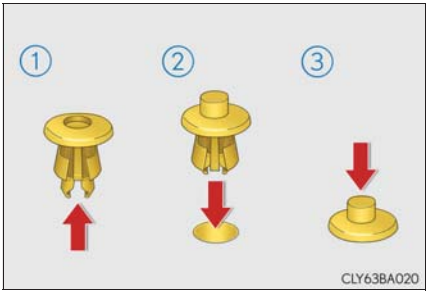


■ クリップの取り付け方

▶ タイプ A



▶ タイプ B



① クリップの中央部分を押し上げる

② 挿し込む

③ クリップ中央部分を押す

警告

■ けがを防ぐために

カバーを取りはずす前に、エンジンスイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

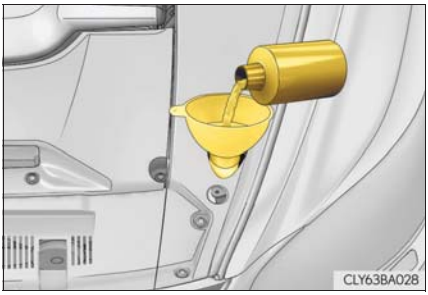
■ カバー取り付け後の確認

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

ウォッシャー液の補充

補充のしかた

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する



警告

■ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を FR 車は 10,000km ごとに、AWD 車は 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

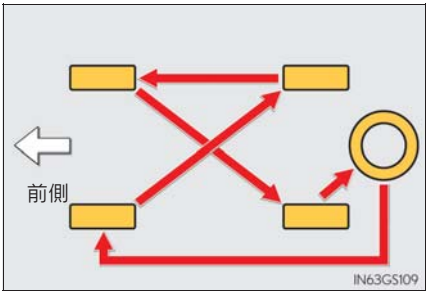
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

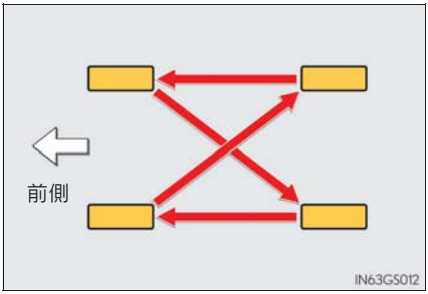
図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

▶ スペアタイヤ装着車



▶ タイヤパンク応急修理キット装着車



タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

- 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。(→ P. 431, 434)
- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。(→ P. 85)

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

新しいバルブ／送信機を装着する場合は専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。登録の際は、レクサス販売店へご依頼ください。(→ P. 391)

タイヤ空気圧警報システムの初期化

■ 初期化が必要な場合

タイヤローテーションを実施したときは、初期化操作を行ってください。

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

■ 初期化のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、エンジンを停止する

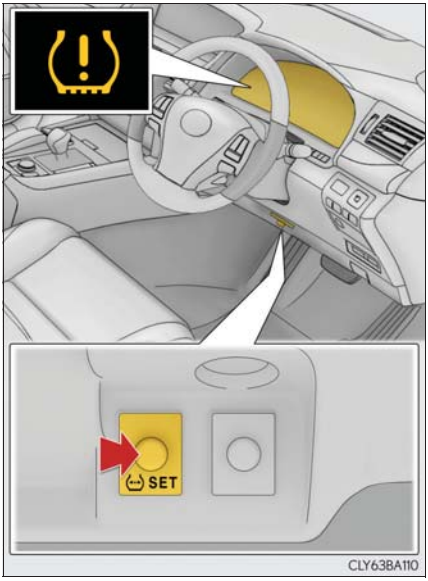
車両が動いているときは、初期化できません。

2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する（→ P. 391, 487）

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

3 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

4 タイヤ空気圧警告灯が 3 回点滅するまでリセットスイッチを押し続ける



5 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたまま数分※待ち、その後エンジンスイッチを OFF にする

※ 設定が完了するには 2 ～ 3 分かかります。

ID コードの登録について

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されており、タイヤ空気圧バルブ／送信機の交換時は、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。
ID コードの登録については、レクサス販売店にご依頼ください。

知識

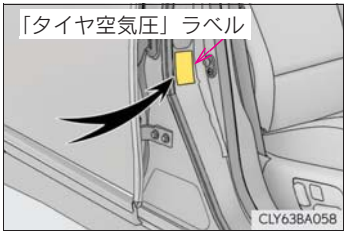
■タイヤ空気圧の数値

前輪：230kPa (2.3kg/cm^2) ※

後輪：230kPa (2.3kg/cm^2) ※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

■タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。
日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■タイヤローテーションを行うとき

必ずエンジンスイッチが OFF の状態で行ってください。イグニッション ON モードのままタイヤローテーションを行うと、タイヤ位置情報が更新されません。

誤ってそのような状態になってしまったときは、エンジンスイッチをいったん OFF にしてから再度イグニッション ON モードにするか、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

●次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
- 純正ホイール以外を使用したとき
- 純正装着タイヤ以外に交換したとき
- 指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
- タイヤチェーンなどを装着しているとき
- ロックナットを装着しているとき
- 中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
- 電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
- 車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
- タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
- 電波状況の悪い場所にスペアタイヤが置いてあるとき（スペアタイヤ装着車）
- 信号の受信に干渉する可能性のある大きな金属物がトランク内にあるとき（スペアタイヤ装着車）
- タイヤ空気圧警報バルブ / 送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
- タイヤ空気圧警報バルブ / 送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

●次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

●停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

●タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

■初期化操作について

●必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

●初期化中にエンジンスイッチをOFFにしてしまった場合は、次回イグニッションONモードにしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためてリセットスイッチを押し直す必要はありません。

●初期化の必要がない状態で誤ってリセットスイッチを押してしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。

■タイヤ空気圧警報システムの警報作動について

タイヤ空気圧警報システムの警報は走行状況によってかわります。このため、タイヤ空気圧が低いレベルに達していないときや、初期化したときのタイヤ空気圧より高いときでも、警報することがあります。

■タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき

通常 2、3 分で終了します。ただし、次の場合は、初期化されておらずシステムが適切に働かないおそれがありますので、初期化し直してください。それでもうまくいかないときは、レクサス販売店にて点検を受けてください。

●スイッチ操作時に警告灯が 3 回点滅しない場合（走行中は初期化を受け付けません）

●初期化してから約 20 分走行したあと、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯した場合

■ID コードの登録について

車 1 台に対して、最大 2 セット分のホイールの ID コードを登録することができます。通常使用するタイヤとは別に、冬用タイヤを装着したホイールの ID コードをあらかじめ登録しておけば、冬用タイヤへの交換時に ID コードを登録しなおす必要がなく、便利です。
ID コードの切りかえについては、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

■タイヤサイズの変更について

新車時に装着されているタイヤサイズによってタイヤ切れ角の設定が異なるため、装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着しないでください。サイズの異なるタイヤやホイールを装着した場合に車両の安定性が十分に確保できなくなるおそれがあり危険です。

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

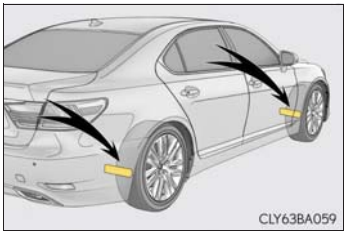
- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

警告

■**タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき**

必ず指定空気圧に調整してからリセットスイッチを押してください。
お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

■**電波がおよぼす影響についての警告**



●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナから約 45cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

●タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。

●レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

●ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。

●バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。

●バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■パンク修理剤を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。**（→ P. 487）**

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

■ フロントエアコンフィルター

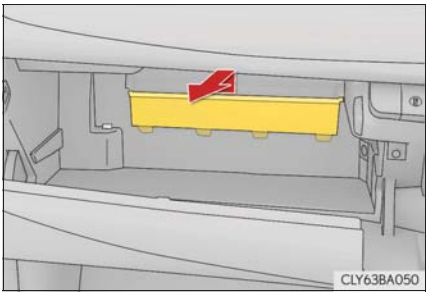
1 エアコンを内気循環モードに切りかえる（→ P. 306）

外気導入モードではフィルターケースを取りはずすことができません。

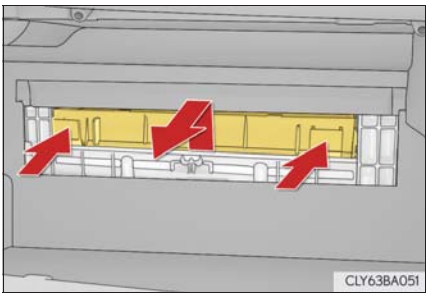
2 エンジンスイッチを OFF にする

3 グローブボックスを開け、仕切り板をはずす（→ P. 329）

4 フィルターカバーを取りはずす

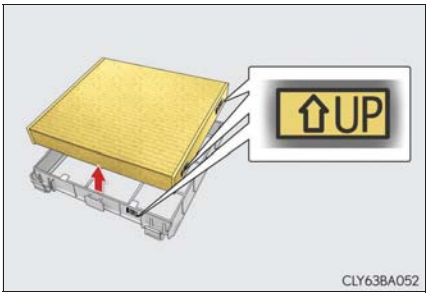


5 フィルターケースを取りはずす



6 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

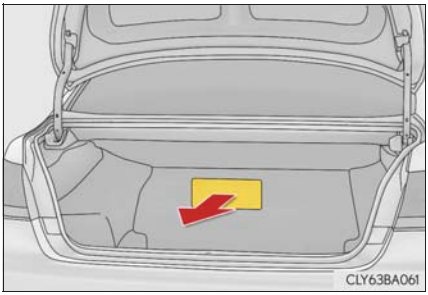


7 エアコンフィルターのメンテナンスデータを初期化する（→ P. 401）

■ リヤエアコンフィルター★

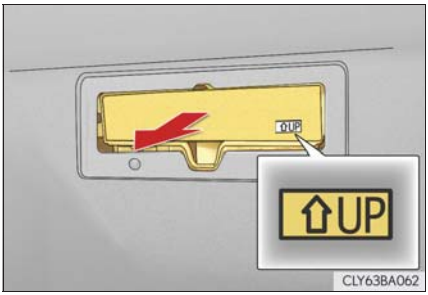
1 エンジンスイッチを OFF にする

2 トランクを開け、フィルターカバーを取りはずす



3 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■エアコンフィルターの交換について

▶フロントエアコンフィルター

メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

快適にお使いいただくため、エアコンフィルター交換のメッセージが表示されたら、早めの交換をおすすめします。

▶リヤエアコンフィルター★

15,000 km ごとを目安に交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

■フロントエアコンフィルターを交換したあとは

フロントエアコンフィルターのメンテナンスデータを初期化する必要があります。次の操作を行ってください。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 を 4 秒以上押し続ける

初期化が完了するとブザーが鳴ります。

■リヤエアコンフィルター★について

清掃・交換の際はレクサス販売店にご相談ください。

■コンフォータブル・エアシート★のフィルターについて

コンフォータブル・エアシートにはフィルターが入っています。交換の際はレクサス販売店にご相談ください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

●フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

●フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電子キーの電池交換

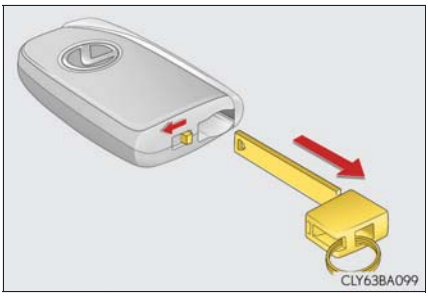
電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR1632

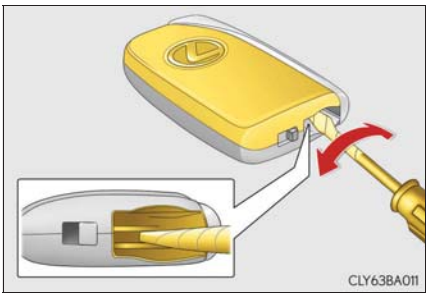
電池交換のしかた

1 メカニカルキーを抜く



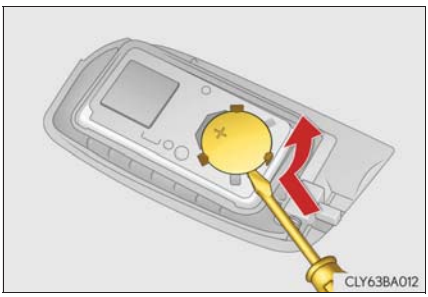
2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



知識

■リチウム電池 CR1632 の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
電池がさびる原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

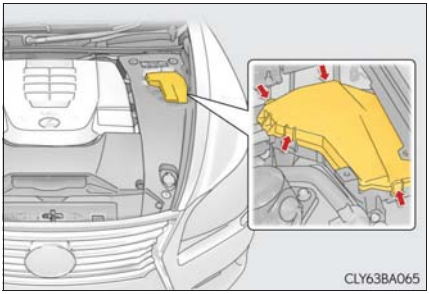
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

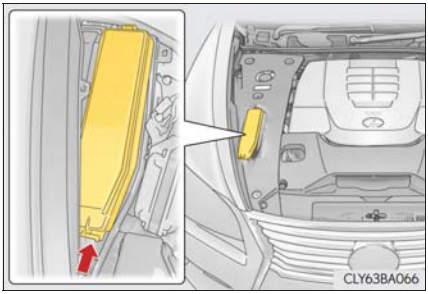
▶ エンジンルーム（1）

エンジンルームカバーを取りはずし（→ P. 385）、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



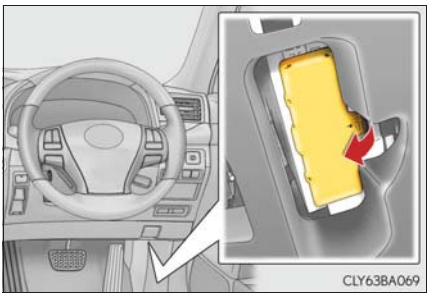
▶ エンジンルーム（2）

エンジンルームカバーを取りはずし（→ P. 385）、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



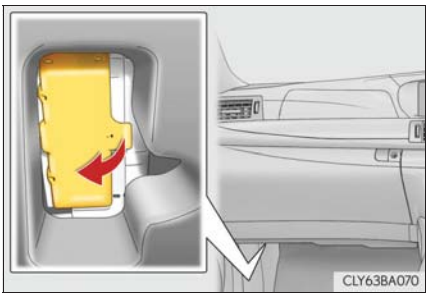
▶ 運転席足元

カバーを取りはずす



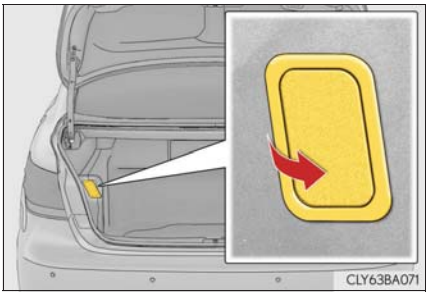
▶ 助手席足元

カバーを取りはずす



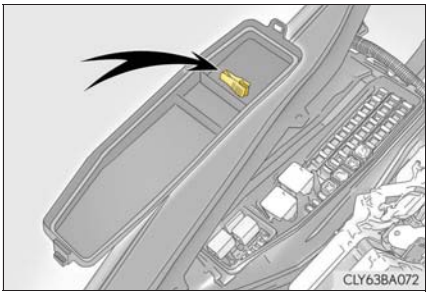
▶ トランク内

カバーを取りはずす



3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

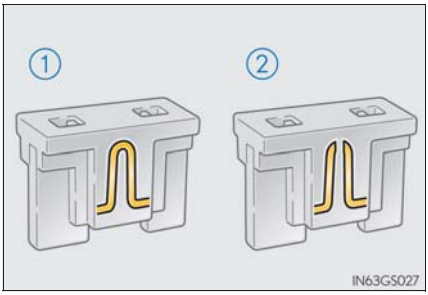


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ヒューズを交換したあとは

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→ P. 407)

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

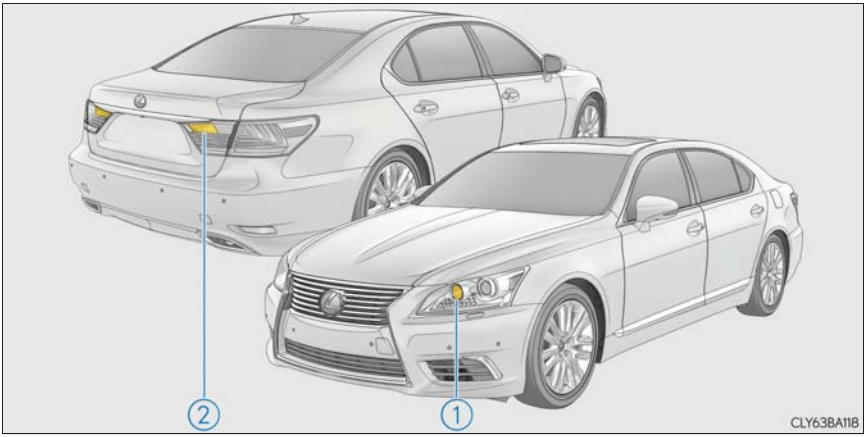
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 488）

バルブ位置

▶ ディスチャージヘッドランプ装着車

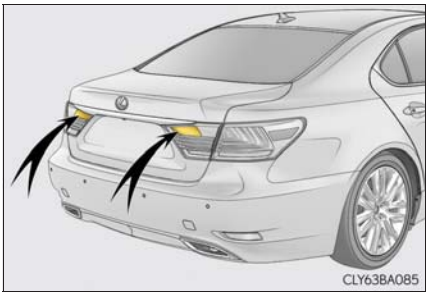


① ヘッドランプ（ハイビームまたはハイビーム／近赤外線投光器）

② リヤフォグランプ★

▶ LED ヘッドランプ装着車

リヤフォグランプ★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球交換のしかた

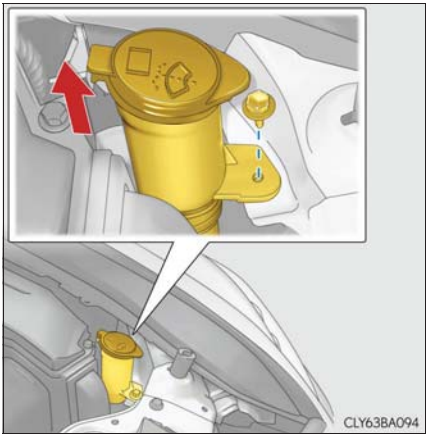
■ ヘッドランプ（ハイビームまたはハイビーム／近赤外線投光器）（ディスチャージヘッドランプ装着車）

1 エンジンルームカバーを取りはずす（→ P. 385）

2 電球を交換する前に、

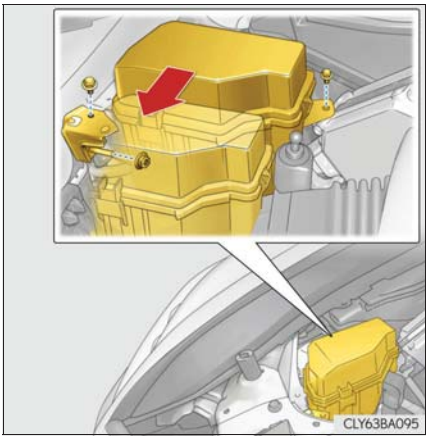
▶ 左側

ウォッシャー液補給口の固定ボルトをはずし、補給口を引き抜く

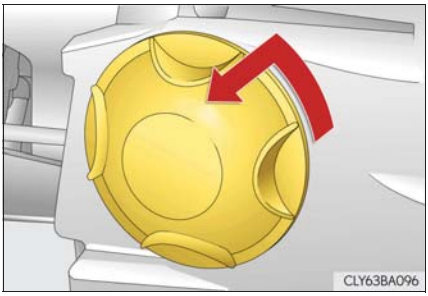


▶ 右側

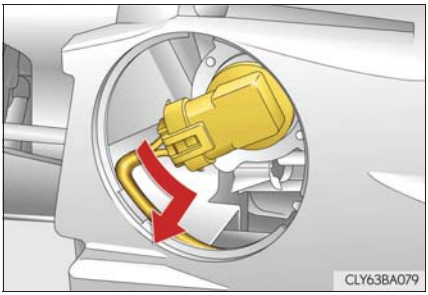
ヒューズボックス固定ボルトおよびナットをはずし、ヒューズボックスを移動する



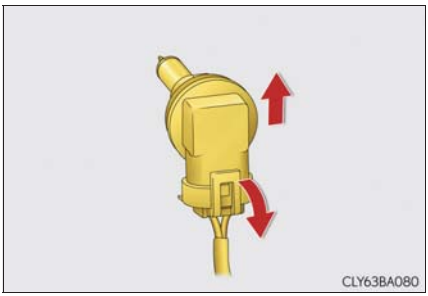
3 カバーを取りはずす



4 ソケットを取りはずす

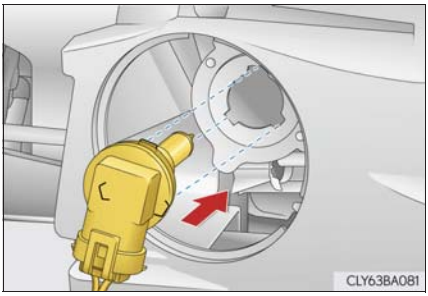


5 電球を取りはずす



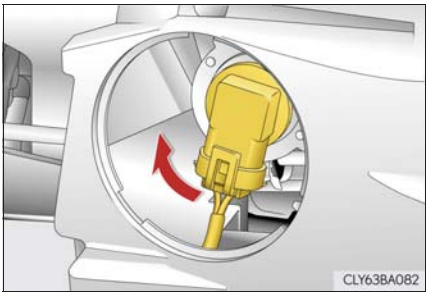
6 電球を交換し、ソケットを取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3 か所）を合わせて挿し込みます。

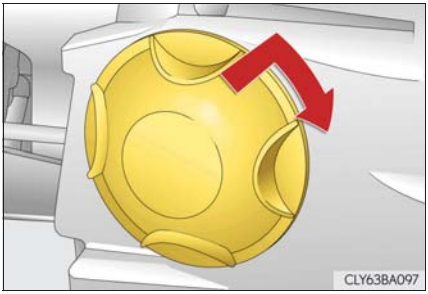


7 ソケットをまわして固定する

ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。



8 カバーを取り付ける

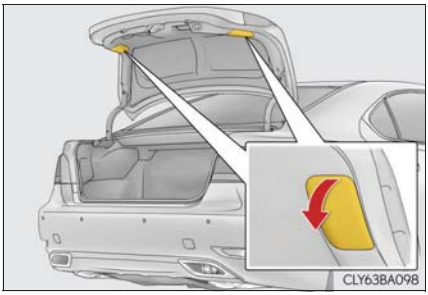


9 **2** と逆の手順で取り付ける

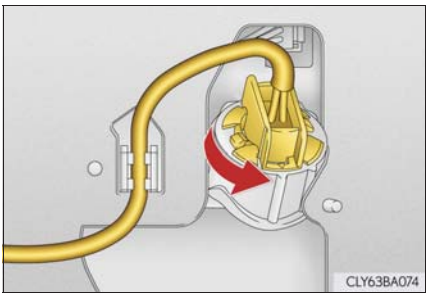
10 エンジンルームカバーを取り付ける

■ リヤフォグランプ★

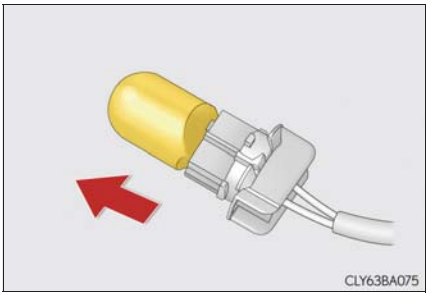
1 トランクを開け、カバーを取りはずす



2 ソケットを取りはずす



3 電球を取りはずす



4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **次の電球を交換するには**

次のランプが切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- 車幅灯／ LED デイライト
- フロント方向指示灯／非常点滅灯
- フロントフォグランプ
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- ドアミラー照明
- 尾灯
- 制動灯
- 後退灯
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯

▶ ディスチャージヘッドランプ装着車

- ヘッドランプ（ロー／ハイビーム）

▶ LED ヘッドランプ装着車

- ヘッドランプ（ロービーム）
- ヘッドランプ（ロー／ハイビーム）
- ヘッドランプ（ハイビーム）（LKA［レーンキーピングアシスト］非装着車）

知識

■ **ディスチャージヘッドランプ★の作動**

作動電圧範囲をはずれると、ランプが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

■ **LED ランプについて**

ヘッドランプ（ロー／ハイビーム）（ディスチャージヘッドランプ装着車）・ヘッドランプ（ハイビームまたはハイビーム／近赤外線投光器）（ディスチャージヘッドランプ装着車）・リヤフォグランプ★以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

●レンズ内側に大粒の水滴が付いている

●ランプ内に水がたまっている

警告

■電球を交換するとき

●ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■ディスチャージヘッドランプ★について

●交換するとき（電球交換含む）は、必ずレクサス販売店にご相談ください。

●点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
瞬間的に 3 万ボルトの電圧が発生するため、感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●電球・ソケット・電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは 416
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....417
発炎筒 418
車両を緊急停止するには.....420

7-2. 緊急時の対処法

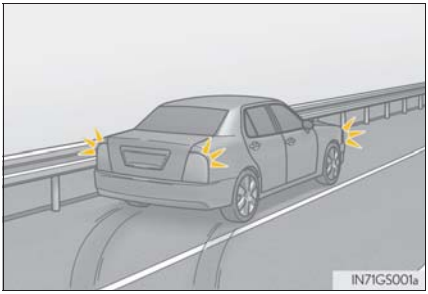
けん引について 421
フューエルポンプ
シャットオフシステム.....427
警告灯がついたときは.....428
警告メッセージが
表示されたときは 434
パンクしたときは
（スペアタイヤ装着車）.....437
パンクしたときは
（タイヤパンク応急修理
キット装着車）.....446
エンジンがか
からないときは 460
シフトレバーがシフト
できないときは 462
パーキングブレーキが
解除できないときは.....463
電子キーが正常に
働かないときは 468
バッテリーが
あがったときは 471
オーバーヒートしたときは.....474
スタックしたときは.....478

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

非常点滅灯（→ P. 417）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



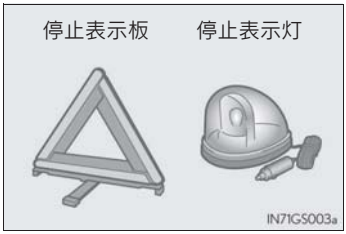
高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の50m以上後方に発炎筒（→ P. 418）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■**停止表示板・停止表示灯について**

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板･停止表示灯のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。

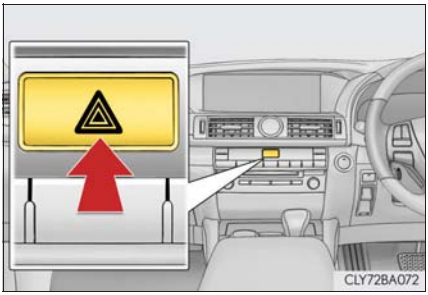


非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

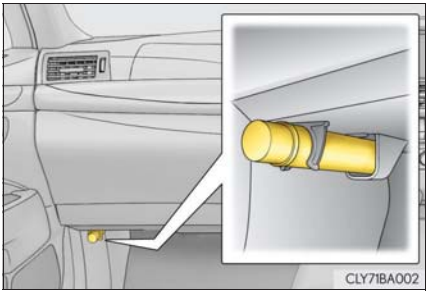
■**非常点滅灯について**

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

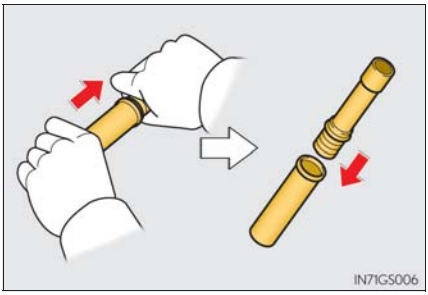
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

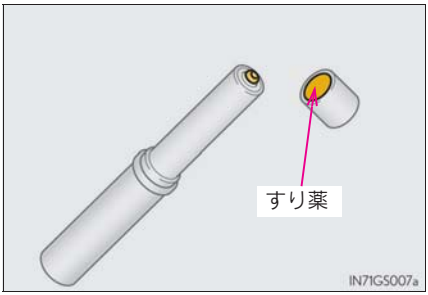


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する

5 車を安全な道路脇に停める

警告

■ **走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき**

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

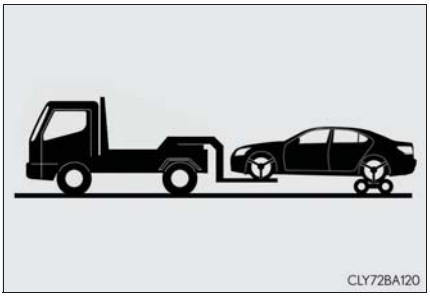
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンはかかるが車が動かない
- 異常な音がする

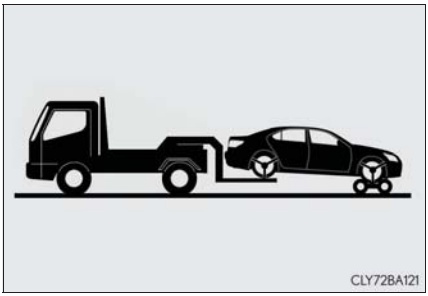
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

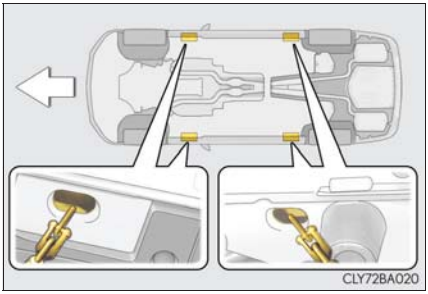
▶ うしろ向きにけん引するときは



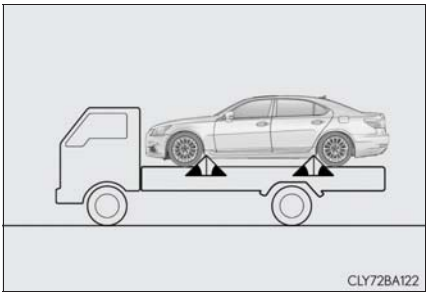
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送されているときは、図の場所にフックを取り付ける



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する

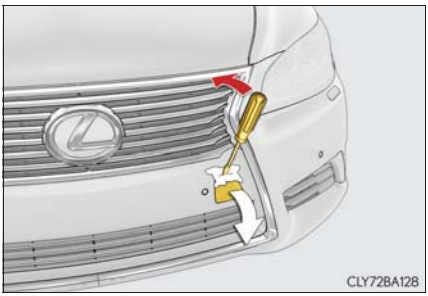


けん引されるとき

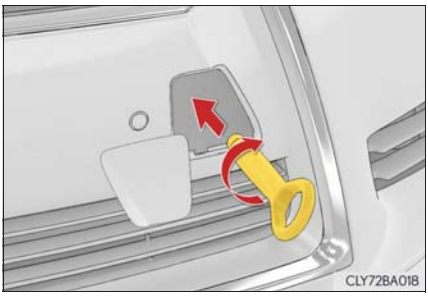
1 けん引フックを取り出す（→ P. 438, 447）

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

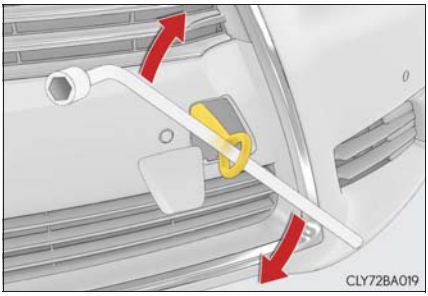
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

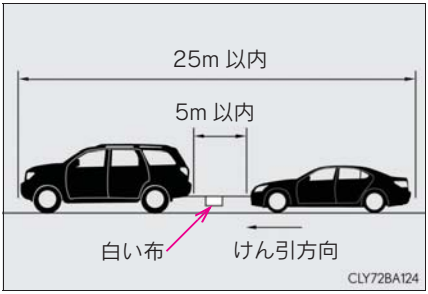


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm × 30cm）以上



7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P. 462

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引されるときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

トランクに搭載されています。(→P. 438, 447)

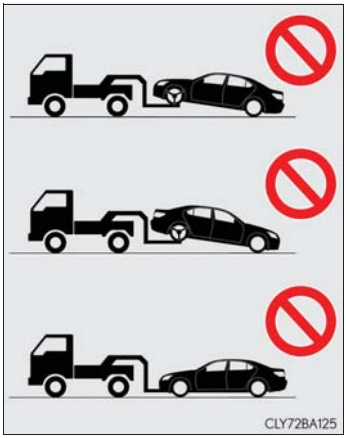
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■けん引されるとき

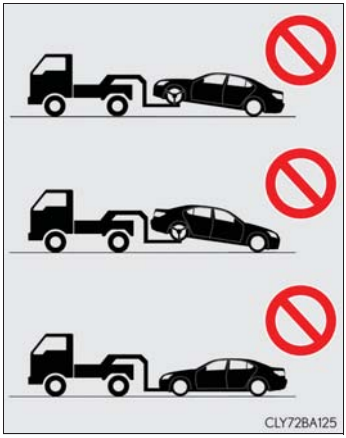
▶FR 車

必ず 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。



▶AWD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



警告

■けん引中の運転について

●ロープによるけん引を行うときは、けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●エンジンスイッチを OFF にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

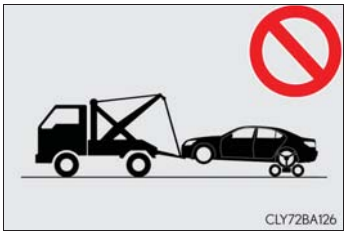
■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■駆動系部品の損傷を防ぐために

●ロープでけん引されるときは次のことを必ずお守りください。
・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

1 エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にする

2 エンジンを再始動する

注意

■エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	ブレーキ警告灯（警告ブザー） ・ ブレーキ液の不足 ・ 電子制御ブレーキシステムの異常

ただちに停車してください。

次の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電系統の異常

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジンの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・トランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 ・アクティブヘッドレストシステム★の異常
	ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯 EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
 （点滅）	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）警告灯★** プリクラッシュセーフティシステムの異常 システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・システムの作動時には、速い点滅でお知らせします。 （→ P. 259） ・プリクラッシュブレーキを OFF にすると点灯します。 （→ P. 255, 261） ・システムが一時的に使用できないときに点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容
	スリップ表示灯 ・ VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 ・ ABS の異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 上記のシステムの作動時には、点滅します。（→ P. 253）
HOLD （点滅）	**ブレーキホールド作動表示灯** ブレーキホールドシステムの異常
（点滅）	**パーキングブレーキ表示灯** 電動パーキングブレーキシステムの異常
	ブレーキ警告灯 ・ 電子制御ブレーキシステムの異常 ・ 電動パーキングブレーキシステムの異常

ただちに処置してください。

次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯（警告ブザー※1） いずれかのドア、またはトランクが確実に閉まっていない	全ドアおよびトランクを閉める
 燃料計内	**燃料残量警告灯** 燃料の残量が約 13L 以下になった	燃料を補給する
	シートベルト非着用警告灯（警告ブザー※2） 運転席・助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する 助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。	→ P. 434
	タイヤ空気圧警告灯	
	警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。 ・自然要因（→ P. 432） ・タイヤのパンク（→ P. 437，446）	指定された空気圧に調整してください。 調整して数分後に警告灯が消灯します。 空気圧を調整しても警告灯が消灯しない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。
	警告灯が 1 分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムに異常があります。	レクサス販売店で点検を受けてください。

※1 半ドア走行時警告ブザー：
各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえたときにブザーが鳴ります。

※2 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 30 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

知識

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。

●助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯について

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に点灯することがあります。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤが十分に冷えてから次の操作を行ってください。

●空気圧を確認し、適切な値に調整してください。

●数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの初期化を行ってください。

タイヤが十分に冷えていない状態で上記の操作を行うと、警告灯が再度点灯する場合があります。

■自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■スペアタイヤ★に交換した場合

スペアタイヤにも空気圧バルブ／送信機が装備されています。スペアタイヤの空気圧が低下している場合、空気圧警告灯が点灯します。タイヤがパンクした場合、スペアタイヤに交換しても空気圧警告灯は消灯しません。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→ P. 392

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**パワーステアリング警告灯が点灯したとき**

ハンドルが非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■**タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。

●タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯してる場合はタイヤがパンクしている可能性がありますので、確認してください。
タイヤがパンクしている場合はスペアタイヤに交換するか、タイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤの修理をしてください。

●急ハンドル・急ブレーキは避けてください。
もしタイヤの状態が悪化した場合、ハンドル操作またはブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■**タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合**

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

注意

■**タイヤ空気圧警報システムについての注意**

●純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。

●構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。
タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。

●タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化スイッチ操作（→ P. 390）では解除できません。

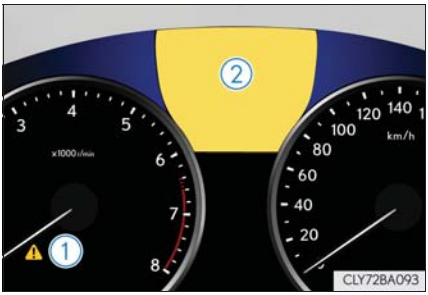
警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

② マルチインフォメーションディスプレイ



処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

	警告専用灯	警告ブザー※	警告内容
点灯	—	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
—	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	—	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	—	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	—	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■レーダークルーズコントロール★の警告メッセージについて

次のような場合は、車間距離が短くても、車間制御中の警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が非常に低速で走行しているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■LKA（レーンキーピングアシスト）★の車線逸脱警報について

次のような場合は、白（黄）線をまたいでも警告メッセージが表示されません。

●LKA の作動条件以外の車速のとき

●白（黄）線を認識できていないとき

●車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作したとき

■専用警告灯について

次の内容のメッセージが表示されたときは、マスターウォーニングが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示を行います。

●ブレーキシステムの異常
ブレーキ警告灯（赤色）が点灯します。（→ P. 428）

●電子制御ブレーキシステム・電動パーキングブレーキシステムの異常
ブレーキ警告灯（黄色）が点灯します。（→ P. 430）

●ABS の異常
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯が点灯します。（→ P. 429）

●充電系統の異常
充電警告灯が点灯します。（→ P. 428）

●いずれかのドア、またはトランクが確実に閉まっていない
半ドア警告灯が点灯します。（→ P. 431）

●エンジン冷却水高温異常
水温計の針がレッドゾーンに入ります。（→ P. 474）

■「電装品作動制限中」が表示されたとき

バッテリーの充電が不足していることを意味します。
このとき、エアコンなどの消費電力が大きい電装品の作動を一時的に制限することがあります。故障ではありませんので、バッテリーの充電が回復したときに電装品の作動は復帰します。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パンクしたときは（スペアタイヤ装着車）

この車両には、スペアタイヤが搭載されています。パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 388 を参照してください）

警告

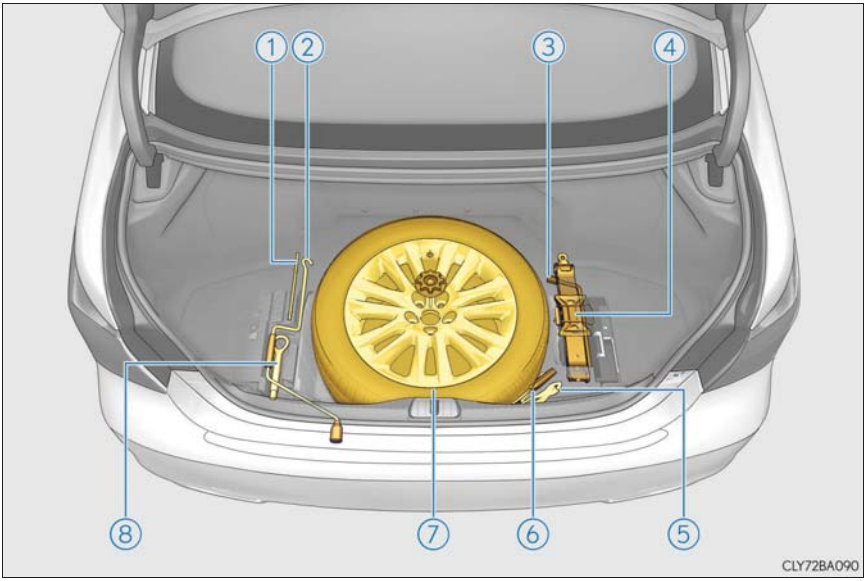
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 417）

工具とジャッキの位置



① パーキングブレーキ解除ツール
② ジャッキハンドル
③ ホイールナットレンチ
④ ジャッキ
⑤ ツール
⑥ ドライバー
⑦ スペアタイヤ
⑧ けん引フック

警告

■ **ジャッキの使用について**

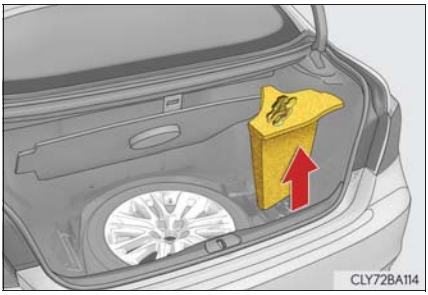
次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないように、ジャッキアップ時は必ずエンジンを停止する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

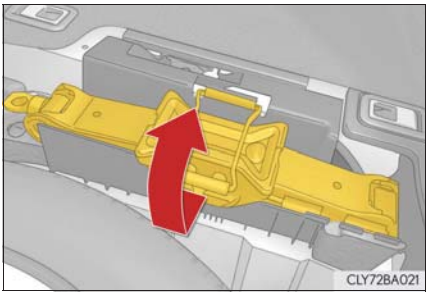
ジャッキの取り出し方

1 ラゲージマットを持ち上げ、フックを使ってラゲージマットを固定する（→ P. 341）

2 ツールトレイを取り出す



3 ジャッキの留め具を取りはずす

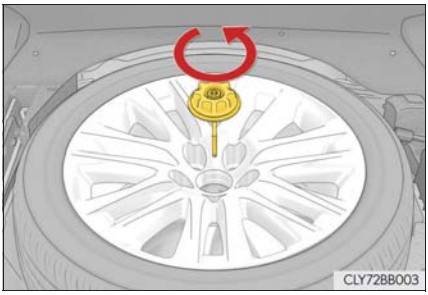


スペアタイヤの取り出し方

1 ラゲージマットを持ち上げ、フックを使ってラゲージマットを固定する（→ P. 341）

2 留め具をはずし、スペアタイヤを取り出す

スペアタイヤの留め具が固くてまわらないときは、車載のホイールナットレンチを使用してください。（タイヤを固定するときは、留め具を手で取り付けてください。ホイールナットレンチなどの工具は使用しないでください）



警告

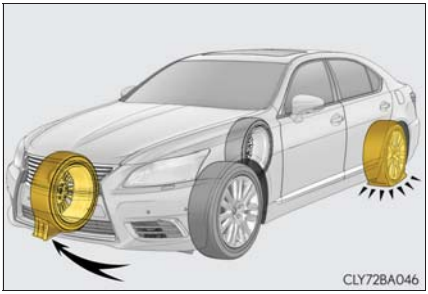
■スペアタイヤを収納するとき

ボデーとスペアタイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

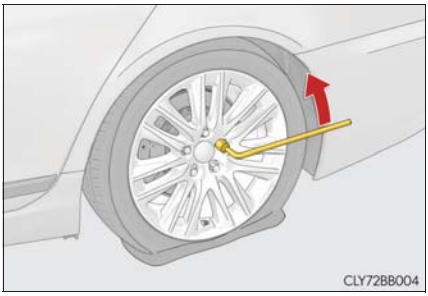
1 輪止め※をする

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

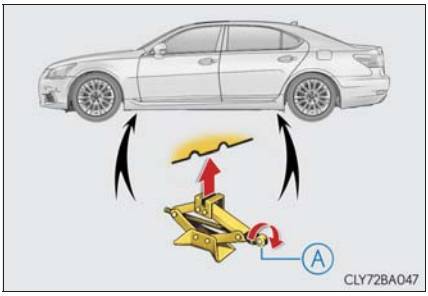


パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

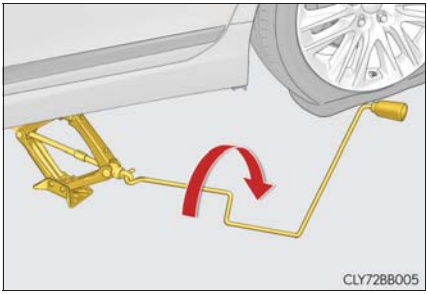
2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



3 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

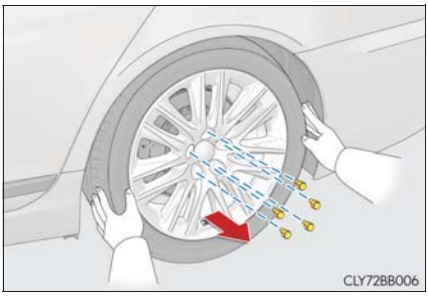


4 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

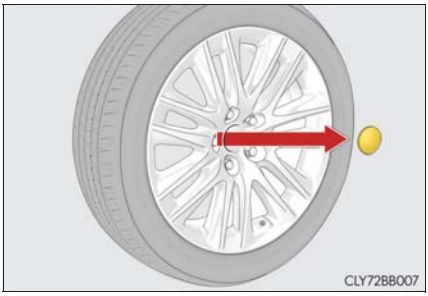


5 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



6 センターオーナメントを反対側から押して取りはずす



警告

■**タイヤ交換について**

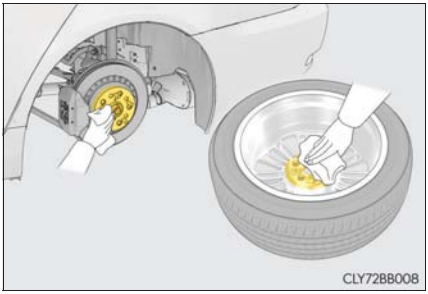
●次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあります。
・ センターオーナメントは直接手をかけて取らない
取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。
・ 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・ ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
・ ホイールの交換後は、すぐに 140N・m（1428kgf・cm）の力でナットを締める
・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

スペアタイヤの取り付け

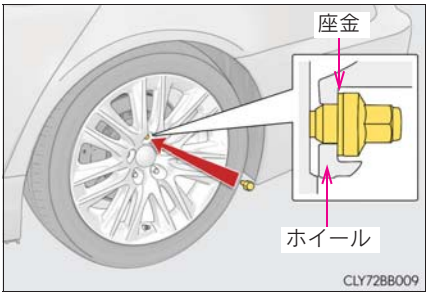
1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

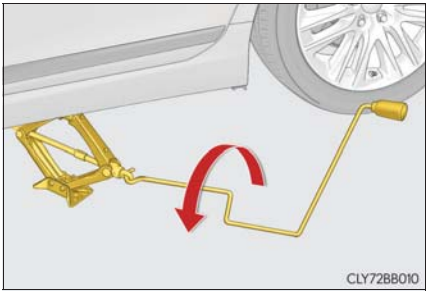


2 スペアタイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットの座金がホイールにあたるまでまわす

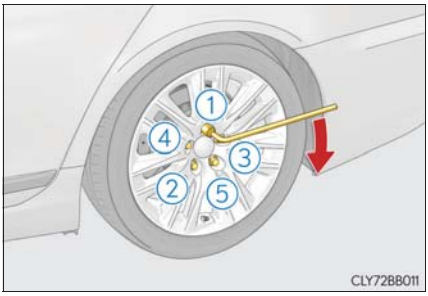


3 車体を下げる

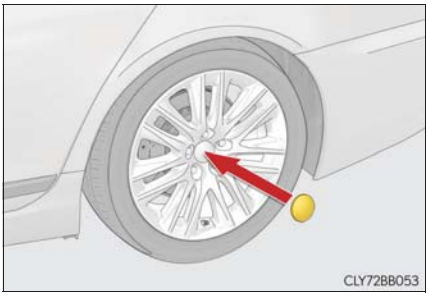


4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
140N・m（1428kgf・cm）



5 センターオーナメントを取り付ける



6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

注意

■タイヤ・ホイール・バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

→ P. 396

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

警告

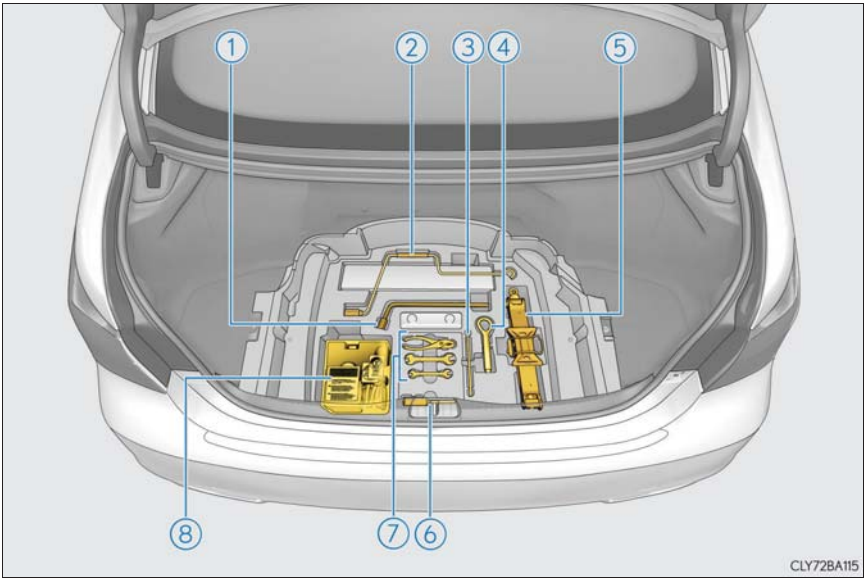
■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

応急修理する前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 417）

タイヤパンク応急修理キットと工具の位置

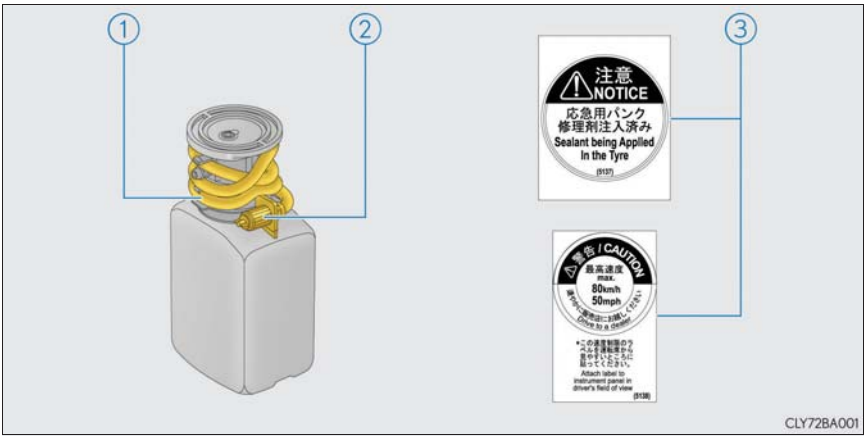


① ホイールナットレンチ
② ジャッキハンドル
③ パーキングブレーキ解除ツール
④ けん引フック
⑤ ジャッキ※
⑥ ドライバー
⑦ ツール
⑧ タイヤパンク応急修理キット

※ ジャッキの使い方（→ P. 441）

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

■ ボトル

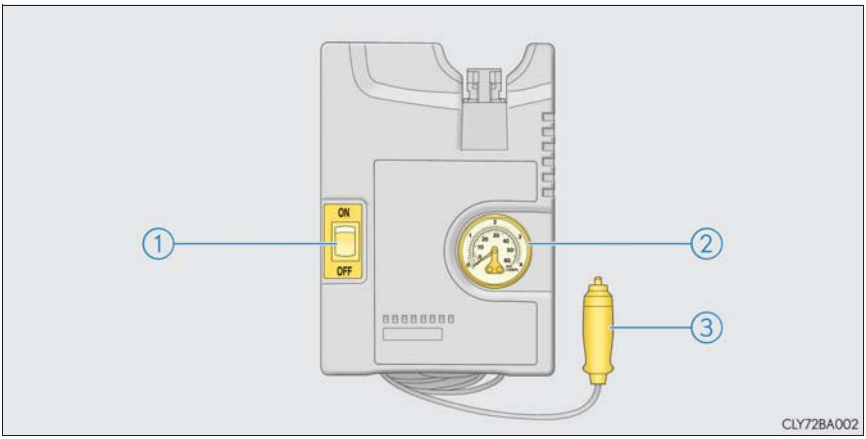


① ホース

② 空気逃がしキャップ

③ ラベル

■ コンプレッサー



① 電源スイッチ

② 空気圧計

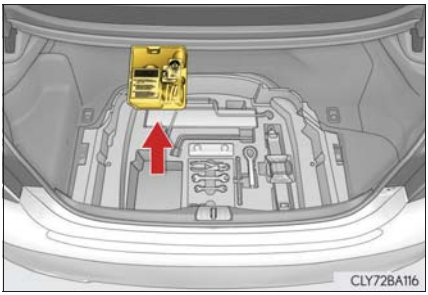
③ 電源プラグ

応急修理キットの取り出し方

1 ハンドルを起こし、ラゲージマットを折りたたむ（→ P. 341）

2 デッキボードを取りはずす

3 応急修理キットを取り出す

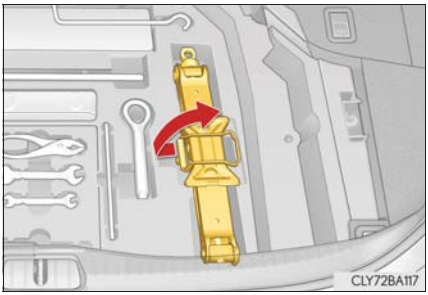


ジャッキの取り出し方

1 ハンドルを起こし、ラゲージマットを折りたたむ（→ P. 341）

2 デッキボードを取りはずす

3 ジャッキの留め具を取りはずす



応急修理する前に

タイヤの損傷程度を確認してください。

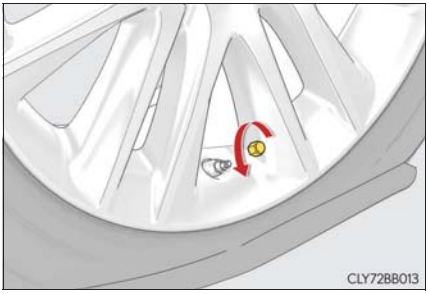
釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

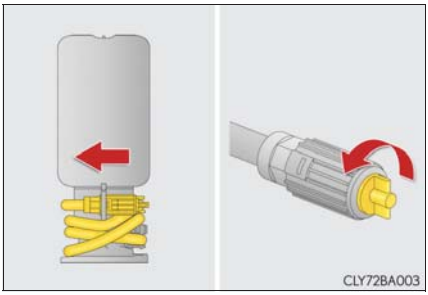
応急修理するとき

1 パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす



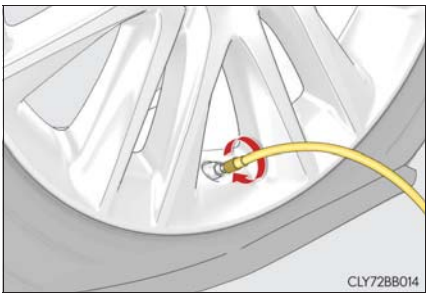
2 ホースをのばし、空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

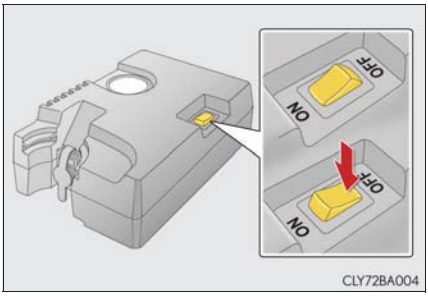


3 ホースをバルブに接続する

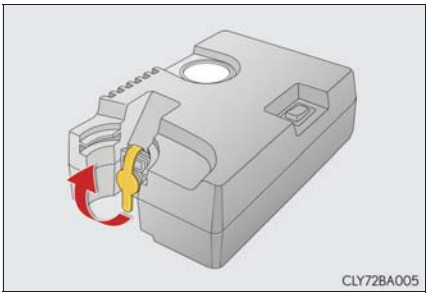
ホース先端を時計まわりにまわして、できるだけ奥までねじ込みます。



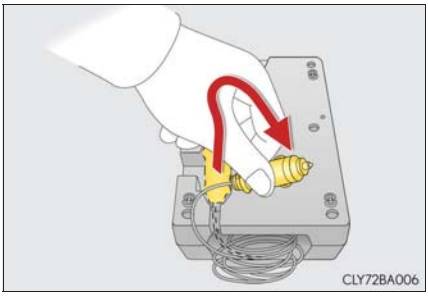
4 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認する



5 コンプレッサーのゴム栓をはずす



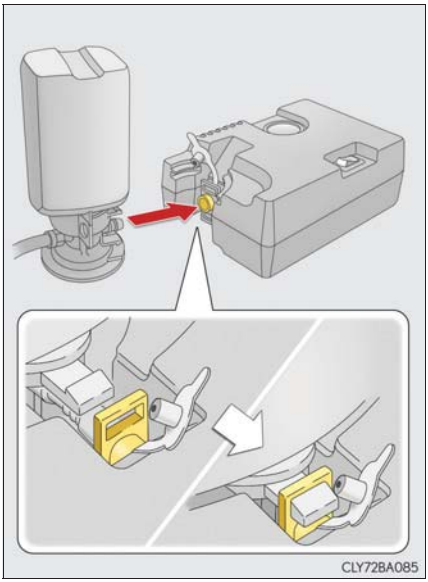
6 コンプレッサーの電源プラグを取りはずす



7 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→ P. 349）

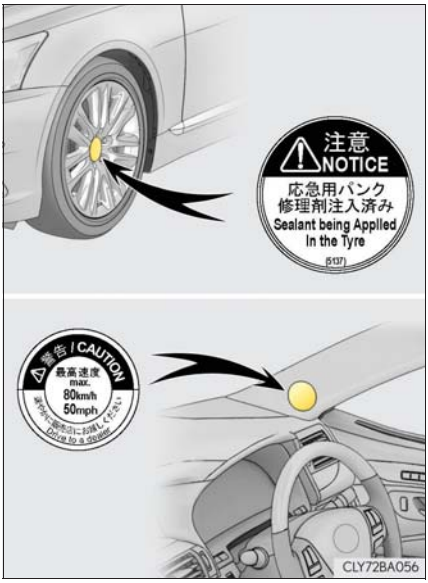
8 ボトルをコンプレッサーに接続する

しっかりと接続されているか確認してください。



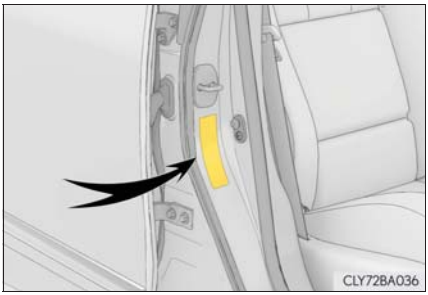
9 付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分にふき取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、レクサス販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済であることを必ずお伝えください。



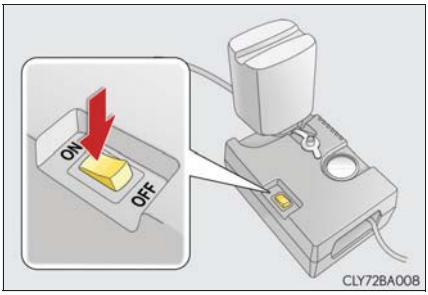
10 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→ P. 487）



11 エンジンを始動する（→ P. 181）

12 コンプレッサーのスイッチをONにし、パンク補修液と空気を充填する



13 空気圧が指定空気圧になるまで充填する

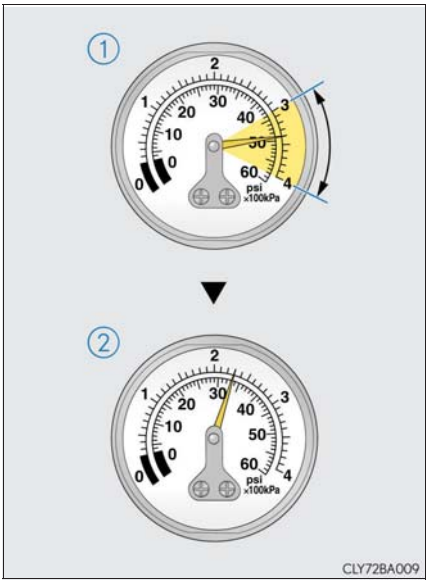
① 一時的に空気圧計が300～400kPa (3.0 ～ 4.0kg/cm^2) まで上昇し、徐々に減少します。

② スイッチを ON にしてから 1 分程度（低温の場合は 15 分程度）で実際の空気圧表示になります。

・コンプレッサーのスイッチを OFF にして空気圧を確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

・10 分以上（低温の場合は 35 分以上）充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にしてレクサス販売店にご連絡ください。

・空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。（→ P. 457, 487）



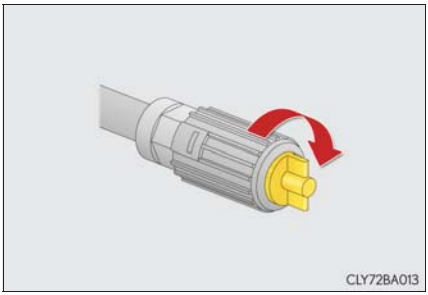
14 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認したうえで、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブから応急修理キットのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

15 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

16 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

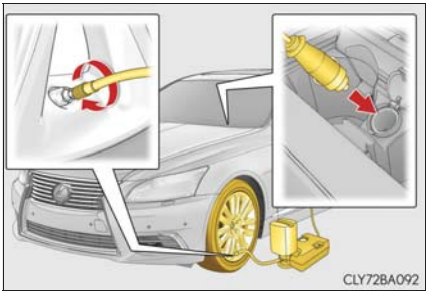
空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。



17 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

18 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、すみやかに 5km 程度、速度 80km/h 以下で安全に走行する

19 走行後、平坦で安全な場所に停車し、再度コンプレッサーを接続する

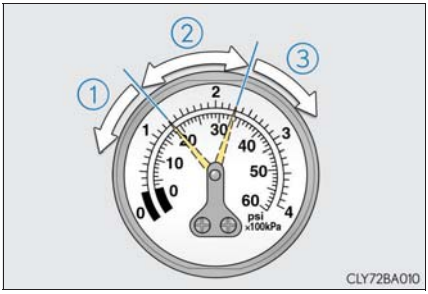


20 コンプレッサーのスイッチをONにして数秒間経過後、スイッチをOFFにして空気圧を確認する

① 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm^2) 未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

② 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm^2) 以上、指定空気圧未満の場合：手順 **21** へ

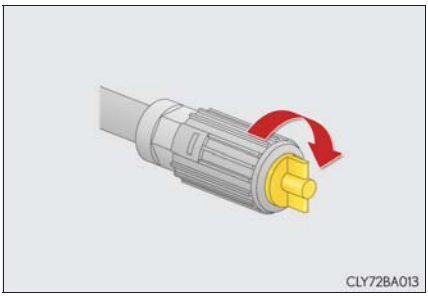
③ 空気圧が指定空気圧の場合：手順 **22** へ



21 コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行後にあらためて手順 **19** から実施する

22 ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。



23 ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

24 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、100km 以内、速度 80km/h 以下でレクサス販売店まで慎重に走行する

知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

●タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき

●タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき

●タイヤがホイールから明らかにはずれているとき

●タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき

●ホイールが破損しているとき

●2 本以上のタイヤがパンクしているとき

●1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

●補修液の有効期限がきれているとき

■応急修理キットについて

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

●応急修理キットのパンク補修液は、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が－ 40 ℃～ 60 ℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

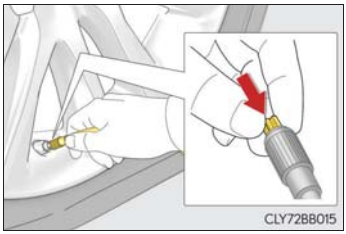
●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■空気を入れすぎてしまったとき

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

●応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

●応急修理キットを使用したときは、タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。
有効期限がきれたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

警告

■応急修理キットについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。応急修理が完全に行われないおそれがあります。

■パンク補修液について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
  走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。
- 充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
  手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。35 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は特に熱くなるため、使用中、または使用直後はふれないでください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

警告

■**補修液を均等に広げるための運転について**

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
・空気圧を確認してください。130kPa (1.3kg/cm^2) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■**応急修理をするとき**

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■**応急修理キットについて**

●応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。

●応急修理キットはトランクに収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損するおそれがあります。

●応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 181）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→ P. 181）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
  （→ P. 66）

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 471）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→ P. 461）

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 471）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

  対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1. エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし（→ P. 182）、パーキングブレーキがかかっていることを確認する
2. シフトレバーが P の位置にあることを確認する
3. エンジンスイッチをアクセサリーモードにする
4. ブレーキペダルをしっかり踏んでエンジンスイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

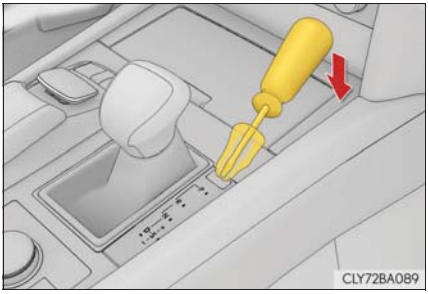
1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし（→ P. 182）、パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 エンジンスイッチをアクセサリーモードにする

3 ブレーキペダルを踏む

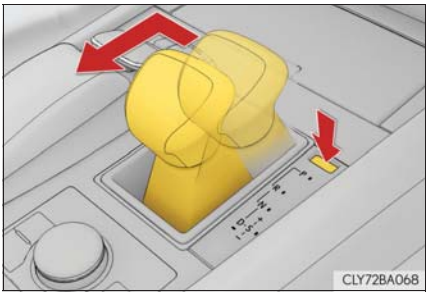
4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



パーキングブレーキが解除できないときは

バッテリーがあがったときや、パーキングブレーキスイッチを操作してもパーキングブレーキが解除されないときは、次の手順で手動解除することができます。緊急時などでパーキングブレーキを解除する必要があるときのみ行ってください。バッテリーが正常のときにスイッチ操作で解除できない場合は、パーキングブレーキシステムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

手動解除する前に

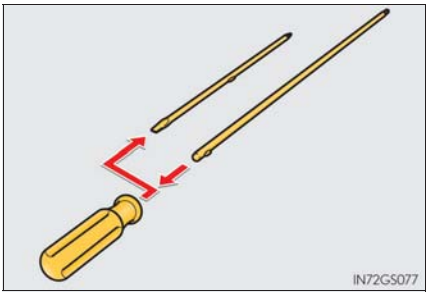
- シフトレバーを P にする
- エンジンスイッチを OFF にする
- パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認する
- 輪止めをする

手動解除の方法

▶ スペアタイヤ装着車

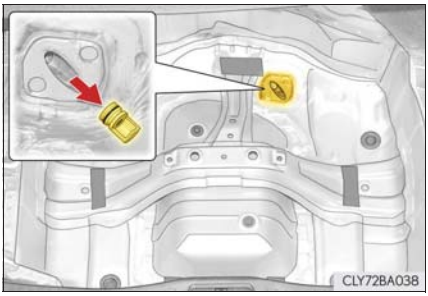
1 パーキングブレーキ解除ツールと車載ドライバーをトランクから取り出す（→ P. 438）

2 車載ドライバーのハンドルにパーキングブレーキ解除ツールを差しかえる

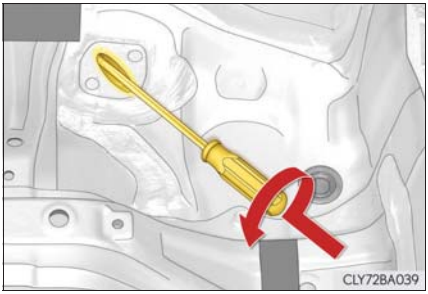


3 スペアタイヤを取り出す（→ P. 441）

4 キャップを取りはずす



5 工具を挿し込み、強く押しあてながら左へ止まるまでまわす

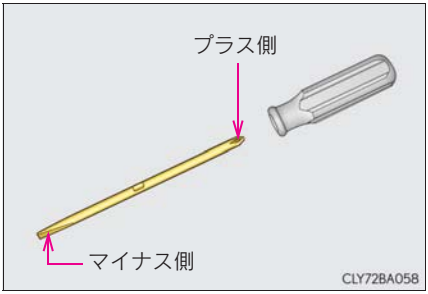


▶ タイヤパンク応急修理キット装着車

1 パーキングブレーキ解除ツールと車載ドライバーをトランクから取り出す（→ P. 447）

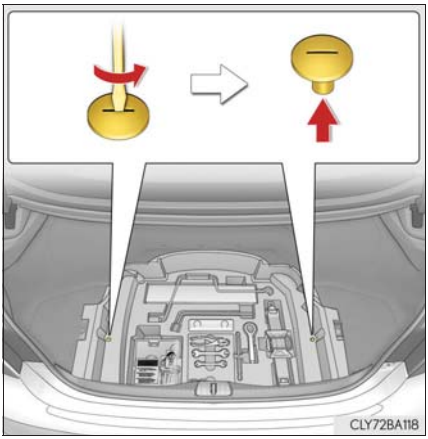
2 車載ドライバーがマイナス側になっていることを確認する

プラス側になっている場合は、マイナス側に入れかえてください。

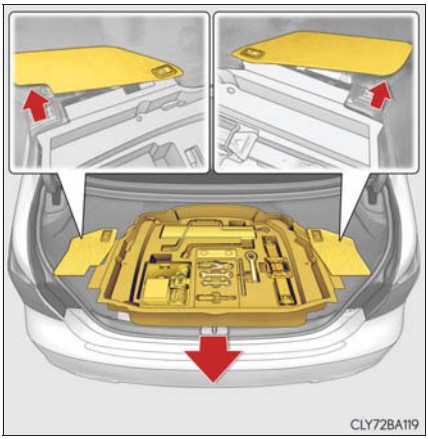


3 マイナスドライバーを使って、クリップを取りはずす

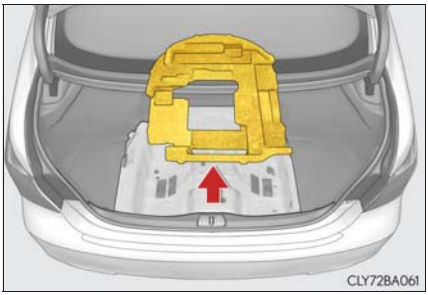
クリップを取り付けるときは P. 466 を参照してください。



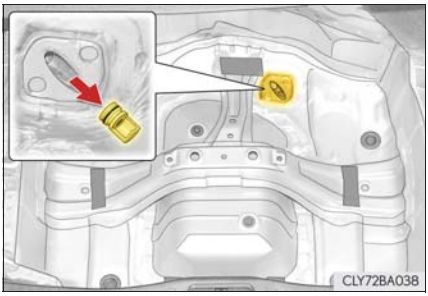
4 左右のサイドデッキボードの後部を持ち上げながらツールトレイを引き出す



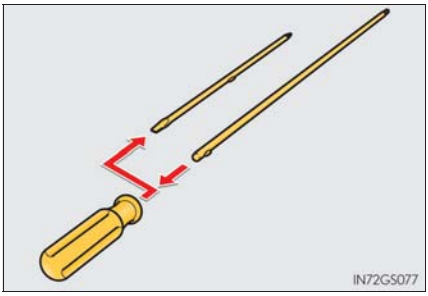
5 ツールトレイガードを取り出す



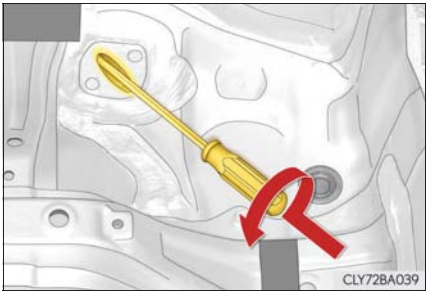
6 キャップを取りはずす



7 車載ドライバーのハンドルにパーキングブレーキ解除ツールを差しかえる



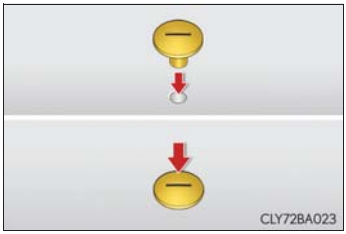
8 工具を挿し込み、強く押しあてながら左へ止まるまでまわす



知識

■ **ツールトレイのクリップを取り付けるとき（タイヤパンク応急修理キット装着車）**

図のようにクリップを取り付けてください。



■ **手動操作について**

パーキングブレーキを手動でかけることはできません。

警告

■手動解除するときの警告

●パーキングブレーキを手動で解除するときは、必ずシフトレバーをPにして輪止めで固定してください。
車両が動き出すおそれがあるため、特に注意してください。

●パーキングブレーキを手動で解除するときは、必ずエンジンスイッチをOFFにして、パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認してください。
エンジンスイッチがイグニッションONモードのときに手動解除を行うと、システムが作動して挿し込んだ工具が回転し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

電子キーが正常に働かないときは

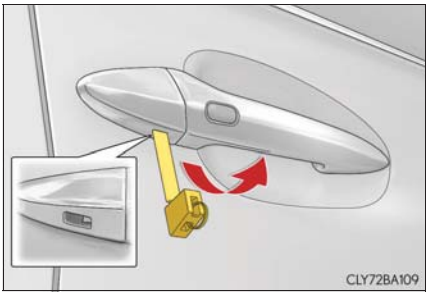
電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 110）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠とキー連動操作

電子キーに内蔵されているメカニカルキーを使います。（→ P. 99）

■ ドア

1 運転席側のドアハンドルのカバーを取りはずす



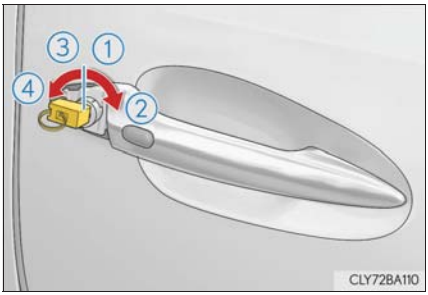
2 ドアを施錠・解錠する

① 全ドア施錠

② ドアガラスとムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）

③ 全ドア解錠

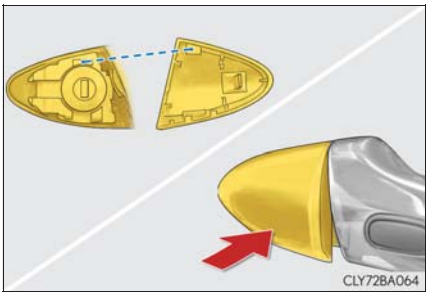
④ ドアガラスとムーンルーフ★が開く（まわし続ける）



3 操作が終わったらカバーを取り付ける

カバーの上側にあるツメを車両上側のツメにかけ、カバー下側を押して取り付ける

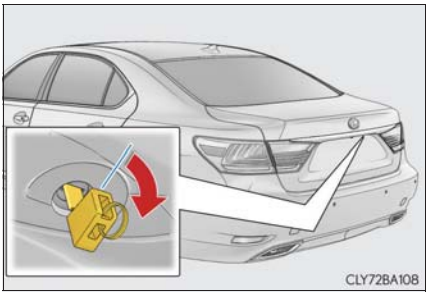
ツメが正しくかかっていないと、カバーが脱落する原因になるため、取り付け後はしっかり固定されていることを確認してください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ トランク

メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける

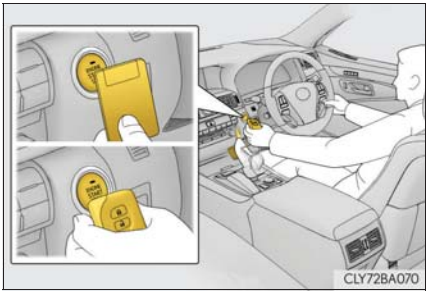


エンジン始動の方法

1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む

2 電子キーのレクサスエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー＆スタートシステムがエンジンスイッチにふれた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。



3 ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかり踏み込んでエンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

知識

■ エンジンの停止方法

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーを P にしてエンジンスイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→ P. 402）

■ エンジンスイッチのモードの切りかえ

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→ P. 182）

警告

■ **メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき**

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

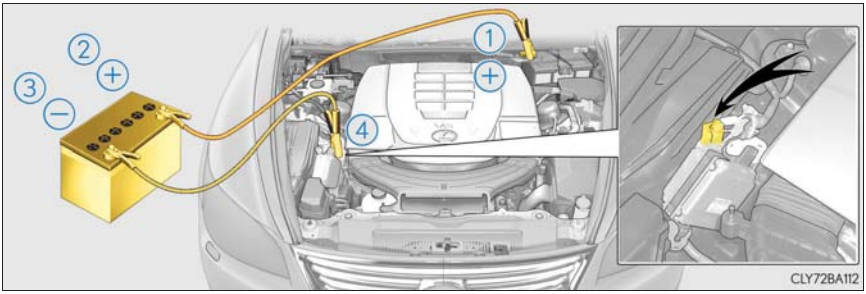
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

1 ボンネットを開けて、エンジンルームカバーとバッテリーカバーをはずす（→ P. 381, 385, 386）

2 バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ



① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

4 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

5 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてからエンジンを始動する

6 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

●エンジンが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■バッテリーあがり時や取りはずし時など

●バッテリーを充電・交換する場合は、車内にキーがないことを確認してください。オートアラームが作動するとキーが車内に閉じ込められるおそれがあります。(→ P. 68)

●バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

■バッテリーがあがってしまった場合

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはレクサス販売店で点検を受けてください。

■バッテリーがはずされたり、バッテリーがあがってしまった場合

エンジンスイッチを OFF にしてすぐにバッテリーターミナルを取りはずすと、ディスプレイ（ナビゲーションなど）に関連する一部のデータがハードディスクに正常に保存されないことがあります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→ P. 78）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

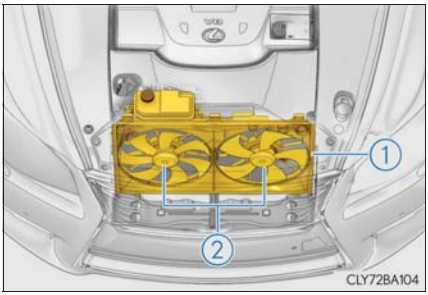
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

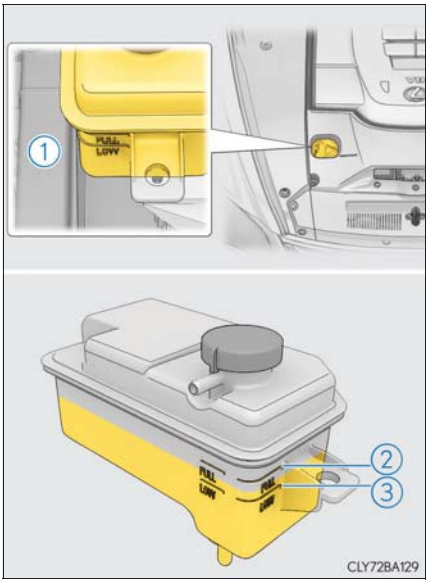


4 冷却水の量がリザーバータンクの“ FULL ”（上限）と“ LOW ”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

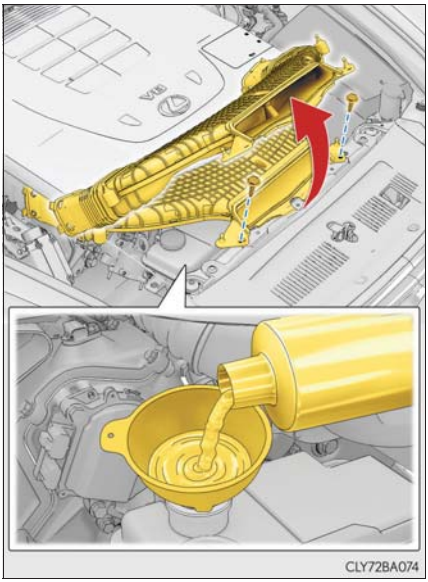
② “ FULL ”（上限）

③ “ LOW ”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する（→ P. 385）

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、レクサス販売店に連絡する

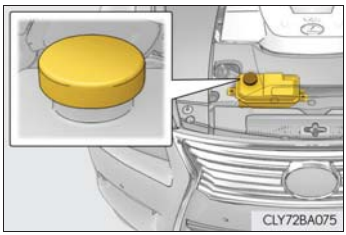
ファンが作動している場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

警告

■エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。



注意

■冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

●異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない

●冷却水用添付剤を使用しない

スタックしたときは

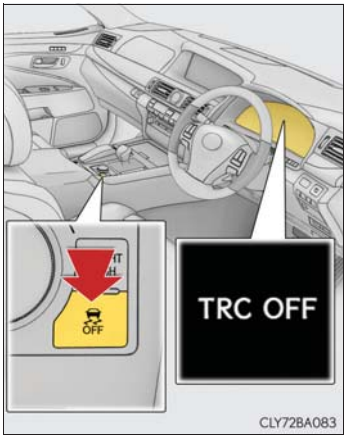
ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

1. パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にして、エンジンを停止する
2. 後輪周辺の土や雪などを取り除く
3. 後輪の下に木や石などをあてがう
4. エンジンを再始動する
5. シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

を押して TRC を OFF にしてください。



警告

■**脱出するとき**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■**シフトレバーを操作するとき**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■**トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

●後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。

●上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）.....482
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧.....489

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	84

エンジンオイル

指定銘柄	容量［L］（参考値※1）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
弊社純正モーターオイル SN 0W-20 ※2 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SN 5W-20 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20 弊社純正モーターオイル SN 5W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30 弊社純正モーターオイル SN 10W-30 —API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30	8.4	8.6 ※3 9.0 ※4

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※2 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

※3 FR 車（後輪駆動）

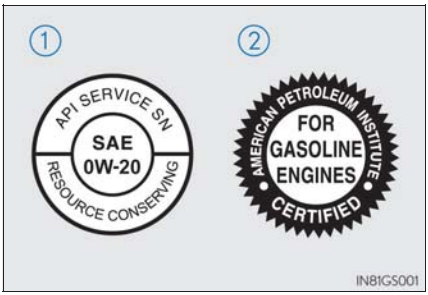
※4 AWD 車（4 輪駆動）

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

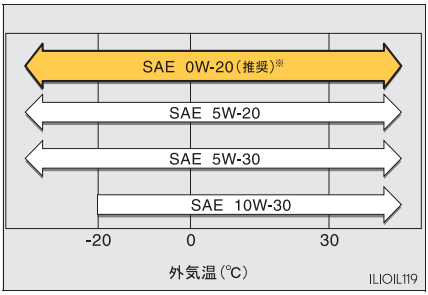
① API マーク

② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

<table>
<tr><th>指定銘柄</th><th colspan="3">容量［L］（参考値）</th></tr>
<tr><td rowspan="3">弊社純正スーパーロングライフクーラント
凍結保証温度
濃度 30%　－ 12℃
濃度 50%　－ 35℃</td><td rowspan="2">FR 車</td><td>パドルシフト非装着車</td><td>11.0</td></tr>
<tr><td>パドルシフト装着車</td><td>11.8</td></tr>
<tr><td colspan="2">AWD 車</td><td>11.1</td></tr>
</table>

トランスミッション

指定銘柄	車種	容量［L］（参考値）
弊社純正オートフルード　WS	FR 車	10.3
	AWD 車	10.7

トランスファー（AWD 車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
弊社純正トランスファーギヤオイル　LL80	0.70

フロントディファレンシャル（AWD 車のみ）

指定銘柄（推奨粘度）	容量［L］（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	0.75

リヤディファレンシャル

▶ FR 車（パドルシフト非装着車）

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5, SAE 75W-85)	1.35

▶ FR 車（パドルシフト装着車）と AWD 車

指定銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LX (API GL-5, SAE 75W-85)	1.35

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル※1

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 2
踏み込んだときの床板とのすき間※2	147

※1 ブレーキペダルの点検に併せて、エンジン回転時に、ブレーキ警告灯（赤色）が点灯していないことも必ず確認してください。
（警告灯が点灯した場合の対処については、P. 428 を参照してください）

※2 エンジン回転時に 500N（51kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目 （エンジン始動時）	パーキングブレーキ 表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上押したとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上引いたとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯しないことを確認する。

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
4.7

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
235/50R18 97W	18 × 7 1/2J	230 (2.3)	230 (2.3)
235/50R18 97V			
245/45R19 98Y	19 × 8J		

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ（ディスチャージヘッドランプ装着車） ハイビームまたはハイビーム／近赤外線投光器（バルブタイプ：H9） ロー／ハイビーム（ディスチャージヘッドランプ）	65 35
	リヤフォグランプ★	21
車内	フロントバニティミラーランプ	8
	リヤバニティミラーランプ	3
	トランクリッドランプ	3.8
	トランクランプ	3.8

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
LS460	USF40	1UR-FSE（4.6L ガソリン）	FR（後輪駆動）
	USF45		AWD（4 輪駆動）
LS460L	USF41		FR（後輪駆動）
	USF46		AWD（4 輪駆動）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、ナビゲーションシステム・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。

G-Link サービスご契約のお客様は、G- カスタマイズ機能（レクサスオーナーズサイトのご利用またはレクサス販売店へのご依頼）により、遠隔で設定変更ができます。

遠隔での設定変更が可能な項目に関してはレクサスオーナーズサイトでご確認ください。

設定変更のしかた

■ ナビゲーションシステムで設定するには

1 リモートタッチの MENU ボタンを押し、 を選択する

2 「設定・編集」画面の「車両」／「運転支援」を選択する

3 設定を変更したいカテゴリーを選択する

4 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

5 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）・「しない」（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「−」を選択してレベルを調整し、「完了」を選択します。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

→ P. 87

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

① ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能

② マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

③ レクサス販売店で設定変更可能

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
マルチインフォメーションディスプレイ（→ P. 82）	言語	日本語	英語	—	○	○
	ECO ランプ	有（自動点灯）	無	—	○	○
			常時点灯			
	ドライブモニター	航続可能距離	給油後平均燃費	—	○	○
	ランプの明るさ	標準	明るい	—	○	○
	SPORT ランプ	ON	OFF	—	○	○
	背景	表示	非表示	—	○	○
	初期設定	しない	する	—	○	○

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ドアロック（→ P. 117, 468）	メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	○
	車速感応オートドアロック	あり	なし	○	—	○
	シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	○	—	○
	シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	あり	なし	○	—	○
	運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）	なし	あり	○	—	○
スマートエントリー＆スタートシステム（→ P. 104）、ワイヤレスドアロック（→ P. 115）共通	作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 7	OFF	○	—	○
			レベル 1 ～ 6			
	作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	—	○
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	—	○
			120 秒			
	半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○
スマートエントリー＆スタートシステム（→ P. 104）	スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	○	—	○
	解錠されるドアの選択	全席	運転席	○	—	○
			各席			
			側席			

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
スマートエントリー＆スタートシステム（→ P. 104）	全ドア解錠したとき、電子キーを携帯せずにトランクを開けられる機能	あり	なし	—	—	○
ワイヤレスドアロック（→ P. 115）	ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○
	解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	○
	トランク解錠時の操作	1 回押し（長）	1 回押し（短）	—	—	○
			2 回押し			
			禁止			
フロントシート（→ P. 129）	降車時の運転席シート移動量調節	標準	OFF	○	—	○
			少なめ			
	降車時の運転席シート腰部硬さ調整	あり	なし	○	—	○
	降車時の助手席シート腰部硬さ調整★	あり	なし	—	—	○
	降車時の助手席シートオットマン★	あり	なし	—	—	○
	フロントコンソール内助手席操作用 AUTO スイッチもしくはリヤアームレスト内助手席操作用 AUTO スイッチでの助手席シート格納作動のうち、助手席シート全体の上方移動★	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
フロントシート (→ P. 129)	リヤアームレスト内助手席操作スイッチを押し続けることによる助手席シート格納作動においての以下の作動順序★ 1 シートの前方移動 2 背もたれの前倒し 3 ヘッドレストの上方移動とシート全体の下方移動 4 ヘッドレストの前倒し	1→ 2→ 3→ 4の順番	3→ 4→ 2→ 1の順番	—	—	○
			1→ 3→ 4→ 2の順番			
	助手席側面スイッチを押し続けることによる助手席シート格納作動においての以下の作動順序★ 1 背もたれの前倒し 2 ヘッドレストの上方移動と シート全体の下方移動 3 ヘッドレストの前倒し	1→ 2→ 3の順番	2→ 3→ 1の順番	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
フロントシート (→ P. 129)	リヤアームレスト内助手席操作スイッチを押し続けることによる助手席シートリターン作動においての以下の作動順序★ 1 ヘッドレストの起き上がりと下方移動 2 背もたれの起き上がり 3 シートの後方移動	1 → 2 → 3 の順番	2 → 1 → 3 の順番	—	—	○
	助手席側面スイッチを押し続けることによる助手席シートリターン作動においての以下の作動順序★ 1 ヘッドレストの起き上がりと下方移動 2 背もたれの起き上がり	1 → 2 の順番	2 → 1 の順番	—	—	○
パワーウインドウ (→ P. 164)、 ムーンルーフ★ (→ P. 167) 共通	助手席・リヤ席スイッチによる自動全開	あり	なし	—	—	○
	運転席スイッチによる助手席・リヤ席の自動全閉	あり	なし	—	—	○
	ドアキー連動開閉機能	あり	なし	—	—	○
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
	スマートエントリー＆スタートシステム連動閉機能	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
ランプ自動点灯・消灯システム (→ P. 203)	ライトセンサーの感度調整	標準	－2～2	○	—	○
	ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	—	○
AFS（アダプティブフロントライティングシステム） (→ P. 204)	AFS の作動	あり	なし	—	—	○
ランプ (→ P. 203)	LED デイライト	あり	なし	—	—	○
アダプティブハイビームシステム★ (→ P. 206)	遮光範囲可変ビームの切りかえ	あり	なし	—	—	○
	アダプティブハイビームシステムが作動する車速や遮光範囲可変ビームの追従角度	通常走行時	山道での走行時に煩わしさを感じない	—	—	○
			市街地での走行時に煩わしさを感じない			
			市街地かつ車速が高い状態での走行時に煩わしさを感じない			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
クリアランスソナー（別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」参照）	フロントセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	○	—	○
	リヤセンターセンサーの検知可能距離	遠い	近い	○	—	○
	ブザー音量	レベル 3	レベル 1 ～ 5	○	—	○
	ソナー表示の切りかえ	すべて表示	表示なし	○	—	○
エアコン（→ P. 298）	AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	○
	AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C（エアコン）スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	—	○
	排ガスセンサー感度調節	標準	－ 3 ～ 3	○	—	○
	エコドライブモード時のエアコン制御	ON	OFF	—	—	○

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
コンフォータブル・エアシート★（→ P. 355）	コンフォータブル・エアシート AUTO 作動時の温度調整（各席個別調整可能）	レベル 3（標準）	レベル 1（すずしめ）～レベル 5（暖かめ）	○	—	○
	エンジンスイッチ ON 時のリヤコンフォータブル・エアシート始動状態（各席個別調整可能）	しない（OFF）	する（AUTO）	○	—	○
	シートを速く暖める機能（各席個別調整可能）	あり	なし	—	—	○
	シートを速く暖める機能が停止するまでの時間（各席個別調整可能）	標準	短め	—	—	○
			長め			
ステアリングヒーター（→ P. 353）	自動ステアリングヒーター	あり	なし	○	—	○
	自動ステアリングヒーターが OFF になるまでの時間	レベル 3（標準）	レベル 1（短め）～レベル 5（長め）	○	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	機能の内容	初期設定	変更後	①	②	③
イルミネーション（→ P. 323）	室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○
			7.5 秒			
			30 秒			
	エンジンスイッチ OFF 後の作動	あり	なし	—	—	○
	解錠時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
	接近時の照明の点灯	あり	なし	—	—	○
	足元照明とインサイドドアハンドル照明の点灯	あり	なし	—	—	○
	シフト照明の点灯	あり	なし	—	—	○
	運転席ドアを開けた時のシートベルトバックル照明の点灯	あり	なし	—	—	○
	エンジンスイッチ OFF 後のシートベルトバックル照明の点灯	あり	なし	—	—	○
	インストルメントパネル照明の点灯の仕方	点灯（演出あり）	点灯（演出なし）	—	—	○
			消灯			
	ドアミラー照明の点灯制御	あり	なし	—	—	○
	ドアミラー照明の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○
			7.5 秒			
			30 秒			
	接近時のドアミラー照明の点灯	あり	なし	—	—	○
	解錠時のドアミラー照明の点灯	あり	なし	—	—	○

知識

■車両カスタマイズについて

●車速感応オートドアロックとシフトレバーをP以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）を両方ともありにした場合、次のように作動します。
・シフトレバーをＰ以外に入れると全ドアが施錠されます。
・全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応オートドアロックが作動します。

●スマートエントリー＆スタートシステムの設定がなしの場合、解錠されるドアの選択の設定はできません。

●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、作動の合図（非常点滅灯）・作動の合図音量（ブザー音量調整）の設定に依存します。

■ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてください。また、バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態で操作を行ってください。

警告

■ナビゲーション画面でカスタマイズ設定を行うとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....502
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....506
アルファベット順さくいん.....508
五十音順さくいん.....510

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

・ナビゲーション
・オーディオ＆ビジュアル
・後席９型ワイドディスプレイ
・音声操作システム
・バックガイドモニター
・クリアランスソナー
・ITS スポット対応 DSRC システム（ETC・VICS 機能付）
・ハンズフリー
・G-Link

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 101）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→ P. 103）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P. 402）
- エンジンスイッチがイグニッション ON モードになっていませんか？
  施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。
  （→ P. 182）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
  （→ P. 110）

リヤドアが開かない

● チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 118）

誤ってトランク内にキーを閉じ込めた

● キー閉じ込み防止機能が働き、通常通りトランクを開けることができます。キーを取り出してください。（→ P. 124）

故障かな？と思ったら

エンジンがかからない

● ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？ （→ P. 181）

● シフトレバーは P になっていますか？ （→ P. 181）

● キーが車内の検知される場所にありますか？ （→ P. 106）

● ステアリングロックされていませんか？ （→ P. 183）

● キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。（→ P. 469）

● バッテリーがあがっていませんか？ （→ P. 471）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

● エンジンスイッチはイグニッション　ON　モードになっていますか？

エンジンスイッチがイグニッション ON モードでブレーキを踏んでも解除できないとき （→ P. 462）

エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

● 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 183）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

● ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 164）

エンジンスイッチが自動的に OFF になった

● 一定時間アクセサリーモードにしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 183）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 506）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 428、434 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

● スペアタイヤ装着車

車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→ P. 437）

● タイヤパンク応急修理キット装着車

車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 446）

立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 478）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 67
ドアを開閉したとき	電子キーを車内に置き忘れている	P. 434
	シフトポジションがＰ以外になっている	P. 434
	ムーンルーフ★が開いている（エンジン停止中のみ）	P. 169
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※	P. 67
トランクを閉めたとき	電子キーをトランク内に置き忘れている	P. 124
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P. 402
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 107
	電子キーを車内に置き忘れている	
	シフトポジションがＰ以外になっている	

※ ドアまたはトランクを解錠するか、エンジンスイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・トランク・ボンネットが確実に閉まっていない	P. 434
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 197
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P. 432
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P. 188 P. 194
ブレーキペダルを踏んだとき	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 176
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロール★を使用している	P. 231
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）★が作動した	P. 259
車線からはずれそうになったとき	LKA（レーンキーピングアシスト）★を使用している	P. 239

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）. 298, 314
ABS
（アンチロックブレーキシステム）. 252, 429
AFS
（アダプティブフロントライティングシステム）. 204
AI-SHIFT
（アーティフィカルインテリジェンスシフト）. 189, 195
AWD
（オールホイールドライブ）. 488
BSM
（ブラインドスポットモニター）. 272
DISP
（ディスプレイ）. 83
EDR
（イベントデータレコーダー）. 8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）. 252
ETC
（エレクトロニックトールコレクション）※
FR
（フロントエンジンリヤドライブ）. 488
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）. 483
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）. 50, 58
LKA
（レーンキーピングアシスト）. 238

PCS
（プリクラッシュセーフティシステム）. 259, 429
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）. 39, 429
TRC
（トラクションコントロール）. 252
VDIM
（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）. 253
VGRS
（バリアブルギヤレシオステアリング）. 252
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）. 252

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）..... 471
アームレスト..... 359
アウターミラー（ドアミラー）..... 161
　操作..... 161
　ブラインドスポットモニター（BSM）..... 272
　リバース連動機能..... 162
アクセサリーコンセント 351
アクセサリーソケット 349
アクセサリーモード 182
アシストグリップ..... 371
足元照明..... 323
アダプティブハイビームシステム 206
アダプティブフロントライティングシステム（AFS）..... 204
アラーム
　オートアラーム 67
　音さくいん 506
　警告ブザー 428, 434
アンチロックブレーキシステム（ABS）..... 252
アンテナ（スマートエントリー＆スタートシステム）..... 106

い

イージークローザー
　トランク 124
　ドア 119
イグニッションスイッチ（エンジンスイッチ）..... 181
位置交換（タイヤローテーション）..... 388
イベントデータレコーダー（EDR）..... 8
イモビライザーシステム 66
イルミネーテッドエントリーシステム 326
インサイドハンドル照明 323
インストルメントパネルオーナメント照明..... 323
インストルメントパネル照度調整スイッチ..... 79
インジケーター（表示灯）..... 76
インテリアランプ..... 324
インナーミラー..... 159

う

ウインカー（方向指示灯）..... 196
電球（バルブ）の交換..... 412
方向指示レバー 196
ウインドウ..... 164
ウォッシャー 215
パワーウインドウ..... 164
リヤウインドウ
デフォッガー 321
ウインドウロックスイッチ 164
ウォーニングランプ（警告灯）..... 428
ウォッシャー..... 215
液の補給 387
スイッチ 215
タンク容量 487
冬の前の準備・点検..... 287
動けなくなったときは
（スタック）..... 478
雨滴感知式ワイパー 215
運転 172
運転を補助する装置..... 252
寒冷時の運転 287
正しい運転姿勢 32
手順 172
運転席シートポジション
メモリー 147

え

エアコン
エアコンフィルター..... 399
フロントオートエアコン..... 298
リヤオートエアコン..... 314
エアコンフィルター 399
エアバッグ..... 39
SRS エアバッグ警告灯 429
作動条件 44
配置 39
ECO ランプ..... 78
LED デイライト 204
電球（バルブ）の交換..... 412
ランプスイッチ 203
エレクトリック
パワーステアリング（EPS）..... 252
機能 252
パワーステアリング警告灯 429

エンジン
エンジンイモビライザーシステム 66
エンジン回転計（タコメーター）..... 78
エンジンがかからない（エンジンが始動できない）.... 460
エンジン警告灯 429
エンジンスイッチ..... 181
エンジンの始動方法..... 181
エンジンルームカバー..... 385
オーバーヒート 474
ボンネット 381
エンジンオイル 482
冬の前の準備・点検..... 287
メンテナンスデータ 482
エンジンスイッチ 181
エンジンフード（ボンネット）..... 381
開け方 381
エンジンルーム 385
エンジンルームカバー..... 385
エンジンルームから蒸気が出ている 474

お

オイル（エンジンオイル）..... 482
応急用タイヤ（スペアタイヤ）..... 437
空気圧 487
交換方法 437
オーディオ※
オートアラーム 67
オートドアロック・アンロック機能..... 119
オートマチックトランスミッション..... 186, 190
M モード 193
S モード..... 187
シフトレバーがシフトできない 462
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）..... 204
オーバーヒート 474
オープナー
給油口 220
トランク 122
ボンネット 381
お子さまを乗せるとき 49
ウインドウロックスイッチ 164
お子さまの安全のために 49
子供専用シート..... 50
コンフォータブル・エアシートに関する警告 358
シートベルトの着用..... 35, 36
ステアリングヒーターに関する警告 354
チャイルドシートの取り付け 58
チャイルドプロテクター..... 118
オドメーター 78
機能 78
切りかえスイッチ..... 79

か

カーテシランプ..... 323
カーテンシールドエアバッグ 40
カードキー..... 98
カーペット..... 378
　洗浄 379
　フロアマットの取り付け方 30
外気温度表示..... 78
外装の電球（バルブ）..... 407
　交換要領 407
　ワット数 488
買い物フック..... 340
カスタマイズ機能..... 489
型式 488
カップホルダー 331
カメラ
　アダプティブハイビーム
　　システム 212
　カメラセンサー（PCS）..... 262
　近赤外線カメラ
　　（ナイトビュー）..... 286
　ドライバーモニター用カメラ
　　（PCS）..... 262
　白線認識用カメラ（LKA）..... 246
ガラスの曇り取り
　フロントウインドウガラス..... 305
　リヤウインドウデフォッガー ... 321
ガレージジャッキ..... 383
冠水路走行..... 179
寒冷時の運転..... 287

き

キー 98
　エンジンが始動できない..... 469
　カードキー 98
　キーナンバープレート 98
　キーの構成 98
　キーレスエントリー..... 104, 115
　キーをなくした..... 101, 103
　正常に働かない..... 468
　施錠・解錠ができない..... 468
　電子キー 98
　電池が切れた 402, 468
　メカニカルキー..... 99
　ワイヤレスリモコン..... 115
キーレスエントリー 104
　スマートエントリー＆
　　スタートシステム 104
　ワイヤレスドアロック..... 115
救急箱等固定用バンド 342
給油 219
　給油口が開けられない..... 221
　給油のしかた 219
　メンテナンスデータ..... 482
給油後走行距離..... 85
給油後平均燃費..... 84
緊急時シートベルト固定機構..... 36

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

緊急時の対処
エンジンが始動できない..... 460
オーバーヒートした..... 474
キーの電池が切れた..... 402, 468
キーをなくした 101, 103
警告灯がついた 428
警告メッセージが
表示された 434
けん引 421
故障したときは 416
シフトレバーが
シフトできない 462
車両を緊急停止する..... 420
スタックした 478
電子キーが正常に働かない..... 468
パーキングブレーキが
解除できない 463
発炎筒 418
バッテリーがあがった..... 471
パンクした 437, 446
緊急ブレーキシグナル 253

く

空気圧（タイヤ）..... 487
タイヤ空気圧警告灯..... 431
タイヤ空気圧警報システム 389
メンテナンスデータ..... 487
区間距離計（トリップメーター）..... 78
機能 78
切りかえ・リセットスイッチ 79
曇り取り
フロントウインドウガラス 305
ミラーヒーター..... 321
リヤウインドウデフォッガー ... 321
クラクション（ホーン）..... 202
クリアランスソナー※
操作※
クリアランスランプ（車幅灯）..... 203
電球（バルブ）の交換..... 412
ランプスイッチ..... 203
クリップ
エンジンルームカバー..... 385
バッテリーカバー..... 386
フロアマット 30
クルーズコントロール 222
クルーズコントロール..... 222
レーダークルーズ
コントロール
（全車速追従機能付）..... 226
グローブボックス 329

け

警音器（ホーン）..... 202
計器類（メーター）..... 78
照度調整 79
マルチインフォメーション
ディスプレイ 82
メーター 78
警告灯 75
ABS ＆ブレーキアシスト 429
SRS エアバッグ..... 429
アダプティブフロント
ライティングシステム
（AFS）..... 204
エンジン 429
シートベルト非着用..... 431
充電 428
スリップ表示灯 430
タイヤ空気圧 431
燃料残量 431
パーキングブレーキ表示灯 430
パワーステアリング..... 429
半ドア 431
PCS 429
プリテンショナー..... 429
ブレーキ 428, 430
ブレーキホールド作動表示灯 ... 430
マスターウォーニング 431
警告ブザー
シートベルト非着用..... 432
シフトダウン制限..... 188, 194
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）..... 231
手放し運転警告（LKA）..... 242
パーキングブレーキ
未解除走行時 198
半ドア 107, 116
ムーンルーフ開..... 169
リバース 188, 194
警告メッセージ..... 434
化粧ミラー（バニティミラー）..... 343
けん引..... 421
けん引のしかた..... 421
フック 422

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

こ

コインホルダー 330
交換
　キーの電池 402
　タイヤ 437
　電球（バルブ）..... 407
　ヒューズ 404
工具（ツール）..... 438, 447
後席９型ワイドディスプレイ※
航続可能距離..... 83
後退灯（バックアップランプ）
　電球（バルブ）の交換..... 412
コートフック..... 370
後方プリクラッシュセーフティ
　システム 269
子供専用シート 50
　選択方法 50
　取り付け方 58
小物入れ..... 337
コンソールボックス 333
コンフォータブル・エアシート..... 355
コンライト
　（自動点灯・消灯装置）..... 203

さ

サイドエアバッグ 40
サイド方向指示灯 196
　電球（バルブ）の交換..... 412
　方向指示レバー..... 196
サイドミラー（ドアミラー）..... 161
　操作 161
　ブラインドスポットモニター
　（BSM）..... 272
　リバース連動機能 162
サンシェード
　ムーンルーフ 168
　リヤ 362
　リヤドア 365
サンバイザー 343

し

シート 129, 136
子供専用シート 50
コンフォータブル・
エアシート 355
シートポジション
メモリー 147, 152
正しい運転姿勢 32
調整 129, 136
手入れ 378
パワーイージーアクセス
システム 132
ヘッドレスト 154
ペルビックサポートシート 140
ポジションメモリー 147
メモリーコール機能 149
リヤシートポジション
メモリー 152
リヤシートリラクゼーション
システム 142
シートベルト 34
お子さまの着用 35, 36
緊急時シートベルト固定機構 36
シートベルト非着用警告灯 431
高さ調整 34
正しく着用するには 34
着け方・はずし方 34
手入れ 379
妊娠中の方の着用 37
シートベルトコンフォートガイド 35
シートベルト非着用警告灯 431
シートベルトプリテンショナー 35
機能 35
プリテンショナー警告灯 429
シートポジション
メモリー 147, 152
シガレットライター 347
室内灯 323
ワット数 488
スイッチ 324
始動のしかた 181
シフト照明 323
シフトポジション 191
シフトレバー 186, 190
シフトレンジの切りかえ 192
シフトロックシステム
（解除ボタン） 462
操作 190
リバース警告ブザー 188, 194
シフトレバーが
シフトできないときは 462
締め付けトルク（ホイール） 444
車高調整
電子制御エアサスペンション ... 251
ジャッキ
ガレージジャッキ 383
車載ジャッキ 438, 447
ジャッキハンドル 438, 447

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

車幅灯 203
電球（バルブ）の交換..... 412
ランプスイッチ 203
車両型式..... 488
車両仕様（スペック）..... 482
車両データの記録 7
車両を緊急停止するには 420
ジュニアシート 51
収納装備..... 327
瞬間燃費..... 84
仕様（車両仕様）..... 482
衝撃感知ドアロック
解除システム..... 119
初期化
（タイヤ空気圧警報システム）..... 390
侵入センサー（オートアラーム）..... 70

す

水温計..... 78
スイッチ
アダプティブハイビーム
システム 206
イグニッション..... 181
ウインドウロック..... 164
ウォッシャー 215
エンジンスイッチ..... 181
クルーズコントロール..... 222,226
コンフォータブル・
エアシート 355
シート調整 129
シートポジション
メモリー 147, 152
車間距離切りかえ（レーダー
クルーズコントロール）..... 228
助手席側面 130
侵入センサー OFF 70
ステアリングヒーター 353
スノーモード 194
タイヤ空気圧警報リセット 390
DISP 83

ドアミラー 161
ドアロック 117
ドライブモードセレクト..... 247
トランクオープナー..... 122
トランクオープナーメイン..... 123
トランククローズ..... 123
ナイトビュー 276
パーキングブレーキ..... 197
パドルシフト 192
パワーウインドウ..... 164
ハンドル位置調整..... 158
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 417
VSC OFF 254
フォグランプ 213
ブラインドスポットモニター
（BSM）..... 272
プリクラッシュブレーキ
OFF..... 261
ブレーキホールド..... 200
ヘッドランプクリーナー..... 218
方向指示レバー 196
ホーン（警音器）..... 202
ポジションメモリー..... 147
ムーンルーフ 167
ランプ 203
リセット（タイヤ空気圧警報
システム）..... 390
リヤウインドウデフォッガー ... 321
リヤサンシェード..... 362
リヤシートポジション
メモリー 152
リヤドアサンシェード..... 365
レーダークルーズ
コントロール
（全車速追従機能付）..... 226
レーンキーピングアシスト
（LKA）..... 240
ワイパー 215
スタック..... 478
ステアリングヒーター 353

ステアリングホイール
（ハンドル）..... 158
位置調整 158
ステアリングヒーター..... 353
パワーイージーアクセス
システム 132
ポジションメモリー 147
ステアリングロック 183
解除できないとき..... 183
ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル..... 253
電球（バルブ）の交換 412
スノータイヤ（冬用タイヤ）..... 287
スピードメーター 78
スペアタイヤ..... 437
空気圧 487
交換方法 437
スペック（車両仕様）..... 482
SPORT ランプ..... 80
スマートエントリー&
スタートシステム..... 104
アンテナの位置 106
エンジンの始動 181
カスタマイズ設定..... 489
警告ブザー 107
作動範囲 106
正常に働かないとき..... 468
節電機能 110
電波がおよぼす影響について ... 113
ドアの解錠・施錠..... 105
トランクの解錠 105
スモールランプ（車幅灯）..... 203
電球（バルブ）の交換..... 412
ランプスイッチ 203

せ

清掃 374, 378
アルミホイール..... 375
外装 374
シートベルト 379
ドライバーモニター用カメラ ... 268
内装 378
レーダーセンサー 237
制動灯
緊急ブレーキシグナル..... 253
電球（バルブ）の交換..... 412
積算距離計（オドメーター）..... 78
機能 78
切りかえスイッチ..... 79
セキュリティインジケーター.... 66, 67
接近警報（レーダークルーズ
コントロール）..... 231
節電機能..... 205
センサー
アダプティブハイビーム
システム 212
インナーミラー..... 160
雨滴感知センサー..... 216
侵入センサー 70
ライトセンサー..... 204
レーダー
センサー 234, 261, 275
洗車 374
前照灯（ヘッドランプ）..... 203
節電機能 205
電球（バルブ）の交換..... 412
ライトセンサー..... 204
ランプ消し忘れ防止機能..... 204
ランプスイッチ..... 203

そ

走行時間..... 85
走行モード
（ドライブモード）..... 194, 247
送信機
（タイヤ空気圧警報システム）..... 389
速度計（スピードメーター）..... 78

た

ターンシグナルランプ
（方向指示灯）..... 196
電球（バルブ）の交換..... 412
方向指示レバー..... 196
タイヤ..... 388
空気圧 397, 487
交換 437
締め付けトルク..... 444
スペアタイヤ 437
点検 388
パンク応急修理キット 446
パンクしたときは..... 437, 446
ホイールサイズ..... 487
ローテーション（位置交換）.... 388
タイヤが空まわりする
（スタックした）..... 478
タイヤ空気圧警報システム 389
ID コードの登録・選択..... 391
アンテナの位置..... 395
機能について 389
空気圧バルブ／
送信機について 389
空気圧表示画面..... 85
初期化 390
タイヤ空気圧警告灯..... 431
電波が及ぼす影響について 395
タイヤチェーン..... 287

ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 287
チャイルドシート 50
ISOFIX バーでの取り付け 61
シートベルトでの固定..... 60
選択方法 50
チャイルドプロテクター 118
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）..... 197
解除できないとき..... 463
操作 197
パーキングブレーキ表示灯 430
未解除走行時警告ブザー 198
メンテナンスデータ..... 486

つ

ツール（工具）..... 438, 447

て

ディスチャージヘッドランプ
オートレベリングシステム 204
電球（バルブ）の交換..... 412
ランプスイッチ..... 203
ディファレンシャル
フロントディファレンシャル ... 485
リヤディファレンシャル 485
手入れ..... 374, 378
アルミホイール..... 375
外装 374
シートベルト 379
ドライバーモニター用カメラ ... 268
内装 378
レーダーセンサー..... 237
テーブル..... 360
テールランプ（尾灯）..... 203
電球（バルブ）の交換..... 412
ランプスイッチ..... 203
デフォッガー
フロントウインドウガラス 305
ミラーヒーター..... 321
リヤウインドウデフォッガー ... 321
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ）..... 407
ワット数 488
点検基準値
（メンテナンスデータ）..... 482
電子キー..... 98
作動範囲 106
正常に働かないとき..... 468
電池が切れた 468
電池交換 402
電池交換（キー）..... 402

と

ドア 117
オートドアロック・アンロック機能 119
衝撃感知ドアロック解除システム 119
スマートエントリー＆スタートシステム 104
チャイルドプロテクター 118
ドアガラス 164
ドアロックスイッチ 117
半ドア警告灯 431
ロックレバー 117
ワイヤレスリモコン 115
ドアカーテシランプ 323
ドアポケット 330
ドアミラー 161
操作 161
ブラインドスポットモニター（BSM） 272
リバース連動機能 162
ドアミラー照明 323
電球（バルブ）の交換 412
盗難防止装置
エンジンイモビライザーシステム 66
オートアラーム 67
時計 345
時計照明 323
トップテザーアンカー 58
ドライバーモニター 262
トラクションコントロール（TRC） 252
トランク 122
イージークローザー 124
オープナー 122
キー閉じ込み防止機能 124
クローズスイッチ 123
電子キーが正常に働かないとき 468
トランクオープナーを使用できなくするには 123
トランクスルー 368
トランク内の装備 340
パワートランクリッド 122
メインスイッチ 123
トランクスルー 368
トランクランプ 124
ワット数 488
トランクリッドランプ 124
ワット数 488
トランスミッション 186, 190
シフトダウン制限警告ブザー 188, 194
操作 186, 190
パドルシフトスイッチ 192
メンテナンスデータ 484
トリップインフォメーション（マルチインフォメーションディスプレイ） 83
トリップメーター 78
機能 78
切りかえ・リセットスイッチ 79

な

内装
収納装備 327
手入れ 378
ナイトビュー 276
「ナノイー」 312
ナビゲーションシステム※

に

ニーエアバッグ 39
荷物
積むときの注意 180
トランク 122
荷物固定用フック 340

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）... 478

ね

燃費
給油後平均燃費 84
瞬間燃費 84
平均燃費 84
燃費画面 91
燃料 482
給油 219
種類 482
燃料残量警告灯 431
容量 482
燃料計 78

は

パーキングブレーキ 197
解除できないとき 463
操作 197
ブレーキ警告灯 430
未解除走行時警告ブザー 198
メンテナンスデータ 486
パーソナルランプ 325
Harmonious Driving Navi. 画面 92
排気ガス 65
灰皿 346
ハイビーム（ヘッドランプ）..... 203
アダプティブハイビーム
システム 206
電球（バルブ）の交換 412
ランプスイッチ 203
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換 412
ハザードランプ（非常点滅灯）..... 417
スイッチ 417
電球（バルブ）の交換 412
挟み込み防止機能
パワーウインドウ 165
パワートランクリッド 124
ムーンルーフ 168
リヤドアサンシェード 365
発炎筒 418
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換 412
バックガイドモニター※
バッテリーがあがった 471
パドルシフトスイッチ 192
バニティ（化粧用）ミラー 343
バニティミラーランプ 343
装備について 343
ワット数 488

バリアブルギヤレシオ
ステアリング（VGRS）..... 252
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）..... 407
ワット数 488
パワーイージーアクセス
システム 132
パワーウインドウ 164
ウインドウロックスイッチ..... 164
閉めることができないときは... 165
操作 164
ドアロック連動ドアガラス
開閉機能 165
挟み込み防止機能..... 165
パワーステアリング 252
パワーステアリング警告灯..... 429
パワートランクリッド 122
パンクした
スペアタイヤ装着車..... 437
タイヤパンク応急修理キット
装着車 446
番号灯
（ライセンスプレートランプ）..... 203
電球（バルブ）の交換..... 412
ランプスイッチ 203
ハンドル
（ステアリングホイール）..... 158
位置調整 158
ステアリングヒーター..... 353
パワーイージーアクセス
システム 132
ポジションメモリー..... 147

ひ

ビークルスタビリティ
コントロール（VSC）..... 252
ビークルダイナミクス
インテグレイテッド
マネージメント（VDIM）..... 253
ヒーター
エアコン・デフォッガー..... 298
ステアリングヒーター 353
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 417
スイッチ 417
電球（バルブ）の交換..... 412
尾灯（テールランプ）..... 203
電球（バルブ）の交換..... 412
ランプスイッチ 203
ヒューズ..... 404
表示灯..... 76
日よけ（サンバイザー）..... 343
ヒルスタートアシスト
コントロール..... 252

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方..... 471
フォグランプ..... 213
スイッチ 213
電球（バルブ）の交換..... 412
ワット数 488
ブザー
シートベルト非着用警告..... 432
シフトダウン制限警告.... 188, 194
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 231
手放し運転警告（LKA）..... 242
パーキングブレーキ未解除走行時警告 198
ムーンルーフ開警告..... 169
リバース警告 188, 194
フック
買い物フック 340
けん引フック 422
コートフック 370
荷物固定用フック..... 340
フロアマット固定フック..... 30
フューエルメーター（燃料計）..... 78
フューエルリッド（給油口）..... 219
給油口が開かない..... 221
給油のしかた 219
冬の前の準備（寒冷時の運転）..... 287
冬用タイヤ..... 287
ブラインドスポットモニター（BSM）..... 272
プリクラッシュセーフティシステム（PCS）..... 259
機能 259
プリクラッシュブレーキOFF スイッチ..... 261
PCS 警告灯..... 429
ブレーキ
緊急ブレーキシグナル..... 253
警告ブザー 428
パーキングブレーキ..... 197
ブレーキ警告灯..... 428, 430
ブレーキホールド..... 200
メンテナンスデータ..... 486
ブレーキアシスト 252
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 429
機能 252

ブレーキフルード 486
ブレーキホールド 200
フロアマット 30
フロントオートエアコン 298
フロントシート 129
コンフォータブル・
エアシート 355
シートポジションメモリー 147
正しい運転姿勢 32
調整 129
手入れ 378
パワーイージー
アクセスシステム 132
ヘッドレスト 154
ポジションメモリー 147
フロントフォグランプ 213
スイッチ 213
電球（バルブ）の交換 412
フロント方向指示灯 196
電球（バルブ）の交換 412
方向指示レバー 196
フロントワイパーデアイサー 322

へ

平均車速 85
平均燃費 84
ヘッドランプ 203
クリーナー 218
節電機能 205
電球（バルブ）の交換 412
ライトセンサー 204
ランプ消し忘れ防止機能 204
ランプスイッチ 203
ヘッドランプオートレベリング
システム 204
ヘッドレスト 154
アクティブヘッドレスト 155
調整 154
プリクラッシュインテリ
ジェントヘッドレスト 269
ベビーシート 51
ペルビックサポートシート 140

ほ

ホイール
交換（タイヤ）..... 437
メンテナンスデータ..... 487
方向指示灯..... 196
電球（バルブ）の交換..... 412
方向指示レバー 196
ホーン（警音器）..... 202
ポジションメモリー 147
保証 9
ボンネット..... 381
開け方 381

ま

マスターウォーニング 431
マルチインフォメーション
ディスプレイ..... 82
警告メッセージ 434
トリップインフォメーション 83

み

ミラー
インナーミラー..... 159
ドアミラー 161
バニティミラー..... 343
ミラーヒーター 321

む

ムーンルーフ..... 167
警告ブザー 169
操作 167
ドアロック連動ムーンルーフ
開閉機構 168
挟み込み防止機能..... 165

め

メーター（計器類）..... 78
警告灯 428
照度調整 79
表示灯 76
マルチインフォメーション
ディスプレイ 82
メーター 78
メカニカルキー 99
メモリーコール機能 149
メンテナンスデータ 482

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 489
雪道ですべって動けない
（スタックした）..... 478
油脂類 482

ら

ライセンスプレートランプ
（番号灯）..... 203
電球（バルブ）の交換..... 412
ランプスイッチ..... 203
ラゲージマット 341
ラゲージルーム
（トランク）..... 122, 340
ラジエーター
オーバーヒート..... 474
メンテナンスデータ 484
ランプ
インテリアランプ..... 324
室内灯 323
節電機能 205
電球（バルブ）の交換..... 407
パーソナルランプ..... 325
バニティミラーランプ..... 343
非常点滅灯
（ハザードランプ）..... 417
フロントフォグランプ..... 213
ヘッドランプ（前照灯）..... 203
方向指示灯（ターンシグナル
ランプ／ウインカー）..... 196
ライトセンサー..... 204
ランプ消し忘れ防止機能..... 204
リヤフォグランプ..... 213
ワット数 488
ランプ消し忘れ防止機能 204

り

リバース連動機能
ドアミラー 162
リヤサンシェード..... 364
リモートタッチ 292
リヤウインドウデフォッガー 321
リヤオートエアコン 314
リヤサンシェード 362
リヤシート
コンフォータブル・
エアシート 356
シートポジションメモリー 152
調整 136
テーブル 360
リヤシートリラクゼーション
システム 142
リヤドアサンシェード 365
リヤフォグランプ 213
スイッチ 213
電球（バルブ）の交換 411
ワット数 488
リヤ方向指示灯 196
電球（バルブ）の交換..... 412
方向指示レバー 196

る

ルームミラー（インナーミラー）... 159
ルームランプ（室内灯）..... 323

れ

冷却水..... 484
水温計 78
冬の前の準備 287
メンテナンスデータ 484
冷却装置（ラジエーター）..... 484
オーバーヒート..... 474
メンテナンスデータ 484
レーダークルーズコントロール
（全車速追従機能付）..... 226
接近警報 231
レーダーセンサー..... 234
レーンキーピングアシスト
（LKA）..... 238
操作 240
レクサスクライメイト
コンシェルジュ 297
レバー
シフト 186, 190
方向指示 196
ボンネット解除..... 381
ロック（ドア）..... 117

ろ

ロック
ウインドウロック..... 164
シフトロック 462
スマートエントリー＆
スタートシステム 104
チャイルドプロテクター 118
ドア 117
ワイヤレスリモコン..... 115

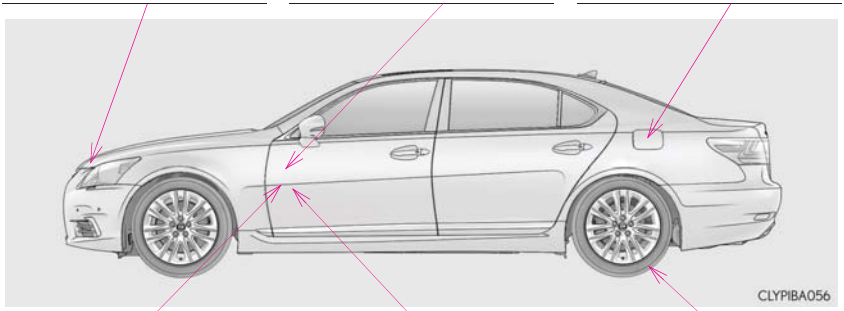
わ

ワイパー＆ウォッシャー 215
ワイパーブレード（寒冷地用）..... 288
ワイヤレスリモコン 115
作動の合図 116
操作 115
電池の交換 402
半ドア警告ブザー..... 116
ワックス..... 374
ワット数..... 488

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック	トランクオープナー	給油口
P. 381	P. 122	P. 220



ボンネットオープナー	給油扉オープナー	タイヤ空気圧
P. 381	P. 220	P. 487

燃料の容量（参考値）	84L		
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク） P. 482		
タイヤが冷えているときの空気圧	230 kPa (2.3 kg/cm^2)		
エンジンオイル容量（参考値）		FR 車	AWD 車
	オイルのみ交換時：	8.4L	8.4L
	オイルとフィルター交換時：	8.6L	9.0L
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル ・ SN 0W-20（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20） ・ SN 5W-20（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-20） ・ SN 5W-30（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30） ・ SN 10W-30（API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 10W-30）		

「個人情報保護方針」については、http://lexus.jp にて掲載しております。

オ-10

M50E01
01999-50E01
NAC-2014年10月 9日
2014年10月16日初版

LS460 / LS460L